外務省調査部編纂

獨逸の宣傳組織と其の實際

日本國際協會發行

緒言

近時宣傳の意味が漸く重視されて來たやうである。宣傳が若し人類の最も原始的な本能にその心理的な根據を持つものとしたならば、われわれの文化は再び原始的な歩みを辿り始めたかと思はれるばかりである。ことにわれわれの行動が一切の秩序と軌道とを見失つたやうな場合に、宣傳の暗示的な效果は一層著しい役割を果すものらしい。さういふところから、人間の心が荒廢して絶望の中に踊躍く如き戰時に、宣傳なる技術が格別の發達と進歩とを遂げるのは決して偶然ではない。

今次の歐洲動亂に際して西部戰線では、第一次の大戰を髣髴させるばかりに、專らビラや、ラヂオ其の他による宣傳戰が極めて活潑微妙に行はれて、寧ろ武器による戰爭はこれを傍觀してゐるといふ有様である。第一次の歐洲大戰當時、已に肉彈の戰ひに倦み疲れた聯合國側は窮餘の一策として、宣傳なる獨自な形態の戰法を案出して、これを發達させたのであるが、巧妙な暗示によつて敵國の内部からの壞

滅を策したものにほかならない。勿論それ以前にも宣傳行爲が皆無であつたといふのではないが、宣傳が巧緻な心理分析の研究と相俟つて、かくも見事な構成と應用とを得て來たのは第一次歐洲大戰を以て嚆矢とするであらう。

　歐洲大戰當時一兵士として彈雨の下を驅け廻り、宣傳の恐ろしい偉力に目覺めたヒットラーは混亂と疲弊との戰後のドイツを救ふために、この技術を利用することを忘れなかつた。こゝにドイツの宣傳の眞相があり、換言すれば、ドイツ宣傳の原型は、その來歷を溯ぼれば實に歐洲大戰の戰場にあつたのである。併し、犀利な心理の洞察者であるヒットラーは、大衆の氣持を巧みに把握して、ナチスの國家を構成しただけでなく、現在その維持のためにも、將又民族的膨脹のためにも、限りない宣傳の力を驅使してゐる。けれども、所詮ゲッベルスも考へたやうに、宣傳は渾沌たる理念に表現を與へ、且これによつて一般民衆を啓蒙し、導くための技術的な手段であるとするならば、ドイツの宣傳を知るためには、これと不可分であるヒットラーの民族主義的世界觀の理念をも合はせて考察しなければならないのであるが、本書においては、しばらくこの問題には觸れず、專らナチスの宣傳機構を客觀的な面から解

明し、且又資料の許す限り、その實際的な側面をも窺ふことに努めた。宣傳組織を說明する或る部分は多少煩雜に亘る箇所もあるやうに思はれたが、資料としての意味から附加することにした。讀者の適宜な取捨に俟つならば幸甚である。尚現在のやうに變動の激しい世界情勢にあつては、昨日の眞相必しも今日の眞實とは限らない場合が多いであらうと思ふので、この點特に御寛恕賜はりたく、又再版に際し若干新しい資料をも追加した。

本稿は當課飯島囑託をして執筆させたのであるが、その述べる所論者の私見をも包含してゐるに附き、特に附言して置く。

昭和十五年十二月

外務省調査部第二課

獨逸の宣傳組織と其の實際

目次

獨逸の宣傳組織と其の實際

外務省調査部編纂

第一篇　ドイツの宣傳の思想的背景

——ヒットラー及びゲッベルスを中心に——

ドイツの宣傳組織の具體的な問題と實例を述べる前に、宣傳について、ヒットラー及びゲッベルスがどう考へたかの點を一應考察してみるのも無意味ではない。ヒットラーが「宣傳」を非常に高く評價したのは周知のとほりであるが、しかし、ヒットラーに比較すると多少色彩を異にしてゐるが、彼の片腕として初代宣傳大臣に就任したゲッベルスも又中々の宣傳の大家であつた。彼は哲學博士でもあり、辯論の雄であるばかりでなく、又健筆家であるから、その點はヒットラーにも劣らず、稍もすれば蔑視されがちな「宣傳」もこのやうな宣傳の雙壁によつて新しい生命が吹き込まれたとも云ふべきで、ドイツ人がヒットラーの面前にゐるのはあだかも磁場の中にゐるやうなもので、吸引さ

れるか、撥ね返へされるか二つに一つで、無關心であることはできないと、ヒットラーに就いて云はれてゐるが、彼等の建設的熱意は宣傳的な背景と相俟つて、追從者を自己の周りに集めて行つたと見るべきであらう。即ち、彼の祖國に對する愛はプロパガンダさへも神聖な王座に据ゑたのである。

（一）　ヒットラーの見解

こゝで、ヒットラーの宣傳觀を最初に述べて、次にゲッペルスに言及してみたいが、ヒットラーは專ら得意の辯舌によつて自己の抱負の宣傳を試みることを好んでゐた。彼が、ランヅベルグ（Landsberg）の牢獄内で執筆した「我が爭鬪」もその强烈な氣魄は我々に迫つて來るものがあつて、この著書の中で、彼は處々で宣傳のことを述べてをり、彼は宣傳が、ある一定の目的に奉仕する手段であることを心得てゐたが、彼の宣傳力は、專ら一般大衆、ことに中產階級の氣持を把握することを目指してゐたことは注目に價するので、換言すれば、大衆層の理解から出發して、自己の目的に副ふやうに一般民衆を導く手段として、宣傳の偉力を驅使した點に、彼の宣傳の本當の價値があり、又それ故にこそ效果も多かつたのだらう。苦勞人であるヒットラーは、徒らに大衆から遊離した宣傳は、決して效果の擧らないことをはつきり心得てゐた。

ヒットラーは惡く云へば「成り上り者」とも云へようが、ともかく、大戰の當時には、一兵卒として

血みどろの苦しみを嘗めて來たし、その前半生において又その後半生において、生活上にも、思想上にも隨分と苦勞をして來たのは事實らしい。ある一つの運動を始め、それを完成させるためには、どれだけの意志力を要し、又外部からの抵抗力と壓迫があるかは分る筈である。さうして、このやうな色々の人生の體驗を經てゐる間に、彼の胸に、大衆を得るために、如何に宣傳の力が大きいかといふことが自ら浮んだのであつて、それゆゑに彼の宣傳は、決して、抽象的な御題目ではなく、あくまでも、實生活の血みどろの探索から歸納された眞理である。彼は多彩の人生に處しながら、周圍を見廻すことを忘れず、彼が比較的冷靜な觀察者であつたことは彼が四年の間、日夜戰場の劇務に從ひながら、戰友達とあまり親密な交際を結ばなかつたとの事實からも推測され、またヒットラー程の傑物がどうして兵士として伍長位で終つたかは今でも一つの疑問を投げかけてゐる。「四年の間、彼は戰鬪のあらゆる有爲轉變に耐へて、戰場の眞只中に踏み留まつた。勿論周圍の轟號を忘れて、彈痕ある土地を走り廻つたり、通信を傳へたが、自己の任務に從ふだけで、彼は孤獨であつた。戰友同志の間には親しい友情といふものがなく、彼等と政治上の問題を論じても、戰線の戰友の精神の中には入り行かなかつた。」(ノーディカス十一頁)

これらの言葉によつても明かなやうに、彼は自己の置かれた環境や人間を見詰めて、そこから、

宣傳のための「資料」を探し出すことは決して忘れなかつたのである。ゆゑに、彼の宣傳觀を知らうと思へば、これらの豫備知識を念頭に置いて考へなくてはならないが、ノーディカス(Nordicus)は次のやうに評してゐる。(The Iron Fist in Germany P. 80)

「ビスマルクの眼は、主として、國家、即ち君主、大臣、議會、軍隊を見たのであるが、ヒットラーの眼の焦點は專ら、國家組織の支持者達即ち民衆の上に向けられてゐる。民衆の子供として、彼はその眞中に生活した。一兵卒の傍らでは、一兵卒となり、勞働者の傍らでは一勞働者となつて、彼は多年に亘り觀察、その體驗を蓄積した。ウィーンでは建築職工として、下層階級の產業上及び教養上の「みじめさ」を觀察したり、又ユダヤ人の勞働者及び新聞に對する影響、リューゲルの社會キリスト黨の成功、ウィーン議會における國籍の爭ひ、ハプスブルグ家の政策を觀察した。彼は四ケ年に亘つて西部戰線で一軍人として、戰友の心情、敵の宣傳及び故國における宣傳の效果を觀察した。ビスマルクのやうに、ヒットラーは物の本當の姿を觀察する方法を心得てゐたばかりでなく、觀察された事件の原因と、この事件に由來する人々の動機とを認識する思索家である。けれども、彼はもう一歩進んで、自然律によつて設定された聯絡を觀察する偉大な自然科學者のやうなものであつて、最終の原理を通じて眺めるまでは活動を熄めない。マルキスト運動の原因、戰線及び國內にお

ける破壊的宣傳の成功の原因、ブルジョアジー、官吏　政府役人が革命の叛逆者及び首唱者に對して失脚した原因を彼は洞察したのである。」

さて、ヒットラーの體驗から、どんな大衆觀が生れたかを一顧してみるのも興味があらう。なぜなら、相手を最もよく知悉してゐるものだけが、眞に目指す相手を獲得することが出來るからである。ヒットラーは大衆の心理をよく心得てをり、大衆は、盲目的で、附和雷同性に富むが又反面英雄崇拜的な心理も持ち合はせてゐると考へた。彼の宣傳の祕訣は實にこのやうな側面から大衆獲得戰が展開された點にあるが、彼の大衆觀は次のやうである。

「大衆なるものゝ大部分は極めて、女性的な性質と見解を有するものである。彼等の思想と行動は理性的な考察によるよりも、遙かに感情と情緒によつて支配されるのが常だ。しかもこの原因は、決して複雜なものではなく、極く單純で無邪氣なものである。即ち、すこしも入り組んだものでなく、たゞ積極的か、消極的か、愛か、憎惡か、眞か僞かの、どちらかであり、決してこっちを半分、あっちを半分といふやうなことはないのである。」（吾が爭鬪）

更に、彼は又同じ著書の中で、極めて適切な言葉で、大衆の心理を述べてゐる。

「大衆の魂は、煮え切らぬ手段や、薄弱な態度に呼應するものではない。恰も女性の感受性が、抽

象的な理論などに一顧もせず、茫漠とした憧憬や、すぐれた强さに對する尊敬によつて動かされ、女々しき男よりも、男らしき男に從はんとするやうに、…大衆は、弱々しき歎願者よりも、嚴然たる支配者を好み、なか／＼理解し難い理論よりも、簡單にして力强き敎義に滿足する。…………彼等には、たゞ支配者の決然たる態度と冷徹なる言葉の力强さが分るだけで、しかも、結局は、それに壓倒されてしまうのだ。」（吾が爭鬪）

政權獲得の前後における宣傳活動によつても明かなやうに、彼は大衆に自己の所信をその辯舌によつて宣傳を試みたばかりでなく、更にその宣傳は一種の「アヂ」の形態まで取るに至つた。彼はいはば大衆の子供である。彼にはムッソリーニのやうな深慮の行爲が出來ず、群衆の喝采は、イタリーのこの獨裁者にとつては快よい音樂であらうが、彼はそれを必要ともしないし、又望みもしない。しかし、ヒットラーにとつて、群衆の支持は生命の問題であつて、大衆からの拍手は彼に不可缺のものと思はれ、それは、雄辯の力を借りて、演壇から獅子吼する彼の得意の姿を思ひ浮べれば充分理解できるであらう。言葉を換へれば、彼にとり大衆は始めにして、又最後であり、大衆から生れた彼が大衆を理解してゐるのは當然であるが、又そこに彼獨特の宣傳力が生ずるものと云ふべきで、宣傳が支配者からの表面的な自己主張に終始する限り、それは單に華々しき掛け聲として、

水泡のやうに消え去るであらうが、ヒットラーの偉さは、單に大衆を理解したに止まらず、更に進んで彼は自己の宣傳を大衆層を規準として、組織ある形態にまで進展させた點にある。ラヂオ、新聞、集會等は皆ナチスの得意の宣傳機關であるが、これらが如何に巧妙に彼の藥籠中に取り入れられたかは、たしかに、好個の研究題目たるを失はない。

こゝで、彼の宣傳觀に就いて、彼の自傳の中に散見される基本的な考へを要約してみると、先づ（第一）に彼は、宣傳は手段であるから、宣傳を有效にするためには、目的物即ち宣傳の對象に適應するやうに合理的に組み立てなければならないと考へた。

この考へは至極宣傳に關する平凡で常識的な考へ方であるが、その來歷は歐洲大戰當時の彼の切實な經驗にあることを記憶して置かなければならない。ドイツが聯合國の巧妙な宣傳によつて惱まされたことは周知のとほりで、ドイツは宣傳の拙劣なるために敗れたと云はれるほどである。聯合國のプロパガンディストは、獨逸が、戰爭の張本人であり、侵略者であると思ひ込ませて戰局を有利に導いたこと、また英國はドイツのカイゼルの反英的豪語を宣傳の引用文にして、效果を收めたこと、又何よりも戰線の兵士達の間に社會主義のあらゆる分派を動員させて、獨兵の戰意を喪失させたことなどは、その一例に過ぎないが、宣傳の偉大な力は戰場に參加したヒットラーの腦裏に深く刻

み込まれた事實であつた。

彼は、ドイツの戰爭宣傳を組織的に研究してみた結果、今までドイツで用ひられた宣傳らしい方法は、すべてその出發點において誤つてゐたために、すこしも效果がないばかりか、却て害毒を流すことがあるのを知るに至つた。ドイツは、第一に宣傳の形式が不充分であり、次に心理的にも誤りを冒してゐることを知り、即ちドイツは宣傳の基礎的な點で、明確な規定を缺いてをり、即ち宣傳は手段であるか、或は目的であるか、それがはつきりしてゐなかつた。彼は明確に、宣傳は手段であるから、宣傳する對象物の立場から判斷しなければならないと考へ、したがつて、その對象物に順應するやうに、科學的に組立てゝ行く必要がある。對象の重要性は一般的な必要性によつて、屢々變化するから、その變化する對象の重要性に對應して、宣傳の形式もまた變化して行かねばならない。これが宣傳なるものゝ不可缺の要素であつて、ドイツの宣傳の對象も、大戰の進捗するにつれて、人間の最も高く貴いもの、即ち國民の自由といふ點に移つて行つた。

ヒットラーは、宣傳が手段であることに關しては大體上述のやうな見解を、「我が爭鬪」中で陳べてゐるが、甚だ抽象的であつて具體的の說明にまで筆が進んでゐない。しかし、世界大戰の宣傳と相俟つて、彼のマルキシズムの硏究も、又宣傳の技術的側面への興味を唆る一拍車の役目を演じた

らしく、「私が政治的活動に一身を捧げた頃、一番私の興味をそゝつたのは、宣傳の仕事であつた。そこに、私は一つの武器を發見した。即ち社會主義者、マルクス主義者の組織は、この武器によつて巧妙に廣く統制されて、誠に申分なく利用されてゐたのである。宣傳の正しい運用は、實際的にはブルジョア諸國體には知られてゐないが、とつて以て用ふるに足る戰術であると私はすぐに氣が付いた」と云ひ、更に、「基督教的社會主義運動のみが、——ことにリューゲルの時代に、この武器を採用した。彼の運動の成功はこの武器に負ふところが頗る多い。吾々に、今まで果して宣傳の名に値するものが嘗てあつたであらうか」などの言葉が散見される。「又大戰に於ける宣傳こそ、最も明確に、目的に對する手段たることを示すもので、宣傳なるものは、武器以上でもなければ、それ以下でもない。——もし宣傳なるものゝ性質を眞に會得した人の手にかゝつたならば、宣傳は實に恐るべき武器である」「宣傳によつて、天國を地獄とも思ひ、その反對に最も不幸な生活をも天國と思ふように人々を騙すことが出來る」と、彼は宣傳の力について述べてゐる。

（第二）　宣傳は極めて大衆的でなければならない。

「宣傳は誰れに對してなすべきであるか、知識階級か、それとも無教育な大衆に對してであるか。このことが極めて肝要な問題である。

知識階級に對して、我々は宣傳でなく、科學的な指令を持つてゐる。宣傳は永久に大衆に對してのみ行ふべきである。宣傳の任務は、個人を科學的に訓練することではなくて、大衆の注意を、ある一定の事實、事件、必要等に集中させることである。即ちこれらの事物を重要らしく見せることである」とヒットラーは「我が鬪爭」で述べてゐるが、ヒットラーの大衆觀から分るやうに、大衆を獲得するためには、自ら宣傳も、大衆の知識層に相添ふやうに工夫されなければならないのは明瞭で、本來大衆の知的水準はあまり高いものではないから、宣傳が效果的であるためには、知識程度の低い人々も充分包含できるやうに、大衆の知的な面を考慮に入れる必要がある。全國民をも、戰時の場合、その影響圏内に糾合しようと思へば、非常に高い知的要素は、極力避けるやうに、充分注意しなければならない。したがつて、極めて限定された能力を持ち、且つ忘却の名人である大衆を包含するためには、大衆の最後の一人にも呼びかけ、直ぐに理解出來るやうなスローガンの形式が必要になつて來る。

（第三）　宣傳の效果は、終始一貫不動であることによつて達せられる。

宣傳が大衆的であることは第一の要件であるが、一般民衆は、健忘症であり、總ての行動に對して、とかく受動的となり、積極性を缺くものであるから、したがつて、この民衆をその心底から、

ゆり動かし、自己の意圖に副はせる爲には、この宣傳を繰り返へし反覆して徹底させる必要がある。これは、商業上に限らず、政治上に於ても、同樣で、廣告が成功するのは、繼續性と、堅忍不拔に因ることが多く、ヒットラーも亦この點を考慮して、宣傳は終始不變のものでなければならないと考へた。「スローガンはやはり、スローガンによつて行はれなければならない。宣傳はあくまで、堅實に不斷に、――それ以外に途はない」（我が爭鬪）と述べてゐるが、この反覆は、現代においてもラヂオ宣傳などに見る例であつて、相應の效果を擧げてゐるやうだ。

この法則は戰時宣傳の場合に、殊更現れてをり、戰時の宣傳は、その典型的な適例であつて、その方法を要約すると、大衆に呼應することに力點を置いて、これを飽まで不屈の堅忍さを以て押し進めるのである。世界大戰中には、大衆に基礎的觀念を與へることに努力して、その初めに案出した正しい表現形式を、そのまゝ聊も變更せずに、終始一貫して押し通したのである。初めの内は、餘りに性急な主張のために、聊か狂氣じみた印象を與へ、つぎには不愉快な感じをもたせたが、押し通してゐる内に、とうとう最後には、大衆の信賴を獲得した。即ち堅忍不拔な目的に向つて邁進することだけが宣傳の效果を實現するものである。

以上、大體ヒットラーの宣傳觀の大要であるが、前にも述べたやうに、理論的な或は心理的な說

明が多く、具體的の點には殆んど觸れてゐない。大衆的であること、手段であること、平易であることなどは何れも宣傳の種類如何を問はず、一般的な人氣を獲得し、又大衆に自己の所信を傳へるためには缺くことのできない方法であるが、彼はそれ等の一般的宣傳の概念を、單なる知識だけに終らせないで、民族的世界觀を現實に具體化するための强力な手段として、本當に大衆を指導し、動かす明確な組織體にまで構成したのである。要するに、ヒットラーの採用したプロパガンダは、ドイツ政治史上に全く劃期的な新らしいものであると云はれ、ドイツ人はセンチメンタルで、感じ易い國民であるから、高度に組織された宣傳組織は、大衆の間に、反響を呼び起こす結果になつた。聰明な頭腦一つに愚者が十人ゐると假定すれば、その兩者の支持を得なくては、所期の目的は達せられないから、ナチスの辯舌家達は、ナチス運動の初期に當つては一般の知的水準を最低に置き、平凡なこと、愚かしいことをも頭腦に藏して、その上、熱狂と、はげしい刺戟的な暗示との二つの道具で民衆を驅り立てて、自己の目的に副はせようとした。「例へば、勞働者に對する場合も、考慮の餘裕を與へないで、その感情を絕えず、未來に對するバラ色の空想と、現政府に對する狂的な反抗とによつて刺戟して置かなくてはならない。目隱をして置いて、離しながら、鼻をつかまへて、ヒットラーの檻の中に連れ込むのである。」（ノーディカス一〇二頁）

以上のヒットラーの宣傳觀に關聯して、ボルシェヴィキーの宣傳も、あるスローガンを作成して、これを反覆一般的大衆層に浸潤させる手段を好んで採用してをり、ソ聯の宣傳の第一主義は決定した政策を大膽且つ有力な方法で簡略徹底させることであると考へられてゐる。それがために重要な宣傳事項に就いて、先づ詳細徹底的な「テーゼ」及び簡潔で要を得た「スローガン」を最も有效な形式で決定してから、之を宣傳各機關を通じて、繰り返へし、繰り返へし、手を替へ、品を替へて宣傳し自己の主張を了解させ、又自己に有利な心理作用を現出することに努めてゐる。

(二) ゲッベルスの宣傳觀

次にゲッペルスに就いて述べるなら、ナチスが世界大戰後の混惑時代によく耐へて、不安動搖の激しいドイツ大衆の關心を獲得したばかりでなく、政權把握後の辛辣な獨裁と彈壓とで不滿を買ひながらも、獨往の意氣を見せたのは、ヒットラーとゲッペルスの二大演說家をその最高幹部に持つてゐたためであると云はれてゐるが、大衆獲得、民心收攬のために、この兩名の辯舌は、獨逸全土にあまねく數千回にわたつて試みられたのである。宣傳の重要性を主張したヒットラーが、ゲッペルスにその最適任者を發見し、黨の宣傳部長として重用し、政權獲得後は世界史上初めての宣傳省を設置して、その大臣の椅子をゲッペルスに與へたのは理由のないことではない。彼の宣傳觀は、彼の得

意の辯舌を通じて、處々で吐露されてゐるが、その見解を知る最も纏つた講演として、彼の講演集「新時代の信號」中の一論文、「認識と宣傳」の要約を試みて、彼の宣傳觀の基本的な傾向を知ることにしよう。これは一九二八年一月九日の講演であるから、政權獲得の數年前、宣傳活動最も華かなりし時代のものであるだけに、現實的な彼の宣傳觀の絶頂が窺ひ知られるわけで、又それだけに、空理空論を絶し、最も實踐に卽した、むき出しの宣傳觀とも云へる。

彼はこの論文で宣傳觀を一體系に構成しようと試み、ヒットラーの斷片的なのに反して、彼は理論によつて、これを基礎附けようとしてゐる。この論文中彼は先づ宣傳は實際の問題であるから、宣傳に就いて徒らに論ずることや、その善惡を兎や角と云ふことは無意味であつて、所詮宣傳は精神的に立派である要もなく、所期の目的に到達しなければ駄目で、優美であり、柔かく、謙遜である必要もなく、要は、ある結果に達することであると考へた。徹頭徹尾宣傳は手段であると考へる現實的な見解は、ヒットラーと相通ずるものがあつて、その他の點でも、總統ヒットラーの衣鉢を繼ぐ處が多い。

宣傳がある目的を達するための手段であるとすれば、この目的とは何であるか、彼はこの目的は理念であると考へた。こゝに彼の理念觀が生れ、理念は、それだけのものとしては無限なもので、

それは一人の人間にも無關係であるが、民族全體の中に潜み、働き出て來る聲を呼ぶ合言葉である。理念はそれが何等かの形で具體的な姿をとらない限り空中に浮遊するに過ぎず、この理念は、一人のすぐれた人間が現れ、萬人が胸に藏した秘密を表現した時に初めて、具象化されるのである。その一例として、ヒットラーの演說を擧げてみるならば、彼の演說を一度び聞いた者は、その會の後で、「私が長年探してゐたことを、彼は言葉で把握した。私の願望することを表現した人が初めて出現した」と云ふだらう。言ひ換へれば、空中に浮遊する理念は、表現によつて把握され、ヒットラーは、ゲーテの言葉のやうに、凡人が感じながら表現できないものを表現したと云へるであらう。

即ち、ゲッベルスは、理念とは、民族の意識の深奥に存する意慾であると考へたのである。さうして、あらゆる政治運動の最初には理念があつて、この理念は、必ずしも尨大な著書を必要とせず、歷史に照してみても、世界における最大の諸運動は、その創始者が、一黨の者を、極めて簡單で、一般に理解できる標語の傘下に統一した時に始まつてをり、フランス革命、マホメット敎、佛敎、キリスト敎を念頭に浮べてみるがよい。誰にも理解の容易な「汝の隣人を愛せ」といふ簡單な標語の下に、その敎義を要約して、黨派を統卒したればこそ、キリストは遂に世界を征服したのである。

ゲッベルスは更に論調を進めて、この壓縮された理念が、完全なる思想體系にまで構成される場合には、この理念の構成者は、その信仰告白を、一文に現はすに止まらず、これを日常生活のあらゆる思想行動の上にも適用して、全人類の行爲、政治、文化の指導原理にしようとする結果、この時理念は世界觀にまで擴大されるのである。

さうして、この理念が世界觀に發展する處に、結局國家があつて、支配者が民族のこの共有財產を說教するばかりでなく、これを實踐的に構成する場合に、國家が生じて來るわけである。しからば、この理念は如何にして傳播されるかと云へば、理念は何時も個人の中に宿るのであるが、この個人は、その精神力の媒介者として、他の個人を選ぶから、このやうにして、一つの理念は仲介する人の口を經て他に傳へられて行く。「この理念は靜かな山中の湖に沈む黃金の寶のやうなものではなくて、はけ口を見出す」のである。しかも、この理念が偉大に、且簡單に形成され、日常生活に關係が深ければ深い程、誰にもそれを發展させる要求を持つてをり、かくて、一人の胸の內に藏されたものは、次第に多人數に擴がつて、四人となり、五人となり、十人、二十人、三十人、百人と增加して、個人から、突然、一共同體、運動、或は言葉を換へて云へば、一黨が發生して來る。

總ての運動は、その初期は黨派であると云ふのは、議會主義的な黨の方法で働くといふ意味では

なく、弛かな結合から、次第に確固たる組織が生じて來るといふことで、黨は理念獲得のための爭鬪を開始する。このやうな組織力を持たない黨派は理想の説教はできても、決してその完成には到達できないであらう。

運動や黨が政權を得た瞬間に、世界觀は國家になつて、運動は民族になる。ある運動が、國家を征服する力を得た時に、それは國家を構成する力を得て來るわけで、以上のことを綜合すると、理念から世界觀が生じ、世界觀が國家になり、個人から黨へ、黨から民族へと進展するのである。

ゲッベルスは、こゝに宣傳の定義を導入して自己が正しいと認めたことに對して、人々を獲得することが宣傳であると云つてゐる。即ち最初にある認識があつて、それを政治上に實行するために、人的の素材を得ることこそ宣傳に外ならない。云ひ換へれば、理念と世界觀の間に、世界觀と國家の間に、個人と黨の間に、黨と民族の間に宣傳が介在するわけで、自分が何かを正しいと認めて、そのことを電車の中で口外する瞬間に、已に宣傳が始まり、即ちその時ば自己と同じくそれを正しいと認めて呉れる他人を求めるのである。即ち、宣傳は個人と多人數、理念と世界觀の間に介入するもので、宣傳は、一定の組織の先行者であり、又常に目的のための手段であるが、しかも、この宣傳なくしては、國家を征服することは困難であらう。

宣傳は、目的に對する手段であるとは云へ、無條件に必要なものであつて、宣傳がなかつたならば、理念は決して國家を征服することが出來ないので、したがつて、眞に偉大な宣傳家の任務は、多數の頭腦が考へてゐることを知識階級の層にも、又さうでないものにも、共に理解できるやうに構成して行くことである。「私はこのことに就いて、興味ある一例を擧げてみたいと思ふが、それは私がイェーナのヒットラーの演說會で經驗したことであるが、その聽衆の半ばは赤色戰線の闘士であり、又他の半數は大學生や、大學の敎授達であつた。私はこの演說の終りに、この兩極端の人々に尋ねてみたところ、大學敎授も又下層社會の人達も共に、ヒットラーの話を全部理解したことを確めた。我々の運動が、その思想內容を一般大衆にも理解させ得るやうな、言葉の武器を有してゐることは、その强味である」とゲッベルスは云つてゐる。

宣傳が次第に多數の追從者を、その思想の範圍內に取り入れる手段となるならば、理念は愈廣くなり、又變動性を帶びて來て、かくて、それは、最早個人の頭腦の中で、活動するばかりでなく、廣範圍な一般層を包含して、その瞬間に、精神的發達の單一の相から、明確に輪廓附けられた主義が生じて來る。書籍のために生命を拋つ人々は、決して百萬とはゐないであらうし、又經濟綱領のために命を擲つ人も百萬とゐる筈はないが、福音書のためなら、いさぎよく倒れる人は何百萬と居

るのである。さうして、ナチスの運動は愈福音書にならうとしてをり、各人が個々の人生表現で認識した總てが大きな信仰に構成されて、各人が必要とあらば、その爲に最後のもの迄捧げることを喜んでする程に、各人の胸の中に生きて來る。八時間勞働制のために一人の男も命を棄てることはないであらうが、ドイツがドイツ國民のものであるべきだといふ主義のためには、人は命を賭することができるのである。しかもこれは、研究室で解決されるのではなくて、爭鬪によつて――はげしい爭鬪、敵と相衝ち、如何にして國民を僞れる軌道の上に誘導できたかゞ看取できるやうな爭鬪によつてはじめて解かれるのである。

要するに、こゝで最も本質的な宣傳の特質を要約してみるならば、宣傳は決して、それ自身のためのものではなくて、目的のための手段であるが、又ナチスの世界觀を、國民、或はある一部の層に傳へる任務があると云へるので、このやうな見解はヒットラーなどゝ相通ずるものがある。

又こゝから、宣傳の善惡が生じて來て、宣傳が、この目的に達するならば、良いものであるが、若し達しない時は惡いものである。一九二三年に至るまで、ヒットラーの宣傳が、あまりにも騷々しく聲高かつたとの質問に答へて、「ミュンヒェンは、ナチスになるべきであつたのだ。この目的に達するならば、私の宣傳は善かつたのであるが、あなた方の人氣を得るのが目的であるとしたら、それ

は惡かつたのだ。しかし、それは望まなかつた」とヒットラーは答へてゐる。

宣傳は效果の如何に由るので、物知り屋のことではなく、實際家のことであるから、美しかつたり、理論的に滿足を與へる必要はない。美辭麗句を連ねて、婦人の涙を誘ふやうに演說することは無價値だ。政壇演說の意味は、自分が正しいと認めたことを、他人にも納得させることであつて、田舍とベルリンとでは話し方が違つてゐる。理論の問題でなく、實際問題である。二三の書物が考へた運動ではなくて、一般大衆を征服する運動を望むのだ。宣傳は詞藻豐富の必要はなく、平俗的に作用すべきである。私が集會場に行くのは、思想豐かな知識を求める爲ではなくて、自己が正しいと認めたことを他に傳へる爲であるから、最初より理念の知識は、演說家、宣傳家のものでなければならない。それは宣傳の進行中に獲られるものではなくて、所持してゐるべきものである。それでこそ、初めて大衆と日常接觸する內に、その理念を最も都合よく傳へる方法が判るのである。

知識を發見することではなくて、それを傳へることが、宣傳の任務であるから、したがつて傳へようとする總てのものに順應して行かなければならない。演說にせよ、貼札にもせよ、百姓と資本家、醫師と病人とでは、その宣傳方法を換へて獲得しようとする人に應じて、作成しなくてはならない。

ゲッペルスは更に宣傳家のために、辯解の辭を述べて、若し人が、「お前は宣傳家である」と揶揄するならば、次のやうに答へよう。「キリストはさうでなかつたか。彼は宣傳をしなかつたか。彼は本を書かなかつたか。說敎しなかつたか。又マホメットは別のものであつただらうか。彼は人の所へ出掛けて、自己の欲することを說かなかつたであらうか。佛陀もツァラトストラも又宣傳家ではなかつたか」と。

現代を顧みても、ムッソリーニは筆の人であるよりも、寧ろ偉大な辯舌家と云ふべきで、レーニンもツューリッヒからペーテルスブルグに來た時に、停車場から、研究室に閉ぢ籠つて、本を書くよりも、寧ろ數千の人々を前にして演說をしたではないか。ファシズムや、ボルシェヴィズムを構成したものは、大辯舌家、言葉の偉大な構成家であつて、辯舌家と政治家との間に區別はない。大政治家が又大雄辯家であつたことは、歷史の敎へるところであつて、ナポレオン、シーザー、アレキサンダー、ムッソリーニ、レーニン等は皆、偉大な雄辯家で、且偉大な組織家であつた。組織的な才能、辯舌的な才能、智識を傳へる能力を識別して、認識能力を賦與した人間を第一線に進軍させる、哲學者的な才能、この三者が一個人に聚るならば、天才的政治家の形式が完成されるわけである。

又誰かゞ「御前は煽動家である」と云ふならば、かう答へるだらう。「良い意味における煽動と

は、國民の一般層に、自分の傳へたいと思ふことを傳達する能力に外ならない」と。勿論一般民衆の感情に、自己を適應させて行くだらうが、形式ばかりでなく、自分の欲することでも、大衆に追從したり、その言葉に相槌を打たうとするならば、それは悪い意味の煽動家である。

時勢が變轉したから、從來は辯舌が運動を起したのであるが、新聞時代の今日では、文筆業者がそれをするだらうとは云ひ切れない。この說が僞りであることは、立派な證據があつて、今日、新聞が多大の貢献をすることは認めてもよいが、巧妙に書かれた新聞を調べてみるならば、どの論說も、小さい演說であるのが分り、マルキシズムは論說によつて勝利を得たのではなく、マルキシズムの論說は皆小さい宣傳演說であつたからで、この論說は煽動家達によつて書かれたのである。彼等は書齋や、煤けた部屋の中に座して、その論說を思想豊かに、跳ね踊る樣に又小綺麗に書いたのではなく、どんな小市民も理解出來るやうな、亂暴で、粗野な考へを書いたのである。だからこそ、赤色新聞は一般大衆に受けたのだ。我々はこの例によつて訓練しなくてはいけない。マルキシズムは偉大な豫言者達―決して豫言者ではなかつたのだが―を持つてゐたから、勝利を得たのではなく、アウグスト・ベーベル、レーニンなどの煽動家を狂亂の任務に就かせたからである。彼等が、マルキシズムを勝利へと助けたのだ。民族運動が、その偉大な精神的基礎の上に偉大な辯舌家を持つた

から、それは勝つたのだ。指導者は、綠色の役所の机に生ずるものではなくて、彼は大衆と共に生長し、又大衆が偉大となるに連れて、愈々眞の指導者は大衆を越へて生長し、それによつてこれを率ひて行く。大衆といふものは、弱々しく、怠惰で、臆病な寄り合ひ世帯であるから、これを全部獲得することは困難である。その最善の部分を組織して、終局の勝利の行進に就かせなければならない。この行進を根本的に規定するものこそ、只一つの天才的の頭腦であつて、ドイツにはこのやうな頭腦、即ち他の人々の上にそゝり立つ頭腦があつたことを運命に謝さねばならない。誰も欣然として、彼に仕へ、彼に服從するのは、この運動が何時か、勝利を得る證據であつて、總てを數語で云ひ現すことが出來るなら、彼は宣傳家となれる。最少なものから、最高の指導者に至るまで、かゝる水晶のやうに明澄な知識を大衆に傳へる多數の宣傳家を持つならば、世界觀から國家が生じて、組織が國家の權力手段を得る日が來るであらう。この場合に、我々は最早隷屬的植民地の成員ではなくて、われわれによつて認められ、われわれによつて政治的に構成された國家の一員となるわけである。

以上がゲッペルスの演説の大意であるが、原文から抄譯を試みただけであるから、充分意を盡すことはできなかつたが、研究の價値はあるだらう。要するに、宣傳は手段であると考へて、しかも、宣

傳は大衆を相手とするものであるゆゑに、平俗、明瞭、分り易く且その對照の人物に應じて、屈曲性がなければならないと觀じた點は、總統ヒットラーの見解と相通ずる處があるのは明かで、只多少哲學的な如何にもドイツ人らしい衒學的な色彩が濃い。これを例へば、本年九月十日のナチ黨大會における宣傳觀と比較してみれば、彼はかう云つてゐる。

「われわれナチス黨員は官職に奉仕しようといふのでなくて、國民に奉仕するものである。何時も耳を國民の脈搏に傾けて、その廣汎な大衆と生々とした接觸を保つて行くのが、われわれの任務である。國家は公けの諸設備を管理するが、われわれは國民を正しく指導する務がある。今迄は最も窮迫したやうな場合に、いはゞ應急手段として使用して來た宣傳を、われわれの國民生活の切實な機能にまで初めて高めたのはナチスなのである。本當のプロパガンダを行はうとするものは、國民を精細に知悉して國民精神に深く根ざさねばならない。プロパガンダの技術は決して學び得られるものではなくて、本能の問題である。故に、決して一種の熟練や、手仕事にはならない。プロパガンディストは人生のあらゆる領域で、出來るだけ廣汎な智識を所有しなければならない。プロパガンダにおいても、他の場合のやうに、ヒットラーが最大な模範を示して來た。ゆゑに、將來も、總統の旗手の衝擊部隊となつて、宣傳においても、智識の武器を提げ、彼の理念を勝利に導かうと考

てゐる。」

以上はヒットラー及びゲッベルスの宣傳觀の一般であるが、更にヒットラーの宣傳のよき內助者として、ゲッベルスの外にアルフレッド・ローゼンベルク（Alfred Rosenberg）のあることは忘れてはならない。彼は以前「フェルキッシェル・ベオバハテル」の編輯長であつて、ゲッベルスの機關紙「デル・アングリフ」（"Der Angriff"）が專ら初期には政敵に對して誹謗的な攻擊を行つてゐたのに對して、彼はナチ黨のバイブルと稱せられてゐる「二十世紀の神話」の著者として、神話的なナチズムの世界觀の裏附けをしてをり、ドイツ人の優越性を唱へて、ナチス黨のユダヤ人迫害に科學的な根據を與へたのもローゼンベルクである。さういふ意味からして、言論界、新聞界において果した彼の宣傳的な役割は僅少ではないと思はれるが、要するに、ナチス・ドイツのやうな獨裁主義の國家にあつては、宣傳を狹義にだけ限るのは不當で、指導者を通じて國家のあらゆる意志は、國民に指導的に、或は宣傳啓蒙的に作用するのであるから、その意味で、自由主義國においては想像されないやうに、國家の諸機關には宣傳的な色彩が濃厚である。ゲッベルスよりも廣義の意味において、宣傳に背景を與へた人として、ローゼンベルクは同樣に重視さるべきであらう。

第二篇　國內に於ける宣傳組織

第一章　一九三三年までのヒットラーの宣傳活動の概況

當時の社會情勢

ナチスの政權の掌握が、ヒットラーの良く計畫された激しい宣傳戰に負ふ點が多いことは、前にも度々述べたとほりであるが、それにも拘らず、その勝因を、ただ、このやうな言葉の戰の結果であるとのみ斷定することは、多少正鵠を失した議論であらう。一九三三年以後、已に人心を收攬した後の宣傳が、比較的なだらかに、ヒットラー總統の意のままに遂行されたのに反し、ナチス革命以前の宣傳は專ら爭鬪の貌で展開され、そのために宣傳は一般民衆の心を强く捉へる必要があつた。さうして、ヒットラーの宣傳が、このやうに凱歌を奏した原因を探索する時に、當時の大戰の後を受けた獨逸の社會狀態を考慮することを忘れてはならないであらう。すなはち、宣傳は、影響を與へようとする人達を滿足させるやうに形成された場合にだけ、眞に效果を收めるものであることは、

宣傳の公理となつてゐるが、勿論ヒットラーの獨逸人民に對する鋭い洞察力も與つて力があつたであらうが、又他面には當時の獨逸の眞に混惑とした社會狀態がこれに反應を示さなかつたならば、かくも成功を收めることは到底不可能であつたと思はれる。云ひ換へれば、これが別の時代で、又別な民族であつたら、果してナチの宣傳が同樣に奏效したであらうかどうかは疑はしい。事情がかくあつたればこそ、ドイツ民族の一部の人達は、好むと好まないとに拘らず、ヒットラーの手繰り寄せる手に身を任せたのであつて、この一部の人達は又戰後のドイツのみじめな一般社會情勢を如實に反映してゐたものと云へるのである。

ヒットラーがバヴリアで、控へ目な宣傳戰を開始したのは、一九二〇年代の初め頃であつたが、當時のドイツの社會は文字通り渾沌とした狀態で、文化的に見ると、ドイツは數多の强力な社會的な潮流のために四分五裂となつて、僅か半世紀前のビスマルクの偉業も崩れ落ちて、國家としての統一を全く失ひかけてゐた。人民は夫々別の習慣と別の方言とを固守して、同一の國家に屬するとは知りながら、その地方の爲政者に示す忠實さは、北方の役人に對するより遙かに多いといふ傾向さへ示すといふ程に、中央政府は地方の人々に敬遠されたのである。

これは又政治の面にも反映して、ヒットラーが、首相になる直前には、二十七からの政黨が互に

銃を刷つて政權を爭ひ、社會民主黨が辛じて多數を獲得したことを除けば、諸政黨は何れも多數を制することが出來ないで、その結果、政府の執行部は、別な政治的利益を代表する人達の集合といふ有樣だつた。ドイツの政界には平和がなく、全く指導精神が失はれ、又其の外に社會的にも、いろいろな半煮えの思想が流行して、性道德は亂れ、敎會に行く人の數は減じ、同性愛すらも社會的に認容され、共產主義者はソヴエットロシアの生活を公けにし、アメリカの映畫が好んで上映された。

これらの例は諸種の社會的な疲弊を示す一部に過ぎないのであるが、ドイツ人はこのやうな諸種の問題と抗して闘はなければならなかつたのである。けれども他面、ドイツ人は誇りを持つた文化人であることは念頭に置かなければならない。例へば、勞働者はオペラへ行くだけの金がなくても、音樂に對して敬意を示し、又實際その知識もいくらかは持つてゐるし、又學校で受けた嚴格な敎育でドイツ文學の傳統的な聲價を有する人達を知つてゐる。當時大學生の數も前例にない程增加したと云はれる程に文化的關心は高まつてゐた。ドイツ人もやはり祖國を愛してゐることに變りがなく、居住してゐる國土の歷史を知り、自國とその習慣とを愛することを心得てゐたのである。さうして、このやうな國を愛する國民の頭上に突如としてヴェルサイユ條約と、インフレーションと、全世界に

亘る經濟的不況の三つの災難が降りかゝつて來た。

ヴェルサイユ條約について冷靜に語ることのできるドイツ人は殆んどゐないであらう。この條約は彼等を劣等國の列に逐ひ遣るものと信じ、條約調印の日には毎年學生等が集つて、追悼會さへ催してゐたのは、多數のドイツ人の考へを反映してゐるものと言はなければならない。けれども、この外に、インフレーションとこれに續く不況とは彼等の生活を不安にして、僅々數ヶ月の間に、中產階級は全く價値のない紙幣を持たされるかと見れば、不況は忽ちにしてドイツの失業者數の率を世界最大のものとしたのなどはその一例に過ぎない。

ナチ黨の綱領と宣傳

ヒットラーがナチス運動を開始したのは、實にこのやうな情況の下においてである。彼は當時のドイツの狀態をよく理解してゐたことは、彼が大戰中獨逸軍隊と共に戰つて、その後ドイツ人の間で生活を續けてゐることによつても推察できるであらうが、このやうな社會情勢を救濟する目的で、一九二〇年二月二十五日に二十五ヶ條の綱領が作り上げられたと見るべきであらう。

若しヒットラーも考へたやうに、宣傳がある目的を達するための手段であるとするならば、この二十五ヶ條こそヒットラーの宣傳が目指す目的であると云つてもよいので、こゝで綱領の全部に就

いて評論することは趣旨ではないから、その主要なものを擧げてみると、

(1) 吾々は民族自決の基礎に基き、全ドイツ人を糾合して、大ドイツ國を形成することを要求する。

(2) 吾々は他の國家の獨逸に對する平等の取扱ひ及びヴェルサイユ條約並びにサン・ジェルマン條約の廢棄を要求する。

(4) ドイツ民族のみが市民たるの資格を有する。ドイツ民族とはその信仰告白の如何を問はず、ドイツ人の血統を有するものである。故に、ユダヤ人はドイツ民族たり得ない。

(10) 市民の第一の義務は精神的、肉體的の勤勞に服することである。個人の行動は全體の利益に反せず、共同の利益に寄與しなければならない。

(13) 吾々は社會に反する總てのトラストの國有を要求する。

(15) 吾々は老年者救濟が大規範に擴張されることを要求する。

(16) 吾々は健全なる中產階級の形成と維持、大百貨店及びその總使用料が適當な率で小商人に分配されること、小商人の仕入れが、聯邦政府、各州、地方自治團體により、充分に考慮されることを要求する。

(18) 吾々は吾が國の國家的要求に適する如き土地制度の改革、公用の爲め無償にて土地を沒收す

べき法の制定、土地の利息の廢止及び一切の土地投機の防止を要求する。

(19) 吾々は唯物主義的國際主義の用を爲すローマ法に替へるにドイツ普通法を以てすることを要求する。

(22) 吾々は傭兵の廢止と國民軍の組織とを要求する。

(23 吾々は意識的なる政治的虚僞及び新聞紙によつての虚傳の播布を禁ずる法律的措置を要求する。

大體以上のやうなものが、「ドイツ國家社會主義勞働黨」と稱するヒットラー一派の政綱であつたのであるが、これを宣傳するために彼等はどんな手段を講じたか。黨の名稱を分析してみれば、分るやうに、この黨派は「國家的」と「ドイツ的」と「社會主義的」と「勞働者的」の四者を、その主要な政綱に掲げてゐる。「ドイツ的」で「國家的」であることから、ドイツが外國から、平等に取扱はれるべきことを主張したばかりでなく、更に、人種的にユダヤ人は非ドイツ的であるとして苛烈な攻撃の對照となつた。ローゼンベルグなどの理論によると所謂北歐人を除けば、その他の總ての人種は劣等なものであると説かれてゐるが、この主張はことさらユダヤ人に向けられて、宣傳の材料に供されたのである。ヒットラーの反ユダヤ主義は彼がウヰーンで、傳統的な服裝をして、個有

の言葉を用ひてゐるユダヤ人を見た時に初まつたと云はれてゐるが、大戰後ポーランドからドイツに移り住んだユダヤ人が全く風俗習慣の違ふ異分子であつたこと、ユダヤ人の銀行家がインフレーシヨンによつて巨利を占めたこと、その他ユダヤ人が實業界やその他の職業分野で顯著な地位を占めてゐることなどが、――勿論これはユダヤ人の一部に過ぎないであらうが――半ば羨望の意味も混じへて、ナチス煽動家の十把一括げの槍玉に擧つたのである。外部的にはフランス人とポーランド人がドイツの膏血を啜る怪物と罵られたのに對して、内部的にはユダヤ人をドイツ民族の團結を妨害する怪物と宣傳することは、共同の敵に對する連帶性と統一性とが與へられたために、當時ナチス宣傳の民衆への感受を一層容易にする利益があつたのである。

又次に「社會主義的」で、「勞働者的」であるといふことは勿論宣傳效果百パーセントで、都市や地方の勞働者に對しては全くの好餌であつた。貪慾な資本家から救濟され、利子を支拂ふことや老年や失業の不安から救はれ、ユダヤ人の搾取や、その攪亂的な宣傳から救はれると聞いただけで、勞働者階級の人達が如何に心を躍らせたかは想像するに難くはなく、いはばナチの綱領はあだかも平和と豐富とを象徴する旗のやうに、迷へる羊達の鼻先にぶら下つたのである。

突　撃　隊（Sturm-Abteilung）（S. A）

ヒットラーは一九二四年牢獄から出ると、その同志と共にナチス宣傳を行ふ人々の有能な團體の組織に手を着けて、ナチスの新しい加入者は突撃隊となり・更に後にはその若干名は所謂S・S・（親衛隊）なる特別の部隊を組織した。このやうな良心的な若い青年達は主として中流階級の出が多く、ヒットラーの軍隊で褐色の制服が着られ、その上全體主義國家の一部となつて永久的な地位が得られるといふことは何よりも彼等の自尊心を滿足させた。その他に、自分達の社會的の地位を高め、榮譽を得たいと望む勞働者の子弟がゐた。この一團の人達は極めて忠實であつて、宗教上の命令が、その指導者に盲從を強いるのと丁度同じやうに柔順に活動した。かれらの大多數がナチの運動に全心全靈を打ち込んでゐるさまは、あだかも共產黨が全世界の黨員に求めてゐるものと同樣に、本當に改宗者のやうに思はれ、かれらが弘布を助けてゐる宣傳はどうしても一片の宣傳とは考へられないで、どんなことがあつても全國民に傳へるべき傳達書であるとまで思ひ込まれ、ヒットラーこそ約束したことの全部を果して、彼等を失望させるやうなことはあるまいと、かれらは眞劍に信じ又實に初めの頃はさうでもあつたのである。

「褐色の家」（"Das Braune Haus"）

其の上更に、ナチ黨自身も宣傳の機關を提供してゐた。黨は大部分のドイツの大都市に、所謂「褐

色の家」を配置して、配備された有給の役員は黨のために餘力を傾けてゐた。近隣地方の黨の現勢や潜勢力を調査した記錄がこれらの「褐色の家」には大切に保管され、團員は又役員の命令に服從した。地方の「褐色の家」はヒットラーや黨の主腦部が居住するミュンヘンの中央の「褐色の家」から訓令を受けてゐた。尚ほ「褐色の家」はヒットラーの設計によつて建築され部屋を持ち、一九三一年以來黨の「指導部」（Reichsleitung）が置かれてゐる。

新聞その他の宣傳機關

新聞も又黨の强力な宣傳機關として使用されたが、ナチスは全國に亘つて有力な新聞を普及させることに成功した。例へば、「フェルキッシェル・ベオバッハテル」紙などはミュンヘンで初めて發刊されたが、やがて全國に弘まつた。その後ゲッベルスは「デル・アングリフ」を創刊しゐるが、その名の示すやうに、これほどまでに執拗に攻撃的な新聞は嘗てなかつたといふ。これに續いて、地方の新聞が、ナチスに關係ある事件ばかりでなく、地方の特殊な出來事などを掲載して、ナチの合唱を更に賑かした。

其の他にナチスの行動や集合に景氣をつける目的で數多の音樂隊が編成され、又ドイツの作曲家のものだけを演奏して、全國を巡廻して歩く「ナチス交響樂團」さへも設けられた。ナチスのシン

ボルである古代のスワスチカは、パンフレットの表紙、ナチスの旗の赤地、ナチス黨員の襟など色々な場所に使用して、ナチスの威信を高めるのに役立つた。當時ラヂオは國家に管理されてゐたから、特別な場合を除いてナチス黨はこれを利用するわけには行かなかつたが、ラヂオ以外の色々な宣傳機關は何れも、戰鬪的な小數者を組織して、その情熱を燃え上らせるのに充分だつた。このやうな活動に要する資金はフリッツ・チッセン(Fritz Thyssen)などの大實業家から出たが、國民も又その一部を負擔してゐた。突擊隊員や黨員は比較的重稅を課せられたに反し、失業者の稅率は著しく僅少であつたと云はれてゐる。又政治上の集會の際ナチスが催す演劇からは、多額の入場料が得られたばかりでなく、新聞その他の刊行物の賣上からの收入も相當な額に上つたであらうと思はれる。

宣傳工作の方法

宣傳方法の一例を擧げると、ナチスの二十五ケ條を不斷に人心に打ち込まうとしたのは勿論、又異分子のユダヤ人に對しては、單に直接攻擊を加へる以外に色々な巧妙な方法が案出された。一九三〇年の九月に國會のユダヤ人議員の橫顏を描いたポスターが現れたが、それと竝べて、立派で、將軍や生粹のドイツ人であるナチの候補者の肖像を掲げてゐたのは、比較によつてユダヤ人たることを特に圖示しようとする宣傳のための意圖が隱れてゐたので、又會合の告示の末尾には入場料とと

もに「ユダヤ人お斷り」と簡單に書き加へられてゐたのもやはり同じ目的である。又世界で起る色々な事件はナチスの辯舌家が取り擧げてゐたが、その解釋の仕方はことさら自黨にだけ有利のやうにして、ドイツを支配しようとする他黨には不利益を齎すやうに努めた。政權を握る前にもナチス黨員はページェント術の大家であつて、彼等の催す祝典は良い趣味をもつて、大規範に擧行され、ニュールンベルクで毎年夏行はれる突擊隊員の例會などもその一種で、極めて盛大、黨員の忠節を高め、運動の成長する力を一層强化するのに役立つた。大學では、不滿な貴族黨や財産を失つた貴族達の子弟は容易にナチ黨員に改宗して、やがてその多彩な黨員族はナチスの祝典の際に蹈るのが見られた。又學術的な講堂の内部でも彼等はナチ黨の理想を守り、ドイツの智的生活の破綻を豫言し、更に貴顯の婦人すらも街頭に立つて、婦人の職務は家庭にあること、商業や政治上の生活に參加することは婦人の婦人らしさを失はせるものだと說いた。しかも、ナチス黨の揭げた二十五項目の約束こそ最も魅力のある好餌で、今明日中にも實現されるかのやうな斷言的な口吻で說いたのであつたが、實にこのやうな多種多樣の辛辣な宣傳的手腕によつて、彼等は自己を榮達したばかりでなく、同時に他の人々をも感激させ、自黨に引き入れたのである。なほこのやうな初期のナチスの宣傳行動に就いては、ヒットラーがその自傳の中の處々で、魅力ある筆側で描いてゐるから參考されたい。

宣傳の效果

以上のやうな手を替へ、品を替へた宣傳はどんな結果を齎したであらうか。多少誇張の言葉とも思はれるが、少なくともドイツ人の半數は獲得できたであらうと云はれてゐる。ヒットラーの理想に多少危惧の念を抱いてゐたものの、工業家の多數は、ファシズムが何等かの形で小資本家を利するであらうと信じて、改宗したが、中產階級の者は文字通り群をなしてヒットラーの傘下に身を投じた。かれらにとつて、ヒットラーは、民主主義の渾沌から救ひ出し、インフレーションとヴェルサイユ條約の不正を直し、何等かの安全さを保證する救世主であるやうに思はれた。農民の參加はこれよりも少數であつたが、一度ナチスの主義を奉じたものは、ドイツ精神の復興を疑はなかつた。一般の勞働者階級は支持することを控へて、依然その多數は自黨に投票してゐた。又より急進的な勞働者はドイツ共產黨員であつたが、その一部のものが時々ナチスに轉向したのは、ナチス運動が一層迅速に勞働者の要求を實現してくれさうに思はれたためである。總じて云へば、ドイツ人は熱烈なナチス黨員となるか、或は又激しい反對者となるか、どちらかであつたが、ある意味で何れの場合もナチ黨の發展を助ける結果となつた。即ち、その支持はナチス黨の指導者を激勵したのは勿論のこと、反對者の憎惡の念すらも迫害の意識を高めて、黨員の結合を一層鞏固にする作用があつたからである。

以上のやうに、ナチスの宣傳は次第に一般民衆の諸層に食ひ入つて行つたのであるが、己に述べたやうに、當時のドイツの社會情勢に對するかれらの不滿が、ヒットラーの運動を勝利に導く隱れた働きをしてゐた。當時中央黨の指導者達はドイツの內閣を左右するだけの勢力を持つてゐたとは云へ、狹量な保守的な立場に停滯して、前進することを忘れ、又共產黨はソヴィエット・ロシアの指令を受けて、熱心な改宗者をその翼下に收めてゐたが、他黨との相剋に疲れて、その投票力はあまり增加するに至らなかつた。ドイツ人は、不況に倦怠し、選擧に倦き、賠償金の支拂ひを憎惡して、政黨に對しても全く希望を失つてゐた。要するに全ドイツに漲るものは疲勞困憊だけで、かれらドイツ人の求めるものは、平和であり、秩序であり、又出來るなら、責任を双肩に負つて安心して國民を日常生活に從事させるやうな强力な指導者の出現である。最も强硬なヒットラーの反對者さへも、時折ヒットラーをドイツの指導者にするがよい、若し彼が指導者となるなら、彼自身が冷靜となるばかりでなく、他の相剋する諸派をも冷却させるに相違ないとの意見を漏したと云はれてゐる。卽ち、當時のドイツは、全くヒットラーの出現を待望してゐるかのやうな狀態にあつたのである。彼を宰相にしたヒンデンブルグは、その點で明察の智があつたとも許することが出來るが、ヒットラーの宣傳戰が奏效した秘密も、以上述べて來たやうな諸因の中に探り求める時に、初めて眞相の一端は把握で

きるに相違ない。

尙ゲッベルスは「ドイツの爭闘における余の役割」("My part in Germany's fight" といふ彼の著書の中で、一九三二年の二月から三月にかけての選擧戰の狀況を詳細に書いてゐるが、三月六日の後一週間の間に、黨は二十萬ライヒスマルクの費用を使ひ、選擧中に印刷したポスターの數は五十萬枚、蓄音機のレコードは五萬枚と計上され、ある時飛行機による宣傳旅行が禁ぜられた時には、ゲッベルスはベルリンからハンブルグまで汽車で出掛けて、車中から會衆に電話で演說したといふことが述べられてゐる。

第二章　ヒットラーの政權掌握と宣傳省の成立

(一) 初期の宣傳戰

前章で一九三三年までの宣傳を述べたが、一九三三年、ヒットラーが指導者の地位に就くや否や、彼の宣傳は益々行動的な色彩を帶びるに至つた。このやうな實踐的な行動の結果、宣傳の效果は益々加したばかりでなく、多數のドイツ人を自黨に引き入れることになり、ナチ政權の地盤はますます

鞏固さを加へて、ヒットラーが獨裁者となつてから、僅々數ケ月と經たない間に、已にドイツ全土に彼の政策に疑を挾むものは殆んど跡を斷つといふ狀態となつた。表面的には政權獲得以前のドイツの緊張狀態を弛めるやうに見えたのであるが、實際は彼は愈狂的になつて、一九三三年四月のユダヤ人商人に對する大規範のボイコットはその手初めである。全體主義國家の理念を受け容れなければ、政治犯收容所に閉ぢ込められるか、追放されるか、簡單に殺されるか、どちらかである。民衆の希望通りに、ユダヤ人は迫害されて、數千人のユダヤ人は國外に放逐されたし、多數の工業家の希望通りに、勞働組合は一朝にして解散され、また愛國主義者の國家主權主張の希望も容れられて、ドイツは賠償金の支拂を拒み、國際聯盟から脫退したうへに、海空軍の力を增强、徵兵制度を布いて、故意にヴェルサイユ條約を廢棄したりした。その上更に、政黨は解消され、市民はナチ黨員となるか、或は一切の政治的關係を失ふか、何れか一つの立場に追ひ込まれた。嚴重な檢閱を斷行して、不利な書籍は無遠慮に燒却し、交通機關は一切ベルリンよりの統制に從ふことになり、地方政府を根絕し、失業者は准兵士又は警官となつて政府の公共事業に傭はれたり、勞働宿舍に收容されたりして、仕事にありつくことが出來た。又ナチスは卍を國家の象徵として、昔しの黑、白、赤の國旗を復活したが、これらは總てナチス黨の獨裁權によつて極めて簡單に實施されたのである。

ナチスの領袖たちは純粋なドイツのための統一した、幸福な國家を建設する目的の前には手段を選ぶ要ばないと信じてゐた。

けれども、これだけの仕事ではまだ不充分で、政府の失政や反古にした約束を蔽ひ隱すためにも宣傳が驅使され、强化された支配者階級によつて搾取されてゐた民衆の注意を逸らし、ナチス黨員になる資格者を黨に引き入れるためにも宣傳が必要であつた。

これらの點で、ヒットラーはヒットラーは全く計畫的な宣傳家であつたと云へるであらう。一九三三年三月十七日にヒットラーは訓令を發して「國民啓蒙宣傳省」を創設して、ゲッペルスをその長官にした。この省の組織に就いては別項で取扱ふ筈であるが、苟しくも輿論と關係のある一切の活動はこの省の下に統轄され、さうして、この省はヒットラーに對してのみ責任を負ふことが明確に規定されてゐる。ドイツ人の生活に關する諸事項は總てこの省の中に包含されて、他の諸省の管轄事務の一部、私的團體の諸種の機能の一部も亦この省が引き繼ぐことになつた。その重要な部門は宣傳、ラヂオ新聞、映畫、演劇であるが、ナチスの宣傳家達はこれらの傳達手段の重要性を知つて、ただ、堅忍持久の努力によつてのみドイツの統一は達せられると信じてゐた。又彼等は如何に取るに足らぬやうな部分でも、その統御に失敗するならば、それがやがては反ナチ的分子を構成して、全面的に藥

影響を及ぼし、ナチスの破綻となることをよく心得てゐた。反ナチの諸運動の剔抉をヒットラーがことさら重視したのは實にこのやうな事情のためである。

今當時における宣傳相ゲッベルスの宣傳戰を見るに、當時のドイツの事態は何よりも彼が手廣い强力な逆宣傳を行はなければならない立場となつてゐたために、彼の對策は色々な面に向つて試みられた。例へば、ドイツの狀態がヒットラーの支持者達が豫期したやうに迅速に改善されないときに、ゲッベルスは實際上の統計を示して、改善の事實を證明し、又豪華なページェントや大膽な對外政策を行つて、ドイツ人の注意を他に逸らすとか、又地方の農民が耕作物の收益が增加しないことを訴へるやうな場合は、ゲッベルスの手先の者は、已に他の地方は好況となつてゐるから、やがてその順番が來るだらうと慰めたり、又一九三四年から三五年にかけての冬の不安は、放逐されたユダヤ人の陰謀の結果であると說き、又街頭の人が附加稅や賃金の引き下げの不平を訴へるときは、この制度こそ大ドイツ國を建設するための愛國者の義務であると說明するなど、不平分子抑壓のための種々な宣傳が試みられなければならなかつた。卽ち敵意のある態度を無視して、その代りにもつと有力な支配者的な態度を喚起するといふやり方である。

このやうに、ナチスの宣傳が效果を收めた祕訣は宣傳省が絕對の權力を振ふことが出來たといふ

點にあるやうに思はれる。「輿論の諸機關はナチス國家主義の讃歌を奏する鍵盤である」とゲッペルスは云つてゐるが、完全な検閲を行ふことは一切ゲッペルスに委ねられて、ドイツ人は他の世界から全く隔離され、只ゲッペルスが見聞させようと望むものだけを見たり聞いたりしたのである。しからば、このやうな「宣傳省」とは一體どんな外面的な組織を持つてゐたか、次項でその輪郭に觸れてみようと思ふ。

(二) 宣傳省の成立

宣傳の中樞的な存在として、最も華々しい活動をしてをり、總ての宣傳組織はこの宣傳省によつて統括されたと云へるだらう。こゝで宣傳省の組織や、その本質的な活動に就いて論じてみたいと思ふのであるが、宣傳省が如何なる部門に分れてゐるとか、又大體どんな事務を管掌してゐるかは、公表された刊行物によつて窺はれるが、その實質的活動の實際を知るためには、筆者の手許に充分な資料はない。しかし、できるだけ客觀的に最初大體どんな目的を以て、又どんな事情の下に、この世界最初の「國民啓蒙宣傳省」といふ、一見奇異の感に打たれる省が誕生したかを見て、更にその組織に就いて論及してみたいと思ふ。

(a) **設立** 先づその設立に就いては、宣傳の重要性は黨活動の武器の一つとして既にヒットラー

の政權獲得前後に、充分痛感されてゐたが、ナチ政權樹立後、宣傳は一黨のことではなく國家的な事務として、組織ある形態に構成されねばならぬ事情に迫られたためである。ゆゑに、この省は一九三三年一月三十日の內閣成立後三月十三日に、「國政府の政策及びドイツ祖國の再建に對する國民の啓蒙及び宣傳の目的のために、國民啓蒙宣傳省を創設す」との訓令を以て、創設されたものであつて、前項でも述べたやうに初代の大臣には、ナチス黨宣傳部長兼ベルリン大管區長のゲッベルスが任命され、次官には第一流級の組織家で、また專門家との定評のあるフンクがなつて、この省の出現は獨逸ばかりでなく、全世界の人々の耳目を聳動させた。そして「政治的精神的意志教育に、新しい道、かゝる新しい近代的な形式としては、未だ世界のどの國にも踏まれなかつた新しい道が開拓されたのである。」（インゲマールベルント宣傳省一周年紀念祝典演說）

　しからば、その組織割當てはどうであつたかと云へば、各省から、國民の文化啓蒙に關する事務を引き拔いて、更に、これに新しい宣傳に關する事務を加へて出來上つたものである。一九三三年六月二日附の新聞記事に據れば、次のやうである。

「總統は法律を布告し、これによれば、宣傳省大臣は國民に對する精神的影響の總ての任務を管轄するので、國家、文化、經濟に對する宣傳、及びこれに關する國內外の發表物（Öffentlichkeit）の

報道及びこの目的に役立つ總ての施設の管理を統轄する。その結果として、宣傳省の事務領域には、次のものが移管される。

（イ） 外務省の事務より、——外國に於ける報道及び啓蒙、外國における藝術、美術展覽會、映畫及びスポーツ。

（ロ） 內務省の事務より、——一般內政的啓蒙、政治大學(Hochschule für Politik)、內務大臣參加の下に行ふ國民的式典、國家祝典の制定及び擧行。新聞、ラヂオ。國民學(Nationalkunde)。ライプツイヒのドイツ文庫。美術（或る制限を以て）。音樂奬勵。演劇事務。映畫。いかさまもの（Schund）及び猥褻なものゝ防止。

（ハ） 經濟省及び食糧農業省の事務より、——經濟宣傳、博覽會、歲市、廣告制度。

（ニ） 遞信省及ぶ交通省の事務より、——交通宣傳、遞信省の事務範圍からは、更に、今迄こゝで取扱はれてゐたラヂオが、國ラヂオ會社及びラヂオ會社の屋外の技術的管理に關せざる限り、移管される。技術的管理の事務に關しては、宣傳大臣は、その任務の遂行上必要な限り、就中ラヂオ施設の授與條件の決定、及び料金規定の決定の際に關與する。殊に、國家が、國放送會社及び放送諸會社に於て、代理することは、全般的に宣傳大臣の權限となる。」

近頃は次第に事務の煩瑣の結果、部の數も增加したが、設立の當初は七部に分れてゐた。即ち、「一部」は立法と法律、「二部」は宣傳、「三部」はラヂオ、「四部」は新聞、「五部」は映畫、「六部」は劇場、音樂、美術、「第七部」は國內外の虛言を防止する部であつて、この他にも、ゲッベルスの昔からの同志であるハンケが指導する Ministerbüro があつた。七月一日以來十三の地方局（die Landstelle）及び十八の國宣傳局（die Reichspropagandastellen）が統括されて、これには、實行機關（Exekutiver Apparat）であると同時に民衆との接觸機關である聯絡局（die Verbindungsstellen）が附屬して、省は民衆から暗示を受けると共に、逆に民衆に對しても指令を與へてゐたのである。「われわれはわれわれの耳を民衆の魂の上に置かうと思ふ」といふゲッベルスの宣傳省の任務に關する言葉は、このやうな地方の諸機關の設置となつて現れたものである。このことは又一九三三年の眞夏ゲッベルスが云つた言葉、「官僚主義の埒外に飛び出る勇氣を一度は持たねばならない」も同じことを意味するのだらう。

(b) **各部の活動狀況、目的**　現在の事務範圍に關しては、別に一章を設けて說明を加へることにして、各部設立の趣旨と當時における大凡の活動狀況に就いて一言する。

「第一部」は立法と法律事務を擔當して、各省から內閣評議會へ廻附される諸法案を改正したり、

再審議したりする。

「第二部」は、宣傳事務で、ハェーゲルトが部長である。ゲッベルスは、この省の名前が示してゐる「啓蒙宣傳」を二つに區別して解釋した。即ち國民啓蒙は、本質的に見て受動的のものであるが、宣傳は能動的に國民を指導して行くことであると考へた。國民は單に啓蒙されるに止まらず、活潑な政府の宣傳活動によつて導いて行かねばならぬ。そのためには、最も有能な頭腦を自己の周圍に集め、あらゆる無用な裝飾や附加物を排除して、街路上の最後の一人までも容易に理解できるやうに、錯雜して、入り組んだ思想を、短い標語に纏め上げて鼓吹する方法をとる。例へば、三月四日の「目覺める國民の日」などは、ドイツで行はれた最大の宣傳活動と見做すことができるもので、其の期間中、丸一週間、全國民は仕事を中止して、その眼を、催眠術にでもかゝつたやうに、この唯一の事件に集中させた。宣傳の本質は單純、重壓、集中にあると考へた。

この部は、就中、ナチス獨特の國家大祭典の藝術的、技術的形成を司り、又模範的な國繪畫文庫(das Reichsbildarchiv)を設け、一萬二千以上の作品を網羅してゐるとの由だ。又大展覽會 "die Kamera" を組織して、その規模の大さの點で、最初のものである。當時開催されたベルリンの國際的自動車展覽會にも、この部が參加し、又NSVの冬期救援事業及び新規援助事業「母子」運動

もその保護を得た。

「第三部」はラヂオ事務を管掌する。ラヂオは宣傳の主要な部門である。部長はホルスト・ドレスレル・アンドレスであつた。それで、この部には、昔日のラヂオの屋上屋的な組織を廢止して、基本的な人事刷新によつて、完全にラヂオをナチス的方針に基いて再建しようとする重大な任務が課せられてゐる。國民受信機の奬勵（この機械は六十萬以上賣れたが）及びラヂオ參加者の數が一九三三年一月一日には四百三十萬であつたのが、一九三四年の同月同日には五百三十萬に高まつた事實は、此の部の活動に對する最も確實な數字的分度器であるが、ゲッベルスはこの部の活動に就いて大體下のやうに報じてゐる。

「ラヂオが宣傳化した結果、退屈になるとか、近代的テンポが失はれるなど〻云はれるが、寧ろ近代的のテンポを與へようとするもので、一月三十日以來各週のラヂオ宣傳は、模範的のものと云へる。聽集が退屈のあまりスキッチを切るといふことも起らないのみか、何百萬の新聽取者が加入した。それと云ふのも、ラヂオの宣傳を、大衆の集つた大氣の中から放送した結果のために外ならない。かくて、聽取者は誰も、直接にこの事件の參加者となつた。近來の眞のラヂオとは時代精神を斟酌し、國家的責任を意識したラヂオであつて、誰にも國家的大事件を知らせなくてはならない。

例へば、新議會の開院式とか、ポツダム教會の感謝祭とか、總統の面前で行ふポツダム聯隊の觀兵式などの國家的式典が僅々一萬か一萬五千人の面前で行はれるなどは近代的ではない。技術的の援助があるのであるから、國民をこのやうな出來事に直接參加させたり、共に聞くようにすべきだ。若しテレヴィジョンがあれば全國民が一緒に見ることができよう。即ち政府の意圖を國民に知らせて置かねばならぬ。且又、單に珍事件に國民を參加させるだけでなく、又ドイツ藝術、科學、音樂の獎勵をも心掛けるべきだ」と。("Goebbels spricht." S. 56)

ドイツでは、形式たつぷりな鳴物入りの國家的大式典を度々擧行して、國民の總意を、絶えずナチスに向けておかうとしてゐるのは得意の戰術であるが、ラヂオはこのやうな宣傳的祭典の手足となつて國民の精神を統一し、昂揚するのに役立ち、丁度宗教が集會によつて、その熱意を保持するやうに、ナチスも國家的式典によつて、その世界觀を支へようとしてゐるのである。

「第四部」は新聞で、ドクトル・ヤーンケが部長になつた。新聞もナチ宣傳の重要な一部門であるから　この部の統制は實に目覺しいものがあつた。主要新聞を除いて、約三千五百の獨立の新聞中、一九三二年にはナチ的のものは僅か百二十であつたが、次第に他誌も新世界觀を攝取する傾向が見られた。又約一萬の新聞記者の內、ナチ革命の洗禮者は僅かであつたが、ナチ的思想財貨との內的

接觸者の數が漸次增加するやうになつた。又この部は各省や、その他の諸官署のために活動をして、毎日少くとも三千部の切拔きを諸役所に配布する。又その任務の範圍には、「ドイツ新聞組合」の監督權が屬する。ゲッペルスは新聞記者代表者の面前で、この部の方針に就いて左のやうに報じてゐる。

「私は新聞は政府を援助すべきだとの意見を持してゐる。政府の批判は差支ないが、國民を政府の手から惑はすのはよろしくないから、これには政府が干渉する。新聞は報道するだけでなく、敎示しなくてはならない。新聞は宣傳的影響が大きい武器であるから、政府は新聞界と手を執り合ふことが大切で、この目的の實現が私の使命である。若し、政府を非難するやうな立場に來たなら、國の內外の敵がこれを利用するやうな言辭を用ふるべきではない。過去にも、不用意に、ある新聞が政府を批判して、これが敵に引用される結果となつたことが度々ある。卽ち、このやうな場合には、常に政府の利益を念頭に置いて行動しなくてはいけない。政府の政策を國民に傳へるだけでなく、國民の間に理解させるやうに努力すべきで、毎日の新聞會議も、報道と共に敎育を心掛けるべきである。報告中心でなくて、政府の意向を最も合理的に國民に知らせるやうにしなくてはならない。」("Goebbels spricht." S. 58)

「第五部」は映畫事務を擔當して、ゼーゲルが部長になつた。その主な任務は、映畫管理における秩序の混亂を回復して、新時代の精神で活動する映畫事業を建設することである。又映畫信用銀行が創設されて、これを通じて銀行の映畫業に對する信用が回復された。又「國映畫院」が設けられて、映畫に參加するものは、共同の舞臺を見出すことになり、又國映畫演劇顧問（Reichsfilmdrama-turgen）が任命された。これは映畫業に新しい道を示して、民衆の多數が拒否する映畫の上演を禁ずるやうに顧慮する。又映畫取引所に、秩序のある社交的狀態を作り出して、國際間の映畫輸入に關する他國との協商を締結したり、國映畫文庫を設置したり、又大事件を映畫に作製することなどがこの部の仕事であつた。グッベルスは、映畫部と劇場部に就いて、「この省では、地方の事務範圍には觸れないで、國家の利害關係に關する限り取扱ふ。しかし、この場合、時代の進歩に追從せず、先行すべきである。毎日が歷史の一頁となるかのやうな最大の革命的變動時代に、演劇と映畫とが、この革命的大事件を藝術的に把握できない筈はない。材料を求める聲もあるが、街頭には毎日現實の映畫と、政治の藝術的演劇とが演ぜられてゐる。退屈に患ひされる時代なら、材料を求める聲も理由があらうが、今日はさうではない。こゝでもこの省は開拓者の役割を果すべきである。」

（"Goebbels spricht" S. 61）（抄譯）

と述べてゐる。

「第六部」は劇場、音樂、美術を取扱ひ、ラウビンゲルが部長になつた。この部は、劇場報告、劇評、音樂奬勵、造形藝術並びに應用藝術奬勵の部門に分れる。劇場と民衆との間の關係を一層緊密にすること、戸外劇、民衆劇の保護、青年劇場の設立、ナチス協會（NS-Gemeinschaft）及び「喜びによる力」團の事業に協力すること、職業紹介の新編成、藝術的青年の訓練等がその仕事の範圍である。

「第七部」は虚言防止で、この部の仕事は最初困難に見えたが、次第に無駄でないことが解つて、新興ドイツの理解者が増加して來た。

以上が創立當初の各部の活動狀況であるが、ナチスの見解に從ふと、敵を四散させることとは、支持者を作る所以ではない。支持は一致提携から生れる。そこで一致提携を齎すのが、プロパガンダの目的なのである。ナチス成功の重要原因の一つは、政治の象徵主義とも云ふべき一種の宣傳樣式や仰々しい大會などを案出したことにあると云はれてゐる。例へば、イタリーから眞似たナチス式敬禮などがそれであつて、總ての官公吏は、所謂「獨逸的敬禮」即ち「ハイル・ヒットラー」と片手を差伸べる禮を行ふやうに命ぜられ、一般國民も亦これに從ふことになつた。其の他ハー

ケンクロイツの大旆を列ねて大行進をするなどは何れもナチスの宣傳を構成するものであつて、これらの總ての外的、又內的の様式は、總て宣傳省が擔當することになつた。

ベルントは宣傳省一周年紀念日の講演で、「今や一年が經過して、啓蒙宣傳省は他省が示し得ない結果を證明してゐる。誇張なく、世界最善の宣傳家と目されてゐる人物が、この省を指導してゐるばかりでなく、彼の理念によつて、近來の權力獲得のナチス闘爭に對して、形式と內容とを與へたといふ事實がこの省の成果を偉大にした」と述べてゐる。

第三章　宣傳省最近の形態

以上、宣傳省創設當時のことを述べて來たが、次に最近の整備した宣傳省の機構を研究してみるために、私は二つの信頼するに足る資料に據ることにした。その一は一九三六年版のドイツ內務省發行の年鑑（das Handbuch für das Deutsche Reich 1936）であつて、他は、クルーゲ・クリューゲルの「第三帝國に於ける憲法と行政」（Kluge・Krüger : Verfassung and Verwaltung im Dritten Reich）である。多少煩雜に亘るが、資料的の根據として抄譯を試みた。この年鑑の方には、宣傳省の組織

だけでなく、その監督下にある諸官署も擧げられてゐる。

第一節　ドイツ年鑑に見られる宣傳省

啓蒙宣傳省

一九三三年三月十三日の布告（法律通報I・一〇四頁）によつて設立さる。本省は、政府の政策及びドイツ祖國の復興に關し、國民の間に啓蒙宣傳する總ての事項を取扱ひ、殊に國民に及ぼす精神的影響、國家及び文化、經濟に對する宣傳、國内に於ける公表物の報道に關する總ての問題を取扱ふ。
本省は、この目的に仕へる總ての施設を管理する。

大臣　ゲッベルス博士。

次官　ワルター・フンク（同時に政府新聞部長）

× × × ×

大臣官房（Ministerbüro）。ヘンケ（Hanke）。フォン・ヴィーデル（von Wedel）。フォン・リーベン（von Lieben）。デュル（Dürr）。ツエレル博士（Dr. Zeller）。シュレヒト（Schlecht）。レッテルスキイ（Rettelsky）。フォン・ヴロッヘム（von Wrochem）

× × × ×

第一部

(A) 財政

事務範圍――財政、會計、現金出納事務、ドイツ經濟宣傳委員會、ライプツィヒ見本市、省文庫。

指導者、オット博士（參事官）

報告者（Referent）、ゲッツラフ博士（Dr. Getzlaff）、シッペルト（Schippert）。

(B) 人事

事務範圍――官吏及び各省、各省管轄諸會社の使用人、勞働者の人事及び俸給事項。

指導者、リューディゲル（Rüdiger）（參事官）

報告者、フリューゲル博士（Dr. Flügel）（政府顧問）、カルス（Kallus）、コーレル（Kohler）（政府顧問）、プロッツ（Protz）（政府顧問）、ダンツマン博士（Dr. Danzmann）。

(C) 法律

事務範圍――立法・法律及び組織事項・國文化院。

指導者、シュミット・レオンハルト博士（Dr. Schmidt-Leonhardt）

報告者、ガスト博士（Dr. Gast）、フォン・ボッツヘイム博士（Dr. v. Botzheim）

第二部　宣傳

事務範圍――國民啓蒙及び宣傳の領域に於けるドイツ國の統一政策の實行。一般內政及び外政。國防政策。ユダヤ人政策。經濟及び社會政策。農業政策。植民地政策、國民保健及び人口政策。東方問題、國境問題、小數民族政策。交通政策。青年及び學生政策。市及び展覽會事項。ドイツ政治大學。冬期救濟事業。「勞働犧牲」の爲の建設物。外客誘致全國委員會。オリンピック競技宣傳委員會。

宣傳手段（展覽會、集會、貼札、パンフレット、寫眞、映畫）。本省の地方局。大示威の施行。國家生活上の形成。國家祭典の藝術的、技術的形成。至上權記號（國民的象徵保護法案の通過）。國際的競技の諸關係。國內に於ける身體訓練の奬勵。

指導者、ヘーゲルト（Haegert）（參事官）

報告者、グッテレル（Gutterer）、マーロウ博士（Dr. Mahlo）、ツィーグレル博士（Dr. Ziegler）、ビーブラッヘ博士（Dr. Biebrach）、イムホフ（Imhoff）、クリーク博士（Dr. Krieg）、マイエル（Meier）、タウベルト博士(Dr. Taubert)トラマ博士（Dr. Thomalla）。（以下略）

第三部　ラヂオ

事務範圍――ラヂオ制度。ドイツのラヂオを組織し管理すると同時に、政治的、文化的に監督する。國ラヂオ有限責任會社。テレヴィジョンの構成。

指導者、ドレスレル(Dressler)(參事官)

報告者並びに副報告者、デマン(Demann)、ヴァインブレンネル(Weinbrenner)。(以下略)

第四部　新聞（同時に政府の新聞部）

事務範圍——國内外の新聞制度。新聞科學及びドイツ新聞學研究所。無電業務。報道業務。新聞寫眞通信事項。新聞寫眞文庫。新聞文庫及び新聞蒐集。Deutsches Lektorat, Auslandslektorat ドイツ新聞全國組合。

指導者、ベルント（Berndt）

報告者、シュテファン（Stephan）、バーデ（Bade）。（以下略）

第五部　映畫

事務範圍——映畫法制定。フィルム檢閲。國内外に於けるフィルム及映畫事項。映畫工業（映畫經濟）。映畫技術。フィルム檢閲所及映畫上級檢閲所。映畫劇評。週間ニュース。

指導者、ゼーゲル博士（Dr. Seeger）

報告者、副報告者、ホイズィンゲル・フォン・ヴルデック（Heusinger von Waldegg）、ニーレンツ（Nierentz）（國映畫劇評家）。（以下略）

第六部　劇場

事務範圍——國内外の劇場制度。國演劇顧問。藝術舞踊。

指導者、シュレッセル博士（Dr. Schlösser）

舞臺裝飾技術顧問、フォン・アレント（Benno von Arent）

報告者及副報告者、シュレッセル博士（前出）、シュヴェーベル（Schwebel）。

第七部　外　國

事務範圍——外國に於ける政治的虚言の防止。啓蒙。對外諸關係の促進。

指導者、ハーゼンエールル（Hasenöhrl）

報告者、フォン・ヴイセンホフ（von Weyssenhoff）、ディーヴェルゲ（Diewerge）（以下省略）

第八部　著作物

事務範圍——國内外に於けるドイツ著作物の保護。國文書局。ドイツ圖書宣傳の國家研究團體。ライプツィヒドイツ文庫

指導者、ヴィスマン博士（Dr. Wismann）。

報告者、エルクマン博士（Dr. Erckmann）、ヘーフェル博士、（Dr. Hövel）。

第九部　造形藝術

事務範圍——國内外に於ける造形藝術の保護奬勵。美術展覽會。

指導者、當分未定。

報告者、シュヴェーベル（Schwebel）、ビーブラッハ博士（Dr. Biebrach）

第十部　音樂

事務範圍――國內外に於ける音樂の保護奬勵。

指導者、當分未定。

報告者、ルードヴィヒ博士（Dr. Ludwig）

×　×　×　×

宣傳省管轄事務

(a) 諸役所及び勤務の場所

(一) 地方局

一九三三年六月始めに設立された地方局は國內の一定區域を擔當して、大臣を、その任務に觸れる總ての問題において補佐し、又その命令を實行する。その指導者は同時に、その區域に對して、國文化院の地方文化管理者（Landeskulturwalter）である。

區域	指導者	區域	指導者
一、オストプロイセン	パルツォー	二、ベルリン	ヴェヒテル

三、ブランデンブルグ邊境國	シューレル
四、シ　レ　ジ　ア	グンツェル
五、ポ　メ　ル　ン	ポ　ッ　プ
六、マグデブルク・アンヘルト	當　分　未　定
七、ヘレ・メルゼブルク	リンデンペルク
八、ツューリンゲン	ブルュストリン
九、シュレスヴッヒ・ホルスタイン	シール ホルツ
十、ヴェーゼル・エムス	シュルツェ
十一、東部ヘンノーフェル	シュモンセース
十二、南部ヘンノーフェル・ブラウンシュヴァイヒ	フックスヘーゲン
十三、ヴェストファーレン・北部	シュミット(フリッツ)
十四、ヴェストファーレン・南部	プ　ル　ス　ト
十五、クールヘッセン	ゲルナント
十六、ヘッセン・ナッサウ	ミュラー・シュルト
十七、ケルン・アーヘン	ヴィンケルンケンペル
十八、コブレンツ・トリエール	ミッヒュルス
十九、エ　ッ　セ　ン	フィシュル
二十、デュセルドルフ	ブロウヴールス
廿一、ミュンヒュン・オーベルバイエルン	ニッポルト
廿二、シュベーベン	トレーク
廿三、バイエルン東部國境地方	コ　ル　ペ
廿四、フランケン	ペーゼルスエーデル
廿五、マインフランケン	フォークト
廿六、ゾァールファルツ	トランプレル
廿七、ザ　ク　セ　ン	ザルツマン
廿八、ヴュテンベルク	シュミット(フリードリッヒ)
廿九、バ　ー　デ　ン	シュミット(アドルフ)
三十、ヘンブルク	シュミット(エーリッヒ)
卅一、メクレンブルク・リューベック	ゾンデルマン

(二) 國文書局 (Reichsschrifttumsstelle)

一九三四年七月一日に設立された國文書局は總ての所屬の組織と協力して、ドイツ文書の保護、奬勵、普及の範圍で實際的宣傳方法を實施し、又更に出版者、著述家及び貸出文庫及び Werkbücherei に對する協議を行ふ。この局の監督に屬するものは、「國民文學の爲の研究團體相談所」(Die Beratungsstelle der Arbeitsgemeinschaft für Volksliteratur) 及び「占星術文書の相談所」(Die Beratungsstelle für astrologisches Schrifttum) とである。

局長、ディーツ (Dietz)

(三) 藝術的形成委員 (Reichsbeauftragter für künstlerische Formgebung)

一九三五年十月十四日の總統訓令によつて設定さる。その任務は、ナチス國家がその世界觀を一定の藝術的形成として表現しようとする時に、(主として、公共建築物、紀念碑、旗、制服、貼札、郵便切手等の作成の際に) 常に助言を與へ、協力することである。

委員、シュヴァイツェル (Schweitzer)

(四) 外客誘致全國委員會 (Reichsausschusz für Frendenverkehr)

一九三三年六月二十三日の外客誘致全國委員會令(法律通報I・三九三頁)により設立さる。該委員會は、ドイツ國土に對する外人客誘致の政策を總括し、施行しなくてはならない。外客を促進させる事務

所は皆地方團體に統一される。

この委員會は、關係省、地方官廳、ドイツ鐵道協會の主腦部及び外客の誘致に關係する地方の各代表者から組織される。

會長、ゲッベルス博士（大臣）

代理者、事務擔當者、エッセル（Esser）

事務擔當者、マーロー博士（Dr. Mahlo）

（五）フィルム檢閱所

一九二〇年六月十六日の法令（法律通報I・三九三頁）によつて設定さる。一九三四年二月十六日の映畫法（Lichtspielgesetz）（法律通報I・九五頁）によつて改正され、又一九三五年六月二十八日の映畫法變更の第二法令（法律通報I・八二頁）によつて改正さる。

映畫檢閱所。檢閱所は國の內外の映畫をドイツ領土內に上映する際に檢閱する。檢閱の裁決は一人の任官せる議長（beamtete Vorsitzende）と四人の陪席者（Beisitzer）からなる會議によつて行はれる。陪席者は國文化院の所屬會議所の所長の提案で、宣傳省大臣によつて任命される。

所長、ツィンメルマン（Zimmermann）

フィルム上級檢閲所。上級檢閲所は、檢閲所の決定に對する苦情の時、第二審即最終審に於て判決する。それは更に、已に通過した映畫を、宣傳省大臣の命令に基いて再檢閲したり、又場合によつてはその許可を取消す職權がある。(撤回處置)

所長、ゼーゲル博士(Dr. Seeger)

(六) ドイツ歌劇場

ドイツ歌劇場は一九三四年七月一日に、この時迄、市立歌劇協會による經營であつたのを國立營造物と改められた。

場主、ローデ(Rode)

(七) ヴィースバーデン・ドイツ劇場

この劇場は國立として、一九三五年八月一日以來、ドイツ帝國の管轄に移された。それは歌劇オペレッタ、演藝の混合經營である。

場主、フォン・シイラッハ(von Schirach)

(b) その監督下に置かれたる諸團體、建設物、協會等。

(一) 國文化院 (後章「國文化院」參照)

(二) ドイツ新聞全國組合

一九三三年十月四日の編輯者法の二十三條（法律通報I・七一三頁）によつて、ベルリンに本部を持つ公法上の團體として創設さる。ドイツの編輯者の全部を法的に總括する。あらゆる編輯者は職業名簿に登錄されることによつて、またこの組合に所屬する。本組合は、國文化院の內部に、編輯者に屬する專門團體を構成して、國新聞會議所中に入れられる。

組合は二十の地方組合に分れる。こゝでは編輯者の職業名簿が保存されて、登錄申込み、及び登錄削除の申込みについて判定する。編輯業の社會的促進、及び後繼者養成の獎勵がこの組合に委される。

この組合の組織は、組合長、事務長、顧問、新聞會議（Reichspressetag）、職業裁判所とである。後者は各地方組合の所在地で維持される。更にベルリンには新聞紙法院が存在する。裁判所は登錄處方に於ける異議を再審理し、又名譽裁判所として、且又鑑定所として、勞働法的な爭論の際に活動する。

刊行物、"Deutsche Presse" 週刊（新聞業の全般的利益のために）。

指導者、ヴァイス（Weiss）

(三) ドイツ經濟宣傳委員會（所在地ベルリン）

一九三三年十月二十七日の經濟宣傳に關する法律施行のための第二法規（法律通報Ⅰ・七九一）によつてベルリンに所在地を有する公法上の團體として設立さる。該委員會は、公私の經濟宣傳の全般にわたり監督を行ふ。これは、經濟宣傳の實施上法的に規定された許可を與へ、且つその許可が據るべき根本原則を樹立する。經濟宣傳の領域に於ける弊害を除去し、以て宣傳の價値に對する信賴を回復せんとするために必要なる手段を講ずる。その上に、最も主要な任務は、經濟宣傳の統一的、活動的形成に盡力して、ドイツ國民の道德感情及び政治感情及び意慾を斟酌せる宣傳行爲の自由な形成と實施とを、適用されたる命令の範圍內の經濟に對して、確保せんとする點に存する。

刊行物、「經濟宣傳」　經濟宣傳委員會の報告誌にて、月二回發行。

A部、國內宣傳部

B部、國外宣傳部

C部、法律部

D部、立法部

會長、ライヒャルト（Reichard）

事務擔當者、フンケ博士（Dr. Hunke）、フォン・ブラウンミュール博士（Dr. von Braunmühl）等。

(四)　ライプツィヒ見本市

一協會の形式で、一九一六年六月二十三日に設立され、一九二一年三月四日（ザクセン法令集一九二三年版五〇頁）のザクセン經濟相の法令によつて、公法的團體に移管さる。

設立者。ライプツィヒ市自治團體（Stadtgemeinde Leipzig）。ライプツィヒ商工會議所（Industrie-und Handelskammern Leipzig）。ライプツィヒ見本市關係者中央本部。

ライプツィヒ見本市の任務は、ドイツ商品輸出額を高める特別なる目的のもとに、ライプツィヒ見本市を保護し獎勵する點にある。特に、それはあらゆるライプツィヒ見本市に關する問題に、專門機關として奉仕する事務所を持ち、この事務所はあらゆる方法によつて、特に、聰明なる宣傳活動によつて見本市を促進させ、發達させんとする。既製品（消費品、生産材料）の輸出は、外國に於ける一般的な又特別な專門宣傳によつて促進される。

刊行物、「經濟・輸出雜誌」（國外）（Wirtschafts-und Export-Zeitung）月四冊乃至二冊。

「經濟・輸出雜誌申込み用紙」（國內）（W. E. Z-Offertenblatt）。

所長、ケーレル博士（Dr. Köller）

(五)　ドイツ政治大學（登錄協會）（所在地ベルリン）

一九三三年五月に宣傳省の管轄となれる政治大學は、ナチス國家の精神に基いて、政治的智識と意志教育とを國民の諸層に普及させ、深めさせる意圖を有する。

三部門に分れる。

豫　科（プロゼミナール）一ケ年習業（二學期）
演習科（ゼミナール）　二ケ年習業（四學期）
大學科（アカデミツシユ）一ケ年半　（三學期）

附屬ゼミナール。地理政治學（Geopolitishes Seminar）

・民族問題、東方問題（Ostseminar）、ドイツ勞働奉仕ゼミナール。反マルキシズム・ゼミナール。萬國公法ゼミナール（Seminar für Völkerrecht）。經濟的資源探索研究團體（Arbeitsgemeinschaft für wirtschaftliche Raumforschung）

特別施設

ヒットラー青年指導のためのゼミナール。
突撃隊指導者及び訓育員ゼミナール。
ナチス婦人團體のためのゼミナール。

國民政治學的教育學ゼミナール（Nationalpolitische Pädagogik）。
著名政治家の特別講義。
ドイツ法の大學講座。

刊行物、"Schriftenreihe der Deutschen Hochschule für Politik"　必要により出版。

學長、マイエル

（六）ドイツ圖書館（登錄協會）（所在地ライプツィヒ）

一九一二年十月三日に、ザクセン、ライプツィヒ市、ライプツィヒに於けるドイツ書籍店取引組合間の協約によつて成立。國家から五分の二、ザクセン國から五分の二、ライプツィヒ市から二分の一の補助金を受く。

事務範圍。　ドイツ圖書館は國內及び外國のドイツ語の書籍及び國內の外國語文書の完全なる蒐集を包含する。共に、一九一三年一月一日以降のものである。ドイツ書籍の文献的開發。文献の案內。ドイツ圖書貸借に關聯する館內閲覽圖書館（Präsenzbibliothek mit Anschlusz an den deutschen Leihverkehr）。

特別部門

カード閲覧室のあるカード部

美術的印刷、事務所、及び "Die Deutsche Buchkunststiftung"

（現在　第一流の書籍技術家の印刷紙、挿繪、裝訂の蒐集、「一年間に於ける最も美しい本」の選擇）

寫眞仕事場

當分下記のものが編輯される。

一、Deutsche Nationalbibliographie

A、「書籍商の新刊書」

B、「書籍商外の新刊書」

二、Tägliches Verzeichnis der Neuerscheinungen（新刊書の日日の目錄）

三、Halbjahresverzeichnis der Neuerscheinungen des deutschen Buchhandels)

四、Deutsches Bücherverzeichnis ドイツ書籍商で出版された書籍、地圖の總括。

五、Verlagerkatalog des deutschen Schrifttums

六、Literarishes Zentralblatt für Deutschland

七、Jahresberichte des literarischen Zentralblattes（ドイツ國語の範圍に於ける最重要な科學的新刊書に關する年報）

八、Monatliches Verzeichnis der reichsdeutschen amtlichen Druckschriften（內務省の發行）

九、Deutsches Rundfunkschrifttum（ラヂオ會議所發行）

十、Das deutschsprachige Titelmaterial für die Jahresberichte für Deutsche Geschichte

十一、Das deutschsprachige Titelmaterial für die Internationale Bibliographie der Geschichtswissenschaften

十二、Neue Zeitschriften und periodische Erscheinungen

十三、Deutsche Bibliophile

十四、Deutsche Rotary=Bibliographie

館長、ウーレンダール博士（Dr. Uhlendahl）

(七)　外客誘致組合（Reichsfremdenverkehrsverband）（公法的團體）（所在地ベルリン）

一九三六年四月一日の法律（法律通報I・三四二頁）と關聯して、一九三六年三月二十六日の法律（法律通報I・二七一頁）によつて、外客を利用する團體（Gemeinde）の規則正しい理解と指導とのために設立さる。外客誘致團體（die Fremdenverkehrsgemeinde）は地方外客誘致組合（Landesfremdenverkehrsverband）即ち、地方政府の監督下に立つ民法上の結合體に總括さる。地方外客誘致組合は解體された地方交通諸組合（Landesverkehrsverband）の權利繼承者（Rechtsnachfolger）であつて、外客誘致組合を組織してゐる。

必要な資力は地方外客誘致組合間の課税により、又外客誘致團體の寄附によつて調達される。當組合の會長は宣傳省大臣によつて任命される。彼自ら地方外客誘致組合の指導者を任命する。

刊行物、"Der Fremdenverkehr" ドイツ外客誘致のための國家機關誌、毎土曜發行。

會長、エッセル

代理者、リッペルト

（八） 國ラヂオ會社（有限責任）（所在地ベルリン）

一九二五年五月十五日設立、以前獨立せる放送會社は一九三三年一月に、國放送所として、國ラヂオ有限責任會社の組織に入れられる。會社の出資は政府の掌中にある。會社の任務は、ドイツ放送事業を、政治的、藝術的、經濟的、技術的に形成することである。

當會社には次の放送經營が從屬してゐる。即ち、ドイツ國放送所、ベルリン國放送所 ドイツ短波放送所、國際交換放送、ブレスラウ國放送所、フランクフルト（マイン）放送所、及びハンブルグ、ケルン、ケーニヒスベルク、ライプツィヒ、ミュンヒェン、シュトットガルト、ザールブリュッケンの各國放送所。

事務擔當者、ハダモウスキイ（Hadamovsky）、フーブマン博士（Dr. Hubmann）、フォス（Voss）

(九) ベルリン・フィルハーモニー・オーケストラ（有限責任會社）（所在地ベルリン）

當會社は、オーケストラの會員によつて、有限責任會社として、一九〇三年十二月二十一日に設立さる。出資は一九三四年六月二十八日に政府に移管さる。

事業の目的は、オーケストラ團體を、ベルリン及び外國に於ける藝術的音樂演奏の目的にしたがつて構成することである。當會社は、音樂奬勵に、公益の立場から從事して、利益を意圖しない。

會社の機關は、事務擔當者、監査役、株主總會（Gesellschaftversammlung）である。

事務擔當者、フォン・ベンダ（Von Benda）、シュテークマン（Stegmann）

(十) 國民劇場（Theater des Volkes）（所在地ベルリン）

一九三四年一月十八日以來宣傳省の監督下に置かれる。當劇場は大ベルリン管區の「喜びによる力」團（ナチス文化團）の劇場文化奉仕のために、劇及び歌劇作品を上演する。

(十一) 西部劇場に於ける國民歌劇（Volksoper in Theater des Westens）（所在地ベルリン）

一九三五年七月二十二日以降宣傳省の監督下に置かれた當歌劇は「喜びによる力」團のベルリン管區の劇場文化奉仕のために作品の上演をする。

指導者、オルトマン（Orthmann）

第二節　クルーゲ・クルューゲルに現れた宣傳省

(Kluge=Krüger : Verfassnng und Verwaltung im Dritten Reich)

クルーゲによつて宣傳省は比較的簡單に說明されてゐる(二六一頁)。

啓蒙宣傳省

本省は一九三三年三月十三日の總統の法令によつて設立され、外務省、內務省、經濟省、食糧農業省、遞信省、交通省のこれまでの事務範圍の總ての啓蒙宣傳の任務を受け繼ぐ。

第一部　行政　總ての組織的問題を取扱ひ、三つの部門に分れる。

(A)　財政事項の報告者は、一般の經濟問題、ドイツ經濟委員會、ライプツィヒ見本市、內閣文庫を監督する。

(B)　人事部は、內閣及び內閣によつて保護されたる會社の總ての人事問題を取扱ふ。

(C)　立法部は、總ての立法行爲、契約、約定を法的に審理する。國文化院がその監督下にある。

ここで取扱はれた重要法令は次のものである。

「編輯者法」(一九三三年十月四日の發令)。この法令によつて、ドイツ編輯者の職業は、國民、國家に奉仕する公けの任務となる。

「映畫法」（一九三四年二月十六日發令）。已に國演劇顧問が任命された後で、國映畫劇顧問が制定される。

「國民象徵保護法令」（一九三三年五月十九日發令）。

「外客誘致委員會」に關する法令（一九三三年六月二十三日發令）。この法令によつて全ドイツ外客誘致制度及び誘致宣傳は新原則の上に置かれた。これには參加各省と地方代表者の外に、國競技指導者及び交通擔當者の代表が屬する。以前の地方交通團體の代りに、一九三六年三月二十六日の法律によつて、國外客誘致團體が現はれた。これは地方外客誘致團體に分れ、外客誘致組合の寄附によつて經營される。委員會の資金は國家及び外客往來擔當者によつて調達される。內閣統計局はドイツの外客往來に關する規則的な統計を作らねばならぬ。（一九三六年四月二十七日の法令）（法律通報Ⅰ・四〇四頁）。

「外國映畫の上映に關する法令」（一九三二年六月二十三日發令）（法律通報Ⅰ・三九三頁）。

「音樂上演權仲介に關する法令」（一九三三年六月四日發令）（法律通報Ⅰ・四五二頁）。これは、音樂上演權の販路の領域に於ける混亂狀態を停止させ、ドイツ作曲家に物質的安定を與へた。

「暫定的映畫院設立に關する法令」（一九三三年六月四日發令）これは、國文化院設立の下準備をなした。

第二部　宣傳　ドイツ國民の國民的祭典日の設定、冬期救援事業の組織、「母子」運動の宣傳等の如き實際的宣傳の全任務を包括する。又宣傳的性質のものである限り、勞働奉仕の問題、共產黨及びその反動の宣傳的克服、外客誘致の宣傳及び一九三六年のオリンピック競技の準備等はこれに屬

する。

第三部　ラヂオ　この部は、全ドイツの放送局に對して責任を持ち、殊に政治的集會及び演說の仲繼に對して責任を持つ。又國ラヂオ會社、及びテレヴィジョン形成を監督する。黨大會日、大管區日、その他の大示威運動の時、必要なラヂオ施設の準備をなし、又四月一日に戶外に於けるラウドスピーカーの設備をした。ラヂオの技術的改良を行つて　その文化的水準を支持する。

一九三七年三月に、ドイツラヂオの國監督者が置かれた。彼は同時に、ラヂオ會社の總支配人であり、この手段は、ドイツラヂオが急激に勃興（一九三三年から、一九三七年までに、ラヂオ加入者の數は四百三十萬七千人から八百四十八萬三千人に增加した）し、これに關聯して放送、經濟、技術の領域に於ける全事務が增加した結果、避け難いことであつた。

第四部　新聞　この部は、同時に政府の新聞部で、故にその指導者は同時に國新聞部部長代理である。報道制度の總てはここで編輯される。三部に分れて、「國內新聞部」は、內政、ドイツ新聞に關係する總ての問題を取扱ふ。每日の新聞會議では、各省からの公報がドイツ新聞に傳へられ、又各省は反對にドイツ新聞の輿論に就いて指導を受ける。かくて、新聞と政府との間の必要な接觸が維持されてゐる。

「外國新聞部」は全世界の新聞に眼を通して、これに就いて、關係ある國家局及びドイツに活動する外國新聞代表者に教示する。かくて多くの虚僞の報道は改められたり、防止されたりする。「無線業務部」はドイツ放送局に、毎日の、實際の新聞報道を與へる。最も新しい手段により活動する報道網によつて、總てのドイツ放送所及び報道所と直接の關係に立つてゐる。

第五部　映畫　この部は、ドイツ映畫製作が眞に獨逸的な本質を反響し、又本當に善き映畫が必要な奬勵を受けるやうに顧慮する。五千の大管區映畫監督所(ガウ・フィルムシュテレ)、地域映畫監督所(クライス・フィルムシュテレ)、地區集團映畫監督所(オルツグルッペン・フィルムシュテレ)がこの部の配下にある。地域映畫監督所は組織的中心をなして、映畫劇場及び映畫組織との關係を保持する。映畫上演の認可はフィルム檢閲所が決定して、苦情に對しては上級映畫檢閲所が決定を下す。

第六部　劇場　この部は劇場制度方面における同様な仕事を行ふので、その制度は一九三四年五月十五日の「劇場法」(法律通報I・四一一頁)及び一九三四年五月十八日の施行令によつて、その全部が宣傳省の管轄の下に置かれた。特にここでは國の五劇場(ドイツオペラ劇場、ドイツ劇場、國民劇場(ナアーテル・デス・フォルクス)、國民舞臺(フォルクスビューネ)及びヴィースバーデンのドイツ劇場)が監督される。

第七部　外國　この部は外國の殘虐宣傳を克服する。このやうな報道は直に追究され、眞相が究

明され訂正を加へる。

第八部　著作物　國内國外に於けるドイツ圖書の保護を任務とする。ドイツ圖書宣傳のための國研究團體及びライプツィヒのドイツ文庫を監督する。

國文書局（Reichsschrifttumsstelle）も又その管轄下にあつて、これはドイツ圖書のための實際的宣傳を行つたり、出版者、著述家に助言を與へたり、國民文學及び占星圖書のための勞働團體相談所を監督する。

第九部　造形藝術　は國内外の造形藝術、殊に展覽會を奬勵する。藝術的形成のための國委員がこの下に立つ。

第十部　音樂　は國内の音樂演奏を奬勵する。ベルリン・フィルハーモニー有限責任會社はこれに從屬し、持株は政府の手にある。

第十一部　國民文化勞作　この部は一九三七年三月に、第三部のラヂオ部から分れた。その指導者は同時にナチス團體の「喜びによる力」團の職務上の指導者で、これによつて、「ＤＡＦ」（ドイツ勞働戰線）の國民文化部との協力を獲得する。

×　×　×　×

更に、本省には、外客誘致委員會、國外客誘致團體及び一九三三年九月十二日の法令により設立され、全ドイツの公私の廣告制度を統率する「ドイツ經濟宣傳委員會」等の如き多數の組織が從屬してゐる。その外にも、

「國文化院」がある（第三章參照）。

「ドイツ新聞全國組合」　これは公法上の團體で、各ドイツの主筆は、職業名簿に登錄されることによつて本組合に所屬し、又國文化院及び國新聞院內の所屬專門組合に加はる。二十の地方組合に分れ、職業名簿への登錄及び取消しに就いて決裁し、又編輯の社會的事項及び後繼者の獎勵のために盡力する。

「ドイツ政治大學」（ベルリン）

二學期或は四學期の課程で、後繼者を教育する。地理政治學、民族問題、東方問題、勞働奉仕、國際法、經濟資源研究、反マルキシズムのための特別研究科があり、又ヒットラー・ユーゲント・突擊隊及び訓練報告者、ナチス婦人團體、國民政治教育學等のための研究科がある。

又一九三七年一月三十日の法令（法律通報I・三〇五頁）の實行が本省に委ねられてゐる。この法令と云ふのは「藝術、科學のためのドイツ國民賞」の制定で、これによつて、一九三六年ノーベル賞贈與

に關聯せる如き恥辱的な出來事を斷然避けるために、將來ドイツ國民にノーベル賞受領を禁じた。國民賞は年々三人の功績あるドイツ人に、夫々十萬ライヒスマルクの金額で、ナチス黨の大會當日壯麗な儀式を行つて與へられる。(以下省略)

大體以上がクルーゲに現れた宣傳省であるが、年鑑の說明と多少相違する點もあり、比較の上研究されたい。

第四章　國文化院 (Reichskulturkammer)

(一) 國文化院の使命

「國家は文化を創造することが出來ない。――國家は單に、文化を創造する民族に役立ち、それを保護し得るに過ぎない。」(我が鬪爭)

國文化院は直接の宣傳機關ではないが、ナチス・ドイツの本質を、その文化的內容の側面から裏附けようとする限り、文化院が廣義に解したナチス宣傳に對して受け持つ役割は決して僅少のものではないと思ふ。ナチス・ドイツは、國民をナチス文化の立場に立つて指導しようとところみてゐ

る。しかも、それはドイツの全精神分野に亙つてをり、いはゞ文化は民族的團結を一層强固にする漆喰であつて、尙且つかくあらせたいとの意圖の下に文化の統制が行はれてゐると觀察すべきであらう。實質的、内容文化の眞の基礎附けがないところに、本當の國家は生じないものと云ふべきで、ヒットラーは夙にこの點に着眼してゐた。けれども、「文化を上部から創造することはナチス國家の意圖ではなく、文化は國民の中から成長するものである。啓蒙時代の時から總ての古い國家觀念によると、文化は個人のことゝして、國家と對立させてゐたのであるが、ナチスにとつて、文化は國民の問題であつて、國家の任務は文化の領域において、有害な諸力を克服し、價値あるものを促進させ、しかも、國民共同體に對する責任觀念の規準に從つてこれをしようとするものである。この意味で、文化の創造は個人的で自由であるが、ドイツの文化政策を行ふためには、全領域の文化創造者を國家指導のもとに、統一的な意志形成に總括することが必要である。これは階級的構成によつて行はれる」(Reichsanzeiger Nr. 225)のである。

　このやうなナチス當局者の言葉によつて解るやうに、狹義の宣傳から、文化一般の中に國家的の意志の表現を求めようとする廣義の文化宣傳に對し、國文化院の持つ意味は大きいといはなければならない。

國文化院は一九三三年九月二十二日の法令によつて制定され（（三）參照）、更に、その細目に就いて、十一月十一日に國文化院施行令が發令されてゐるが、後者の第五條によつて、こゝで意味する「文化」とは、

イ、一般に公開される、あらゆる藝術の創造及び藝術行爲。

ロ、印刷、映畫、ラヂオにより公衆に傳達される、その他のあらゆる精神的創造及び行爲。

であることが解る。又同じく第三條を見ると、國文化院の使命は「國民啓蒙宣傳大臣の指導の下に各種活動部門の總ての所屬者の協力によつて、國民及び國家の爲にドイツ文化を促進させ、文化職業の經濟的及び社會的事務を整頓し、該所屬團體の總ての努力の間に一の均衡を誘起すること」にありとされてゐる。更に又ゲッベルスは國文化院の各分院の總裁の會合の席上で次のやうに述べてゐる。

「國家社會主義國家は原則として、藝術は自由である。隨つて直感を組織によつて置き換へる如き企てはなされてはならぬといふ觀點を維持しなければならぬ。本來の藝術は最大可能なる發展の自由を與へられる時にのみ榮えることが出來る。藝術或は文明一般を固着した制限内に閉ぢこめることが出來ると考へる人々は、藝術と文明に對して罪を犯してゐるのである。私が『藝術は自由である』と云ふ時、私は他方において、藝術における絕對的に無政府的傾向が自由なるはけ口を與へら

るべきだ、といふ意見を綺麗に拂ひのけたいと思ふ。藝術がそれ自身の進化法則の中でいかに自由であらねばならず、又あり得るといつても、それは自分が密接に國民生活の基本法に結びついてゐることを感じなければならぬ。藝術と文明は國家といふ母なる大地に植ゑこまれてゐる。隨つてこれは永遠に、國家の道德的、社會的、民族的原則に依存する。」

この言葉は明確に國文化院の藝術及び藝術家に對する關係を規定したものであつて、國文化院の機能の中で特に注目すべき特徴は、ナチスは藝術における自由を抹殺してゐるのでなくて寧ろ保證――少くとも表面的には――してゐるといふことである。只こゝでナチス當局者にとつて將來の問題を殘す點は、個人の創意によつて自由に發生する文化的意志と、これに加へられる國家權力による統制的意志との間には、往々矛盾が生ずることがあるので、自由に基く文化の生產者に徒らに所謂統制が加へられる場合、個人の文化の芽生えが萎縮するばかりでなく、やがては文化全般が窒息するのではないかとの懸念である。この點に就いて、國文化院顧問カルル・フリードリヒ・シュライベル博士の言ふやうに、「小麥から毒麥を取り離し、適するものと適さぬものとの區別を決すること」や、「健全なものと一時的のものとを決定し、血と精神によつてドイツ的なものを外國的なものと切り離す」ことがゲッベルスの云ふやうに容易に實行されるものかどうか、今後ナチスに與へられた新

しい課題であると云はなければならない。一定の世界觀を内部に包んでゐなければならぬといふ點において、ナチスの自由の概念は民族主義に基くドイツ的自由とも呼稱すべきものであらう。

けれども、このやうなことを論評するのは趣旨でないから、更に一歩を進めて、國文化院の活動狀況を見るに、國文化院の設立は單に文化といふ形而上的な領域を支配する思想的取締の機關ではないことで、そのことは藝術家に對する身分的、職能的保障制度の規定からも窺はれる　それは藝術的實踐の社會的構成であり、また文化財の保護機關である。それに就いて、一九三三年十月十五日の國文化院開院式の際に、ゲッベルスは次のやうに述べて、國文化院の創造的な使命を强調してゐる。

「われわれは總ての領域におけるドイツ藝術と文化の善き保護者であることを希望する。ドイツ國民を苦しめる飢餓は、單に胃の腑の問題だけではない。精神の飢餓も亦鎭靜されなければならない。あらゆる正當な革新は、われわれの文化的狀態と精神的創造の新形態の上にまで延長されなければならない。われわれはドイツ國民の創造力を再び開放した。それは障害なく發展して、更生した國民性の樹木の上に豐饒な果實を結ぶものである。それこそドイツ文化院の意義に外ならない。文化院は、あらゆる創作家の綜合を、一つの思想文化統一に結成するものである。ドイツ藝術家は、その

庇護を受けて、物質的存在の價値を創造すると同様に、藝術家が國家において缺くことのできないものであるといふ感情に立ち歸へらねばならぬ。新設の文化院は近代的とか反動的とかいふ既成の概念を超越してゐる。その仕事は、藝術的無能を近代的といふ假面に包んだ見かけ倒しの偉人主義を嫌惡すると同時に靑年とその健全な力の進路を妨害する所謂反動的退歩を嫌惡する。ドイツの藝術は新鮮な血液を要求する。今われわれは若い時代に生活してゐる。その擔ひ手も若い。そして、それに充滿する理念も若い。われわれは最早過ぎ去つた過去から求むべき何物もない。この時代に意志を表示しようとする藝術も亦、若い感動をもつて新しく構成されなければならない。」

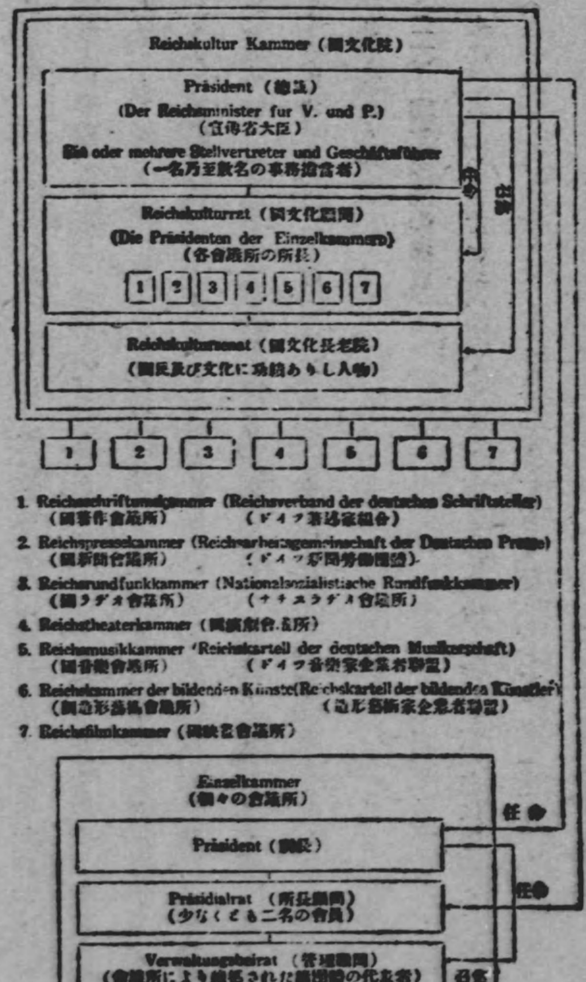
彼の提言は設立の時から今日まで着々と實踐されてゐるやうである。それゆゑに、これは多少ナチス最負かも知れないが、ナチスの文化統制を稍もすればわれわれ外國人は窮屈な杓子定規と考へ勝ちであるが、實は單なる彈壓の域を越えて、もつと高所に立つて、民族的理念の下にこれを指導し、保護し、守り育てようとしてゐるナチス當局者の意圖を全然度外視するわけには行かない。例へばドイツでは劇場なども公營、乃至半官半民のものが多く、國家の補助が與へられてゐるのなどはそれで、他國にあつて、藝術が自由放任される時に一種の商業主義が跋扈して、藝術文化の質を低下させることがあるのに反して、ドイツは藝術の統制によつて、觀客を指導し、教育し、より以

上高きものへ引き上げようと努力してゐる。又藝術家に社會的な身分保障や職能的な保護が與へられてゐるのもやはりこの理念から出てゐるので、文化員の所屬員は皆、一九三四年二月十二日の布告で「獨逸勞働戰線」の一員に編入されたのである。前に述べた一九三三年十一月一日の文化院施行令第一命令の第三條のやうに、文化院は藝術團體相互の調節を計つたり、藝術業者の經濟上、社會上の問題を規定し、又所屬員の協力によつて、ドイツ文化を促進させたりする任務を帶びてゐるばかりでなく、更に第十二條の規定のやうに、ドイツ長者院（Reichskultursenat）を設置、國民と文化に貢獻のあつた人々をこゝに召集するといふやうな藝術家に對する優遇方法も講じてゐることを思へば　ナチスの文化統制は文化構成であり、藝術の保護であつて、單なる破壞や彈壓を目的とするものでないことは窺はれるが、文化院はこの理想の實現に向つて邁進してゐるものと云ふべきであらう。

（二）國文化院の構成

次に、以上の主旨を持つ國文化院が、どんな構成を持つか、左に圖示してみよう。

(Gehl : Die Jahre I—IV des nationalsozialistischen Staates S. 180)



右の圖と次項(三)の說明によつて明かのやうに、各會議所は、その下に各職業別に組織されてゐる組合と團體とを持つてゐる。したがつて、文化的創造に從事するものは、皆この組織を通じて直接的には職業組合員乃至職業團體員となり、間接的には文化院の會員となるわけで、現存ナチスド

イツで文化的創造に從事してゐるものは、この何れかの會議所に所屬することになつてゐる。さうして、入會を決定するのは各會議所の所長であつて、各會員は會費を支拂ふ義務がある。(文化院法第二十四條)

國文化院の構成を、國新聞會議所に例をとつて考へれば、——他の會議所も大體この新聞會議所と同じ構成を持つものと考へられるが、——十三の全國的な專門組合のグループ(次項(c)參照)に分割され、これは更に地方的に再分割されて、例へば「ドイツ新聞發行者組合」は十六、「ドイツ雜誌出版者組合」は十四、「カトリック教會新聞組合」は二十六の小團體を持つてゐる。

ブレーディ(Robert A. Brady)氏は新聞會議所の特色に就いて、批判してゐるが、その主要な點だけを述べてみると、第一にナチスの統制は主として、販路、即ち新聞記者、著述家或は著作家の組合を通じてではなく、出版者、ブローカー、雜誌、小賣商などを通じて行はれてゐることで、即ち、著述家や作家の統制はこの出版物を販賣して利益を得る商人の掌中に收められてゐると云へる。換言すれば、この方法によると、この分野の編輯者や出版業者が適、不適を決定するわけで、商人が「小麥から毒麥」を選り分けたり、「國民の魂」を解譯したり、著述家に「共同體に對する責任を持たせ」たりすることになる。

次に第二の特色は國文化院が自治團體であるといふことで、「個人の發意」("Private initiative")と「競爭」の原則と「加入條件を規定する權利」等が與へられてをり、「競爭」とは觀點の相違を爭ふ意味ではなく、商業上の利益のための競爭である。又會員の試驗に關しても本會議所は權力を持ち、信賴出來る人物といふことが、一定の基準で明瞭になつてゐるやうな人達だけが、加入を許されるので、「若しその人物がその仕事を行ふのに必要な適性と信賴性とを持たないことが判明すれば、國新聞會議所は隨意にその會員の入會を拒んだり、或は放逐することが出來る。」(文化院法第十條)その結果このやうな人物は新聞界でこれ以上活動する權利を失ふことになる。

第三の注目すべき特色として、國文化院の規定は自由を抹殺するものでなく、寧ろ保證するといふ點で、これは普通に意味する自由ではなく、例へば、ナチスの理念に反することとさへなければ、金を儲けるやうな商行爲は無制限に認められてゐるといふことである。新聞法は次のやうな規定を出してゐる。

(1)　新聞の指導觀念を展開し、ナチス國內で行ふべき仕事を新聞に示さねばならぬ。即ち、指導の觀念とは、新聞は國民敎育の手段として、國家と國民に奉仕する指導の用具であるとのことである。

(2) 新聞勞力の方法を明確にする。指導方法とは國營の新聞設立のことではなく、一定の條件の下に自由で自發的な協力を行ひ、新聞の指導的觀念の意味で、その仕事の遂行を保證し、又豐かな活動の自由の餘地を保證する。

(3) 管理の新形式を發見し、これによつて新聞を爭鬪的仲介物に變へ、指導性を國家の手に委ね、且つかくて、新聞界に活動するものを敎育して爭鬪隊の一員とし、又かくて、彼等を指導者の意志への訓練ある服從において目的を意識した密集部隊に活躍させる。

大體以上のやうな特色に就いてブレーディは述べてゐるが、この他に、國文化院の組織を見るに指導者原則がこゝでも特に目立つてゐる。總裁も副總裁も、又彼を通じて、各會議所の會員も、宣傳省大臣ゲッペルスに任命され、直接彼に責任を執る。彼等は自分の職務の成績と、各自が擔當する事務、職業上の仕事に對して、ゲッペルスに責任を負ひ、一方ゲッペルスは何時如何なる理由によつても、適當な時に罷免したり、却下したりする權利を持つてゐる。

尙其の他國文化院の任務は、十一月一日附の施行令第二十五條から第三十條に亘つて規定されてゐるが、「國文化院は所屬の領域内の事業の經營、開催、閉鎖の諸條件を決定し、この領域内の重要な問題、特に、その包括する各種活動部門の間の契約の種類、構成に關し指令を出すことが出來る」

（第二十五條）ばかりでなく、第二十八條の規定が示すやうに、「各會議所の所長は、

(1) 四條の規定に反し、會議所の所屬員に非ずして、この會議所の包括せる職務の一つを行へる者。

(2) 會議所の一員にして、或は同業組合におけるその責任に拘らず、會議所の命令に違反せる者。

(3) 會議所の一員にして、同業組合における責任に拘らず、會議所に虛僞の陳述をなせる者。

に對して秩序罪を決定することが出來」更に、第二十九條は「警察官廳は要求により、本令第四條並びに第二十五條に基き國文化院又は各會議所の發する命令を執行すべき義務を有す。裁判所及び行政官廳は國文化院及び各會議所に對し法律補助及び行政補助を與ふべし」と規定して、國文化院の自主的な運用を承認してゐる點は特に注目しなければならない。

このやうに國文化院の活動範圍は廣いのであるが、その一例を新聞記者に取つて考へると、新聞會議所の規定によつて、試驗を受け、合格者は會議所より新聞記者章を下附され、宣傳省の新聞記者名簿に登錄される。さうして更に彼は新聞記者組合に加入して、新聞記者の資格を得てから、一定の新聞社と雇傭の契約を結ぶ。このときに一九三三年十月四日發令の「新聞記者法」（Schriftleiter-gesetz）が適用されるのであるが、ユダヤ人やナナス反對者が除外されるのは勿論で、更に次のや

うな人達は除外されてゐる。（新聞記者法第十四條）

(1) 公衆を混亂させる方法で、個人的目的と共同的目的とを混同せるもの。

(2) 國內或は國外のドイツ國民の力、ドイツ民族の共同意志、ドイツの軍事、文化或は經濟を弱める者、或は他人の宗教的敏感性を害するもの。

(3) ドイツ人の名譽と價値を損ふもの。

(4) 法によらずして他人の名譽或は繁榮を損ひ、その職業を害し、侮蔑を加へるもの。

(5) 以上の外の如何なる理由によるも習俗に反對するもの。

以上は新聞會議所の構成、機能の一例で、他の會議所も同樣ナチズムの理念の上から、かなり苛酷に統制が行はれてゐるのは事實であるが、われわれが想像するやうに窮屈ではないらしく、上からの單なる抑壓ではなくて、寧ろ下からの組織であり、保護であり、向上への導きを目指してゐるのが見られ、その點各會議所は國家から强大な權力を附與された自治組合組織であると云へる。けれどもこの點については改めて詳言する機會があるであらう。

(三)「ドイツ年鑑」に見る國文化院の組織

最後に、國文化院の組織を、"Handbuch für das Deutsche Reich."(1936) から抄譯して說明を加

へてみよう。

國文化院は、一九三三年九月二十二日の國文化院法（法律通報I・六六一頁）によつて、ドイツの公法的團體として設立さる。七つの會議所（公法的團體）から成り、會議所は夫々の部門の專門團體から組織されてゐる。

國文化院の任務は、文化の創造者を總括し、有機的に組織し、かくて、已存の、或は生育する文化財を國民の利益になるやうに管理することにある。

文化院は三十一の管區に分れ、それ等は、地方文化管理者（Landeskulturwalter）の指導の下にある。地方文化管理者の任務は、宣傳省の地方局指導者（Landesstellenleitern）によつて兼任される。

國文化院には、國文化長老院（Reichskultursenat）が設立され、これはドイツ文化生活の第一流級の人物を包含する。

總裁　ゲッベルス博士

次官　フンク

國文化管理者（Reichskulturwalter）シュミット・レオンヘルト博士、モラレル、ヒンケル

國文化長老院（Reichskultursenat）

本院は一九三五年十一月十五日の國文化院總裁の訓令により制定さる。（一九三三年十一月一日の國文化院法第一施行令第十二條、法律通報I・七九七頁を比較せよ）本院はドイツの文化生活の最大にして代表的な審判所で、總裁及び國民に對して、國民の文化的生活の計畫的發展に對する最後の責任をとる。これは議事堂の設立まで・宣傳省の王座の間（Thronsaal）で會議を開く。

國文化院總裁によつて、國文化長老院には次の人々が任命される。

一、國文化院から、

フンク（Walther Funk）、シュミット・レオンハルト博士（Dr. Schmidt-Leonhardt）、モラレル(Franz Moraller)、ハンス・ヒンケル（Hans Hinkel）

二、國音樂會議所から、

ラーベ（Peter Raabe）、グレーナー博士（Dr. Paul Graener）、イーレルト（Heinz Jhlert）、シュタイン博士（Dr. Fritz Stein）、ザンデル（Horst Sander）、アダム（Franz Adam）、ミュラー・ヨーン（Hermann Müller-John）、クレープス（Krebs）、シュタンゲ（Hermann Stange）、バックハウス（Wilhelm Backhaus）、フルトヴェングレル（Dr. Wilhelm Furtwängler）、フイツネル（Hans Pfitzner）、クレメンス・クラウス(Clemens-Krauss)、シューマン（Georg Schumann）、シュルスヌス（Heinrich Schlusnus）。

三、造形藝術會議所から、

ヘーニッヒ（Eugen Hönig）、ホッフマン（Walter-Hoffmann）、ツイグラー（Adolf Ziegler）、シュベイツェル（Hans Schweitzer）（以下十一名）。

四、國演劇會議所から、

シュレッセル（Dr. Schlösser）、クレッフェル（(Eugen Klöpfer）（以下十三名）。

五、國著作會議所から、

ヨースト（Hanns Johst）、ヴィスマン（Dr. Wismann）（以下十六名）。

六、國新聞會議所から、

アーマン（Max Amann）、ディートリッヒ（Dr. Otto Dietrich）（以下十五名）。

七、國ラヂオ會議所から、

ドレスレル（Dressler）、ヘダモフスキイ（Eugen Hadamovsky）（以下十三名）。

八、國映畫會議所から、

レーニッヒ博士（Dr. Lehnich）、ヴァイデマン（Weidemann）（以下十三名）。

九、一九三六年四月四日、總裁により、更に任命されし者は、

ルスト（Rust）、ヒールル（Hierl）、ライ博士（Dr. Ley）、ボウレル（Bouhler）、ルッツエ（Lutze）、ヒムラー（Himmler）、フォン・シラッヘ（von Schirach）。

(a) 國音樂會議所

本會議は全ドイツの音樂文化の中心的組織である。それは中心であり、同時に先端でなければならない。その任務は、國民性に深く根差し、且國民的表現形態を表現することを最高の業績とするが如きドイツ音樂に、新しい道を開拓することである。

本會議所は三十一の管區に分れ、管區は地方指導者によつて指導される。

所長、ラーベ（Dr. Peter Raabe）

副所長、グレーネル（(Dr. Paul Graener)

管理顧問（Präsidialrat）

ラーベ、グレーネル、イーレルト(Heinz Ihlert)、カイゼル（Fritz Kaiser)、ザンデル（Horst Sander）（以下五名）

事務擔當者、イーレルト

代理事務擔當者、クルト・カラッシ（Kurt Karrasch）

國音樂家專門家組合（Reichsfachschaft Komponisten）

指導者、グレーネル（Dr. Graener）

國音樂家組合（Reichsmusikerschaft）

指導者、ラーベ（Dr. Peter Raabe）

國音樂會制度專門組合（Reichschaft Konzertwesen）

指導者、クレブス博士（Dr. Krebs）

合唱組織及び國民音樂專門組合（Reichsfachschaft Chorwesen und Volksmusik）

指導者、シュタイン博士（Dr. Fritz Stein）

國樂譜出版者專門組合（Reichsfachschaft Muikalienverleger）

指導者、ホルスト・ザンデル（Horst Sander）

國樂譜商組合（Reichsfachschaft Musikalienhändler）

指導者、フィシャー（Walther Fischer）

(b)　國造形藝術會議所（Reichskammer der bildenden Künste）

本會議所は、造形藝術の領域におけるドイツ文化を、國民及び國家に對する責任から奬勵し、これに所屬する諸團體の努力の間に、均衡を齎す任務を有する。特にこれに屬する仕事は、ドイツ文化財の生產、飜譯、製作、普及を、その都度、藝術的、經濟的必要狀態に適應される職業保護令によつて統制することである。

所長、ホェーニッヒ（Eugen Hönig）

副所長、ツィーグレル（Adolf Ziegler）

管理顧問、ホューニツヒ、ツィーグレル、ホッフマン（Walter-Hoffmann）（以下八名）

職業團體

建築家組合（Fachgruppe Architekten）

造園家組合（Fachgruppe Gartengestalter）

室內裝飾家組合（Fachgruppe Innenraumgestalter）

畫家、版畫家組合（Fachgruppe Maler und Graphiker）

彫刻家組合（Fachgruppe Bildhauer）

實用版畫家組合（Fachgruppe Gebrauchsgraphiker）

圖案家組合（Fachgruppe Musterzeichner）

美術品、骨董品組合（Fachgruppe Kunst-und Antiquitätenhändler）

美術出版店組合（Fachgruppe Kunstverleger）

美術競賣人組合（Fachgruppe Kunstversteigerer）

造形藝術造營物組合（Fachgruppe Anstalten der bildenden Künste）

藝術、藝術家、工藝協會組合（Fachgruppe Kunst-, Künstler-und kunstgewerbliche Vereine）

(c)　國演劇會議所（Reichstheaterkammer）

本會議所は、劇場、ヴァリエテ、ダンス制度の範圍内における職能的綜合組織を代表する。その事務範圍に屬する團體や、聯合の分類に就いて決定する。更に本會議所は、長期間に亙る一般に公開する劇場興行の催しに對して許可の權限がある。

時々の劇場興行の許可の決定は、當分まだ國演劇會議所の地方局と協力して、下級監督廳の義務である。

所長、シュレッセル（Dr. Rainer Schlösser）

副所長オイゲン・クレップフェル（Eugen Klöpfer）

管理顧問、シュレッセル（前出）、クレップフェル（前出）、フラウエンフェルト（Alfred Frauenfeld）（以下八名）

事務擔當者、フラウエンフェルト（前出）

職業組合

ダンス教師統一組合（Einheitsverband der Tanzlehrer e. V.）

脚本出版者協會（Vereinigung der Bühnenverleger e. V.）

藝人組合（Reichsfachschaft Artistik）

見せ物師組合（Reichsfachschnft Schausteller）

團體會員（Korporative Mitglieder）

クララ・ツィーグレル財團（Klara-Zieglerstiftung）（ミュンヒェン）

ドイツ戸外劇、國民劇同盟（Reichsbund der deutschen Freilicht-und Volksschauspiele）

青年劇場（Theater der Jugend）

演劇案內有限責任會社（Bühnenachweis G. m. b. H.）

ドイツ演劇、同權職業紹介有限責任會社（Paritätischer Stellennachweis der deutschen Bühnen G.m.b.H.）

ドイツ演劇救護所（Versorgungsanstalt der deutschen Bühnen）（ミュンヒェン）

ドイツ藝術家友交會（Kameradschaft der Deutschen Künsler e.V.）（ベルリン）

ケルン大學演劇科學研究所（演劇博物館）（Institut für Theaterwissenschaft an der Universität Köln）（Theatermuseum）（ケルン）

ドイツ演劇藝術助成聯合（Verein zur Förderung Gotheanischer Bühnenkunst e. V.）

(d)　國著作會議所

本會議所は、創造家として、或は出版者、書籍商、貸本商、或はその他ドイツ書籍の生產、普及、保護の仲介者として、活動する總ての者に對する恒久的組織である。

その任務は、その下に從屬する職業種類の恒久的整備、ドイツ書の奬勵、保護、清淨である。

所長、ハンス・ヨースト（前出）

副所長、ハインス・ヴィスマン（Dr. Heins Wismann）

長老所長（Altpräsident）、ブルンク（Blunk）

管理顧問、ハンス・ヨースト（前出）、バウル（Wilhelm Baur）、ヴィスマン（Dr. Wissmann）（以下九名）

事務擔當者、當分未定　代理擔當者、ハインル博士（Dr. Heinl）

專門團體

ドイツ書籍商組合（Bund Reichsdeutscher Buchhändler）

（ベルリン）指導者、バウル（前出）

ドイツ國民圖書掛團體（Verband Deutscher Volksbibliothekare e. V.）

（ベルリン）指導者、シュステル博士（Dr. Schuster）

住所錄、廣告錄出版業組合（Reichsverband des Adressbuch-und Anzeigenbuchverlaggewerbes）

（ベルリン）指導者、シュミット

(e)　國新聞會議所

本會議所は、ドイツ新聞の恒久的綜合機關である。ドイツ新聞社は、ドイツの文化事業の全範圍に亙つて、國民を、國民共同體及び國家に對して國家的に教育する任務を有する。新聞の箇別的な

政治的影響が、此の會議所の任務ではない。それは寧ろ專ら宣傳省の事務領域である。新聞界の活動の全般的、個人的豫想の保證には、一九三三年十月四日の新聞編輯者法（法律通報I・七一三頁）及びドイツ新聞組合がある。

管轄構成上、國新聞會議所は、專門組合及び專門團體で行はれる豫備行爲及び管理行爲を指導的に總括する。瑣末の仕事の重點は、それ故に、その專門領域に所屬する團體及びその分派團體に存する。

所長、アーマン（Max Amann）

副所長、ディートリッヒ（Dr. Dietrich）

管理顧問、アーマン（前出）、ビショッフ（Bischoff）（出版書店主）、ヘイデ（Dr. Heide）（以下十名）

事務擔當者、リヒテル博士（Dr. Richter）

專門團體

ドイツ新聞發行者組合（Reichsverband der Deutschen Zeitungsverleger）指導者、ブリンクマン（Brinkmann）

ドイツ雜誌出版者組合（Reichsverband der Deutschen Zeitschriftenverleger）指導者、ビショッフ（前出）

ドイツ報告通信社組合（Reichsverband der Deutschen Korrespondenz- und Nachrichtenbüro）（ベルリン）指導者、アルブレヒト博士（Dr. Albrecht）

新教新聞組合（Reichsverband der evangelischen Presse）（ベルリン）指導者、ヒンデレル（Hinderer）

カトリック教會新聞組合（Fachschaft der katholischkirchlichen Presse）（ベルリン）指導者、アドルフ（Adolf）

ラヂオ新聞組合（Fachverband der Rundfunkpresse）（ベルリン）指導者、フランケ

宣傳雜誌商組合（Reichsverband für den werbenden Zeitschriftenhandel）（ベルリン）指導者、シュテュルツェル（Stürzel）

ドイツ新聞雜誌卸商組合（Verband Deutscher Zeitungs-und Zeitschriften-Grossisten）指導者、シュナイデルハインツェ（Schneiderheinze）（以下全部ベルリン所在）

ドイツ新聞雜誌小賣商組合（Reichsfachschaft des deutschen Zeitungs-und Zeitschriften-Einzelhandels）指導者、シュタインホイゼル（Steinhäuser）

ドイツ驛賣書籍賣店組合（Reichsverband deutscher Bahnhofsbuchhändler）指導者、ヴスト（Wust）

ドイツ新聞組合（Reichsverband der deutschen Presse）指導者、ヴァイス（Weiss）

ドイツ新聞速記者組合（Reichsverband Deutscher Pressestenographen）指導者、ヴェンドリッヒ（Wendrich）

出版社從業員組合（Fachschaft der Verlagsangestellten）指導者、コルテイ（Korthy）

(f)　國ラヂオ會議所（所在地ベルリン）

この會議所は、他の會議所の如く、文化範圍における個々の職業階級を保護するのではなくて、

その主な任務は、ラヂオの錯綜せる問題を、放送的、技術的、經濟的に、統一的一線に調整することである。

專門組合、專門團體は、此の會議所には存在しない。ラヂオ會議所は、今日に至るまで未だ管區に分岐を持つてゐない。管區には、ナチス黨のラヂオ機械が政治的の活動をする。ナチス黨の管區ラヂオ監督が、時々會議所の受託者として招致される。

所長、ドレスレル（Horst Dressler）

副所長、ヘダモウスキー（Hadamovsky）

管理顧問、ドレスレル（前出）、ヘダモウスキー（前出）、ボイメルブルグ（Beumelburg）（以下九名）

事務擔當者、パッケブッシュ（Packebusch）

(g) 國映畫會議所

一九三三年七月十四日の暫定的映畫會議所設立令の第二條（法律通報I・四八三頁）によれば、本會議所は、全經濟の範圍內に於けるドイツ映畫業を奬勵し、斯業の個々の團體の重要さを各團體間及び國家、諸國、自治體に對して代表し、又利益の正當なる均衡を誘致せんとする任務を有する。

所長、レーニッヒ博士（Dr. Lehnich）

副所長、ヴァイデマン（Weidemann）

管理顧問、レーニッヒ（前出）、ヴァイデマン、ベリッツ博士（Dr. Belitz）（以下八名）

團體會員

ブロイズィング音響方式會社（(Breusing Tonsystem G.m.b.H.）（ベルリン）

オイゲン・バイエル實驗室（Laboratorium Eugen Beyer）

リュートケ・ローシュタイン會社（（Lü'tke, Dr. Rohstein & Co.）

トビアス音響映畫企業組合株式會社（Tobias Tonbild-Syndikat a. G.）

音響映畫有限責任會社（Klangfilm G.m.b.H.）

リグノーゼ音響映畫ブロイズィング株式會社（Lignose Hörfilm System Breusing）

フリース映畫、音響器具株式會社（Fries Akt.-Ges. für Film und Tongeräte）

ゲー・ローレンツ株式會社（G. Lorenz Akt.-Ges.）

× × × ×

諸機關及び諸設立物

同權映畫紹介（Paritätischer Filmnachweis）

フィルム配給所（Film-Kontingentstelle）

映畫信用銀行有限責任會社（Filmkreditbank G.m.b.H.）
國フィルム文庫（Reichsfilmarchiv）
國映畫顧問事務所（Büro des Reichsfilmdramaturgen）

第五章　黨內部の宣傳組織

ヒットラーはその自傳の中で、「宣傳が行ふべき仕事は、この理念の信奉者を獲得することであるが、組織の全幅的な任務は、この信奉者の最善のものを利用して、黨の活動的な黨員にすることでなければならない。

宣傳の最初の仕事は來るべき組織のために人を獲得することであり、組織の仕事は宣傳を實行するために人を獲得することである。宣傳の第二の仕事は新しい主義によつて現存の諸情勢を覆すことであり、組織のそれは權力を得るために鬪ふことである。精力と膽力とはたゞ人類の一部分に存在するだけであるから、この限界を知らない組織を持つ運動は何時か弱くなるであらう。それ故に、その成功を支持しようとする限り、運動はその黨員の增加を中止し、その後は最大の注意を拂つて、

只徹底的な檢査の後にのみその組織を擴大するやうに考慮することが、たとひ自己保存の目的のためだけでも至要なことである。」と述べてゐるやうに、その活動の初期において、ナチスの宣傳家が政敵を攻撃し、政綱を叫んで勝利の地均しをして行くと、これに續いて、多數の組織家が後からつぎつぎに各地方にミュンヘンの中央本部のものに似せた「鳶色の家」を建てゝ地固めを行つたのである。又「一つの組織が直面する最大の危險は、早く成功すると、未熟な黨員の數をあまり多くしすぎるおそれがあるといふことである」（我が鬪爭）とヒットラーは述べてをり、その組織の中心は柔弱者を除いて少數の眞に信頼するに足る人物で固めて組織を强化するなど、僅か七人の黨員から出發して、ナチス國家を建設するためには、宣傳と組織とが極めて巧妙に行はれたといふ外はなく、ヒットラーは「我が鬪爭」中で、黨の苦鬪時代專ら宣傳に興味を持ち、その部長として活躍したことを述懷してゐるが、ここでは、政權獲得後も黨組織の中で、宣傳が重要な部門であることを言及するにとゞめ、その初期の活動狀況に就いては前章を參照されたい。かくも目覺しい働きをした黨の宣傳組織は、官營の宣傳省が立派に創設された後も、決してその行動を中止したといふのではなく、寧ろ公營の宣傳諸機關と相呼應してその影の如く手を取り合ひ、現在は專ら黨勢扶植の地下運動を展開してゐると見るべきである。否、場合によつては、宣傳省は單に外形的な組織にとどまつて、

國民に對する實質的の働きは全國一體の黨組織の細胞を通じて行はれると云へるであらう。

黨と政府との關係は極めて緊密な聯絡を執つてゐることは前述の通りであるが、その詳細に就いては、本叢書の「ナチス及びファシスト國家觀」を參照されるのが便宜であらうから、ここでは大略の説明に止めると、黨の「全國指導部」（Reichsleitung）には大管區指導部（Gauleitung）があつて、前者には十九の部局（Reichsämter）が所屬してをり、又後者の指導部は、大管區（der Gau）を管理し、大管區は更に、地域(der Kreis)、地區集團(Ortsgruppe)、ツエレ(die Zelle)、ブロック(der Block)の小區劃を持つてゐる。且つ黨の全國指導部（die Reichsleitung）がナチス運動の誕生地ミュンヘンに置かれてゐるために、ベルリンに「聯絡事務局」（der Verbindungsstab）を置いて政府機關との聯絡を緊密にしてゐる。大管區は最も大きい黨の指導區域で、以前全國を三十二に分けてゐたが、現在は獨墺合邦及びズデーテン地方の併合によつて四十に增加してゐる。且つこれらの小細胞組織は指導者だけが、他の諸團體との連絡を保持して、反對派の監視を嚴にしてゐることも留意しなければならない。

更に上述の十九の「全國指導部」の中で、宣傳事務を取扱ふのは「全國宣傳局」（Reichspropagandaamt）で、現在は宣傳省大臣のゲッベルスが兼仕してをり、その下に、「積極的宣傳部」（Aktive

Propaganda)、「ラヂオ部」(Rundfunk)、「映畫部」(Film)、「文化部」(Kultur)、「全國宣傳局聯絡部」(Verbindungsstelle R. P. L.)、「展覽會及び歳の市部」(Ausstellung- und Messewesen)、「新聞宣傳部」(Pressepropaganda)、「ドイツ國自動車隊部」(Reichsautozug Deutschland)「バイエル救濟部」(Hilfszug Bayern) の諸部が置かれて、それぞれ部長が指導してゐる。

尙ほ、ナチスの黨組織は複雜で、外國人には分り惜く、「全國指導部」中の「ナチス黨組織局」(Reichsorganisationsamt der NSDAP) も別圖の示すやうに各部に宣傳部を置らて全國に宣傳網を擴げてゐるやうであるが、元來ナチスの黨はわれわれの考へる所謂「黨派」ではなく、國民の聲を聞き、國民の中から政治をもり上らせると同時に、政府の意圖を國民に傳へるための、國家と國民との聯絡機關とも云ふべきものであつて、又それと共に、獨裁政治の不合理と缺陷とを避けるための、補助機關の役割をも務めてゐることを忘れてはならない。このやうにして、政治は一種の國民運動的の形となるのであるが、更にその目的のために、黨には職業身分別の「附屬團體」(Die angeschlossenen Verbände)と「枝隊」(die gliederung) とが下屬してをり、一九三五年三月二十九日の總統令によると、前者には、「ナチス・ドイツ醫師同盟」(Der NS-Deutsche Ärztebund e. V.)、「ナチス・ドイツ法律家同盟」(der Bund Nationalsozialistischer Deutscher Juristen e. V.)、「ナチス教員同盟」(der NS.-Lehrerbund

V.)、「ナチス福祉團」(die NS=Volkswohlfahrt e. V.)「ナチス戰時犧牲者保護所」(NS=Kriegsopferversorgung e. V.「ドイツ官吏全國同盟」(der Reichsverband der Deutschen Beamten e. V.)「ドイツ技術師ナチス同盟」(der NS=Bund Deutscher Techniker)「ドイツ勞働戰線」(die Deutsche Arbeitsfront)(ナチス團體「喜びによる力」團も含まれる)、の諸團體があり、最近は一九三八年十二月一日附を以て「ドイツ體育協會」(der NS=Reichsbund für Leibesübungen)(NSRL)も附屬團體に編入された。

如上の「附屬團體」は自己の法的人格を持ち、その經營は、ナチス黨全國指導部の國會計局長(Reichsschatzmeister)の監督を受けてゐるのに對し、後者の「枝隊」は附屬團體とは異つて、何等の法的人格がなく、財產も所有してゐない。これに屬するものは、「突擊隊」(die SA)、「親衞隊」(die SS)、「ナチス自動車隊」(das Nationalsozialistische Kraftfahrkorps)、「ヒットラー・ユーゲント」(die Hitler Jugend)「ナチス婦人團」(die NS=Frauenschaft)、「ナチス・ドイツ學生同盟」der NS=Deutsche Studentenbund)であつて、「ヒットラー・ユーゲント」(約十四歲から十八歲まで)には「ドイツ少年團」(Deutsches Jungvolk)(約八歲から十四歲まで)と「ドイツ少女團」(Bund deutscher Mädel und der Jungmädel)(約八歲から十八歲まで)の諸團體が附屬してゐる。

ヒットラー・ユーゲントその他に就いては後述する筈であるが、ここで特に注意して置くことは、

宣傳組織の中で、上述の枝隊中の「突撃隊」と「親衞隊」とが特に重大な任務を遂行してゐることで、一九三四年から獨立の枝隊となつた「親衞隊」は本來ヒットラーの警護のために一九二五年に組織されたのであるが、その後次第に國内の治安、内政の監督の任務をも引き受け、現在では親衞隊長は内部省内の警察事務をも取扱つて、國家機關としての警察との連絡を計つてゐる。

これに對して「突撃隊」(Sturm-Abteilung)も亦黨活動の上で重要な歷史を持ち、その由來はヒットラーが軍隊で知り合つた青年達を集めて會合を守る目的に使用したところにあるので、一九二一年十一月四日、ミュンヘンのホーフブロイハウス(Hofbräuhaus)で開かれた黨大會の際、此の一團の若人が反對派を擊退するために大活躍をした時からこの名稱を與へられたとヒットラーはその自傳で述べてゐるが、專ら大衆會合の整理、護衞　其の他黨の行ふ一切の示威運動、大會等に參加して、褐色のシャツを着用した突擊隊の堂々たる行進は黨大會其他には缺くことの出來ない宣傳的な景物とされてゐる　けれども又、實質的に軍隊と國民との連絡を計るばかりでなく、又同時に有事の場合、軍隊の補助ともなるのは勿論で、いはば黨が一定の活動を開始しようとするとき、その手足となつて、これを援助したり、反對派を克服したりするのが突擊隊の任務であつて、現今は昔程の勢力は持たないにもせよ、われわれが新聞を讀む場合、外的なあらゆる事件に必ず彼等の活躍振りの記事

が目に入るのである。これに類似した組織を持つものに、上述の「ナチス自動車隊」があるが、一九三三年八月二十三日の總統令によつて獨立の枝隊と認められてゐる。

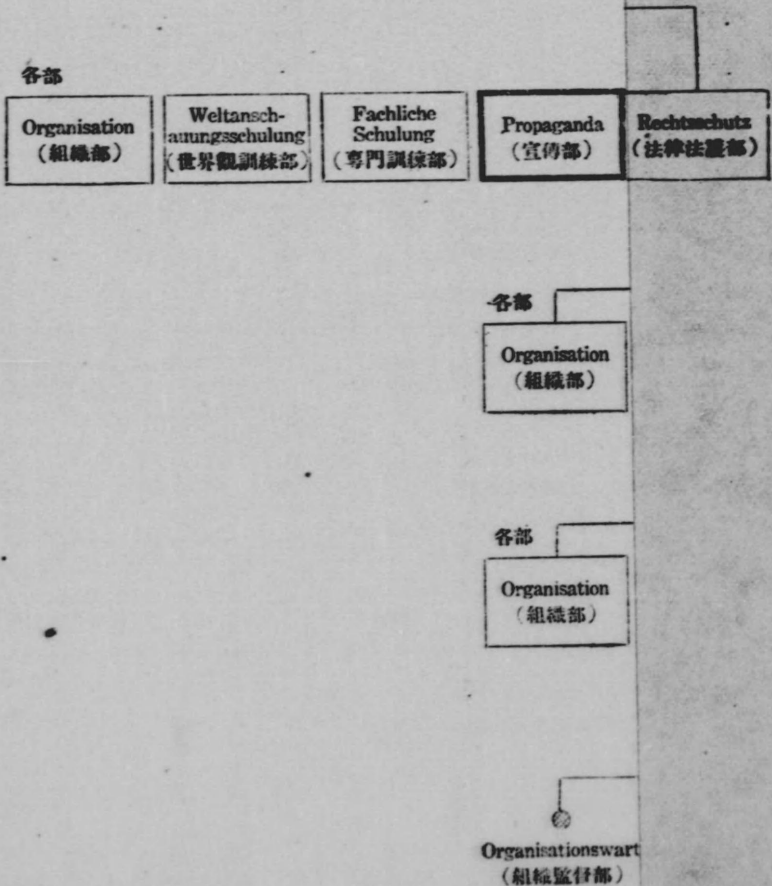
一九三三年のニュールンベルクの黨大會の記錄を見ると、十萬の突擊隊員と親衞隊員とが參加し、更に一九三五年の黨大會の行進には、SA、SA、ナチス自動車隊、勞働奉仕團、其の他、軍隊、飛行機等が參加してゐることを知るならば、これらの黨組織の「枝隊」がナチス宣傳に與つてゐる度合が明瞭になるであらう。

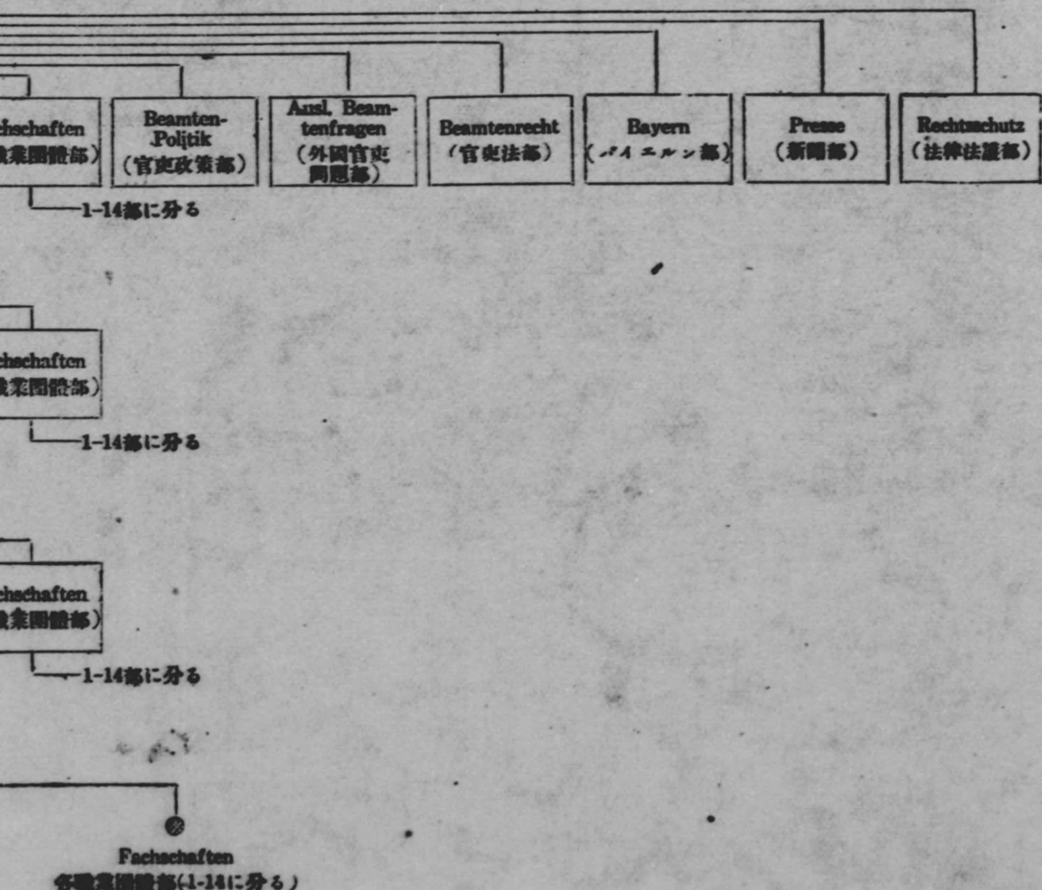
黨の指導部が所在するミュンヘンがナチス宗のメッカとして、ドイツの精神的な首府であるやうに、毎年九月に開催されるニュールンベルクの黨大會も黨の成長の上に深い意味を持つもので、この時は全國各地から幾千の代表者が集つて、「ハイル・ヒットラー」と叫ぶだけであるが、ナチスの持つ宗敎にも近い雰圍氣に浸つて感激するので、ニュールンベルクはいはばダイナモで黨に活氣を注入し、最も遠隔の地にまでこれを傳へてゐるやうなものである。すぐれた宣傳家ヒットラーは大衆大會の與へる效果に於いて次のやうに述べてゐる。

「大衆大會が無上に貴重なのはどういふわけかといふと、不確かな土臺のうへに立つた個人が、新しい運動に參加しようかどうかと考へてゐる間は、屢々孤獨に陷るものであるが、一たびその人間

が他の多くの者と一緒になると、同僚感によつて勇氣と力とが生れてくるからである。個々の人間が新しい運動を暗々裡に信ずる幾千の人間にとりかこまれると、大衆の暗示する魔術的な强制によつて足をさらはれてしまふ。彼は屈服すること」（我が闘爭）と。

けれどもこのやうな宣傳は、やがて一般國民を不感性にするであらうと批判する人もあるが、それは又別の問題で、只ナチス政府が全く落ち着いて來る場合は、このやうな御祭り騷ぎは次第に減少するであらうし、又その時にはもつと別な宣傳方法が考案されるであらう。

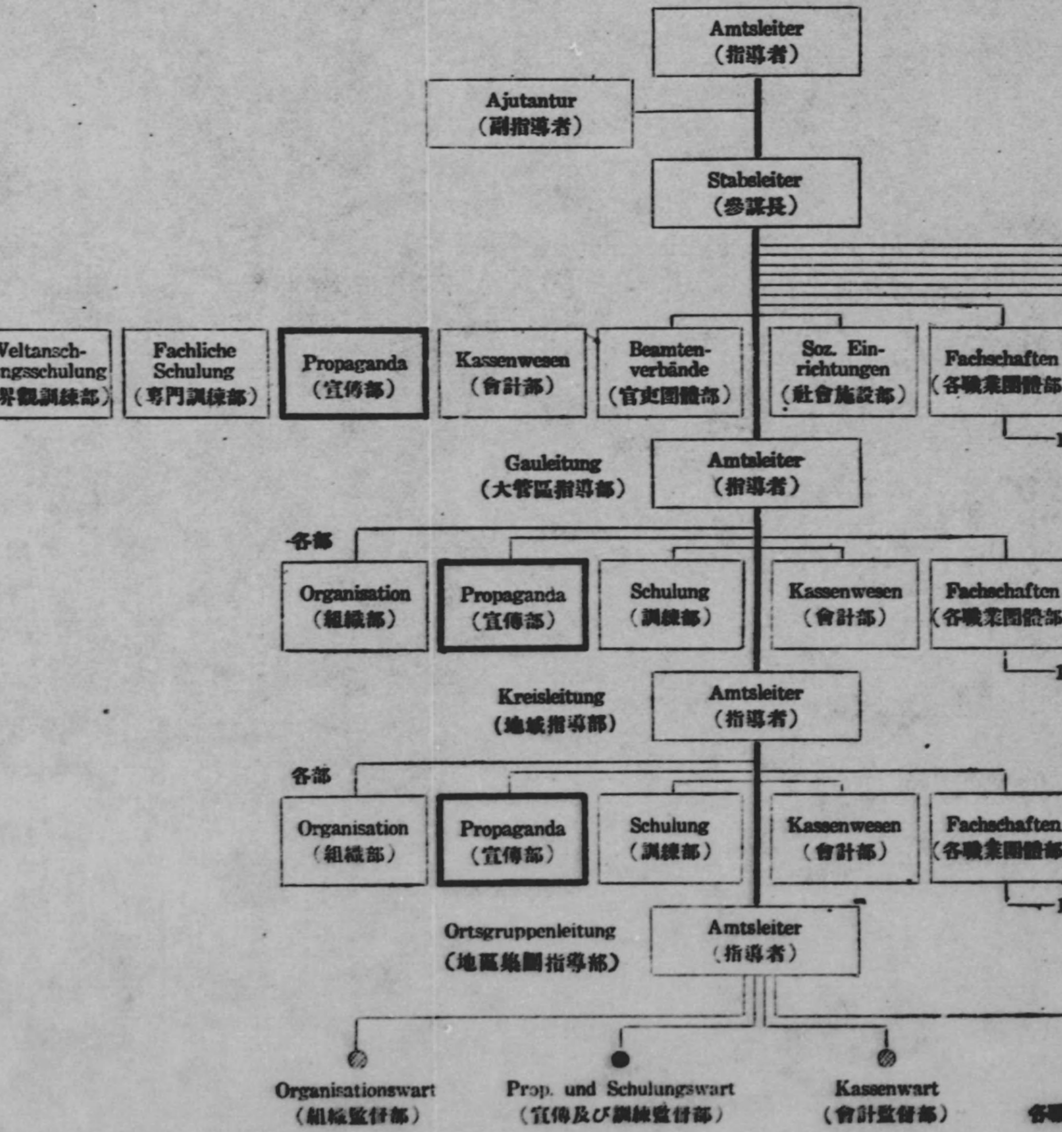

各部
Organisation
（組織部）
Weltansch-
auungsschulung
（世界觀訓練部）
Fachliche
Schulung
（專門訓練部）
Propaganda
（宣傳部）
Rechtsschutz
（法律法護部）
各部
Organisation
（組織部）
各部
Organisation
（組織部）
Organisationswart
（組織監督部）

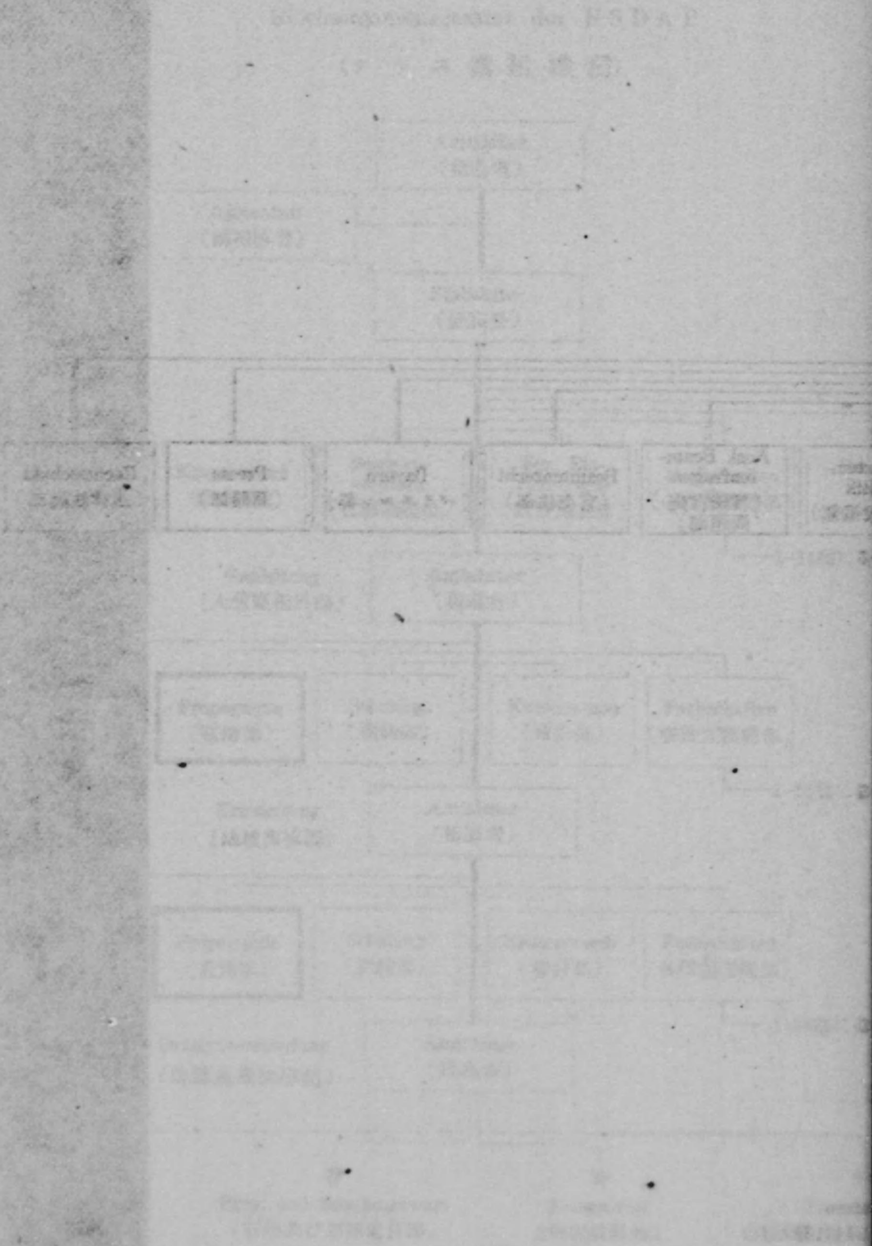


chschaften
職業團體部）
1-14部に分る
Beamten-Politik
（官吏政策部）
Ausl. Beamtenfragen
（外國官吏問題部）
Beamtenrecht
（官吏法部）
Bayern
（バイエルン部）
Presse
（新聞部）
Rechtsschutz
（法律保護部）
chschaften
職業團體部）
1-14部に分る
chschaften
職業團體部）
1-14部に分る
Fachschaften
各職業團體部（1-14に分る）

Reichsorganisationsamt der NSDAP

(ナチス黨組織局)





第三篇　國內宣傳組織の活動の實際

以上で、大略の宣傳組織を終るのであるが、これは公けの文書に載せられた公けの政府直屬の諸機關であつて、これらの組織が、實際どんな活動を營んでゐるかの點は、宣傳の性質上祕密に屬して、文書にも、雜誌にも、ドイツ本國では公表されてゐない場合が多いであらうと思ふ。從つて出來るだけ正確な資料に據らうと思ひながら、適當な著書、文書がないために、調査が不充分の結果となつたのも止むを得ない。本來據るべきものとして、上述のやうに本國での統制が嚴格であるために、ドイツの文書からその端緒を得ることは困難と思はれ、却てドイツ語以外の外國の書籍、雜誌などに散見され、ドイツの立場を、反對者として眺めたために、かへつて比較的に正鵠を得た內幕暴露と見做せるものがある。それも勿論程度の問題で、どこまで信がおけるか疑へば疑へるわけである。

元來組織制度は、固定的のものであるが、そこで行はれ、そこから流れ出る活動は無限の伸展性を持つものであつて、人的組織の組合せ如何で、その營みも多岐多端に亙るのである。さうして、

ナチスの場合はこの組織の中樞にヒットラーなる偉才がゐることが宣傳の推進力を强めてゐることは言を俟たないところで、又他面ヒットラーと雖も組織の力がなくては眞の活動は不可能であつたらう。

ドイツの宣傳組織は、極めて巧妙であるらしく、ナチス黨と國政府とが協力、否、むしろ一體となつて、過去における如き役所の管理指導の時代から、國民的組織活動の新時代に入らうとしてをり、宣傳は普通の意味の單なる思想、理念の媒介に終らないで、國民を組織し、再敎育し、新しい有機的統一國家を創造しようとするものである。そのためか宣傳省員の任用も思ひ切つた自由任用の制度を採用してゐると云はれ、その效果如何は、充分懷疑もし批判もしてみる餘地があるにもせよ、宣傳省の外形的活動は、飽くまで外形的にとゞまつて、眞の效果は黨組織なる國民一體となつた細胞組織を通じて、はじめて收められてゐるのは前述の通りである。その一例を擧げると、民衆に直接の影響ある法律を出さうとするとき、その法令がヒットラーによつて決定されると、ナチスの黨組織は、忽ちその細胞を通じて活潑な行動を始める。

その場合、政府の外形的活動と相應じて、新聞、雜誌、ラヂオ、映畫などの凡ゆる文化機關が大衆に對して、その法律の特色を明かにし、極めて卑近な例を捉へて、平易に呑み込み易く宣傳して、

何時でもその法律が受け入れられるやうに下地を作り上げてしまふ。

このやうに、この法律が、全國民に充分理解された頃を見計つて、政府はこの法令を發布するから、國民全體は、この法律の目的と理由とを充分理解し、又納得するのである。即ち、國民的細胞組織があればこそ、その宣傳が一般民衆の間に、宣布せられるのである。頭から高壓的に一般民衆に强制するといふやうな拙い宣傳方法をとらないところに、ナチス宣傳の强力な迫力の原因があるので、これも大衆へ滲透するために、黨組織を通じて根强い觸手を伸ばしてゐるためであらう。

即ち、ナチス世界觀に基く政策の二十五條の完備と、この思想的根據を黨組織によつて國民に浸潤させる宣傳力の獲得との兩者が、ナチスの今日を築いたのである。

(一) 宣傳省を中心とする組織

宣傳省が、總ての宣傳の總括的な中樞機關であることは、前にも述べた通りであるが、昭和十一年ベルリン駐在の我が國大使は、ドイツ宣傳省の機構並に任務について、次のやうに告げてゐる。

即ち、

「(1) 任　務

同省所管事業は主として國內輿論の指導、國內文化事業の統制監督にして、對外宣傳は對外通信

を主とする半官通信社「トランス・オツュアン」並に外國にて發行せらるゝ多數の獨逸語新聞を通じて同省直接之を行ふ。右機關を利用し得ざる場合には在外公館を通じ宣傳を爲すも右對外宣傳の根本方針の決定及資料の提供は宣傳省の所管に係り、外務省情報部と密接なる聯絡を採りつゝあり。

外務省情報部は在外公館並に宣傳省の仲介機關にして、在外公館に於ける聯絡は常に情報部を通じて爲さる。主要なる外國（現在にては英、米、佛、和蘭、亞爾然丁）には「プレッセ・アタシュ」として宣傳省の官吏を派遣し、夫々獨逸大、公使館に所屬せしめ對外宣傳を司らしむ。右宣傳省官吏なることは同省關係官の內話に依るものにして公表せられざることゝなり居る由。尚日本にも同省官吏を派遣する意嚮あるも經費の關係にて未だ實現せず。

(2)　他省との關係

宣傳啓發の內容等に付ては一に宣傳省の權限に屬し、他省（就中遞信省）は必要なる範圍に於て單に技術的事務を取扱ふ。

(3)　通信社並に新聞社との關係

國內新聞及び通信の統制は宣傳省の權限に屬し、每日同省に於て新聞會議開かれ、記事の統制を計り居る處、當國駐在の外國新聞記者に關しては直接何等の統制方法なく、別に宣傳省として定例

會見等を定め居ることとなし。」

この報告で、昭和十一年頃の宣傳省活動の凡の輪廓は推察出來るのであるが、その後現在に至るまで、組織上に著しい變化もあつたと思はれるが、その詳細は不明である。

要するに、ゲッベルスはドイツ國民の心に對して不斷に氣を配る一方、宣傳省と國文化院を通じて、自己表現のあらゆる形式に獨裁的な權力を振つて、國民を同質の全體に形成しようとしてゐることは看過できない。一九三七年十一月六日の演說で、彼は新ドイツにおける支配者と被支配者との關係を明確に規定して、

「われわれの成功は國民の成功であり、われわれの失敗は國民の失敗である。さうして、國民は全體として、日々の事件の經過に直接の影響を與へることも出來ないし、又その機會もないのであるが、又これと反對に、これらの事件を現れるまゝに受け納れるやうに强いられてゐる。國民は少くとも起つてゐる事件を知る權利がある。

「獨裁國の代表者として、われわれは幾千萬の人々の上位にゐると云ふよりは、寧ろ國民の一部であるといふ感じがして、又さうありたいと思つてゐる。われわれの決意が國民に全く理解出來なくても、政府は國民から信賴を受けなければならない」と述べてゐる。

又更に、ゲッベルスは年額二千萬ポンドを宣傳のために使用してゐると稱されてゐるが、これは機密のことに屬し、眞僞は明かでないが、新聞、ラヂオ、映畫、劇場、旅行、外客の饗應、國內外の展覽會、黨大會、會議、海外の親獨團體に與へる補助金、敎育、公共事業、數千人の官吏の俸給等を皆支拂ふのが宣傳省であることを思へば、その總計はこの額を遙かに超過してゐるものと思はれる。

（二）　集團的文化施設による組織

なほドイツにおける宣傳は文化的施設によつて極めて巧妙に行はれてゐることを見逃し得ない。例へば、「喜びによる力」團のやうな集團的な文化運動はそれで、しかも、それが常に集團的組織によつて行はれる點に注目すべきである。個人主義より全體主義へといふ根本原則を表現するために、文化運動が各集團の上に展開されるのは當然のことであるが、それは一言にして云へば、ナチス的イデオロギーによつて、統制され、單に團體の爲の組織的な便宜の問題ではなく、全國民の文化的協力への參加を意味する。

勞働團體の文化運動を顧れば、ナチスが政權を掌握した當時は、各種の職業團體、勞働組合、經濟團體等は自由主義的對立狀態にあつて、混沌とした無秩序の中にあつた。そしてこのやうな混沌

狀態を統一化し、各諸團體を大團結し、國民社會主義的イデオロギーによつて誕生したものこそ、「獨逸勞働戰線」の結成に外ならない。そして、このアルバイト・フロントの文化的課題の實踐的機關として、K・D・F團が組織されたのである。

こゝで、一言この有名な團體に就いて述べてみよう。この組織は、一九三三年十一月廿七日に發表されたもので、全ドイツの勞働者を總動員して、彼等に慰安を與へつゝ、ナチス的訓練を施し、愛國戰線に參加させようとする全國的組織である。もう已に、このK・D・F團の組織活動に就いては、處々で語られてゐるから、なるべく簡單に述べると、この組織は、「ドイツ勞働戰線」の第五勞働區の管轄下にあつて、一九三六年の「ドイツ年鑑」によると、大略次のやうな組織になつてゐる。

「喜びによる力」團

指導者、ドレスレル・アンドレス

(a) 組織部　指導者、ゼルツネル

(b) 會計部　指導者、ブリンクマン

(c) 宣傳部　指導者、ガイゲル

(d) 勞働美化部　指導者、シュペール

(e) 旅行、徒歩、賜暇部　指導者、ラフェレンツ博士

(f) 「休息の夕」部　指導者、ヴイス博士

(g) スポーツ部　指導者、チャンメル・オステン

(h) 工場突撃隊部　指導者、シュナイデル

(i) ドイツ國民教育事業部（Amt Deutsches Volksbildungswerk）指導者、ロイトロフ

(j) 新聞部　指導者、ビアラス

となつてゐる。その一つ一つに就いての説明は省略する。「ヒットラー・ユーゲント」、「青年團」、「工場分團」、「勤勞奉仕團（アルバイツ・ディーンスト）」、「防空聯盟」、「スポーツ航空聯盟」などは、皆このK・D・Fの一部をなしてゐる。その組織は全國を三十二の管區に分けて、地域的に統一してをり、獨逸の勞働戰線に働いてゐる人々は、皆自動的にこの組織の中に入るやうになつてゐる　この組織は、勞働の餘暇に無駄のないやうに慰安を與へながら、國民精神を統一しようといふ一石二鳥の目的で、愛國的大集會、夜會大規模のスポーツ競技會、大音樂會、野外ピクニック等を催し、更に政府なり宣傳省の斡旋によつて、それ〴〵映畫、演劇、ページェントなどに招待して、時には少數のものを選抜して外遊させる。過般獨墺合邦の際には、數日ならずして、ナチス政府は數隻の汽船を借り上げて、海を知らないオース

トリアの勞働者、農民を招待して土產物まで添へて北海見物をさせたといふことである。適切且、迅速であることは驚く許りで、それも平常このやうな組織を持つてゐるために外ならない。

(三) 教育的施設によるもの

前にも度々述べたやうにナチスの如き統制國家にあつては一切が國民を教育し、啓蒙するための役割をする結果となる。ナチスの宣傳はドイツ人の生活のあらゆる方面に浸潤しようと試みた。例へば、一九三三、四年の頃學校ではナチスの宇宙觀が講義され、放課時間には多くのドイツ少年はいろいろなナチス團體に所屬して、健全な娛樂や宣傳や軍事敎練等を受けた。又ナチ黨やその支部にはナチスの政治上、社會上の俱樂部が出來てをり、これが全國に散在してゐた。又善良なナチス黨の學生だけを大學に入學させる計畫さへ企てられたことがあつた。極端な例では、敎授達は講義開始前に、「ハイル・ヒットラー」を唱へ、手紙を書く場合もその末尾に同じ言葉を書くことが獎勵されるといふ有樣で、またより普遍的なラテン文字に代へて獨逸風の飾樣な文字を使用するとか、又劇場やその所屬員の詮衡が强化されるなど、更に音樂のプログラムの編成にまで干涉が行はれた。

以上の外に、ナチス宣傳は、より徹底的な敎育統制によつて、卽ち愛國的訓練制度によつて、その觸手を伸してゐることも考察に價する。その一方法として、田園寄宿舍の制度が創設された。元

來現在の獨逸におけるナチス的教育者の根本觀念は、一九三三年十二月十八日に、時の內相によつて發令された布告、「學校の最高任務は、ナチス的精神に依り、國民と國家への奉仕として、靑少年を敎育するにあるので、この敎育方針を支持するものは、これを援助し、これに反對するものは、一切存在を許さない」の中に明示されてゐるやうに、校長を始め、敎職員、生徒に至るまで、この國家的な任務に責任を負はなければならない。それと共に、獨逸民族の歷史を尊んで、その英雄的な意義を特に强調するやうにとの訓令が當局から、敎育關係者に發せられた。田園寄宿舍の制度こそ、これらの訓練を學生に與へる實際的な方法であつて、政府によつて、國家的政策的敎育のために用ひられたわけである。

その創設は一九一八年で、ナチス式敎育鍛錬に利用されたのは、一九三三年十月、ハノヴァで開催された第五回ドイツ田園寄宿舍全國會議の際に　プロシャ文部大臣ルストが强調してからであると云はれる。それは健康の增進と精神の鍛錬とを目的とする田園道場であつて、これを更に大規模にしたものが、ヒットラー・ユーゲントの敎化工作である。

この他にも「母の日」(Muttertag) といふ制度がある。一九三三年五月十五日、プロシャ文部大臣の出した訓令は、特にこの日の意義を重視してゐる。と云ふのは、本來個人主義に基く敎育は、

とかく父母に對し敬愛の心を忘れ易いからで、青少年が兩親に從順であり且又尊敬の念を抱くやうにと、殊更「母の日」を定めて、母への感謝の念を涵養させようとして訓令を出したものである。

又更に、青少年を、秩序と訓練とに慣れさせる制度として、所謂、「障害スポーツ」がある。このスポーツの奬勵は、一九三三年一月十六日政府の訓令によつて規定されたもので、各方面に青少年訓練事務局を置いて、要點を敎師に敎授するために、體操敎師やスポーツ敎師をこれに參加させた。このスポーツは、ドイツの青年達に、軍人的精神を養成させるのが目的で、身心の鍛錬も重視された。登攀行動、匍匐行動、障碍物競爭、各種の規則練習等の課目がその目的のために實習されたのである。

有名な勞働奉仕（アルバイツディーンスト）も、又國民意識を國民層に宣傳するための組織であると見做すことが出來よう。この制度に就いては已に、研究つくされ、そのために容易に數冊の著書が書かれるであらうが、こゝでは、この制度も失張ナチス的國民觀念の表現であるとの見解を述べるに止めて置く。一九三二年十二月二十日、一九三三年二月二十三日の二回、プロシヤ文相の訓令によつて、全國的に規定されたので、ドイツの青年に兵役の義務と同様に、一定期間、奉仕の勞働を强制して國民精神の喚起に努めようといふのである。一九三五年六月二十六日の勞働奉仕法の第一條には、その一般的概念

が明かにされてゐる。

「勞働奉仕は、獨逸青年を國民社會主義の精神に從ひ、民族協同體、正しき勞働觀、就中筋肉勞働に對する正當なる尊敬へ訓導す可きものとす。勞働奉仕は公益事業の爲に遂行せらるべきものなり」

とある。

「個人利益より共同の利益を先に」と云ふのがナチスの勞働奉仕の標語であつて、すべての青年に何等かの形で、勞働奉仕をする責任が負はされ、又その過程を終つたものには、特に優占權や、資格が與へられる。

要するに、あらゆる教育機構の手を經て、ナチス政府は、次代を背負ふ青少年に對してナチス魂、ナチス的愛國精神を鼓吹するために、全力を盡してゐるのが分る。

（四）ラヂオ、新聞、映畫、其の他の技術的な活動

統制は、觀點を換へれば、消極的に宣傳することであるとも云へるが、ナチス政府は藝術思想全分野に亘つて、强力な統制を企て、ナチス的世界觀によつて、再組織をしようとこゝろみてゐることは周知のところである。こゝでは新聞等による思想統制に就いての評論は他日の機會に讓る筈であるが、一言述べてみると、ナチス政權獲得後、新聞の自由といふことは全く影を潛めて、ナチス

はこの概念を自由主義又は民主主義の遺物であると侮蔑した。アーリアの血統であるべきドイツ人の編輯者は、事件の公式の筋書を掲載したり、ナチスの通達を報道したりしなければならないので、若し、これに違反すれば投獄か解雇に逢ふ。外國からの引用は故意に改竄されることがあるので、地方や外國の事情の眞相を知らうと思へば、ドイツ人は外國の新聞を買ふか、ナチスが嘲笑してゐる「物語りの新聞（スポークン・ニュースペーパー）」を讀まなければならない。又第三帝國で發行された書籍を、何氣なく讀んでみると、それは政治的に中立であつたり、又紛れもないナチスの後押であつたりする。新聞に關しては、このやうにニュースの統制は嚴重を極めたために、何れの新聞を見ても、新聞の記事は官報のやうに單調となつて、興味が湧かないといふ有樣であつた。

このやうな　ナチスの思想を宣傳するための新聞の一つは「フェルキシェル・ベオバッハテル」であつたが、この新聞は古く一九二〇年十二月に機關紙としてナチス黨に獲得され、最初は週二回の發行であつたが、一九二三年の初頭には日刊となつて、八月末に今日のやうな大紙面となり、當時はその經營に主として、現在國新聞會議所長であるマックス・アーマンが當つてゐた。

ナチス政權樹立と共に、その統制の顯著なためにナチスに奉仕しない新聞數は漸次減少し、一九三二年の新聞の總數は四七〇二であつたのが、一九三三年にはその數が三〇九七に減少してゐるの

は、これを實證してゐる。

現在、ナチス・ドイツにおける新聞言論界の統制狀態を知るためには、一九三三年十月四日に發令された「新聞記者法」("Shriftleitergesetz")を無視することはできないが、このことに就いては後の機會に詳論することにして、次に映畫、ラヂオの狀態に就いて一通り考察を下さう。

(a) ラヂオによる宣傳活動の實際

思想傳達の點では、新聞にも劣らないラヂオは、宣傳の上でも同樣に重要な役割を果してゐる。國ラヂオ會議所長のドレスレル・アンドレスは、一九三四年元旦の放送で「獨逸放送の國民社會主義的指導は、放送の構成を自由主義的な個人的根據から解放して、總プログラムの編成を國民社會主義的全體主義に價値づけることを課題としてゐる。將來の放送は最早個人的な審美的な範圍が中心ではなく、全國民の聲であり、獨逸國民の感情、文化及び藝術生活の仲介者であり、構成者である。放送は、かくして、眞正の國民文化、國民藝術、即ち國民自體から發生するが故に、全國民階級に普く理解される藝術の先驅者である」と述べて、ラヂオが一般大衆にその根據を有すべきであることを强調してゐるが、一九三二年末に四三〇萬であつた聽取者の數が、一九三三年には五〇〇

萬となり、一九三四年には六一〇萬、一九三五年五月には六七〇萬に增加したことによつても、ラヂオによる宣傳の效果が廣範圍に亘ることを窺ひ知り得よう。

ドイツのラヂオ放送は、ナチス黨が政權把握の前は、遞信省が監督してをり、その豫算は年年約一億ライヒスマルクの額に昇つたが、費用は主として聽取者から徵收してゐた。即ち遞信省が全放送設備の所有者であつて、國家放送會社を支配してゐた。十大放送組織の株式の大部分はこの國家放送會社が所有してをり、これらの放送所は獨立で放送プログラムの編成をしてゐたが、ナチスの出現と同時に、この十大放送所は皆中央に集められて、その監督は再組織された國放送會社(R・R・G)の手に委ねられた。この放送會社は、已に宣傳組織の部分で述べたやうに、宣傳省のラヂオ部の監督下にあつて、その使命に就いて、ラヂオ會議所長が次のやうに述べてゐる。

「ドイツ放送制度は、その組織から云つても、ナチス主義によつて創設された單一國家の表現であることは了解できる。この放送組織は理論通りに發達した。さうしてこの放送は、ナチス黨國家の言葉であり、聲であつた。精神なき組織は全く無意味である。この放送組織を意義あらしめたものは、ナチス主義の精神であり、これこそ現獨逸國家の指導精神なのである。」

ナチスの宣傳は奏效して、ラヂオ放送局の數は實に二十五に達して、主な放送局は皆百キロの放

送能力がある。又國民大衆への普及を計るために品質のよい所謂「國民受信機」を特別に製造して、安價で、一般に提供してゐることは注目に價する。一九三三年五月には、ラヂオ機械購入に、平均約七十六マルクを要したが、その高價なために一般大衆、ことに貧民階級はラヂオの恩惠に浴さなかつたのであるが、一九三四年度のラヂオ・セットの販賣額は、六百萬マルクを超過するに至り、一ヶ年に約百萬マルク以上の増加であつた。これを生産の能力増進の點から見ると、一九三二年には僅か九十七萬一千に過ぎなかつたのが、一九三三年には百十萬五千となり、一九三四年には略同數の生産を見た。宣傳省の努力は奏效して、ラヂオの普及は全國民に安易にラヂオ享受の機會を與へる結果となつた。只一つ悩みの種は、短波長の交換によつて國際的錯綜を生じ、殊更、ソ聯其他からの反ナチス宣傳の防壓に頭を悩まさねばならぬことである。

放送技術の實例

ここで、尙ナチスのラヂオ宣傳の實例を二、三擧げてみるのも興味があらう。政權獲得の前まではラヂオの利用が許されなかつたナチスも、一九三三年以後は、ラヂオの影響が、その利用如何によつて往々新聞よりも遙かに大きいことを知り盛んにこれを用ひてゐる。當時は日曜日を除いて每夜「國民の時間」と稱する放送を行つて、プログラムには嚴密にドイツ的な作曲家の手になる優秀

な音樂が採り入れられてゐた。しかも、音樂を放送する前には前以て宣傳的な解說を附けて、この解說はアメリカの商業的放送に酷似してゐた。そればかりではない、ナチス黨の領袖達は、音樂を聽くためにスウィッチを入れた人達を政治的の目的に利用しようとして、豫定の番組を俄かに變更するといふやうなことが屢々あつた。更に、この「國民の時間」の外に、色々な放送が行はれたが、就中、多數の放送者がマイクの前に現れて、獨逸の軍備のこと、ドイツの歷史のこと、失つた領土のこと、その他ナチスの社會政策や婦人の新しい地位等に關して頻りに辯じ立てたり、又或るクリスマスの放送番組のやうに、聖ニコラスが突擊隊員に向つて、父が突擊隊員なら、その子供は贈物を貰ふが、さうでない子供はクリスマス・イーヴに見落されるだらうと見え透いたいやがらせを云つたり、又ドイツのアナウンサーは不斷にドイツのことやナチ領袖のことは讃辭を重ねるが、ナチスの敵に對しては粗野な、露骨な言葉で攻擊を加へたりした。又ニュースは新政府の活動狀況に重きを置き、フランスその他各國に對しては時折非難的な放送が試みられたが、その他の事件は愼重な檢閱を受けなければならなかつた。また「失業者の時間」が挿入されて、この放送は、失業者も老兵も共に熱心なヒットラーの支持者であることをしきりに說いたが、其の他、ヒットラーを以て神の新たな使徒とする牧師達の說敎、突擊隊員の組織する弦樂四重奏の音樂、ヒットラーの生活とナチ

ス運動とを劇化するラヂオ・スケッチ等の放送種目が好んで選ばれた。又地方の放送局を通じて重要な政治演説を聽取できるやうに廉價なラヂオ・セットの購入が獎勵されたことは前にも述べたが、これらのセットでは餘りに微力で外國放送が聽取できない國內の遠隔の地では特殊な事件の際など擴聲器を重要な地點に備へて、ラヂオ商人は僅かな料金で聽取器を賃貸するといふやうな方法が講ぜられ、又更に宣傳の效果の點で無視し難いのは、強制聽取制度が行はれたことである。強制聽取制度とは、例へばヒットラーが演説をするとか、政府當局が民衆に何か呼びかけたいと思ふやうな場合に、ラヂオの監督官が出張して、町の廣場に擴聲器を据ゑ、會衆や、工場の從業員や、學生などの全部に強いて放送を聽かせようとする仕掛けで、この制度によると都合のために、放送を聽き洩すといふやうなことはないわけで、例へば擴聲器の設置が終つて、サイレンが鳴り響くと、それまで働いてゐた人達は一齊に仕事を中止して、この放送に聽き入るのである。この方法によれば實に一瞬にして、ヒットラーの熱辯は全ドイツの五千六百萬以上の人々の耳に達する便宜があつた。

最近のドイツにおけるラヂオの組織とプログラムの編成

最後に最近のラヂオの組織と狀況とを考察してみると、本來ドイツでは黨と政府とが一體となつて、放送事業を統制してをり、最高の監督は勿論宣傳省で、そのラヂオ部は政治的、社會的、文化

的な放送政策を指導し、更に、對外放送、放送技術政策、放送法規等もその管轄に屬してゐる。けれども放送藝術家の職業的地位の保護とか、マイクロフォン適性審査によるラヂオの統制等を管理し、又聽取者の獲得に努めるのは昨年の十月まで國ラヂオ會議所（「國文化院」の項目參照）の仕事であつたが、十月二十八日に、ラヂオ會議所は解消して、新たに「ドイツ放送協働聯合」(Deutsche Rundfunk-Arbeitsgemeinschaft)が設けらるゝに至つた。又黨の組織としては、宣傳相を部長として、ナチス黨全國宣傳局（第五章黨組織の項目參照）にラヂオ部があつて、各地區にラヂオ本部を配置して、政治的の中繼放送が行はれるやうな場合は、團體聽取の便宜を圖るとか、その他聽取者の希望を容れてプログラムの改善をしたり、郵政廳と連絡して聽取障害除去に努めたり、又ゲッベルス・ラヂオ寄附金を社會政策に用ひて貧困者その他に受信機を給するなどの放送事業と聽取者との間の媒介の役目を果してゐる。其の上、各地區のラヂオ本部指導者は國放送會議所の地方組織の指導者を兼ねて、聽取者の獲得に盡力してゐる。

以上の組織の指導を受けて、既述の「有限責任國放送會社」(R・R・G)が、放送、管理、技術の三部門に分れて、夫々放送業務に從つてゐる。そして、全國長波放送局、短波放送局、テレヴィジヨン放送局、中央放送局（ライヒスゼンダー）十二、地方局三、中繼放送局（ネーベンゼンダー）二十三、局外演奏所八、の各放送局が、チエコ、

オーストリヤ其の他全國に放送を實施してゐる。しかし、ラヂオの技術的設備、運用、聽取加入並に聽取料收納、聽取障害防止等の事務は遞信省が擔當してゐる。

尚ドイツの放送事業の特色は政治的には中央集權化されてゐるが、文化的には寧ろ地方に重點が置かれてゐることで、中央放送局は局長(Intendant)の指導の下に、各地方の風土・文化・言語等を考慮して獨自のプログラムを編成してゐる。けれども、全國放送局(ドイフチエラントゼンダー)はこれらの中央放送局の活動を包括して、全國に放送を行ひ、そのプログラムの編成もドイツ文化を全ドイツに宣傳する立場から行はれて、ドイツ全民族を對象にしてゐる。國放送會社の「全國放送指導部(ライヒスゼンデライトウング)」は放送のテーマや事項だけを指定して、各局の局長がそのプログラムを編成してゐるが、黨大會、その他祝祭日や政治的に重大な發表が行はれるやうな際には、宣傳省及び黨と連絡してプログラムを作成することがある。けれども、このやうな場合は甚だ少い。

又その番組(プログラム)の編成も注目すべきで、講演はその效果の點からあまり重視されずに、音樂の放送が多い。講演は學校放送とか、ヒットラー・ユーゲント、婦人、農民等を對象とする場合に多いやうである。講演に反して、ラヂオトピックとも云ふべき、錄音と解說によつて日常の現實生活から取材した放送が次第に增加して來た。其の他種々の聽取者の心理を摑んだ工夫が凝らされて、音樂と言葉を

効果的に使用する「混合種目」("Gemischtes Programm")や、言葉の間にニュースを挿入するなどといふ放送が行はれてゐるが、その他に「喜びによる力」團とか冬期救濟事業等のナチスの組織や事業と關聯のあるプログラムも編成されてゐる。

ラヂオの總動員は、ゲッベルス宣傳相も云ふやうに、統一された輿論獲得を目指すもので、ラヂオ會議所長は「ヒットラー總統は、獨裁手段で治めようといふのでなく、國民の信頼に聽かうといふのだ。ナチスのラヂオ機關が、政治的に又宣傳的に成功を奏した證據はこのためである。」と述べてゐるが、要するにヒットラー總統に對する全國民の狂信にも近い信頼から推し測っても、ラヂオの大衆化に努め、更にその効果を利用する點で、ナチス・ドイツにおいて、ヒットラーの宣傳技術が如何に巧妙であるかゞ頷けるであらう。尙近頃のニュースに據ると、放送專門學校の創設が計畫されてゐるとのことであるが、もう已に成立したかどうか。これは一九三六年秋の、英國に開設された「英國放送職員養成學校」(Training school of Broadcasting)にも比すべきもので、ドイツ放送の實際的仕事を敎へ込むことを主眼とし、放送事業に働かうとするものゝ養成と、現職員の再敎育を企圖するものであると云はれてゐる。ナチスの宣傳科學の基礎敎育を施す全ドイツ的なものとしようとする計畫らしい。又一九三八年七月八日には約百のベルリン市内の學校がラヂオ受信機の設備を

受けてゐる。

更に最後に注意すべきことは、上述の諸組織は時と共に次第に編成を替へて行くことで、ことに今次の戰爭はドイツの放送事業に急激の變化を與へて、上述のラヂオ會議所の廢止もその現れの一つであるが、更に戰爭開始と共に宣傳省ラヂオ部內に放送司令本部（Rundfunkkommandastelle）が設けられたり、又戰線と銃後とを結び付けるために、マイクを手にした兵士やアナウンサーが戰線に派遣されて、所謂、宣傳中隊（"Propagandakompanie"）となつて、第一線で、聽取者向きの報道を編輯してゐることなども注目しなければならない。ドイツ放送會社全國放送部長ハダモフスキーは本年一月、宣傳中隊の取扱ふ實況レポートはセンセーショナルのものを目指さないで、卽物的手法で行はなければならないことを特に强調してゐる。更に「ラヂオ會議所」の代りに出來た「ドイツ放送協働聯合」はその任務の大部分を引き繼ぐこととなり、この聯合に加入してゐる團體は現在ドイツ放送會社、ドイツアマチュア聯合、電氣工業經濟聯合、同聯合のラヂオ專門グループ、輸出入卸業經濟聯合ラヂオ專門グループ、小賣業經濟聯合ラヂオ專門グループ、市場・販路開拓代表者專門グループ、下級ラヂオ專門グループの七團體で、ドイツのラヂオ及びラヂオ商工業のために共同の宣傳を行ひ、又ラヂオ聽取者の增加と維持のために努力してゐる。（定款第二條）

(b) 映畫による宣傳活動

ソヴエートでは、映畫が宣傳手段として用ひられる許りでなく、政治教育機關として大規模に用ひられ、一九二四年の第十三回黨大會で、映畫を黨の宣傳の重要な手段とすべきことを決議した程であるが、それに比較すると、ドイツに於ては、ラヂオよりも映畫は宣傳機關として劣る位置を占めてはゐるもの丶、一九二九年に於ける映畫館の切符賣上げは、三萬五千マルクに上つてゐる。獨逸映畫は、ナチス主義の指導機關として、新聞よりも力が弱いことは爭はれないが、大衆一般に直接的な感動を與へるプロパガンダの效力の點から見ると、決して輕視出來ず、新聞、ラヂオとも同列に位する宣傳家であり、したがつて、その宣傳的效果を、ナチは巧みに利用してゐる。

元來ドイツ映畫が、民族的な特殊性への傾向を辿り初めた端緒は、實に前の歐洲大戰當時にあつたと云はれなければならない。その時までは國際的な特殊性のゆゑに、海外に市場を持つてゐた映畫は、戰爭による鎖國の結果、自給自足を强いられ、自國民中心主義となつて、次第に民族的性格を濃厚にして來た そして、この民族中心的な傾向は、ナチの革命と共に、ナチス世界觀と好都合に握手したとも云へよう。

獨逸に於て、トーキーは一九二八年頃から實用化され、獨特なシステムを發明したが、やがて大資本の下に統制されることとなり、「トビス」と「クラングフィルム・ゲゼルシャフト」との提携から「トービス・クラング・フィルム」のトラストが生じた。一九三三年ヒットラー革命によつて、映畫機構も亦國家の統制するところとなつて、ウーフア（Universum Film Aktiengesellschaft）の資本的代表者たるフーゲンベルクが藏相となるとともに、獨逸映畫は、全くナチス政府の支配下に編入されることになつた。映畫界における統制は、ドイツ映畫企業誕生後、日が尙淺かつただけに、却て徹底的に行はれることが出來た。フーゲンベルクとの同盟は、本來は政治的の目的のために行はれたのであるが、彼が映畫新聞界の大立物であるだけに、黨の隆興、發展の上に、大きい影響を與へた。今迄ナチが所有しなかつたプロパガンダの有力な力が目覺しい活動を始めた。總てのフーゲンベルクのニュース奉仕や、映畫工場はナチ宣傳の手に委ねられた。故に、黨發展史の上から見ると、映畫は大きい役割を演じたわけである。

現在のドイツ映畫は國映畫會議所が、その總元締をしてゐることは勿論のことで、單に文化的方面だけでなく、經濟的生活の方にまで、その機能を働かせてゐる。レーニッヒは「ドイツ映畫は最早國際的な性格を持つものでなく、國民生活の繁榮となるべき文化財である」と述べてゐる。初期

の作品には「謀叛人」、「朝やけ」、「エムデン」等があり、何れも國內的な對立から、民族的、國家的色彩を獲得せんと試みてゐるのが目に附く。これらは何れも祖國愛を中心とする戰爭映畫である が、その觀客層が、より廣汎な大衆を包含するといふ點で、これらの映畫乃至、ニュース映畫、文化映畫、教育映畫が教化的宣傳の偉力を發揮したことは明白のことである。

文化映畫の製作は、殊に、ドイツ映畫の宣傳的效果を高めてゐる。その製作を保護奬勵するために、文化映畫評價準則なる規定を設けて、强制的に二五〇米以上の文化映畫を、各映畫館に上映させてゐる。教育映畫もかなり成功したので、ソヴェートと同樣に民衆を政治的に教育することを目的とし、一九三六年三月の選擧鬪爭には集中的に利用された。

これに次いで着手したのが所謂「ニュース映畫」であるが、これは主に、地方の都市に新興第三帝國の文化的躍進の姿を宣傳する目的を持つものである。

しかし一般から見て、映畫の統制は、藝術の優秀さを窒息させたと云はれてをり、卽ち政治的實用的意識に、あまりにも急であつて、審美的見地から優秀な作品は殆んどないといふ噂であるが、現在はともかくとして、この問題の解決は將來に懸つてゐるだらう。その點、ソヴェートに及ばないとも云へる。

尙最後に一九三四年二月十六日に公布された映畫法（Das Lichtspielgesetz）に言及してみよう。條文の紹介は煩瑣に亘るから、その主要な點を要約してみると、劇映畫は、製作前に、一應國映畫顧問（Reichsfilmdramaturg）の豫備的な檢閲を受け、國家社會主義的の世界觀の立場から、教育的、宗教的、風俗的の見地において妥當ならざるものは禁止される。この査定を通過すると、直に映畫化が行はれるのであるが、その作品が上演される前にもう一度檢閲を受ける。この檢閲は、所謂陪審檢閲制によるもので、映畫家、文筆業者、藝術家中より各一名を加へ、四名の陪席者が關與する。このことは已に前篇で述べたが、この委員會が、最後の許否權を持つてゐる。又審査の基準は前の場合と同樣に、ナチスの政治、美學的見地から決定される。この委員會では、この映畫をどの層の人民に見せるべきか、子供か青年かの點まで決定する。更に宣傳相の希望がある場合は、上級の審査委員會（上級檢閲所）を招集する。これによつても明かなやうに、檢閲は單に警察事務ではなく、映畫の社會的使命を重視し、文化統制の意義を全國民に徹底させようと意圖してゐる。

(c) 其の他の藝術による宣傳

こゝで其の他の藝術と云へば、舞踊、繪畫、音樂、演劇等を含むのであるが、その個々の詳細な

調査は、趣旨でないから、大略を述べてみると、夫々の藝術の分野において、同様にナチス世界觀、民族的國家觀に基づいて、統制が行はれてゐるのが看られる。例へば、舞踊藝術の場合も、從來の樣に個人的、主觀的舞踊觀は排擊され、私立舞踊學校とか個人經營の舞踊研究所は廢止の運命に逢つて、總てを中央に集中、統制しようとしてゐる。數年前ゲッペルスが創設した國立舞踊師範學校の趣旨は、既成の舞踊家をナチス的精神により再訓練し、技術のみならず、イデオロギー的にも再建することで、宣傳省舞踊課長のクンツ氏は自らその指導に當つてナチズムの鼓吹に努めてゐる。國立劇場またマリー・ウィグマンもドレスデンから出張して、ノイエタンツの理論と實技とを敎へ、國立劇場のタンツマイステル、マックス・テルピスも同樣に指導してゐる。設立後日が淺いのであるが、その卒業生を、全ドイツ舞踊研究所に配置して、ナチス舞踊を徹底させようとしてゐる。

音樂界においては、「喜びによる力」團が、勞働者に安價な音樂を鑑賞させてゐることは、前に述べたが、ナチスは又音樂を通じて、優れたドイツの國民性を涵養しようとしてゐる。ベートーヴェンや、モーツアルトなどの偉大な音樂家を生んだ自覺を青年の間に覺醒させ、かくてその後繼者として恥かしからぬ音樂的敎養を施すことは、單に個人だけの問題でなく、實に國家的な任務であると考へられ、國音樂會議所は、青少年の音樂敎育を重大な使命としてゐる。全國民の情操を淨化し、

その感情を明朗化するときに初めて音樂の使命が果されるのである。この目的で、全國民に適當な催物に安價に參加するやうな施設をして、例へば、アーヘンの國民交響樂音樂會の入場料は三十ペェニッヒであるが、古典派、ロマン派、其の他の現代派の音樂を鑑賞させてゐるから、數千人の聽衆は精神的に向上して歸宅できるのである。又ベルリンにても、オペラ、管絃樂等を聞くのに何等不便を感じてゐない。

音樂の民衆化は、最早贅澤の時代ではなくて、最も卓越した修養の手段として、又國民最高の財寶として認識しなければならない。だから、音樂教育の再建は、此の藝術を國民の各人に普及させるのが目的である。かゝる立場から、音樂會のレパートリイも昔のやうに、單に趣味によつて決定されずに、ナチ教育目標に從つて作成され、バッハとかワグネルなどが、文化的遺産への反省といふ意味でことさら尊重されてゐる。

あるナチス黨員は次のやうに云つてゐる。「黑人のジャズがベートーヴェンのシンフォニーと同じやうに感覺される筈はない。意識下の狀態で睡つてゐる人種の力、血の勢力は音樂を通じて深い影響を與へられるからである」と。

次に美術では、一言にして云へば、ナチスの統制は、美術家をアトリエの中に屏息させるやうな

職人根性を否定する形として現れた。さうして、美術を社會的に解放するばかりでなく、美術家に對しては、新文化建設のために同じく國民の一人として勇しく戰ふ鬪士であることを自覺させようと努力してゐる。換言すれば、國民的團結性、技術的健康性、時代的のリズム、一般的理解性が、過去の巨匠時代に代つて前面に押し出されて來た　又そのスタイルからすれば、ゲルマン的様式が民族性の本質への反省として再現され、健康性と活力とが、消極的な悟道や諦觀的な題材に取つて代つた。このことは建築にも當てはまり、ゲルマン的様式の典型とも云ふべき古代ギリシャ精神の復活が、建築界をも支配し、野外劇場、競技場等に見る豪壯なスタイルが創案された。又美術の實踐運動の主體は、國造形藝術會議所である。

以上簡單乍ら、一般的な宣傳活動を述べてみたのであるが、政府の宣傳用のフィルムは、觀者の反感を毫も喚らず觀衆が次第に増加するさうである。また映畫會議所が全ドイツの映畫館に最低入場料を課したために其の効果が一層强化されたといふことである。これによつても明かなやうに、現在ドイツの國家宣傳は、ヒットラー總統を上に頂き、ナチス主義の徹底化を眼目として行はれ、水も洩さぬ周到な組織と强力な斷行力とによつて、着々その目的に向つて成果を擧げてゐるらしい。

藝術と宣傳に關してゲッベルスは如何にも宣傳の總元締らしく、「吾人は屢々ドイツの藝術を宣傳

の道具にまで墮落させたやうに非難されてゐるが、これが果して墮落と云へるか。宣傳こそは立派な藝術にして、群集心理と相並んで、ドイツ帝國を覆滅の域より救ふところの經國の大業ではないか」と自負してゐる。

第四篇　對外宣傳の活動狀況

ドイツの對外宣傳活動が相手國にとつて威嚇であるばかりでなく、その方法が極めて巧妙且機を失しないことはもう已に定評のある事實である。ドイツの宣傳が外國で行はれてゐることはナチス當局者も認めて、それは何等惡意のないものであると公言してゐたのは第二次大戰前のことであつて、最近數年間の色々の證據を綜合すると、宣傳の事實に就いては彼等の云ふ通り疑ふ餘地がないばかりか、大戰勃發と共に、その策謀性は愈濃厚になつて來たのに氣が付く。ナチスの指導者が初めの頃に公言したやうに、ナチスの宣傳があくまで消極的、防衞的のもので、國家社會主義に關する外國の疑念を晴すと同時に、國外のドイツ市民を本國と聯結させる目的を持つに過ぎないものならば、何等不都合がないわけであるが、實際はナチの外國における宣傳はもう一つの、別な面を持つてゐたのであつて、これは世界各國の政府の關心となつてゐた面である。さうしてこの他の面の宣傳は現狀に對して攻勢的な態度を執り、地下的な行動によつて、ナチス國家の民族的膨脹の夢に有利な狀態を引き起さうとしたものであることは、已にナチズムの正體が明瞭となつた現在では疑

ひのないところである。

けれども、イタリー、日本のやうに政治的に共鳴のある國家に對しては宣傳は極力疑ひと不信の種を蒔かぬやうにすることは勿論であるが、ドイツが好意を得たいと思ふ他の强國、例へば合衆國などに對しては別な方法を取つて、殊に防禦的な宣傳が必要とされる。又英國は已に戰時の宣傳の對象となつてゐるのは勿論であるが、又ドイツ小數民族の居住する國々では又別な宣傳方法が考慮され、これは二種に分けて、ドイツ人の要求に好意を持つハンガリーのやうな親獨的な國と、スキスとか戰前のデンマークなどのやうにナチスに絕對反對の態度を示してゐる國とでは、方法が違つてゐなければならない。

けれども、重要なドイツ小數民族の居住する國で、政府が半ファシヨ的であるとか、少くとも政策上の理由で一時的にドイツと結んでゐるやうな場合は、ことさら宣傳も愼重な態度を持してをり、小數民族を祖國に向つて結合しようとするとき、かゝる政策は多數者の民族の恨みを買ふことを念頭に置いてゐる。

最後の部類に入るのが、强いて和解をする必要はないが、若し、ナチ化することが出來たら、貴重な同盟國と思はれる國々で、內亂前のスペインはその例である。

このやうに一般的に述べることは容易であるが、實際上破壞的な陰謀を組織して、一國をナチ化することは中々容易な業ではなく、それにも拘らず、近年ナチスの宣傳の進出は激しくなつて、殊に戰爭と共に、英米は勿論のこと、南阿、オーストラリア、アメリカ合衆國、スキス、ブラジル、スペイン、リトアニア、ソ聯邦等は皆これに對して對策を講ずる必要に迫られた。フランスは大戰前はあまりナチスの宣傳の注意を惹かなかつたやうであるが、英佛離間の宣傳が奏效して佛一國がドイツに降つたのは、まだ記憶に新しいところで、第二次大戰中のナチス宣傳の凱歌であると云へよう。

要するに、今次の大戰に入つてからは、ドイツの對外宣傳は專ら戰時宣傳の特色を帶びて來たと云へるので、それに就いては更に稿を改めて論ずる必要があらうが、簡單に云ふならば、總ての宣傳の對象を專ら英國に集中して、英國と中立國との間には離間的な術策を施し、英國を孤立に陷れると同時に、同盟國に對してはその親交の度合を一層固くしようと努めてゐるやうに思はれる。

以下は戰前の資料であるが、ナチス對外宣傳の一般を述べてみよう。

(一) グルツェズィンスキイの見たドイツ對內、對外宣傳組織

國別に對外宣傳に就いて述べる前に、こゝでグルツェズィンスキイ(Albert Grzesinski)が、かつてドイツ警察行政の最高機密に參劃した當時の經驗から、ドイツ政府並にナチ黨の諜報及び宣傳組織

に就いて、アメリカに於て洩した言葉を引用してみよう（ニューヨーク・タイムス、一九三八年六月二十二日附。彼は、プロシャ内務大臣にして、又一九二六年より三十二年迄、伯林の警視總監であつた由で、多分ユダヤ人である爲に、米國に避難したものと思はれる。彼は、大戰當時の英國の諜報制度にも劣らないドイツの情報制度の優秀さを述べ、若し、アメリカも、これに對應するだけの諜報組織を持たないならば、危險であるとの警告を與へてゐる。彼は、ドイツの情報組織は、一九一八年に完全に解體され、それは、外國の攻擊を考慮せず、情報組織の全資金を中止したためであると云つてゐる。一九二五年になつて、多少諜報活動は復活され、ドイツ政府の公けの許可の有無に拘らず、陸海軍は、自由に使用出來る特別資金をこのために用ひてゐた。ナチの諜報制度がかくも擴張された理由は、ヒットラー政府の人種主義に依るので、この主義とは、アリアン生れの在外ドイツ人は、外國政府に忠節を誓ふと否とに拘らず、ドイツ人であるといふことである。彼は「したがつて、在外ドイツ人は、ドイツの支配下にあるので、又諜報の場合に見る如く、ドイツの利益に奉仕する義務がある」と斷言してゐる。

グルッェズィンスキイによると、第三帝國の宣傳、監視、情報制度は、政府により監督される部門と、ナチ黨により監督されるものとがある。政府によるものは、(A)から(D)の部門に分れてゐる。

(A) 宣傳相、ゲッベルス博士の統率する宣傳省。

(B) 外務省――エルンスト・ヴィルヘルム・ボーレ（Ernst Wilhelm Bohle）が外國部の部長である。

(C) 情報及び諜報のために自局を所有する武裝軍隊。

(D) ゲシュタポ――ヘルマン・ゲーリングの監督下に、ヒンムラーが擔當する。

諜報調査に關しては、グルッェズィンスキイは宣傳省の第八部に特別の注意を拂つて、その任務は在外ドイツ人との諸關係を耕作することであると云つてゐる。

ナチ黨の對外諸關係に就いて、彼は組織を次の如く分類してゐる。

（イ）外國政治訓練部（Foreign political training section）と結合せる外國政治局（Foreign political bureau）――ローゼンベルク及びボーレ氏が擔當する。

（ロ）在外ドイツ人に對する新聞問題の專門家（エキスパート）たる政府新聞部長ディートリッヒ博士の管轄局。

（ヘ）フランツ・リッター・フォン・エップ將軍の下にある殖民地局。

（ニ）ナチ黨の國外組織局（Foreign Organization Office）。突擊隊及びヒットラー・ユーゲントの外國部を含み、ボーレ氏の監督の下にある。

（ホ）ナチ婦人組合。ゲルトリュート・ショルツェクリンケの監督下にあり、又國境地方及び在外ドイツ主義を擔當する。

（ヘ）ナチ教師組合。

（ト）ドイツ文官組合。

（チ）ローベルト・ライ博士の下にあるドイツ勞働戰線の外國部。

これらのナチ黨外國部の組織は、政府內の黨の組織と著しく類似してをり、ボーレが三つの部門に地位を有する事實は、この各部門の密接な關係を示してゐる。此の外にも、ゲシュタ－ポは自分の對外諜報制度を持つてゐて、又特別派出員以外に、時々外國へ商用旅行をする人をも雇用する。昨年八月には、ゲーテブルクのスエーデン宮廷は、ゲシュターポ派出員がスエーデンで、ドイツ學院の傭れ語學教師として活動してゐることを發いた。

（二）通信社を通じての對外宣傳

ナチスは通信社を通じて、不斷に對外宣傳を試み、且ニュースの蒐集と配給とを受けてゐる。その著名なものは、所謂D・N・Bの名で知られてゐるドイツ通信社及び「トランス・オツュアン」通信社で、この二社を通じて、宣傳省情報部指導の下に、對外宣傳を行つてゐる。ドイツの新聞ニュースが單調に過ぎるといふことは、政府當局も認めてゐるが、これはナチズムの宣傳が利き過ぎてゐるためであると思はれてゐる。しかし、一部の海外へのニュースは、政府によつて統制された上述

のやうな通信社の手を經てゐる。

「D・N・B」は一九三三年十二月五日、大陸通信社であるヴォルフ通信社(Wolff's Telegraphisches Büro)と國際通信社であるテレグラーフェン・ウニオン("Telegraphen-Union")とが合同して成立したもので、私的な會社として設立されたのであるが、その實、半官半民的な色彩を帶び、その株は全部政府が買上げ、政府が直接所有しない株も、實際はその信託的所有である。國內及び國外のニュースの配給と蒐集のために、自己直屬の支局、代表者、通信員などを各地に廣範に配備してをり、又ドイツ國內の諸新聞は直接か間接か、この通信社と連絡を結んでゐる。この通信社の主要な任務は、新聞用無電、電話、電信、電報等によつてニュースを迅速に配布することである。

この通信社の外に、「トランス・オツエアン」、「ドイツ政治外交通信社」("Deutsche Dirlomatisch-Politisch Korrespondenz)(外務省の機關として外交問題を取扱ふ)、「オステックス・プレス」(Ostex-press)(ソ聯及び東歐問題)、「ナチス黨通信」(Nationalsozialistische Partei-Korrespondenz)その他十餘の小通信社があるが、何れもそれぞれ別の分野で活動してゐる。此のうち「トランス・オツエアン」は「D・N・B」と同樣に、對外通信を目的として、南米等で發行される親獨的なドイツ語新聞に記事を供給するとか、無線電信で、英、獨、佛、西の四ケ國語でドイツの國內事情を諸外國に放送し

てゐる。また上述の「ナチス黨通信」は黨の通信を取扱ひ、主として國内の新聞の指導に當つてゐるのであるが、D・N・Bが一般の政治經濟を扱ふのに對して、この通信は黨に關係のある通信だけを目的とする。又これらの諸通信社は單にニュースを供給するといふだけでなく、ナチス黨の世界觀樹立のために一役を買つてゐることは勿論である。

(三)「プレッセ・アタッシェ」(Presse-attaché)

プレッセ・アタッシェによる宣傳は、相當重要な役割を果してゐるらしく、英・米・佛、その他近隣諸國に駐在するドイツ大公使館附の官吏を利用して、「プレッセ・アタッシェ」は、表面は外務省の官吏といふことになつてゐるが、その實宣傳省の情報部員であつて、直接同部長の指揮を受けて活躍してゐる。對外宣傳は、通信よりも、個人の自由な活動による方が一層效果的であるために、宣傳省では、益々この制度の充實に努力してゐる。

(四) ラヂオ其の他の方法

對内宣傳のあらゆる武器が又同時に對外宣傳の際に使用されることは勿論で、ヒットラーは宣傳の力によつて——或る論者は、ドイツの武力的背景の弱少國に對する壓力を考慮してゐるが——不戰の勝利を得、領土を獲得したと云はれるほどに、宣傳の諸機關の使用に巧妙を極めてゐた。例へば

オーストリア、ズデーテン、チェコ、メーメル等の何れの場合を見ても、その遣り口は大體同樣であつたが、最初ラヂオ及びドイツから密輸入した印刷物等で次第に國民の心を把握してから、續いて地下組織を創つて、宣傳の力を擴大し、やがて、民衆にドイツの偉大なことや、ドイツ社會狀態が良好で他國は到底これに及ばないことなどが、宣傳とは思はれぬ許り如實に、ラヂオ印刷物その他の方法で說かれる。けれども、この地固めが終ると、宣傳は一步攻勢に轉じて、相手國の統治者を彈劾し、やがてヒットラーが彼等に行動を起すであらうと說いて、ドイツのタンクや軍隊が國境を越えるための地步を着々と準備するのである。このやうな宣傳は勿論、相手國の心理的事情に應じて極めて巧みに組織されてをり、現在でもアメリカ等に對しては、ラヂオ、新聞等の機關を通じて、小休みなく活動を繼續してゐるが、こゝでは主として、ドイツの對外の宣傳放送は現在どんな狀況にあるかを論じてみよう。

その前に、ドイツにおけるラヂオ宣傳の變遷に就いて、注目しなければならない點は、その發達の經過からすると、大體三つの時期を經てゐるといふことで、政權獲得後は專ら對內的に勢力扶植に重點が置かれたのであるが、その後は單に國內ばかりでなく、ナチス國家の擴充と共に、次第に民族主義的理念から對外的に活動を開始して來たのである。けれども、更に今次の大戰に入るに及

んで、ラヂオによる鬪爭性は俄かに高まり、これを利用して、敵國の宣傳に對抗し、これに反撃を加へ、自己を主張しようとの意圖が明瞭に看取される。如上の段階は、ラヂオに使用される國語數の增加等の事實によつても知られるのであつて、ドイツの世界放送は使用語の數を增したばかりでなく、更にその放送區域を次第に擴大し、放送時間を延長して來た。

ドイツの世界放送と放送時間

ドイツの「世界放送」("Welt-Rundfunk")の放送開始は一九二九年八月にケーニヒスヴスターハウゼン（Königs-Wusterhausen）の四KWの短波局の試驗放送を手始めに、一九三三年四月一日北米向きに本放送が行はれ、其の後、アフリカ（一九三四年二月一日開始）、南米（二月二日）、東アジア（二月三日）、南アジア及びオーストラリア（一九三五年一月一日）、中米（五月一日）の諸地方に擴大し、一九三九年三月一日には南米ブラジル地帶向きの放送も開始した。更にヨーロッパ問題を契機として、最近はヨーロッパ向きに短波の放送も行つてゐる。

現在、放送所は一九三六年に設立されたツェーゼン（Zeesen）、演奏所はベルリンに置かれ、獨、英、和、西、葡語の五ケ國語が用ひられ、時にはアフリカーンス語、マレー語も使用することがあり、一九三九年春からアラビア語も用ひてゐる。

尙ほ開始當時の放送時間は、北米向きとして一日一時間四十五分であつたのが、昭和十四年現在では約二十二時間三十分に及び、これを地帶別に見ると、北米、中米が何れも約七時間、南米が七時間五十分（其他省略）等になつて、送信機使用時間の合計は一日百二十時間の上になつてゐる。

プログラム

プログラムはどんなものが放送されてゐるかと云ふと、放送ニュースの蒐集、編輯を行つてゐるのは宣傳省であるが、音樂、演藝類の放送が約六十五％、ニュースが約二十五％、講演その他が約十％の割合となつて、音樂放送ではドイチュラント放送局やベルリン放送局から約二時間にわたる輕音樂や管絃樂を中繼したり、その他シンホニーやオペラ、室内樂等を放送して、ドイツの音樂的傳統の偉大さを示してゐる。ニュースの方は一日二十回に近い度數で、放送する外に、經濟ニュース、週間市況、今日のドイツ（錄音）、スポーツ實況（錄音）、トピックス等が放送されてをり、講演としては、「ドイツの建設」、「ドイツ研究クラブ」などを設けて、ドイツの文化や現勢を紹介する外、「ドイツ語ＡＢＣ」と稱する語學講座を設けて、テキストを無料で配布、ドイツ語のアナウンスを外人にも理解させようとしてゐるのが見られる。このやうに、宣傳的要素と娛樂的要素とを巧みに取り

混ぜてナチスは宣傳に努めてゐる。

組織及び放送の實情

又その組織を見るのに、現在は國放送會社の中央指導局の全國放送指導部の第四部、外國部の下に、(a)藝術及び娯樂課、(b)報道課、(c)放送地帶課、(d)演出課、(e)國際プロ交換課の五課が置かれてをり、又その放送狀況は一九三八年の四月一日から十日までドイツの短波放送が短波放送開設五週年の記念放送を催してゐる外、五月ヒットラー訪伊の時は、多數のアナウンサー、技術員をイタリーに派遣して、五月三日から九日に亘り國際中繼放送を行ひ、特にイタリー艦隊の演習實況やオペラを中繼したり、九日にはシュトットガルトの在外ドイツ人大會を放送するなど、ラヂオは政治的宣傳の目的で巧みに利用されたばかりでなく、聽取者殊にドイツ語の聽取者の數が年々增加の傾向を示してゐることは、ドイツにおけるラヂオの功績を一層顯著にしてゐるものと云はなければならない。

ラヂオには國境がないのであつて、巧妙に利用するときは他の新聞、雜誌等よりも端的に人心に食ひ入る印象力が遙かに大きいところから、ナチスはこの制度にことさら力を入れてをり、又それ

だけに、相手國からの宣傳放送も遠慮なく自國内に這入つて來る危險がある。ドイツは戰時に入つてから外國放送聽取禁止に關する法令（昭和十四年九月一日附）を出して、外國の放送を聽取するものを嚴罪に處してゐる。ラヂオの宣傳は如何に有效であるにせよ、これを聽かないものには全く影響力のないことは勿論で、やがて外國からの宣傳放送を封ずるための科學的な手段が發達することであらうと思ふ。

現在ナチスが行つてゐる宣傳放送の例をアメリカに執つて考へてみると、南米と中米とを一地帶として、この地方に向けドイツはドイツ語、スペイン語、ポルトガル語で毎日放送を行つてゐる。その時、地方新聞がこれを取り擧げて、報道の解説を試みるので、その宣傳力は次第に增大してくる。このやうなニュースはドイツがやがて世界を指導し、世界はその傘下に、平和と繁榮とを享受するであらうが、これに反してアメリカ合衆國等の民主主義國は急速に凋落して、統治者は盜人にも等しく、國民こそ悲慘であると繰り返へして說いて、ことにストライキや暴力行爲が行はれた場合、アメリカの社會狀態の反映であるとして、これを宣傳放送に利用する。最近のある放送は、「正直な國民にとつてアメリカ合衆國はいとはしい國である」と述べたと云はれてゐるが、勿論その手段方法は巧妙微細を極めてゐる。

また時には、この宣傳は直接貿易國を目標にして、鐵道線路納入契約を續つて、獨米の會社が競爭するやうな場合は、ドイツからの電波は、アメリカの鋼鐵罷業を針小棒大に傳へて、ヒツトラーは決してストライキを許さないから、線路の注文はドイツにした方がよいと、放送したり、又正面から相手國を攻擊しないで、たゞナチスの政體は偉大であるとか、ナチに失業なしなどと遠まはしに喋々と述べ立てたりするが、合衆國などがナチスの反米宣傳に次第に目覺めるに至つたのは極く最近のことである。

第一章　オーストリア及びズデーテンに對するナチスの宣傳工作

(一) オーストリアのナチス黨

已にオーストリアとチエコはドイツの一部となつて、現在この兩國の問題を對外宣傳の項目で取扱ふことは不當であるが、こゝでは歷史的の觀點から、しばらくこの兩地方がドイツ領とならない以前に遡ることにする。一九三三年の政權把握によつて新しい力を得たナチズムは、國內の反對派

の克服に全力を傾ける一方、徐々に民族主義的理念に基いて、南方諸國に侵略の手を伸した。オーストリアは一九三八年三月十二日にドイツに併合され、チエコスロヴァキヤは同年九月二十九日のミュンヘン協定によつて、その重要な部分を同じくドイツに割譲してゐる。數度兩國の軍隊間に衝突があり多少の恫喝が行はれたとはいへ、ともかく殆んど無血のまゝで平和裡にこれらの地方がドイツに歸屬したことに對して、ナチス獨特の外交宣傳工作が與つて力があつたことは誰しも認めるところである。

ヒットラーは「我が闘爭」の中で、周知のやうに、「ドイツ人のオーストリアは母國である大獨逸に戻さなくてはならない。……同じ血の民族は同一の國家の中に住むべきである」と述べてをり、ヒットラーは已に政權把握の以前から自分の祖國であるオーストリアが獨領となる日を夢みてゐた。オーストリアのナチス黨員も亦自ら武器を貯へて、第三帝國の建設と共に彼等の活動は次第に顯著になつて來た。

ドルフス首相の暗殺

一九三三年三月、オーストリアの首相ドルフス（Engelbert Dollfuss）が兩國の併合運動に彈壓を加へて、オーストリアの獨立維持のために努力するや、オーストリアのナチス黨員の宣傳活動は俄

かに激化して、全國に亘つて恐怖手段（テロリズム）の爭鬪を開始すると同時に、國民の自由を抑壓するドルフス內閣を非難するラヂオ放送を行ひ、やがてはドルフス自身に向つて侮蔑の言葉さへ投げ附けた。けれどもドルフスは、ナチスの運動に飽くまで抗して一時は小康を呈したのであるが、其の後一九三四年に入つて再び兩者の緊張は破れ、遂に七月二十五日にドルフスはナチス黨員のために殺害されてゐる。この機會に、オーストリアの併合は斷行されるのではないかと危惧されたが、當時イタリーの態度がこれに反對の意を示してゐたため、オーストリアは辛じて事なきを得た。

シュシュニック首相――ベルヒテスガーデンの會談

ドルフスの後を繼いだシュシュニック首相（Schuschnigg）は一九三六年七月獨墺協定を結んで、ドイツはオーストリアの獨立を承認し、且オーストリアにおけるナチス運動は國內の問題でドイツ政府は何等關係がないと宣言して、これに酬ゆるためにオーストリアはナチスの政治犯人を解放し、個人として「祖國戰線」にナチス黨員が參加することを認めた結果、兩國間の對立はしばらく緩和したかのやうに見えたが、一九三六年の末に至り、ヨーロッパの政局は一轉した。即ち、十月にチアノ伊外相とドイツ外相ノイラートとの會談の末、ローマ、ベルリン樞軸が結成されることになつて、その結果から見ると、ムッソリーニは自ら進んでオーストリアをこの新同盟國の犧牲に供したと云

へるであらう。

一九三七年から三八年の初め頃まで兩國の關係は順調に進み、三八年一月十一日ヒットラーは、外交團に向つて、弱小國に侵略を試みないといふ友好的な演說を行つてゐるが、それから一、二週間、忽ち彼の態度は豹變して、二月十二日にヒットラー總統はシュシュニックをベルヒテスガーデンの山莊に招請、最後の通牒をつきつけた。ヒットラーの申出を拒絕するなら、事態が重大化することを恐れたシュシュニックは、これを應諾、その結果二月十六日內閣が改造されて、ナチス黨員であるインクヴルト (Dr. Seyss-Inquart) は內相として入閣、警察權をもその掌中に收め、更に外交政策もヒットラーの意の樣に從ふ旨が、承諾されたから、その後ナチスの指導者の勢力は次第に增大した。インクヴルトは新聞の監督權も與へられ、これまで反ナチス宣傳をなしてゐたユダヤ系新聞は一齊に彈壓を蒙り、又墺國新聞紙は法令によつてドイツ或はヒットラー總統を誹謗する記事掲載の禁止を命ぜられた。又同時にドルフス暗殺事件に連累したナチス黨員その他七百名は出獄の特赦を受けてゐる。

シュシュニックの國民投票の宣言

ベルヒテスガーデンの會談の後、オーストリアのナチス黨員の態度には過激の振舞が多く、彼等

はオーストリアのナチ化と、獨墺合邦の日も近いであらうと信じてゐたところ、一九三八年三月九日、シュシュニック首相は突然、その月の十三日を期してオーストリアの獨立に關する國民投票を行ふ旨を宣言した。ドイツ政府はこの突然の國民投票の決定に甚だしく立腹、特に投票者の年齢を二十四才以上に極めたことはナチス黨員の不滿を買つて、かくて、國内は物情騷然となつた。ナチス黨は一齊に起つて各地に示威運動を行ひ、到る所で警官隊と衝突、ウィーンでは政府は警官隊を動員してナチス黨員の示威運動の阻止に狂弄したが、力及ばず、デモが敢行され、國民戰線事務所等は破壞され、やがては軍隊の出動騷ぎまで各都市に波及した。

ヒットラーはこの行爲を違憲的なものとして、シュシュニックの辭任と親獨政府の樹立とを迫つたため、事態は愈々惡化、ドイツ軍隊は國境に續々と集結するといふ有樣で、シュシュニックは遂に辭任の止むなきに至つた。シュシュニックの後を繼いだ新首相のインクヴルトは、治安維持と流血の慘を避けようとして、ヒットラーに派兵を電請したが、三月十一日の夜のオーストリア出兵に對する法理上の根據を、ヒットラーはこの事實に求めてゐる。ドイツ軍は何等の抵抗を受けずに國境を越えることができた。

ヒットラーのオーストリア侵入と當時の宣傳工作

上述のオーストリア侵入とこれに續く諸事件は、ナチス宣傳の無慈悲さと有效性とを示す實例として、われわれの記憶にまだ新しいのであるが、この時からナチスの宣傳戰は愈劇甚を極めて行つた。ドイツ軍隊が越境したのは十一日の夕方であつたが、その翌朝の十一時にはナチス黨員はウィーンの放送局を占據して、早速宣傳放送を開始してゐた。全國に亘り要所、要所はナチスが固め、ユダヤ人及びカトリックの諸新聞は一夜にしてナチスの機關と化した。一切の不純な分子は公職や警備の職から肅清されて、ヒットラーはオーストリア人の熱狂する拍手裡に、十二日に祖國オーストリアに凱旋したのである。當時教會、學校、軍隊、商工業界等でナチスの宣傳家は必死の力を傾けて活躍したと云はれてゐる。この事件を評して、ドイツ側の代辯者は、「オーストリア人は大群をなしてヒットラーに拍手を送つた。春陽の輝きのなかに、幾百萬といふ人人の熱狂した承諾を受けて、オーストリヤはドイツ國と結合した。暴力は用ひられず、一發の銃聲さへも聞かれなかつた」と云つてゐるが、この不戰の勝利の背後にはドイツの巧妙な外交戰術のあつたことを忘れることは出來ない。ウィーンでは、シュシュニックの沒落と國民投票の延期が發表されるや、街の到る處に貼られてゐたシュシュニックの肖像入りのポスターは殘らず引外され、ハーケン・クロイツの腕章をつけた連中は隊伍を組んで街を練り歩いて、「ハイル・ヒットラー」を言ひ交はし、酒場はナチス黨員で賑ひ、街

の角にはナチスの旗が貼付けられた。

ヒットラーの國民投票布告とその後の宣傳狀況

其の後ヒットラーは十三日に至り、無期延期した國民投票を四月十日に行ふべき旨を布告したが、この布告の日から投票日までナチス宣傳はその絶頂に達したと云はれてゐる。ナチスの敵は國內到る處で無慈悲に迫害を受け、ことにウィーンにおいてそれが甚だしかつた。これより前、ナチスの宣傳は一九三四年一時斷歴を受けたけれども、その後徐々に進展してシュシュニックは歩一歩と押し除けられ、一九三六年七月の協定は表面上はオーストリアの獨立を保證するものであるが、實際はオーストリアにドイツの一部としての條項を强いるものであつた結果、ドイツ人のオーストリアにおける勢力は俄かに增大して、シュシュニック政府はナチスの宣傳に對して抗爭を試みなければならなかつた。

オーストリア當局は、ドイツ人がナチス宣傳物を密輸入してゐるのを發見して度々公式の抗議を申込み、又ナチス宣傳家を逮捕したり、監禁したりしてゐる。このやうにベルリンとウィーンとの間に起つた出來事や非難の應酬は、一九三八年一月の末に絶頂に達して、オーストリアの警察當局はウィーンのナチ「和睦委員會」("Pacification committee")の本部を襲撃して、文書を押收した結果、

有名なナチス黨員のレオポルド・トーズ（Dr. Leopold Taws）は國事犯として逮捕された。
この文書の中に發見された暗號の計畫書はその署名から「R・H計畫書」と稱されるもので、オーストリア獲得のナチスの計畫が詳細に書かれてゐたと云はれてゐる。この計畫書によると、ナチス黨員とドイツ人は國境の事件を燃え上らせて、オーストリア國内に騷動を起こさせる、さうして、オーストリアの警察がこれを鎭壓するやうな場合は何時も、國境附近に演習のために集結してゐたドイツ國防軍をオーストリアに侵入させて、ドイツ人を流血の慘事から守れといふのである。
この文書が發見されたため、シュシュニックはこれを列强に通達した後も、依然ヒットラーは同じ行動を執るやうに命令を出してゐたと云はれ、更にベルヒテスガーデンで協議を行つた際は、ヒットラーがシュシュニックに最初に紹介した人人の一人に、オーストリアの干渉軍の總司令官としてR・H計畫書に擧げられたライヒェナウ將軍（General von Reichenau）がゐたと云はれてゐるのは如何にもヒットラーの押の强さを示す事實である。其の後シュシュニックに形勢は次第に不利となつて、やがて、オーストリア獨立のための國民投票の宣言となり、これを阻止するためにドイツの行動が愈々顯著になつて、やがてシュシュニックが辭職するまでの經緯は前に述べた通りである。ヒットラーが四月十日に國民投票を行ふべきことを宣告してから、如何にナチスの行動が激化したかを示す實例を以下

しばらく述べてみよう。即ちシュシュニックその他の政府の要路者は監禁され、幾千といふユダヤ人、幾千といふ社會主義者、王政派、その他の人人は檢擧された。自殺によつてナチスの苛責から免れるのが普通の手段となつて、自殺こそナチス反對者を取り除くための便宜な方法だと斷言するものさへあつたといふ。一九三四年七月ウィーンでナチスを提怖させた軍隊の指揮に當つた「國防軍(ハイムウェール)」の指揮官、オドー男爵（Baron Odo）とか、首相官邸でナチス叛亂の屈服を協議したエミール・ファイ少佐（Major Emil Fey）などが檢擧された仲間で、又ドルフスを殺害したプラネッタ（Planetta）、ホルツヴェーヴェル（Holzweber）の二人も有罪として死刑にされた。

更に、ウィーンのユダヤ人はナチスの迫害から逃れられず、最も激しい苦難を受けた。職場を追はれ、家は掠奪に逢ひ、投獄されて投擲されたり、屈辱的な仕事を强ひられた。グンテル（Gunther）によると、約七千人のユダヤ人がこの時自殺したとのことで、社會的に名聲の高い人では、心理學者のフロイド、醫師のノイマン等は何れも拘禁されてゐる。

四月十日の國民投票日には例のやうに、はげしい宣傳戰が行はれ、往來を突擊隊員が堂々と行進をした。若しシュシュニックの希望する日に國民投票が行はれたとしたならば、ナチスの得點は四割にしか達しないであらうと云はれ、ヒットラーもこれを心得て、外交的手段と宣傳とによつて有利な狀態

が現れるまで投票日を延期させたことは、何と云つてもヒットラーの慧眼と云ふべきであらう。

一方宣傳相ゲッベルスは、これまでの如何なる宣傳家にもまして併合のために熱意を傾けた。最初は海外のドイツ人の票數を獲得するやうに努力して、出來る場合は「追放者」さへもドイツ船に乘せて、見えを張るために、この船は投票前には三哩の限界の向ふ側を航行してゐたと云はれてゐる。全世界の港で、ドイツ船は選擧場と變つて、ニュージーランド、ブラジル、支那、その他の地方から投票日の前の丸一週間は票數が續々と流れ込んだ。

ドイツ國内の選擧戰も狂氣にまで激化して、持ち運びの出來る映畫が街々に現れ、ウィーン占領とユダヤ人追放の有樣を寫したり、至る處のラウドスピーカーから演説が響き、ナチ黨員の有力者は皆ヒットラーの例にならつて、ドイツ民族の運命に關して熱辯を振つて全國を巡回した。投票日の前日は「大ドイツ國の日」と堂々と宣言された。正午に二分間總ての交通や活動が中止されて、その間飛行機は町々の上に現れ、工場のサイレンは鳴り響いた。ドイツの統一と、在外ドイツ人に對するドイツの支配力とは見事に成功して、全選擧人四千九百五十四萬六千九百五十人のうち、九九・〇八％の併合贊成者に對して、僅か〇・九一八％の反對といふヒットラーも豫期しない票數の獲得となつた。

(二)　ズデーテン地方の併合問題

ズデーテン・ドイツ人

オーストリアのドイツ併合に續いて、同じ年の九月二十九日のミュンヘン協定によつて、ドイツに割讓されたチエコ領ズデーテン地方に對するドイツの宣傳活動を述べることも甚だ興味が深いのであるが、何よりも第一に目に着く點は、此の際もやはりドイツの宣傳は前の場合と類似してゐるといふことで、その經過をしばらく簡單に述べてみよう。

不可避の歐洲大戰を當時辛じて免れることのできたのは、皆チエコの拂つた犧牲のためであると云はれるほどに、チエコ問題は全歐土にとつて重大問題であつた。けれども、ドイツが双に縮らずしてその要求を貫徹した點は、ヒットラー總統の外交戰術の大勝利であつた反面、不思議にもミュンヘンに集つた四巨頭は誰も顔が潰れず　あだかも凱旋將軍のやうに歸國したといふ事實は、當時ヨーロッパ全土に亘つて戰爭回避の機運がいかに濃厚に漲つてゐたかを示すもので、ドイツの奇蹟的な成功もやはりこのやうな客觀的情勢に因る點が多いのであらう。

最初に問題の中心であるズデーテン・ドイツ人とチエコとの關係から述べてみるならば、チエコ人

ばかりの居住する地方の外邊には、全人口の約二十二％のドイツ人（一九三〇年の調査）が居住して、まだドイツの支配を受けたことはなかつた。前歐洲大戰の前は此れ等のドイツ人はオーストリア・ハンガリア帝國の國境内にあつて、一九一九年の平和會議でオーストリアはこれらのドイツ人の住む地方を要求したのであるが、大部分の地方が地理的にオーストリアから離れてをり、チエコスロヴキアにとつて自然的な國境となつてゐたため、その一部としてチエコ内に留まつたのである。しかるに、ズデーテン・ドイツ人は、オーストリアの自治州となることを希望して、これが拒まれるや、一時彼等はチエコ政府に消極的な敵意を示したが、その上彼等の運動は進展しなかつた。

ズデーテン・ナチス黨——"Volkssport"

本來、ボヘミアに誕生したズデーテン・ナチス黨はドイツのナチス黨と同樣に、反ユダヤ主義、反民主主義、汎ドイツ人主義を奉じ、あらゆるドイツ語を語る民族を一國に結合したいとの希望を持ち、祖國のナチス黨と同じ旗と制服とを採用してゐた。彼等の勢力は決して侮り難く、その議員數は一九二〇年には五人であつたのが、一九二九年には八人に增加し、殊に、青年層に魅力があつた。一九二九年から、ズデーテンのナチス黨は二十一才以上の青年で、所謂「國民運動」（"Volkssport"）を組織し、彼等はドイツの突擊隊と同一の制服を着用、同樣の行動をし、又軍隊式の訓練を受けて

ゐた。一九二九年にはニュールンベルグの黨大會に大部隊を派遣してをり、「ヒットラーに忠節」("Tren zu Hitleu")なる標語の下に行進をしたのであるが、その後一九三一年「國民運動」の制服着用はチェコ當局者によつて禁ぜられた。

「ズデーテン・ドイツ組國戰線」(S. H. F.)の結成

けれども其の後上述の「國民運動」の告訴事件があり、チェコ當局の壓迫の增加と共に、ナチス黨の運動は却て積極化して、一九三三年十月、コンラッド・ヘンライン(Konrad Henlein)を盟主とする「ズデーテン・ドイツ人祖國戰線」("Die Sudetendeutsche Heimatfront")(S.H.F.)が結成され、他のナチ黨、國民黨は皆これに合流した。けれども、當時のナチスは未だチェコから分離する肚はないらしく、「ズデーテンの安泰は、チエコスロヴアキア共和國の安泰と密接な關係がある」と、一九三三年にヘンラインも述べてゐるが、これは表面上のことで、その後ヒットラー政權の樹立と共に運動が活潑となつて來たことは無視できない。

その一例として一九三五年五月に行はれた選擧の際の宣傳戰を述べると「祖國戰線」は一九三五年の初め頃から、一九三三年の春、秋のドイツの選擧と同樣な徹底的な選擧戰を開始してゐた。兩國で用ひられた方法は全く酷似してゐたと云はれてゐるが、一月二十四日までに、會合や宣傳物の

配布に關して詳細な指令が出た。「祖國戰線」のメンバーは街々を運動する責任を負はされ、又「シュプレッヒ・ケーレ」("Sprech-Chöre")と稱するスローガンの合唱團が組織され、例へば、「誰がわれわれを裏切つたか、――社會民主黨だ。」などと叫んで歩いた。又選擧前の金曜日には、祖國戰線は處々で最後の一瞬の集會を催すために各地方の大集會場を獲得して置かなければならぬと黨の組織者に通告された。五月十四日にはエーゲルの祖國戰線(the Eger S H.F.)はその黨員に、一枚のパンフレットも、スローガンも、引出しの中に置き忘れたまゝ配布しないのは、責任感の缺除を示すものであると告げてゐる。「このやうな、指令は(指令第九十八號)(選擧前の最後指令)(Weisung no. 98)(Letzte Weisung vor den Wohlen)との見出しが附けられてゐた。」S・H・Fの宣傳は、ユダヤ人打倒、赤化防止、世界大戰に參加した指導者コンラッド・ヘンラインのやうに戰線の兵士の精神で團結することの三項目を中心にして、肥つたユダヤの社會主義者、腐敗した黨の指揮者は、國民の不幸の責任者として、多數の漫畫に描かれ、その攻擊はチエコ人よりも、寧ろドイツ社民黨に向けられてゐた點に注意を要する。

「ズデーテン・ドイツ黨」(S. d. P.)

その後チエコ政府の要求で一九三五年に、祖國戰線は「ズデーテンドイツ黨」("Sudetendeutsche

Partei")(S.d.P.)と改稱してゐるが、選擧の際に、いろいろな感情的要素を採り入れる新戰術は、彼等が祖國ドイツから學んだものであることは明かで、このやうにして、宣傳と戰爭回避の心理戰が開始されて、多額の金が武器よりは寧ろパンフレットや放送のために費され、大衆の神經をヒステリカルにするやう、あらゆる努力が拂はれたのである。その結果、ナチスの世界觀の支配者さへも、正當の理論を何處に求めてよいのか解り兼ねたと云はれてゐる。

けれども、一九三六年三月、ヘンラインは英國の新聞に、「われわれはヒットラー主義もファシズムも信奉するものでなく、所屬する國家の忠節な市民であつて、その憲法を忠實に認めてゐる」と述べてゐるから、其の後チエコのナチス運動が俄かに反抗的な素振りを示して來たのは三八年のオーストリア併合による刺戟に基くところが多いものと考へられてゐる。

即ち、一九三八年四月二十四日のカルルスバードの演說で、ヘンラインがズデーテン・ドイツ人の政策はナチスの主義と精神とに基いてゐると述べた時から、チエコ政府の讓歩の意志があるにも拘らず、ナチスの要求は到底妥協の餘地を殘さないまでに積極化したのであるが、やはり、その背後には糸を繰るヒットラーの策謀的な宣傳の手が隱れてゐたことは無視できない。

ドイツ小數民族とドイツの宣傳工作

一體、チェコ國內の少數民族たる獨逸人がチェコで如何な待遇を受けてゐたかといふことを、こゝで一應考慮してみると、彼等はチェコ人と同樣の市民權を與へられず、國語、敎育、官吏任用上の制限等で差別待遇を受けてゐた。更に一九三二年頃よりチェコを襲つた經濟上の不況は主として工業に從事してゐたドイツ人に打擊を與へたのであるが、チェコ政府はこの對策に際して、チェコ人に厚く、獨逸人に薄く、不公平であつたために、次第にチェコ人に對する反感の芽が培はれたものと思はれる。

けれども獨墺合邦後、このやうな人種上の問題は宣傳のための好題材として取扱はれたことは明瞭で、一九三八年八月三日にランシマンが英國より、調停のためにプラーグに到着した頃は、ドイツの新聞は憎惡の戰爭を濃厚に開始して、無抵抗のズデーテンドイツ人に對して行はれた慘行の數々を紙上に揭載したり、どんな些細な事件も針小棒大に誇張して、ことさら眞實を歪めてドイツの讀者に刺戟を與へることに努めた。例へばヘンライン黨の一員がドイツ社民黨の一團によつて殺害された際も、「チェコ人の暴虐の新しい浪」と報道して、眞の犯罪者が誰れであるかを斷定したドイツの新聞は只一紙あるだけであつた。

一方宣傳相ゲッベルスもチェコ人と小數民族のドイツ人との關係を惡化させるために骨折つて、

一九三七年には二度にわたり、惡意のあるドイツの報道はドイツ小數民族に對する警察當局の暴行をチエコ政府の責任として非難してゐる。例へば三十七年十月十九日の「フエルキッシエル・ベオバハテル」は「虛言と憎惡、慘殺と暴兇がチエコスロヴァキヤ國の誕生の際に行はれたのであるが、その後も依然このやうな行爲が絕えない。……國內の暴行は數萬の人命を若死にさせ、……數百萬の人間を飢餓に陷れた」と嘲弄してゐる。その年の後半に、ヘンラインの代理人と數人の他の黨員が不自然な犯罪を冒したといふ理由で檢擧されたために、ズデーテン・ドイツ黨は一時暗影に捉はれたが、チエコの事件なら如何なる小事件でも不平の種に利用しようとしてゐるナチス諸新聞も、この事に關しては默して語らなかつた。ベネシュ大統領の行政をボルシェヴィストの「まはしもの」と冷笑する一方、ドイツの弱腰の時代は過ぎたから、若し小數民族の處置に失敗するなら、いまはしい結果になるであらうと堂々と威嚇を試みた。

汎スラヴ主義の夢

又更に一層微妙な方法でナチスの宣傳はチエコに食ひ入つて行つた。即ち、汎スラヴ人の再興運動に對してポーランドとハンガリーが恐怖の念を抱いてゐるのを利用して、チエコがバルト海からダニューブ河に至るまでの一大帝國の建設を目論んでゐるといふ宣傳びらを、中央ヨーロッパに亘つ

て幾百萬となく配布した。このやうな事情の下で全く空想じみた斷言であるが、これは歴史的に全然根據のないことではなかつた。

一九一四年の以前に、汎スラヴ主義の夢は帝政ロシアに初まり、そこで、北極からアドリア海に達る、總てのスラヴ民族を包含した一大帝國の建設のために宣傳家達は活躍したのである。チエコ政府はドイツ側の宣傳した一九三七年の同様な汎スラヴ主義の理想を直に惡意の虚報と非認したけれども、一時なりともその近隣國との緊張を高めるのに役立つた。また一九三八年二月二十日の國會の演説でヒットラー總統はチエコに重大な警告を與へた。ヒットラーはオーストリアとチエコにおけるドイツ人の狀態を結び付けて、ドイツの國境外で千萬人以上のドイツ人が居住するのはこの二國だけで、彼等は自己の意志に反してドイツとの結合を阻止されてゐるのであるが、たとひ分け隔てられてゐても、彼等の權利が奪はれることは出來ないと宣言し、總ての在外ドイツ人の利益のために、ドイツは尊敬を確保する資格があるとの旨を述べてゐる。

獨墺合邦後の宣傳戰

前述のやうに、一九三八年三月の獨墺合邦はチエコスロヴァキアに對して必然的に反響があつた。ヘンライン黨の名聲は俄かに高まり、社民黨以外の他のドイツ人の黨派は何れもヘンラインの指導

の下に合體して、ヘンラインは益々公然とベルリンからの指令を受けた。小數民族の代表者も次第にチェコ政府に對して強腰となつて、「もう十二時までに五分があるばかりだ」とか、「遲すぎない內に」と云つて、小數民族に對する政策を變更せよと、政府に警告を與へて迫るといふ有樣だつた。

これに續く數ケ月間のドイツの宣傳戰は三期に分類できるであらう。即ち最初の期のアヂテーシヨンは三月二十四日にヘンラインが提出したカルルスバードの要求を超えることはなく、チェコ內にナチスドイツの自治體を求める程度のものであつたが、間もなく分離の問題が、慘虐事件の背景に投射されて前面に出て來た。さうして、最後の期にはドイツの新聞やラヂオはチェコ國の絕滅を轟然と要求した。この最後の爭鬪が絕頂に達した時に、英國海軍とフランス陸軍が動員され、チェンバレンの調停があつて、ヒットラーはしばらく逸る足を留めたのである。

第一期から第二期への變遷はあまりにも急であつたために、ズデーテン・ドイツ黨の領袖さへもこの新局面の出現に當惑したといはれてゐる。九月の第一週までは、彼等の野心はチェコ政府を脅喝して、ロシアとの協約を破棄させようとする程度のものであつたが、ゲッベルス一派の煽動のため數日間に形勢は一轉、仲裁に來たランシマンも匙を投げなければならぬ程惡化してゐた。

ナチ宣傳家の使用した技術は多種多様に亘つてゐたが、その實例を述べてみるならば、「ズデー

チンドイツ人がドイツ社民黨員と酒場で喧嘩をして殺された際も、ドイツの諸新聞は皆、翌日この事を大事件のやうに取扱つたが、その殺害者がチェコ人でないことを報道したのは『フランクフルテル・ツアイトウング』だけだつた。三人の負傷者が出た生徒間の格鬪事件は、ナチスの新聞の報道によると、殺伐な爭ひとなつて、チェコ人の暴虐行爲の實例として取扱はれ、モロヴスカ・オストラヴァ（Morovska Ostrava）の事件も『惡魔のやうな暴行』とされて、不意に有利な條件を提出された時にその協議を打ち切るための口實としてヘンライン一派のものは利用した。しかも、これに續いて報道された事件は、ズデーテンの派遣員が町に到着して、示威運動を行はうとしたとき、興奮したチェコの警官が乘馬用の鞭で打つたといふやうなことであつた。町の警察署長は辭任し、その部下數人もプラーグからの命令で休職にされたのであるが、このことはナチスの新聞に一行も報道されなかつたことは云ふまでもない。更にまた、ヒットラー總統の演說のあつた翌日ズデーテン地方の暴動で十三人の者が殺害されて、ナチスの諸新聞はこれをズデーテンの犧牲者として取扱つたのであるが、實はその殺された十三人の內九人まではズデーテン人の手に倒れたチェコ人である。ズデーテン地方に戒嚴令が布かれて、戰禍を逃れるために、避難民が國境を渡つてドイツに殺到したときも、彼等の色彩の濃厚な『體驗記』は又ナチスの宣傳の好題材であつた。その有樣はあだかも

地獄から逃るさまに異ならず、『獸のやうなチェコの暗殺者』が女子供に迫り、ドイツ人は家族、親戚さへも殺害するやうに命ぜられ、捕虜になつた逃亡者は拷問にかけられ、射殺された。又最後に、『赤色の脅嚇』が利用され、中央政府の『モスコウのギャング』に對し、ズデーテンにおける自由行動權を與へたから、ベネシュ大統領は『過激派（ヴォルシェヴィク）』に對する統制は完全に消滅したとドイツ人は告げられた。――しかもチェコ人とその軍隊の威嚴と抑制力とが全世界の驚きと賞讃の的となつてゐた當時のことである……。」("Propaganda Boom" P. 250)

以上は英國人の觀察したドイツの宣傳の實例であり、果してどの程度まで正鵠を得てゐるか多少疑問の點がないではないが、要はドイツ側の報道と、實際の事情との間に、どれだけの懸隔があるかといふ點が問題になり、このやうな暴行沙汰は勿論あつたであらうと推定されるのであるが、これを如何に新聞界その他が取扱ふかといふ處に宣傳の活動の餘地があるわけである。昨年末のポーランド問題に際してドイツの新聞はしきりとポーランド人がドイツ人に對して行つた「暴虐事件」を大文字で取扱つてをり、その眞相は別としても、このやうな出來事が相手國を罪に陷れるための宣傳の好題材となることは云ふまでもないことである。

ヒットラーの演說

けれども新聞などによる、裏面的な宣傳工作として、以上の事件を利用したばかりでなく、ヒットラーは九月十二日のニュールンベルグの黨大會で、堂々とチェコ人の暴虐行爲を述べて、宣傳家としての手腕を發揮してゐる。即ち、對內的宣傳のためであらうが、彼はズデーテンドイツ人に加へられた「耐え難い慘虐行爲」を激しく非難して、「畜生のやうに打たれ、……暴行され、虐待され――野獸のやうに追ひ廻はされた」と云ひ、チェコ人はドイツ小數民族を絕滅しようとしてゐるのであると說き、「三百五十萬のドイツ人がチェコ人虐待によつて壓迫され、破滅に瀕するが如きは終らしめなければならない」と叫び、更に、「余はチェコに於ける三百五十萬のドイツ人に對する壓迫を中止し、之に代へるに民族自決の自由權を以てせんことを要求する。之によつて、ドイツと他の歐洲諸國との關係が阻害されるならば遺憾であるが、この場合の責任は彼等の側にある。……」と續けて、ズデーテン・ドイツ人のために滿腔の同情を示すと共に、戰爭の勃發の曉きは、その責は民主國側にあると巧みに急所で身を轉じてゐる。

このやうなヒットラーの宣言は效果覿面で、ヒットラーが百パーセント、ズデーテン黨援助の意志あるのを知ると、俄かに同黨のチェコに對する態度は硬化、單にカルルスバードの條項だけでは不充分であつて、ズデーテン・ドイツ人の自決權も考慮すべきであると、衝突事件が各地に瀕發して事態

險惡を極めた。

かくてズデーテン・ドイツ黨の提出した要求はチエコの一蹴するところとなり、獨チ關係が急迫を告げた時に乘り出したのがチェンバレン英國首相で、彼はベルヒテスガーデンでヒットラー總統と會談、更に九月二十二日のゴーデスベルクの會談となり、種々の紛紜を經た後で、九月二十八日のミュンヘンの四國會談が行はれ、やうやくチエコは讓歩して、歐洲の大戰の口火と思はれた問題は、チエコの犧牲において解決を見たのであるが、その經過はここで詳言する必要もあるまい。

ヒットラー總統は、チエコスロヴァキアに對して何等領土的野心なしと公言したにも拘らず、たくみに一方人道主義的の立場から、チエコ人のためにと宣傳をこゝろみながら、他方伊太利、英國、フランスと外交的折衝によつて諒解を求め、結局、この提言が云はず語らずに、傳へてゐる民族的要求を實現させたことは、何と云つてもヒ總統の大成功であると云はねばならず、更に四巨頭が何れも平和の恩人として本國に歸還出來たといふ事實は、歐洲全般に瀰漫してゐる戰爭回避の空氣に乘ずるのにヒットラーが如何に慧敏であつたかといふことを示すものであらう。

第二章　對英宣傳

ナチスの宣傳は最初から二つの面を持つてゐた。第一は內部的にドイツ民族を統一して、小數の反對者を克服する目的であり、他は外部的にこの新政府を國外諸國の政府と國民に對して、有利に紹介する目的である。けれども、この後者の面は次第にコミュニスト・インターナショナルと類似な性格に變貌して來た。元來ドイツ語を語る民族は世界各地に散在してゐるのであるが、ナチス政府はこのやうな在外ドイツ人が本國政府の權力を承認して、母國と關係のある愛國的な地方團體を組織することを希望するやうになつた。さうして、自ら、このやうな諸團體が英國、合衆國その他の國々でナチス宣傳の役割を果したわけである。

本節を逸れるが、ここでしばらくナチスの對外政策のことに觸れてみると、本來ナチスの對外政策はヒットラーの「我が爭鬪」中にその中心的な傾向が窺はれ、これと共に一九二〇年に決定されたナチス黨綱領も重要な方針を指示してゐる。後者が黨の綱領として、世界に公約されたものとすれば、前者はナチス獨裁者たるヒットラー自身が、自身の決意を表明したものと見なくてはならない。第二篇第一章で述べたやうに、綱領の第一條には、民族自決權に基いて、總ての獨逸人を糾合して

大獨逸國を建設したい希望が述べられてをり、第二條、第三條に於ては、ヴェルサイユ條約及びサン・ジェルマン條約を破棄し、ドイツ國民を養ひ、且國內の過剩人口を移住させるための土地及び領土を獲得することが、その主要な要求となつてゐる。

フェーダーは「獨逸の國境を越えて住んでゐて唯一人のドイツ人をもそのまゝにはして置かない」と云つて、完全なる全ドイツ民族を包括した大ドイツ民族國家の建設を要求してゐるが、必しも强制力を以て、獨逸人を他國から自國內に引き入れようといふのでなく、他國人間に在つても獨逸人が平等の市民權を獲得し、均等の待遇を得ればよいとの意味であるらしい。

しかし、これにもまして强烈に、ヒットラーは、「わが爭鬪」の開卷第一頁において、「血を同じくする民族は一國家に屬すべきである。ドイツ民族はその同胞を一國家內に包容し得ない限り、植民政策に手出しをする道德的權利はない。最後の一人に至るまでドイツ人をドイツ國內に包容し、その生活を安定させ得ざる限り、窮乏の同胞をそのまゝに放任して領域を外に求める道德的權利はない筈である」と民族國家建設の決意の程を述べてゐる。オーストリア及びズデーテン地方の併合は、この主張が實現されたものに外ならない。これによつて一千萬人以上のドイツ人を歸屬させることに成功し、ドイツ人大同團結の目的の半は達成されたことになる。若しヒットラー主義がその

主張を貫徹するものとすれば、更に他國内に在るドイツ人に對してもドイツ國に歸屬させるやうな方策に出るものと見るべきで、又こゝに諸國に對する種々の工作も自ら生ずる譯であるが、ゲッペルスはかつてヨーロッパの諸國を三つの範疇に分類してゐた。即ち（一）は將來ドイツ軍隊が侵入する國々、即ち、バルチック共和國、バルカン諸國で、こゝでドイツの宣傳は、將來ドイツの膨脹する際の道を開拓する役目を果す。（二）はフランスのやうな國々で、その政治的獨立を破壞するのが目的である。又（三）は英國の如き國で、何處かに膨脹が進展する際に身方に引入れるか、中立化させるのが目的である。

けれども、現在已にこのやうな分類は消滅して、英國は最早宣傳戰の對象であるばかりでなく、武力戰の相手となつてゐることは言を俟たないが、過去における英國のナチズムの運動を大略、「ニューステーツマン」（一九三七年七月二十三日）の記事によつて攻究してみると、英國には、本來あまり多數の獨逸人は在住してゐないが、その間には、最も優秀な頭腦の亡命者もをり、果してゲッペルスはどんな方法で宣傳を試みてゐたか。

ゲッベルスのパンフレット

ゲッペルスが一九三三年宣傳省大臣となつた時に、彼は英國人が平和主義者で、ヴェルサイユの

解決方法を後悔してゐるのを發見した。故に、ベルリンの出版社ミュラー社（Messrs. Müller and Sons）は數冊の英語で書いたパンフレットの出版を委託された。それは、ヴェルサイユ條約を人類史上の最大の不正であることを强調して、英國人の正義感に訴へようとしたものである。これ等のパンフレットは無缺點な英語で書かれてゐる處から、多分英國人の手になつたものと思はれてゐる。同樣な目的で、英米出版社（an "Anglo-American" Publishing Company）（米國人がこの事業に實際關係ありしか否かは不明であるが）が創設され、ベルリンとハンブルグとに支社がある。これらのパンフレットは、地均らしを行ひ、拔き打ち的な衝擊を緩和する目的で、ヒットラーの英斷政策が行はれる度每に、その約二箇月前にイギリスに送られた。

イギリスで、平和主義が大きな勢力を持つてゐることを知つてゐるゲッベルスは、これを利用して、彼等を親獨的な方向に手繰り寄せようとした。この方法の典型的な一例は、總統代理であるルドルフ・ヘッスの書いた「ドイツと平和――一軍人の通信」（Germany and Peace—A Soldier's Message）で、その表紙の上には、「公刊の目的ではない」と書いてあるが、このパンフレットは、戰爭の無用なこと、英獨の退役軍人の共同の利益などについて、誰にも理解出來る言葉で物語つてゐる。「戰線の塹壕で戰つた一軍人として、他の全世界の戰線にある軍人に向つて、」ヘッスは「こ

うしなければならないのか。善意と協力とによつて、我々は人類を戰禍から救ふことは出來ないのか」と、巧みに平和主義を鼓吹した。

かかる宣言に誰も同意を示すのは勿論であるが、しかし、ゲッベルスは、この平和主義をドイツ國境の東部や、スペインには適用ようとはしなかつたのである。又ゲッベルスがドイツ人に云つてゐるやうにナチスの目的は、僞つた民主主義の悉くを、全世界何處でも、必要とあらば暴力に訴へても、破壞させることであることを、ヘッスはこの小冊子の中で想起させることを忘れてゐた。

イギリスに於けるナチスの宣傳は、このやうな人道的な、寛大なセンチメントを利用してゐたが、しかも自國内に於ては、それらは極めて無慈悲に蹂躙されてゐた。

ワールド・サーヴィスの組織（World Service）

ドイツは、强烈な反ユダヤ人運動を、イギリスをも含む多くの國々で遂行してゐる。この問題を長い間愼重に調査した專門家によると、ドイツの宣傳省によつて英國における宣傳に當てた巨費のうち、少くとも三分の一は、反ユダヤ人運動に使用されると云はれてゐる。この運動は二重の目的に奉仕して、ナチスの永遠の敵と見做されてゐる外國のユダヤ人の地位を危くすると同時に、單に反ユダヤ的なものに終らうとする種々の傾向を、積極的な親獨的な傾向に誘導しようとするものである。

ドイツの「ワールド・サーヴィス」が全幅的な行動を發揮するのは、この點においてゞあつて、この組織は、八ケ國語の會報を隔週に發行して、アメリカ、その他の國に多數の購讀者を持つてゐる。その本部は、毎年反ユダヤ大會が開かれるエルフルトにあるが、この會報の全體的な調子は、純粹にドイツや、ファショの大衆だけを目的としてをり、「デル・シュテュルマー」("Der Stürmer")のやうに、荒々しく、サディスチックなものではなく、インテリに訴へることを目標としてゐる。

この機關紙は、三マルクを支拂ひ、ユダヤ系でなく又ユダヤ人と婚姻關係のないことを申告に署名する非ユダヤ人なら、誰でも入手することが出來る。この中の圖表は、いかにユダヤ人が世界を支配してゐるかを示し、フランス、ロシア、アメリカは完全にその支配下にあるが、イギリス、イタリーは單に經濟的にだけ支配されてゐるにすぎないことを示してゐる。

中產階級を通じての宣傳活動

ドイツに於てヒットラーが權力を握ることを援けたのは、主として中產階級であつたから、ゲッベルスは、全世界の中產階級もこれと同樣な心理狀態を持つてゐるものと心得て、サバービア(Suburbia)(ロンドン近郊に住む人々)を征服する最上の武器は「共產主義の脅威」(the "communist Menace")を說くことであると考へた。「反コミンテルン通信社」(Anti-Comintern News Service")

の出版物は、誰でも、ロンドンにおけるドイツの宣傳代理店から無料で入手することができ、これは、ナチスのために、まだ政治的な心理を持たない多數の中產階級の人々の間に、その宣傳の門戶を開くと共に、英國、フランス、ロシアの友情を覆へす二重の利益を持つてゐた。

宣傳組織の種々相

次にイギリスにおいてこのやうなパンフレットを頒布してゐるドイツの代理店を一瞥してみると、先づ第一に、ロンドンに本部があるこの種の組織は數多あつて、そのうちのあるものは多數の會員を擁してゐると云はれてゐるが、一つの例外を除いて、それらは皆ドイツ大使館の宣傳局(the Propaganda Department of the German Embassy)が統制してゐる。第二に、組織的なプロパガンダに參加しようとしない名流人士に近づくために、選ばれた個人から成る一層弛かな組織がある。

個人的接觸のためには、特に訓練を受けた、大部分は大學卒業者から成る約百二十名のドイツの宣傳員がイギリスに派遣されてをり、彼等は皆流暢に英語を話し、その仕事は個人的に說得することである。最後に、ドイツ勞働省(the German Ministry of Labour)の許可の下に、數千の召使がイギリスに渡つてゐるが、彼等は種々の應答に對して、豫め正しい答へ方と、訊ね方とを敎授されてゐるとのことだ。

このうちで、最初に、特別な組織によつて行はれるプロパガンダを考察してみると、これらの組織は、イギリスのあらゆる社會層や集團に、適當な親ナチス的なクラブを作ることに努力してゐる。あるものは學生に働きかけたり、ドイツ語會、討論會、徒歩會その他の社會的活動を組織してゐるが、更にまた、ビジネスマンのためのクラブもある。こゝでは圖解が示されて、ドイツの工業がこの四年間に隆盛に赴いたことを教へ、またイギリスに來て、講演を行ふドイツの經濟學者達は、イギリスの聽衆に向つて、ナチス政體の特色の一つは個人企業の奬勵にあると説明してゐる。

「リンク」"Link"による活動

ナチ宣傳組織中、最も重要なものは、それ〴〵の名流英人を會長とする「リンク」集團であるが、これは本部をホルボーン（Holborn）に置き、チェルシア（Chelsea）、ハムプステッド（Hampstead）、ウイムブルドン（Wimbledon）、アクトン（Acton）その他の郊外における支部を統轄してゐる。またロンドンを數區に分つて、各區の支部には經驗ある指導者が配備されてゐる。

この組織の恐るべきことは、そのメンバーを、タイピスト、銀行事務員、個人書記等の中產階級から——換言すれば、政治にはあまり經驗がなく、ナチス・ドイツを輕々しく地上における最上の國家のやうに思ひ込みがちな人々——から補充してゐる點で、この組織への加入勸告は、善良な、理

想主義的な、何よりも平和を愛するイギリス人には極めて魅惑的なものである。彼等は、イギリスにおけるドイツ人と交はり、休暇にはドイツを訪ねてその國の青年男女と交際することが、戰爭を避け、平和を増進する所以なりと說得されるが、その眞の目的は、彼等には全く匿されてゐるのである。このやうに公然とではないが、同樣の宣傳がアカデミックなクラブにおいても行はれてゐる。「リンク」において、孤獨な町の娘達は、人々に會つたり、夜會や、舞踊會や、その他の社交的な活動に參加する機會が得られるわけである。

「リンク」のメンバーは、講義のやうな邪魔物に煩はされることは殆んどなく、ドイツで印刷される週刊の會報は、自由に各メンバーに配布される。保險會社の使用人である或るイギリスの會員で、獨墺合邦當時、この「リンク」の週刊會報に現れた論文を、一言一句暗記して、オーストリアの合併は、貧しいオーストリアに對するヒットラーの慈善行爲であると說明してゐるものがあつたとのことである。

代議士や大學教授やジャーナリスト達を懷柔するには、ドイツ大使館の宣傳局の行つてゐる組織では勿論不適當で、彼等には、個人的に別な方法で接近しなければならない。彼等に送られる文獻は、「リンク」の會員に送られる小冊子とは、題目も調子も非常に異つてをり、社會的地位を持つてゐる人

々に對しては、阿諛が最も效果的な方法である。彼等は屢々個人的にドイツ訪問の招待を受け、この地で彼等のイギリスにおける地位や重要性に比較して、法外な歡迎を受けてナチス贔屓となる。以上が、英國におけるナチズム宣傳の大要であるが、これはその問題の外邊に觸れたに過ぎず、細部に亘つて取扱ふことは困難な問題で、それは、ナチス宣傳網が極めてお人よしの一群をその掌中に收めてゐるためである。しかし、ナチスのプロパガンダが、英國の政治上重要な問題でないと考へるのは思ひ違ひで、イギリスのファシズムは殆んど發展しないが、イギリス人の善良さと、暢し易さは、英國のファシスト黨主、オスワルド・モズリー(Sir Oswald Mosley)が爲し得なかつた多くのことを成し遂げてをり、「リンク」の如き組織の數千の會員は、その組織を通じて次第にナチ化して來たと云はれてゐる。

第三章　スペインに於けるナチズム

スペインがフランコの勝利によつて次第にファショ化して來たことは、最近の情勢によつて明かであるが、ナチスはスペインに對して、どんな侵略的手段を試みたかは、興味のある題目である。スペ

インに對するドイツの干渉に就いては "Foreign Intervention in Spain, documents collected and edited by Hispanicus: vol. one," の中に約百數十頁に亘つて剋明に實證されてゐるから、この著書を參照されたならば一層興が深いことと思ふ。其の他 "William Foss; The Spanish Arena (John Gifford ed.)" といふ本も刊行されてゐる。ナチス黨の支部(Landesgruppe) はナチ政權以前に已にスペインやポルトガル其の他の國々に設立されて、獨裁政權の下準備をしてゐた。さうして、ヒットラーの登場と共に、その組織は愈完備して、系統立てられた。ナチスの「國指導部」("Landesleitung")(各國にあるナチの中心團體の名稱) の「覺へ書き」がバルセロナでスペイン當局に押收されたのであるが、この「覺え書き」はナチスが各國で行つてゐる諸種の宣傳方法を曝露したものとして、甚だ面白く、これによると各國の "Landesleitung" はベルリンから直接の指令を受けてゐることが分る。一九三五年五月二十二日にはベルリンの「ナチ國外組織」("Auslandsorganisation") の「新聞局」はスペインの雜誌 "Sintesis" がドイツの問題を善意に取扱つたといふので、この雜誌に論文を寄せるやうにとの命令を出してゐる。けれども、このやうな詳細は上掲の書に委せることとして、こゝでは、一九三七年六月五日號の「ネーション誌」に掲載された「スペインに於けるヒットラーのスパイ」なる一論文が比較的簡明にナチスのスペインにおける活動狀況を述べてゐるので、その概

略を述べてみよう。

一九三六年の夏スペインで、ファシ・叛亂が勃發して三日經つてから、政府國民軍が、バルセロナのナチ本部の捜索を開始したところ、ナチ代理部の荒れた階段には、何萬と云ふ文書が置き殘されてゐたといふ。この二、三のものは、「マンチェスター・ガーディアン」其の他の新聞によつて發行されたが、その全部の經過は、フランツ・シュピールハーゲン（Franz Spielhagen）の、「スペインにおけるスパイと共謀者」（"Spione und Verschwörer in Spanien." (Paris, Editions de Carrefour) の中に述べられてゐる。

こゝで初めて、他の國に於けるナチ陰謀の裏面が紹介されるわけであるが、その文書は根據が確かなもので、その陰謀は疑ふ餘地がないものとされてゐる。スペインは格別、努力が拂はれてゐる地方であつて、同樣な技術は、全世界に行はれてゐるものと云ふべきで、この文書が發く點は、破壞的な仕事をしてゐるナチ組織の名前とか、金の出處、その額、祕密代理部の活動狀況、宣傳材料を密輸入する方法、又ドイツ商館、海運會社、新聞記者、旅行局、これ等の地下運動の外交團、領事の職掌はどう云ふものかなどである。

一　般　活　動

ナチスは一九三〇年からスペインで行動を始めた。ヒットラーは、當時政權を得てゐなかつたから、國家の資金は宣傳に利用出來なかつた。それ故に、最初の内は穩健であつて、代理部はポルトガルに置かれて、その活動野はイベリヤ半島一帶であつたが、一九三三年は轉換期となつた。ナチスはドイツで、レルー(Lerroux)と、ジル・ロブレス(Gil Robles)とはスペインで勝利を占めたから・ヒットラーとの友情を暖めるために、ジル・ロブレスは一九三三年のナチ黨のニュールンベルク大會に出席して、この時から、ナチスはスペインで優勢になつて來た。やがて彼等は、スペイン本土、スペイン領モロッコ、及びバレアリック諸島(Balearics)及びカナリア諸島に五十の地方部を組織した。これ等のナチ細胞は、他のドイツの諸團體の中核となつて、學校、敎會、勞働者、婦人から、その會員を補充した。ナチスは又意氣の相投ずるスペインの社會の人達と密接な接觸を保持して、ナチ團體の指導者は外國の宣傳家と見えない用心をした。かれらの全部はドイツ商館に職を占めて、設立會社の代理人たるか、又は自己の商賣を經營してゐたのであるが、その實は、前線に立つて、ナチスのために働いたのである。かれらは、その宣傳材料を綴ぢ込み用の簞笥の中に貯へてゐたと云はれてゐる。

一九三六年の初め、人民戰線が政權を復歸するやうに見えたので、ナチスは地下に潜行した。レ

ターヘッド（Letter-head. 書翰紙頭部に、印刷せる文字、發信者の商店名、所在地、電話番號等の文字）のない白紙を使つて通信文を認めねばならないとか、又ナチの用件は全部商賣取引の術語ですることなどの指令が出た。次のやうなのは、その一例で、何のことか理解に苦しむであらう。「吾々の觀客の一般集會は、吾々の競爭者が、商賣取引を看破しないやうに、制限しなければならぬ。」黨の公式の表題は、「ドイツにおける文化的、藝術的、政治的發達狀況をその會員に知らせて置く目的で組織された協會」宛名でも、手紙の挨拶でも全く省略して、ハガキの使用は禁ぜられた。あらゆるナチの細胞は、色々の一部であると敎へられてゐた。で、彼等は、これを嚴守しなくてはならぬ。この時から、色々の通信の中に、「御客」とか、「我々の新しい仕入品、」「我々の競爭相手の新製造法」などの言葉が現れるやうになつた。何か偶然の出來事に備へて、總ての「前線の鬪士」（Front fighters）達は一九三六年六月十五日迄に報告をして、スペインの仲間を助ける用意をするやうにとの命令を受けた。

このやうなナチ細胞は、外務省、勞働戰線、宣傳省、フイヒテ協會、ゲシュタポ等のドイツの諸團體の援助を受けてをり、これらの團體は、スペインに金を注入し、又その大部分は、そこに自己の出張所を持つて活動した。一九三五年には、總額三百萬ペセタがスペインで費されたと、發見された記錄の中には計上されてゐるが、この表には、ルフトハンザの寄附金、ナチ代理部及び宣傳材

料の無料輸送をする船舶及びパンフレット、ビラ、書籍の印刷費、救恤金、戰爭記念資金（War-memorial funds）から流用した金、ドイツ教會及び學校に行つた寄附金等が省略されてゐるから、その額は、その年には三百萬ペセタを遙かに超えてゐたと見てよからう。

ハーフェン・ディーンスト

資金の潤澤なこの組織の活動狀況を見ると、その重要なスパイ活動は「港勤務」(Hafendienst）と稱するもので、ゲシュタポの管理を受けてゐる。「港勤務」と云つても船とか海などには別に關係もなく、中央本部はベルリンにあるが、他の事務所はパリー、チューリッヒ、プラーグ、ブラッセルなどの國內都市に在つて、この名稱は諜報活動のための隱語に過ぎない。「ハーフェン・ディーンスト」の報告によると、在外ドイツ人は執拗に追究されてをり、ドイツ人の旅行家、ドイツ船及び飛行機の乘組員、ドイツ教會、ドイツ新聞記者、ドイツ商館、ドイツ自動車クラブ等、凡ゆるものがその監視を受けてゐる。若し、在外ドイツ人がナチスを誹謗したり、又はドイツの新秩序に熱を示さないと、忽ち窮地に陷る。スペインの政治家、新聞記者、ホテルにも、深い注意を拂つて、ユダヤ人、フリーメースンには殊に目を付けてゐる。

このやうな諜報組織にも拘らず、反ヒットラーのドイツ人は、プラーグに本部があるオットー・シュ

トラーサーの「黑色戰線」(Schwarze Front) に頑强に執着したので、ナチのスパイは、その一人をこの反對團體の中に入れようと計つた。彼等の一人はオットー・シュトラーサーの新聞に加入して、その本やパンフレットを注文した。かくて、スペインのドイツ人の反ファシヨ派はプラーグから、新しい「同志」があるとの報告を受けたので、彼を訪ね、同じ仲間に引入れたが、その結果、全團體が逆に迫害を受ける始末になつたと云ふ。

スペインに宣傳材料を密輸入することも、その重要な仕事の一つであつたが、領事や、外交官が易々諾々としてこれに協力したから、容易であつた。只小さい包が持ち込まれる。あるものは大使館宛にしておいて、檢閲の目を晦したり、また船長の積荷目錄の一部にして置いて、搜索されないやうにしたりすることもある。船や飛行機が着陸すると、忽ち領事館員や外交官がその荷物を引き取り、大使館や領事館はしばしば、貯藏所として使はれた。

新聞に對する方法

ナチは當時スペインに五十人の人を置いて、新聞及び他の宣傳材料を取扱はせて、何よりも最大の注意を新聞に拂つてゐた。どの新聞も綴ぢ込みにして、編輯者、所有主、經濟的後援者の名前、その發行高、政治的傾向、ナチ政府に對する態度も一緒に書き加へて置いた。

"ABC", "Epoca", "Renovacion" 及び "Informaciones" を含めて二十二の新聞は親獨的として、この擲ち込みに乗せられてゐた。總ての君主的、カトリック的及び反動的新聞はこの部類に入り、ジル・ロブレスの "Informaciones" は、「ドイツの代辯者と見做され得る」との註釋があり、その資金の後援者はジュアン・マーチ（Juan March）となつてゐた。週刊の "Aspiraciones" は「ユダヤ人及びフリーメースンに對し激しい爭鬪をしてゐる四萬の婦人のカトリック團體の機關」と報告されてをり、この新聞は後に禁止を受けたが、若い婦人達は他の新聞を創設して、これを "Lealtad" と呼びスペインの全ドイツの實業團は、廣告をして、この新聞を援助せよとの依頼を受けたと云ふ。一九三二年においてさへ、ナチの新聞出張所は、主なポルトガルの新聞に關して「公けの政府機關は全く吾が掌中にある」と報告してゐたと云はれる。

この新聞監督の主任は、"Die Deutsche Wochenschau" の通信員として知られた男で、その地位を彼は自ら「擬裝運動（カムフラージ・マヌーバー）」と稱してゐた。彼は、"The Servicio Prensa" と稱する通信社と聯絡を附けて活動して、この社は彼の執筆する論説や報道記事をスペインの新聞に掲載した。スペインの新聞が一文を乘ぜる度毎に、五乃至十ペセタを支拂ふのは、カムフラージの立場から止むを得ないこととして、この返禮には、少なくとも二百五十ペセタの禮金（Trinkgeld）を受けた。――これは小

さい地方新聞に支拂はれる金額であるが、かゝる經濟的な取引は祕密にされて、多くの場合大使或は領事がその金を手渡した。第一次世界大戰前に、ロシア人のためにフランス新聞界が腐敗したことが想起されよう。

このやうな策略は、次第に成功して、一九三四年には、一六四の宣傳記事が三十の新聞に掲載され、一九三五年は遙に多く、最初の四ヶ月間に二十五の新聞に八十六の記事が載せられた。一九三五年九月のナチスのニュールンベルク大會中は、一ケ月に一四五項目と云ふ記錄破りだつた。この費用は二萬二千四百五十ペセタに上り、かゝる新聞報道にもつと新聞を接近させようとして、廣告集中の全力が活動した。スペインにおける全ドイツ實業界は協力をして、ユダヤ人や、フリーメースンは排除され、時には、スペイン新聞は、特別のドイツ號を出して、その返禮にドイツ實業界から廣告を要求する程に激しかつた。

其の他の方法

新聞に續いて重要なものは、講演旅行、ナチ映畫――普通は公開しない――ドイツからの每週の對西放送、ドイツ書の飜譯であつた。

「フイヒテ協會」(the Fichte Bund)、ドイツ旅行代理部、イベリア・アメリカ協會(Ibero-American

Institute)、其の他の組織が新聞部を援助してゐた。「フイヒテ協會」――この名前はジヤコビン社會主義派哲學者に對する亂暴な皮肉であるが――は殊更注目に價する。その會員は非ナチスの者から組織されてゐたが、各地のナチ・プロパガンダ機構の中で、重要な齒車となつてをり、一九三五年には、六四の國語で、七五のパンフレットを五百萬部、及び幾トンかの書物を發送して、ローゼンベルグの最も有力な代理部の一つであつた。

產業諜報

スペインの褐色網に課せられたもう一つの仕事は「產業諜報」である。これは七百三十四のドイツ及びスペインの諸會社の記錄を取り、その仕事や、傭入れてゐる人物を詳細に調査してをいた。この目的は二樣あつて、その一つはドイツ製品の良い市場を失はないやうに、スペインの產業の發展を妨害することである。スペインの產業の發達に貢献したものは、「ドイツに對する裏切り者」として、苛酷な手段が執られ、若し、ドイツの市民ならば、本國に召還して、その罪に應じて處分した。第二の目的は、ナチスは鐵、銅、其の他の金屬の未採掘の鑛山を發見して、これを管理したいと望んでゐたためである。フランコのドイツ管理の軍隊の移動の多くは、單にこのプログラムの連續に過ぎなかつた。產業のスパイは、スペインと他國間の商業上の調節を容易にするためのあらゆ

やうなナチ産業スパイは六百餘も配置されてゐると云ふ。

る公けの手段を嚴重に監視して、ドイツから貿易を奪ふやうな傾向の運動を阻止した。世界にこの

モロッコのナチス

スペイン領モロッコはナチが殊更關心を持つ處である。この小さい領土に彼等は四つの細胞をチツアン（Tetuan）、メリリヤ（Melilla）、セウタ（Ceuta）、ララチ（Larache）に設けた。こゝから彼等は反ユダヤ的、反フランス的、反英的宣傳を佛領モロッコに注入した。「ユダヤ人は毒蟲が羊を食べるが如く、諸君を食べてゐるのだ。しかも、フランスはユダヤ人の保護者である。」「インドからエヂプト、更に大沙漠の國境たるスス（Sus）に至るまで、總てが沸騰してゐる。死物狂ひのアラビア人がユダヤ人や佛蘭西人に抗して、ドイツ人萬歳と叫んでゐる時、形勢はどこまで進行したのだらうか。」その結果、反ユダヤ、反佛、反英運動はアラビア人の世界に誕生した。アラビアの新聞は、ナチの投資に容易に感應して、その示威的な親獨態度は憂慮の念を抱かせ、そのやうな大びらな親獨的な同情は、たしかにドイツの活動の影響であると思はれてゐる。

このやうな外交戰における支配に對して、何等の措置が執られなかつた。例へば、一九三五年に、チツアンのドイツ人の一團が、タンジェルにおけるフランスの差別待遇に對し抗議のサインをした。

その抗議はベルリンに送られたので、パリーのドイッ大使は、その事件に就いて、フランス外務省に公けの陳情をした。しかし、これらの文書を見ると、この事件は全部ベルリンで捏造されたらしく、抗議の原文さへも、ベルリンの外務省からアフリカへ送られたものである。

叛亂の物發が近づくにつれて、ナチスはスペインに武器を密輸入し初めた。馬鈴薯の積荷と見せかけてやつたのであるが、水車、望遠鏡、鋼鐵品を取扱ふ會社が、俄かに馬鈴薯の商賣を始めるとは奇妙で、時々、小さい失敗が通信文で起つた。「出たての馬鈴薯」と「鋼製品」とが時々混用された。當時、スペインのファシ ョ團體は暴動のために武器を必要としたのである。一つのナチ代理部は、彈藥を附けて四九二挺のピストルをマドリード團に送つたとの記錄があり、且つ多數の代理部が活動してゐた。小銃の注文も出され、飛行機の賣子がナチ及びフランコ將軍の本部であるテッアンに現れたと云ふ。

この時期の文書には、ナチスとスペインのファショとが密接な關係のあることを示すものが多い。同盟者と數へられる人々の中には、バルセロナを取り損じて迫害されたゴーデッド將軍、外國軍團の指揮者ヒラン・アストレー將軍、陸軍省の高官、カタロニア、エスカロスの反動的な總督等がゐた。「我々は有利な立場にゐる」とか「吾々の希望の實現も間近だ」とかの喜ばしい通信が度々現れ

た。ベルリンのスペイン大使は、「馬鈴薯の輸出に關する件では」萬事がうまく行くだらうとナチスに確言したと言ふことである。

大體以上がこの雜誌で述べられてゐるスペインにおけるナチスの宣傳方法であるが、英國及びこの次に述べようとする、米國に於ける方法と比較するならば、パンフレットを送つたり、又ドイツ本國のフイヒテ協會と連絡を取り乍ら巧みに褐色網を擴げるあたりは、何れもナチス獨特の遣り方であつて、これらを比較研究するならば、一應はナチスの對外的宣傳の技術にも一定の類型があるやうに思はれ、以下順次、米國、スキス等に於ける狀況に言及してみよう。

第四章　アメリカ合衆國の諸團體と其の活動狀況

最近二、三年來、獨逸系米人の多い中北部の各州を中心として米國ナチ黨の擡頭が目覺しいとのことである。在外大使よりの最近の消息は、中北部ばかりでなく南米にまで宣傳が行はれてゐることを傳へてゐる。

「近來獨伊勢力の著しき進出、就中、中南米に對する發展並に合衆國に於ける「ナチズム」の執拗

な宣傳は、中南米の政治的社會組織、同方面に於ける米の地位は勿論、米自體の政治、社會組織迄脅威せらるゝにあらずやとの憂慮を懐かしめ、(合衆國が共產主義、「ナチ」等の宣傳に對して嚴重なる取締りを實施し居るは御承知の通り)從つて少くとも米大陸諸國に就ては、獨伊勢力の進出を防止し、「デモクラシー」を維持することは肝要なり云々」とある。又一九三八年十一月二十三日のマンチェスター・ガーヂアン紙は、

「合衆國に於けるドイツのファショ運動を研究してみると、それはドイツ故國の共產主義運動に關聯してゐることは興味がある。合衆國には、ドイツ生れ、或はイタリア生れ、又はドイツ、イタリアの兩親を持つ住民は幾百萬の上に達してゐるが、全部ではないにもせよ、彼等のあるものが、故國の現在の指導と政策とに同情を寄せてゐるのは明かなことである。

この種類の運動(ファショ運動)が如何に明確に、又廣範圍に米國に於て組織されてゐるかを知つたなら、アメリカ人は驚嘆することだらう。下院は、反アメリカの諸活動を調査する委員會を持つてゐるが、その報告によると、親ナチス・ドイツ人の組織は數十萬の會員を持つてをり、その多くは徵兵適齡期の靑年で、戰術の總ての部門で訓練を受けてゐる」と、最近のナチ運動の狀況を述べてゐる。

　これらドイツのアメリカ人は、若しドイツ生れなら歸化によつて、アメリカ市民になるやうに、又こゝで生れたものなら、アメリカ市民權を行使するやう奬勵されてはゐるもの、、本國ドイツ人と教養的の聯鎖を持つてゐるのは事實で、かれらは政治的にしきりと活動して、ヒットラーに同情的な公職の候補者を援助する、敵意のある新聞や定期刊行物をボイコットする、これらの團體は極端な反ユダヤ主義の中心となつて、ユダヤ人について虚僞な噂を流布する、時々かれらはユダヤ人の店舗の窓ガラスを破壞したり、壁の上にハーケンクロイツを樂書したりする。又新聞を發行したり、ラヂオに從ひ、合衆國では、短波無電受信機が流行して、數千の人々はベルリン近傍から短波放送を聽取することが出來る。このやうにアメリカにおけるファショ運動は急激に發展して、制服を着用して運動に參加するものが增加して來たため、政府では、祕密結社による制服着用禁止の法令を出さうと計畫してゐるといはれる。

　こゝで、一九三七年までの活動狀況を最初に述べ、それから、一九三四年の夏、ペンシルヴァニア州、ヂャーマンタウンで結成された「米國ナチ黨」に就いて、その來歷、活動、主義を述べてから、その後で最近ヂャーシイで結成されたドイツ系アメリカ人戰線（The German American Front）に言及してみようと思ふ。鐵のナチ章、鳶色のシャツが次第に全國的な勢力を得て來たことは、この現

象が、自由主義の「最後の王國」と自稱するアメリカに起りつゝあるだけに、今後の發展は全く世界の關心となるであらう。

(一) 合衆國に於ける一九三七年までの狀況
「新ドイツの友」("The Friends of the new Germany")

アメリカのナチス運動の狀況は極めて活潑で、その詳述はこの一卷をも滿すに足るものがあるであらうが、こゝでは、一九三七年頃までのナチ團體及びその組織や、活動振りについて、一應考察して、後述のシャトルに於けるナチの「細胞」組織と比較研究してみよう。

合衆國はナチスの宣傳に對して敵意を持ち、又ユダヤ人のボイコットも巧みに組織されてゐたため、合衆國におけるゲッベルスの宣傳は逆襲的な態度を執る必要に迫られた。ナチスの攪亂に對する國全體の抗議に驚愕して、一九三四年のアメリカの議會は「反アメリカ活動團體に關する特別委員會」(a Special Committee on Unamerican Activities) を設けて、調査を行つたところ、アメリカの親ナチ活動を調整するために、ベルリンに特別な政治事務所が置かれ、全國の出張所はその政策を强化するために援助してゐる事實が發見された。其の委員會の副議長のディクスタインが一證人から確めたところによると、反ナチ的の意見を述べたものは本國に通告されるのが普通の處置であ

ることが判明し、更に、ドイツ大使の否認にも拘らず、幾多の證人の言葉から、ニューヨークのドイツ大使及び領事は共犯者であることが明かにされた。親ナチ團體の著名なものは「新ドイツの友」("the Friends of the new Germany")と云はれて、ベルリンから直接の資金を得て、英、獨語の新聞を發行してをり、其の上更に、必要な歳入は、「ドイツの旅行案内所」(the German Information Office)やドイツ汽船會社の廣告料から得られてゐた。この「友」の徽章は星と條線の上に書き加へたハーケンクロイツであつて、黨員は訓練行進を催し、勞働宿舍を組織し、アメリカ人の輿論を刺戟するなど反米的な振舞が多かつた。

委員會はその報告書で、「外交上の遁辭にも拘らず、この國の或るドイツ領事は外交官たるの言質と禮節とに背いて、惡質の反アメリカ宣傳家の活動に對し、ひそかに現金にて資金を與へてゐたといふ紛れもない證據」を發見したと述べ、又その報告中に擧げられた某出版會社の社長は「彼が彼の表面上の傭主であるI・G色彩工業會社(ドイツの染色業トラスト)に供給した報告は貿易の促進の目的よりは寧ろ政治上の問題を取扱つてゐるのであつて、それをドイツ政府に廻送する積りであつたと、その委員會に自白してゐる。」さうして、この報告書は證據に照して、この運動が政府の主義と相容れないことが判明したと結論を下してゐる。

かくて、一九三六年四月一日にドイツからの指令を受けてこの組織は解消したのであるが、その後間もなく、アメリカの市民のみを會員にすると稱する「獨系アメリカ人團體」（the German-American Bund）が組織された。要するにナチスの運動は極めて執拗で、一九三七年に、ディクスタイン氏は再びナチスの陰謀を議會で報告してゐる。

それによると、ナチスは百萬からの登記の書式をドイツ系の住民に配送して、有事の場合はドイツ軍隊に參加するやうに勸誘し、若しこれに加入することを拒絶すると、領事は、何時かきつと君は後悔する、ドイツにゐる親戚のためにならないと告げたといふ。又ディクスタインはこの書式はベルリンで印刷されたものと云ひ、又「ブント」に關聯して、二十萬乃至三十萬のドイツ人がドイツの制服を着て訓練を行ひ、獨米、或は他國との間に戰爭が勃發する場合の準備をしてゐると報告してゐる。

けれども、上述の「獨系アメリカ人團體」の實際上の活動に就いては、一九三七年六月五日の「ネーション」誌（"The Nation"—"What are American Nazis doing?"）が詳細に報道してゐる。

獨系アメリカ人團體

この誌によると、勿論最初から、ドイツ・ファショ黨の公けの分派がアメリカに存在してゐたわけ

ではなく、アメリカの最初の公けなナチ組織は、數年前ベルリンからの指令で解消して、これらの後繼者である「獨系アメリカ人團體」(The German-American Bund) が、一九三七年頃の唯一の合衆國に於けるナチズムの政治的表現であつた。これは、當時國內に、百以上の支部、數萬に餘る會員を擁し、その公けの機關紙であるニューヨーク發行の "Deutscher Weckruf und Beobachter" は本國の類似な出版物に特有な、眞實の無視と不躾な「卒直さ」で編輯されてゐた。

ナチ宣傳の主要な仕事は、ドイツ語或は英語を用ふる非ファショ團體に次第にナチイデオロギイを滲透させ、やがて、この「團體(ブント)」に加入させようと云ふのであつた。ナチの週報は各號毎に獨系アメリカ人の諸團體から數人の新加入者があつた旨を報道し、且職業的のナチ宣傳家の講演なしで、祝典、事業、音樂會、舞踏會も、これらの諸團體は殆んど催さない有様であつた。

ドイツ宣傳省の後援

これらの事業は何れも本國宣傳省の直接の後援の下に行はれた事實が確められてゐる。一九三六年の後半期にも、ゲッベルスは次のやうな人々を、夫々の方面でナチスのために活動するべく派遣してをり、その顔觸を見るならば、ナチの活動がどんな風に行はれてゐるか、多少は見當が附くであらう。例へば、

ユリウス・リヒテル (Julius Richter)、ベルリン大學教授、ナチ信仰運動の宣傳部に所屬して、ニューヨークのバイブル學院 (the Biblical Seminary) で教鞭を執る。

ノルベルト・ツィンメル博士 (Dr. Norbert Zimmer)、ハノーフェル出身にして、科學上の講師。

ヘンリー・ヘミルトン・ビーミシュ大佐 (Captain Henry Hamilton Beamish)、英國ファシ■の指導者、ドイツ人の助手クレーゲル博士 (Dr. Kräger) を同伴して。

ハンス・ミュンツ (Hanns Münz)、俳優にして講師。

ルドルフ・マレーク (Rudolf Malek)、殊にドイツの諸團體の間で反ソ活動に從事する。(以下省略)

其の他の方面でも宣傳省は援助を與へてゐた。ヘンリー・アルバート・フィリップ (Henry Albert Phillip) の "Germany Today and Tomorrow" はゲッベルスが注文し、又購入した。ウォシントン大學のチャールズ・シー・タンシル博士は親ナチ演說をしたり、論文を書いたりしてドイツ大使館を助けた。又マーガレット・フレージァ孃 (Miss Margaret Frazier) の書いたナチ宣傳文の出版を宣傳省は援助した。合衆國のドイツ映畫劇場はベルリンから補助金を受けて、ナチ映畫だけを上映する。第三帝國の諸活動を描いたナチ映畫は、名義だけの禮金で、ドイツ人の諸團體に封切りされる。アメリカのナチス黨員であり、又ドイツのナチス黨員である前出のハンス・ミュンツ (Hanns Münz) はド

イツ人の劇場"Deutsche Schauspielbühne"を管理し、これは、合衆國の各地でドイツの文化宣傳を行つてゐる。ピッツバーグのヨーゼフ・ダンネル（Josef Danner）も同様な活動に從事してゐた。ドイツの宣傳機構は、十九のアメリカ都市にナチ文學の中心を組織した。

このやうな「好意ある援助」を、其の他、多少とも有名なドイツや、アメリカの多數の著述家達に與へてゐるが、彼等の多くは數個の僞名を使用してその本名が判らない。例へば、ジョージ・シルヴェスター・フィールエック（George Sylvester Viereck）などは最も多才の一人で、ジョージ・エフ・コーナーとかドナルド・フルトマン・ウイケットなどの名前を用ひて、あらゆる種類のアメリカの週刊誌、月刊誌に書いてゐる。

ゲッベルス博士も、「ドイツ系アメリカ人史委員會」（"The Committee for German-American History"）を設立したとの噂である。その顔觸れは、ナチ運動のアメリカの指導者であるフリッツ・クーン（Fritz Kuhn）、カルル・テー・マルクス（Karl T. Marx）、ゲオルゲ・フロベーゼ（George Froböse）（こゝのナチ組織の最高幹部）其の他三人であつて、この「委員會」の目的と云ふのは、アメリカがユダヤ人の害毒から免れたのは、ドイツからのアリアン系移民があつた爲めであることを證する叢書を發行しようと云ふのである。

學校其の他の諸施設による宣傳工作

其の他、學校による宣傳活動も無視できない。二十餘の學校が、ドイツの子供達のために開設され本國から輸入した、ナチの學校權威者の書いた讀本が、若い獨系アメリカ人の心に、ユダヤ人憎惡の心を植ゑ附けようとしてゐる　一九三七年二月三日に催された東部諸州のナチスの役員の會合で、フリッツ・クーン（Fritz Kuhn）は二月十五日に開校する筈のナチ役員のための政治學校の設立を發表してゐる外、アメリカには、第三帝國の啓蒙的な影響の下に存在してゐる組織や運動が澤山ある。ニューヨーク、ニュージャーシイ、ペンシルヴァニア、オハイオ、イリノイ、テクサス、カリフォルニヤ、其の他の州には、大きなナチのキャンプがあるし、又次第に死滅しかゝつてゐたドイツ語新聞の多くは、アメリカの小都市で復活され、一齊にナチズムの說敎を開始した。

其の他にも、「獨系アメリカ人貿易事務局」（"The German-American Board of Trade"）は一九三七年四月二十二日に再組織されて、現在ドイツ政府が監督してをり、その支配人はアルベルト・デーゲナー博士（Dr. Albert Degener）と云つて、合衆國でナチ黨のために活動してゐると再三公言した。又ドイツ工業情報の中心部が再組織され、ニューヨークのゲシュタポの指導者、エルンスト・クラウゼ・ヴィヒマン（Ernst Krause Wichmann）は、ルドルフ・ヴィルダーマン（Rudolf Wilder-

mann）を無能なりとて退け、ナチ仕込みの「大學卒業技師」ルドルフ・ピッケンブロック（Rudolph Pickenbrock）に代へた。ピッケンブロックはベルリンのドイツ工業技師倶樂部のマットショス博士（Dr. Matschoss）に工業上の情報を傳へる責任がある。「ドイチェ・ツェペリン・レーデライ」（"Deutsche Zeppelin Rhederei"）のニューヨーク支店のウイリー・フォン・マイステル（F. Willy von Meister）は倘總ての工業情報を擔當してゐる。其の上彼は最も重要なアメリカの工業上、商業上の施設との、ナチ公認の連絡員である。また數個所の私設アメリカ旅行局は、色々の種類の情報を供給して、類似な職能でナチの目的に副つてゐる。

其の外にも、アメリカのナチ運動は、少年少女の青年團の組織に、婦人團の建設に、"Ordnungs Dienst"と稱する突擊隊の開設に、各地で廣範圍の組織を行つてをり、また會員は每週の訓練實習に出席し、制服を着用し、何時でもナチ組織の最高幹部の意の儘にならねばならぬ。

最後に一言すべきことは、アメリカのナチ運動が國際的の色彩を帶びてゐることで、指導者のクーンは、アメリカ、カナダ、南米の全ナチ組織は將來協力しなくてはならぬと云つてゐる。「ドイツの利益を協力して保護するヨーロッパ諸國のドイツの團體と同樣に、中南米の全ドイツ民族團體が協力する契約が締結された。新世界における吾々の政治的任務は重要であり、また巨大であるから、

これに全力を捧げる價値がある」と述べてゐる。かくて、ドイツ人、イタリー人、白系ロシア人、ポーランド人、フィンランド人、ハンガリア人等の間で催される最近のファシ。の會合や集會は、次第に統一的な形態を執らうと云ふ傾向を示してをり、要するに、合衆國に於けるナチスの運動は一九三七年代には次第に强力となつて來たのだ。

（二）「米國ナチ黨」の來歷

「米國ナチ黨」は、ヂャーマンタウンでドイツ系市民の家庭が中心になつて一九三四年に組織した少年團に、その由來を持ち、發生當時はあまり重要な文化的、政治的意味を持たなかつたのであるが、たま〳〵險惡な世界情勢と轉換期のアメリカとがそれを全國的のものにしたと云へる。

元來米國に於ける獨系の市民は、我國の移住民と同樣に、非常に民族意識が强いので、米國ナチ黨は、數十年前より獨逸から移住し、純粹のドイツ人を祖父、父に持つドイツ系の米國市民の間に僅かに殘れる民族意識から生れたものである。上述のドイツ系少年團も、普通の米國少年團に對抗して作つたと云ふのではないが、米國人の少年團の夏期訓練が主にキャンピング、舟遊び等の遊戲的なものであつて、精神的訓練、嚴しい團體訓練の價値を生ずる獨系の市民には不滿足であつた。そこでかれらはその子弟を集めて、町から遠い林間に少年團を結成し、ナチス・ドイツに倣つて、「米

國ナチ少年團」と呼んだ。これが「米國ナチ黨」の前身である。しからば、この一少年團が何故單なる獨系の一少年團から、黨にまで進展せるかと云へば、本來この少年團は、前述の如く內容に於て、別にナチの色彩を帶びたものではなく、獨逸式の嚴しい訓練を主とする少年團に過ぎなかつた。しかし、故國を思ふ念から、その敎授科目に、ドイツ文化紹介の題目が取り上げられてゐたが、夏期學校的なもので、少しも反米的な所はなかつた。然るに、ヂャーマン・タウン附近は鑛山、製鐵所の多いアメリカ有數の工業地帶で、左翼的な勞働組合、勞働者新聞が發達してゐたので、同市發行の左翼新聞がこの少年團の問題を取りあげて、あだかもこの團體がドイツ・スパイの養成所で、ナチ黨が米國を攪亂する下準備であるかのやうに論じた。そして、この攻擊は同少年團を、單なる少年團の問題に終らせせないで、同市附近のドイツ系米人の民族意識を刺戟するに至つた。その結果少年團の組織にあまり關心を持たなかつたものまで、いきり立つて、この攻擊に對抗するために、七十パーセントの獨逸市民を有する同市は立ち上つた。かくて誕生したのが「米國ナチ黨」である。

この黨の二大スローガンは、(イ)防共(ロ)米國主義(アメリカニズム)の樹立で、その綱領は、

(イ)　世界民衆の敵、共產主義の禍より米國を救ふ。赤露の宣傳、破壞工作の撲滅。

(ロ)　世界の强國として第二次の發展期に入つた米國の國民精神、卽ちアメリカニズムの養成を

發揮する。

このやうな防共、國民精神の涵養をスローガンとする同黨は、左翼新聞の攻撃に憤慨した獨系市民の後援を得て、更に、そのドイツ的要素で、ペンシルバニア、ミシガン、イリノイと中北部各州の獨系市民の都市に、廣汎な勢力を得るやうになつたが、單に獨逸ナチ黨の支部であるといふよりは、多分にアメリカ的の處があつて、そのことがアメリカの防共精神と結合して、全米的に勢力を得るに至つた。この小さいヂャーマン・タウンに生れた米國ナチ黨は、現在全米に十數萬の黨員を持つと云はれてゐる。

米國に於ける防共のスローガンに結成せられた團體はナチ黨だけでなく、KKK、ブラック・リーヂョン等もあるが、テロリズムを發揮したために反感を抱かれてゐたのに反して、「米國ナチ黨」は、その手段が健康的で、思想的、國體的統制がよくとれてゐたために、次第に文化的勢力を得て來たことは事實で、政治的勢力を持つまでには至らなかつたにせよ、それは、最近の米國の動向を端的に示してゐるので、現在米國に於て、ナチ的精神訓練を必要とする事實が裏書きされ、微弱乍ら、結び付いて、米國の非ドイツ的な層にまで伸展しようとしてゐる。獨逸系市民の强固なる民族意識に新興勢力として認めらるゝに至つたのは、ドイツのナチ本部からの宣傳力によるよりも、寧ろか丶

る事情に基くものと云へる。又そこに同黨が全米的の關心となつた理由がある。

自由主義と、個人主義とを骨組みとして、國家組織を組立てゝ來た米國も、世界情勢の下に轉換を餘儀なくされ、國民精神の强化、アメリカニズムの發揚が說かれて來たと見るべきであらう。

（三）「獨系アメリカ人戰線」

次に「獨系アメリカ人戰線」(the German-American Front) に就いて述べてみよう。この團體は、昭和十三年の十月に結成された許りで、前述の「米國ナチ黨」と如何なる關係にあるかその詳細は、不明であるが、ニューヨーク・タイムズ十月十二日附の記事に依つて調査してみると、十月十一日、「ドイツ系アメリカ人團體」(the German-American Bund) の代りに、殆んど全部の、合衆國に於ける獨系アメリカ人を單一の組織の下に糾合する目的で、ニュー・ジャーシイにおいて組織されたもので、總ての獨系の諸團體を單一のものに包含する持株會社（Holding Company) を新興するべく他州のドイツ系アメリカ人組織と交渉が進められてゐるとのことである。

で、この「フラント」の目的は條文中の定義によると、「アメリカ及びその他の總ての國々との間の友好關係と好意とを增進する」ことにあるので、又同じくその條文によると、「フラント」の會員は合衆國の憲法を全幅的に支持する旨を明確に證言してゐる。又この組織は「不斷に又勇敢に憲法

を支持し、保護し、又國旗を尊敬する」誓言をなし、又「害あつて一利なき無智なる宣傳及び如何なる種類の犯罪をも中止すると共にドイツ生れの總ての住民及びその諸制度に對し好意ある雰圍氣を醸成する」ことを目的とし、更に又「わが同胞にわれわれが生誕せる國に於ける狀態の本當の姿を示す」ことがその趣旨であると附言されてゐる。

第一回の會合は十月十一日の夜役員選擧のために催された。役員は一年間留任で、皆ドイツ生れで、他の會員が皆さうでなければならぬやうにアメリカの市民である。要するに、この團體は本質上アメリカの組織であるべきであつて、反共產主義の旗じるしの下に、ユダヤ人によつて支配されてゐるアメリカに對して專らアメリカの光榮のために努力を傾倒することを宣言してゐる。

(四) スパイの發いたシアトルのナチ組織

マッケンジー(A.J. Mackenzie)は「宣傳論」("Propaganda Boom")で、宣傳を行ふ上に必要な原則を七つ列擧して、(1)反覆、(2)色彩、(3)眞實性、(4)スローガン、(5)對象性、(6)動機の隱匿、(7)好時機、であると云つてゐるが、これらの詳細な紹介はここでは省略して、ただ對外宣傳を行ふ上にことさら必要な點は第六番目の「動機の隱匿」といふことであるやうに思はれる。堂々と文書によつて對外宣傳を行ふことも勿論或る程度效果があるに相違ないが、反ナチの國でナチズムの宣布を行ふに

は種々の彈壓や壓迫が加はるために、必然的にその運動は潜行的の色彩を帶びて來る場合が多い。ナチスの對外宣傳を見る場合、ナチ團體の資金の補助、パンフレットの配布其の他の方法は極めて祕密に行はれてゐるので、近年ナチスの思想を國外に宣傳するためにドイツの國外組織は莫大な隱れた資金を使つてゐる。例へば、一九三七年の間にオーストリアの祕密なナチスの「細胞」組織のために少くとも四十萬ポンドといふ金が用ひられたといはれてゐる。アメリカにおける宣傳も一方文化交換等の立派な名目で行はれると共に、他面、極めて祕密裡に組織が展開されてゐることは決して看過できない事實で、その地下組織的な技術の一實例を、ここでしばらく述べてみよう。即ち、「シアトル・ポスト・インテリジェンサー」紙（The Post-Intelligencer）はリチャード・ティー・フォーブス(Richard T. Forbes) といふウォシントン大學の一學生が「獨系アメリカ人團體」（The German-American Bund) の一會員に化けて、その組織の中に潜入して、反民主主義宣傳のからくりを暴露した記事を「シアトルに於けるファシズム」(Fascism in Seattle)の題下に、昭和十四年六月二十五日から七月十日に亘つて連載してゐるが、こゝに描かれた宣傳の手段方法は、單にシアトルにおいてばかりでなく、他の諸國に於ても同樣に執られてゐるものであると思惟されるから、この記錄の與へる興味は決して僅少ではなからう。以下彼の物語りを、多少冗長ではあるがナチス活動の一縮圖

を示す意味から、敢て抄譯を試みた。

この文の筆者であるフォーブスは、ナチズムの宣布と、アメリカの諸制度の破壊を目的とするナチ團體の一會員となることに成功し、會員の資格で、彼は所謂「細胞」("Cell")の集會にも參加したが、この會と云ふのは、制服着用の一人の突擊隊員に主宰されてゐたとのことである。又彼は「フイヒテ協會」(Deutscher Fichte-Bund e. V.)とも接觸する機會を得たが、この協會は英語で印刷したパンフレットを米國の内部に送り込むハンブルグの公けの代理部に外ならない。

ゲッベルスのパンフレット

彼の云ふ處によるとパンフレットの配布はシアトルで、最近數ヶ月の間にも起つた事實で、現に五月二十九日に、彼は宣傳相ゲッベルスが政府の要人達を激しく攻撃して、アメリカの公衆に考へ方を教へようと企てたパンフレットを手に入れたと云ふ。

そのパンフレットと云ふのは、次のやうなものであつた。「本當にアメリカの望むものは何か」(What does America really want?)と題して、ゲッベルスと署名のある立派な英文である。

「アメリカの新聞界はヨーロッパを罵る特權を持つてゐるが、ドイツに關する限りその特權を濫用してゐる。殊に、ナチス・ドイツは肉に刺つた棘のやうなものである。

一九三三年一月三十日以來、第三帝國は殆んど全アメリカの新聞界、ことにユダヤ人の影響のある方面では、憎惡され、嘲笑され、中傷された。アメリカの諸新聞は、人道、文化、自由、文明の名目の下に、ドイツを攻擊することを樂しんでゐるのである。さうするには尤もな理由がある。人道主義が私刑の形で未だ激しく現れ、文明が、惡臭ある政治、經濟の醜聞の內に、又自由が、千百萬乃至千二百萬の失業者が永久にあると云ふ狀態の內に、又文化が、ヨーロッパからの不斷の借物の內に現れるやうな國では、人々が同じ古いヨーロッパ——その人々の文化的傳統は新世界發見前二千年以上に遡るが——を蔑視するのは當然と考へられる。

アメリカの諸新聞が採用する論法に關し不平に思はれるのは、皆この新聞が攻擊する相手はドイツでなく、ナチスであるといふ意味を暗に示してゐることだ。しかし、これは誰にも分るやうに遁辭に過ぎない。と云ふのは、ナチスは現ドイツの政治的、哲學的の指導原理を示してゐるからである。全ドイツの國民はこの主義を認めてゐる。故にナチスを誹謗することは、ドイツ國民に戰を挑むことに外ならない。

ナチスは獨裁政治で、ドイツ人の大部分はこの獨裁を心理的に非認してゐるといふ論爭も無意味である。こんな主張は全く虛構に基くもので、民主國の政治家や新聞記者の頭腦にこそあれ、

現實の世界にこのやうなものは存在してゐない。一九三三年以來合衆國で行はれた反獨運動は、疑ひなくドイツ及びその國民を挑發したものに過ぎない。

概して言へば、この運動は我々にとつてどうでもいゝのだ。ドイツ人は他の國々の愛や好意に依存するものでなく、自己の力に賴つてゐる。ドイツが他國から援助を求めた時代はもうとつくに過ぎてゐる。………」

大體以上のやうな書き出しで、このパンフレットは始まつてゐるが、フォーブスはその原文の寫しの一部分をその儘新聞紙上に掲載してゐる。

又この他に「ドイツにゐるユダヤ人の眞相」(The Truth about the Jews in Germany)と題したビラも彼の許に送り屆けられたと云つて、彼はその一部を掲載してゐる。しかし、こゝで注意すべきことは、このパンフレットの末尾には、明瞭に「このビラ及び其の他はフィヒテ協會から無料で入手出來ます」とか「貴下の友人に配布して下さい」などと書き添へられてゐることで、これによれば、かゝる印刷物は全部ドイツの「フィヒテ協會」で作成されたことが分る。尙更に氣が附くのは、やはり文尾にある不氣味な記號である。即ち "Help to kill the lie" とゴシック文字で印刷した上方に丸い版樣の記號がある。短刀を握つた右腕が差し上げられて、何か鍔とも思はれるやうな動物

――多分虚僞を象徴化したものであらうが――の大きく開いた口に短刀の切先を刺してゐるといふ甚だ氣味の悪いものである。しかし、この版は、總ての「フイヒテ協會」發行の印刷物には押されてゐると云ふ。

ヂヤックのフイヒテ協會との接觸――校庭接觸("Campus Contact")

さて、本筋に戻ると、フォーブスはこゝでヂヤックと假名した一人の友人が、どうしてナチスのフイヒテ協會と接觸するに至つたかを記述してゐる。ヂヤックは昨年の秋起つた下記の事件――これは彼フォーブスも目撃したのであるが――を通じてフイヒテ協會と結び付いたのである。

彼等兩名はエルンスト・レヴィ博士指導のヨーロッパ史の講義に出席してゐた。このレヴィといふ人はドイツからの亡命者であるが、又同時にローマ法の世界最高の權威者の一人である。レヴィ氏は勿論ドイツのナチス運動をあまり御世辭よく取扱はなかつたので、ヂヤックは、彼と學問上の論爭を開始した。この口論は思つたよりも熱して、ジヤックは云つてはならないことも口外した。そのために彼は落第した。で、これは不興の直接の結果であると信じたが、後になつて冷靜になると、ジヤックは自分の行爲の非を覺り、レヴィ氏の正しいことを認めて、深く詫び入つた。

しかし、彼がこのやうに意氣銷沈してゐる時に、一人の學生が彼に近づいて、シャトルのドイツ政

府の投資會社の代表者を訪ねるやうに勸めた。彼がこの會社を訪ねてみると、その代表者は胸襟を開いて彼を迎へ、彼が受けた取扱ひに同情して、「フィヒテ協會」から來た多數の反ユダヤ的パンフレットを彼に示した。その當時の氣持からすれば、このパンフレットは、いたく彼の氣に入つたので、その後何遍もその會社の事務所を訪ねてゐる。

それから數日經つと、直接ドイツのフィヒテ協會に手紙を出して、その名簿に乘せて貰ふやうにとの匿名の手紙がジャックの許に着いた。その忠告通りにしたのであるが、さうしたために、アメリカの民主國の基礎に戰を挑むヒットラー主義の未拂の會員の一人に爲らうとは露知らずにゐた。

ジャックは、ハンブルグから、宣傳物の最初の一束が到着すると困却した。表紙の上の青い關稅の檢印で、その內容が政府の檢閱濟みであることが分つた。さうして、將來合衆國の領事團に這入らうとするときに、この記錄がさまたげになりはしまいかと心配になつた。

彼の受け取つたパンフレットの內容は、單に反ユダヤ的であるばかりでなく、前大統領ウィルソンやアメリカの政策をはげしく攻擊したり、又ドイツのチェッコ侵略やスペイン干涉を巧みに辯護したものであつた。

スパイとなる

フォーブスはジャックの不安が道理のあるのを知つて、唯一の道は、「聯邦檢察局」(the federal bureau of Investigation) に一切の報告をすることであると兩名の考へは纏つたが、フォーブスもこの狀態にいたく興味を感じて、ジャックと共に、ハンブルグのフィヒテ協會が「獨系アメリカ人團體」と協力してナチ宣傳を行つてゐるアメリカの諸團體と關係があるかどうかを調査してみたいと思ひ立ち、ジャックは二月十六日に初めて「檢察局」の事務所に出頭して、「海軍情報官」と「特別稅關調査員」との取調べを受けた。さうして、その後二月二十四日に、政府の許可を得てスパイとして、彼等の計畫通りに、一層ナチス宣傳のからくりの調査を進めることにして、そのために誓約書を認めることになつた。

「聯絡員(アマルガメーター)」と知り合ふ

さうしてゐる間に、フォーブスは一人の宣傳員と近づきになつた。この宣傳員は本當の「獨系アメリカ人團體」("the Bund") の會員ではなかつたが、この「團體(ブント)」と、他の反ユダヤ的諸組織との協調を計る聯絡員 ("Amalgamator") の一人であつた。フォーブスはその顚末を次のやうに物語つてゐる。

「これは二月二十日のことであつたが、ジャックは私を、下町に事務所を持つ或る裁縫師の處へ連

れて行つた。ジャックはある理髪師の紹介でこの裁縫師と已に知り合つてゐたのであるが、彼はシァトルのナチ團體や、ハンブルグから手に入れた反ユダヤのパンフレットを見せたことがあつた。ジャックはその理髪師が反ユダヤ的な話をことさら偏愛するのに氣が付いて、彼は少くともナチス團體の何れかに關係があらうと睨んでゐたのである。

我々は午後の二時にその裁縫師と面會する約束になつてゐたので、直ぐ出掛けた。しかし、折から彼は婦人客と對談中で、しばらく小さい應接室で待たされた。

待つてゐる間に、ジャックは私の注意を、陳列室の中に已に二ケ月も懸つてゐる私の洋服に向けた。仕入れ品がかうも遲く移動するやうでは、この家の主人は一體どうして生計を立てたものかとあやしんだ。

客が歸へると、裁縫師が出て來て、小さい應接室に案內した。こゝで「經濟研究會」（"An economic study club"）の會員であるといふもう一人の人物に紹介された。この會といふのは、その目的に、總ての商賣上の罪惡はユダヤ人にありとの主義を揭げてゐるので、裁縫師はこの會の會長であつたのである。他の男はロスアンジェルスの私立探偵と自稱する人物であつた。

私は一九三七年、三八年ドイツに生活してゐた時の體驗から、ユダヤ人迫害の態度をするとこ

の兩名の舌は弛んで、今まで聞いたこともないやうなユダヤ人反撃の激しい會話が始まつた。又此の洋服屋は事務所に澤山保存してゐる多數の內外のナチス宣傳物を私に示した。

しかし、この會見での最大の收穫は、ウィリアム・ダッドリイ・ペレー（William Dudley Pelley）の「シルヴァー・シャーツ」（"Silver-shirts"）の地方管區組織者と知り合ふ端緒を得たことである。この「シルヴァー・シャーツ」は反アメリカのナチ宣傳物の配布の點では、「獨系アメリカ人團體」の次に位してゐる。

この銀シャツ黨員が、電話で洋服屋と會談するのは愼重を極めてゐた。勿論二人は互に知り合つてゐたのだが、彼等は一定の暗號を用ひた。

洋服師が最初「こちらはしか〳〵であります」（"This is so and so."）と云はねばならない。それから、何かの質問に答へて、「私は洋服師です」と云ひ、最後に、もう一つの質問に「私は某ビルディングの事務所にゐます」と返事をする。かうした會話の後に始めて、その銀シャツ黨員は談話をしたり、ジャックと面會するといふ用心深さである。」

聯絡員會議（a meeting of the Amalgamators）

フォーブスは又六月二十七日の記事で、反アメリカ主義の諸團體の代表である所謂「聯絡員」の會

議の眞相を發いてゐる。フォーブスはこれに出席しなかつたが、ジャックは參加して一部始終目撃して、その會から歸へると、その印象が新しい間に書き留めて、フォーブスに報告した。この會議に出席する手筈が極つたのは、前にも述べた「銀シャツ黨」の地方組織者の配慮の結果である。豫め電話で打ち合せて置いたので、「聯絡員千五百〇九號」と稱する謎の人物が、ジャックを訪ねて、會議の場所であるグリーン・レーク（Green Lake）區所在の、ある木骨のバンガローに彼を案内した。ジャックは次のやうに語つてゐる。

「この居間には八人の人がゐた。これらの紳士は「一〇五一號」から「一〇五八號」までの番號で紹介された。我々は食卓に就いた。すると聯絡員「一五〇九號」が、聯絡員の活動狀況を約十五分間述べた。」聯絡員達は、「銀シャツ黨」とか「獨系アメリカ人團體」とかの宣傳單位の代表者の集りである。記錄は作製されず、會の度毎に新らしい座長が、カードで定められる。會員は互に名を知らず、各細胞は各單位の代表者であるばかりでなく、又職業別の代表者も含んでゐる。

聯絡員の各單位の會合は一週乃至半月に一回各會員の家で催される。間歇的に、ある細胞の會員は地方管區の會合に出席するやうに選擇され、各自の細胞の狀態を報告する。かゝる委員は名前を云はないで、數字の身分證明書を見せる。又地方會議の記錄は作られないで、指導者が、この代表

する團體の會長に口頭の報告をする。

「一五〇九號」の語る處によると、五十の別々の細胞が、其の時に、會合してゐると云ふ。

正式の點呼が行はれて、この時各聯絡員は印刷した數字のある赤いカードを呈示した。このカードは前の會に發行されたもので、數字は毎週變更されると云ふ說明がされた。「一五〇九號」は一人の會員が出席しなかつたので、カードは全部破棄して、新しい順序になつたと云つた。マウント・ヴァーノンの郵便局の函から出たといふ毒々しい反ユダヤ的文獻が一通り廻はされてから、宣傳活動について各細胞員が、短い報告をした。それから、シァトル・クラブのユダヤ人が不道德の行爲をしたことが論ぜられた。これに關しては、何か「直接行動」をせよとの動議があつたが、握り潰された。勿論私がゐたためだらう。さうして、會は次週まで延期され、次はカークランド（Kirkland）の某所で再會されることになつた。

最も戰鬪的な「銀シャツ黨員」

更に彼はもう一人の「銀シャツ黨員」と知り合つた。

「聯絡員の洋服屋の事務所で、吾々は「銀シャツ黨員」の一人と近づきになつた。ジャックは三月四日に、北部ブロードウェイ區にあるその人の家を訪ねた處、その家はあだかも兵器庫の感を呈してゐ

た。部屋々々には銃砲が藏され、浴室にまで及んでゐた。その黨員は若し反對者が、何か記錄を求めて家宅に侵入するか、彼や彼の家族に危害を加へるやうな場合は、躊躇なくこの武器を使用するのだとジャックに語つた。

しかし、もつと重要なことは、その黨員が宣傳物として所藏してゐた「一九三九年までに百萬の銀シャツ黨員」("One million Silvershirts by 1939")といふ題の付いた小冊子を手に入れたことだ。」

「銀シャツ黨」の目的

この書類はルーズヴェルトを初め全國家機關に激しい攻撃を加へたもので銀シャツ黨の首領であるウィリアム・ダッドリー・ペレーが昨年行つた十四ケ條の提案も書かれてゐた。それは次のやうな驚くべきものである。例へば、

「イスパニヤのユダヤ人を放逐し　又ルーズヴェルトを大統領の椅子から追放するばかりでなく、彼が聯邦中に引き入れた外國の寡頭政治(alien oligarchy)の官吏を解雇するといふやうな狀態の喚起に努力することを提議する。」

「私は………の撤回、廢止を果すために、所謂"New-Dealism"及び"Wagner Act""the National Labour Relations Board"及び"the Social Security Act"の破棄を提議する。殊にこの最後の法令

は、アメリカの勞働者の給料袋に不正當な税を掛けるもので、必死のユダヤ民族主義者の團體に財源を供給するべく利用されてゐるのだ。この財源がなければ、この團體は破滅してしまふだらう。」

其の他、ユダヤ系の人間は一州一市に限つて土地を所有することを許すべきことや、ジョン・エル・ルイズ（John L. Louis）、ロバート・エム・ラフォレット（Robert M. La Follette）、サミュエル・ディクスタイン（Samuel Dickstein）の三名を憲政の敵として投獄すべきこと、全世界の反共的の國民、殊にドイツ、オーストリヤ、スペイン、日本と親交を結ぶこと等が熱心に提案されてゐる。

勿論この他にも反ユダヤ的の提議があるが、何れも現アメリカ政府の體制を破壞しなくては實現出來兼ねるものばかりである。

管區部長との會見

彼等は更に「獨系アメリカ人團體」の地方管區部長（the district leader of the German-American Bund）と面會する機會を得た。彼こそヒットラー總統のナンバーワンの宣傳員に外ならない。ジャックが單獨で、例の銀シャツ黨員の家でその部長に初めて會ふために出掛けたのは三月九日のことである。その部長と稱する男は「團體」の國內指導者（National leader）、フリッツ・クーン（Fritz Kuhn）に代る西北區の組織者であると云つて、今迄知り合つた宣傳員と同じく、總てのユダヤ人を憎惡す

る感情をことさら激しく表現してゐた。

「フォーブス氏を同道して再び私を御訪ね下さい。その時はこの「團體」の地方管區司書（the district librarian of the Bund）が、ユダヤ人の著者達が非ユダヤ人に憎惡の念を吹き込む方法を御教示します」と彼はジャックに云つた。又彼等兩名はまだ「團體」のメンバーにはなつてゐない。總ての申込者は地方管區部長の精査を經て、その經歷に少しでも疑惑の節があれば、入會を拒否するとのことだつた。又調査にも慣れてゐるから、「團體」の祕密を探り出さうとする申込者は直ぐ看破されると彼は述べた。その部長の言葉によると、この組織は「フイヒテ協會」から何等の特許狀を得てゐるものではなく、又會員の資格はアメリカ市民に限られ、又市民になる意志を申出た外國人のためには「團體」は訓練所を持つてをり、最終の終業證書を貰ふと、直ちに會員に編入されるとのことだつた。

更にフォーブスもジャックに連れられて、三日後に、その部長の家に行く筈になつた。その家は氣持のよい二階建の家であつたが、部屋の壁には多數のドイツの將や繪が懸つてゐた。ことに食堂には「最後の晩餐」の複寫があつた。この繪の中には唯一のアリアン系の顏もないのだから、この男のユダヤ人嫌ひを考へると、どの位ひ長い間この繪は懸つてゐたのだらう。

この部長は頑丈な體格を持つてをり、四十五歳許りである。彼は獨逸アクセントの英語を話した。彼は我々を鄭重に迎へて、この國で生れた妻や娘にも紹介した。

この時更にこの部屋に新來者があつた、彼がスヰーニー（Sweeney）といふ假名の「團體（ブント）」の司書である。彼はユダヤ人虐待問題を取扱ふ書籍やパンフレットを多數所藏してゐるが、內外の組織的な中央部から反ユダヤの宣傳物を受け取るばかりでなく、かゝる材料を專門にしてゐるワシントンの書店からも購入してゐるとのことである。彼は國家の行政機關は勿論地方の役所をも猛烈に非難した。さうして、地方の民主黨員はその忠節をユダヤ人に負ふてゐるが、合衆國に負つてゐない。「あなたのやうに善良な市民は政府を改革する運動に參加されなければなりません」と彼は述べた。

彼が提唱する「改革」とは政府に參與してゐるユダヤ人を全部放逐してしまふことで、シアトルからも赤色ユダヤ人の政治家達を除くために直ちに手段を講ずるがよいと云ふのである。この會話中部長は沈默を守つてゐたが、彼は、この「團體（ブント）」の組織は獨裁の代表的のもので、指導者は選擧に因らず、その才能によつて地位に就いてゐるのであるから、もつと適任の人が現れゝば、自然その位置を彼に讓るのであると說明を加へた。部長は司書の方が自分より優秀であると信じて、その面前で、この發言をしたのであるがスヰーニーは職務の都合上、第二の地位にゐる方が適當ですと

謙遜の言葉を述べた。

尙この會話中、臺所にゐる部長の妻は代表的なドイツの主婦であるらしく、ドイツ語を自由に操る聲が聞えたといふことを書き添へてゐる。

それから後、再びかれらはこの地方部長を訪問することになつて、三月二十日に彼の家を訪ねると、部長はスキーニーと共に彼等を待つてゐた。この時は、最近フイヒテ協會から送られた多數のパンフレツトを持參した。部長はこのパンフレツトの大部分は已に見たことがあるが、それの複寫を作製した。部長は以前この組織はハンブルグのフイヒテ協會から特許狀を得てゐないと公言してゐたにも拘らず、スキーニーの言葉によれば、フイヒテ協會は印刷した宣傳物を送るだけでなく、資金さへも「獨系アメリカ人團體」及び類似な協會に注ぎ込んでゐるとのことである。又地方の團體の會員の一人は行動の具體的な計畫を得るために一ケ月以內でドイツ本國に送られ、しかも、この派遣は全國を通じてどの地方團體も實行してゐると云ふ。その委員は指導者或は敎師としての才能に基いて選擇される。

彼等が「團體（ブント）」の會員になりたいとの希望を洩したのは、この二回目の訪問の時であつたが、ジヤツクは、ウオシントン大學の學生中にも、ナチの宣傳に興味を持つものがゐると述べた。しかし、

部長は非常にこれに興味を感じたが、團體の會員となることは容易な業ではないから、長く、愼重に考慮をしてからがよいと云つて、その入會を延期させた。

けれども、考慮を促したのは口實で、實は總統がその團員の絶對の忠實を要求してゐるから、確實さを確めてみる暇を持ちたいと思つたものらしい。

ナチ入門書（"Nazi Primer"）

彼等が「ナチ入門書」を初めて見たのは此の訪問の際であつた。これはドイツで使用されてゐる教科書で、ユダヤ的なあらゆるものに對する憎惡の念を、小學生の童心に植ゑ付けようとしたものである。子供達にもユダヤ人を迫害させる目的で、一九三六年ドイツで發行された美しい挿繪のある本だ。例へば、この本の一頁を見るのに、肥つた背の低い老人がトランクを持つて立つてゐる。鼻の下には髭があり、あだかも虎の頭を想像させる醜い顔である。縱縞のヅボンを穿き、白い上衣を着て、この男はトランクを如何にも重さうに運んでゐる。これはユダヤ人を象徴化した姿であるらしいが、それと相並んだ繪にはドイツ人を暗示したと思はれる若者の姿が描かれてゐる。ヅボン一つのたくましい男が、左手を腰に當て、右手でシャベルを地面に突いて立つてゐる。彼の眼差しは、力强く前方を見やつてゐる。さうして、この二枚の繪を見たものに、此の兩者の間にある著し

い對照を思ひ出させ、反ユダヤ的な意圖を吹き込まうといふのである。しかも、その繪には次のやうな文句が書かれてゐる。

「ドイツ人は、勞働と爭鬪のできる誇りに滿ちた人間である。彼はかくも美しく、又勇氣に溢れてゐるので、ユダヤ人は彼を憎惡する。この圖がユダヤ人だ。諸君も分るように、國中で最大の惡漢である。自分では一番美しいと信じてゐるのに、一番みにくいのだ。」

部長はこの入門書を、アメリカ生れの彼の娘を教育するためにドイツから輸入したのだと云ふ。自分から何等の判斷も下せない、若い、將來のアメリカ市民に不合理な人種的偏見を吹き込まうといふので、今迄見たこともないやうな、全ナチ宣傳中最も惡意に滿ちたもののやうに思はれた。

もう一人の有力な宣傳配布者

彼等はこれまで「獨系アメリカ人團體」の地方管區組織者及び司書スキーニーと專ら關係を續けて來たのであるが、これはそれらの人々がナチの代理者中最も重要な人物と考へられたために外ならない。けれども、彼等は銀シャツ黨や他の組織を忘れてゐるわけではない。ジャックはこの期間中も、聯絡員の裁縫師や其の他のユダヤ迫害者を規則的に訪問してゐたが、この訪問で、しばらく學校の敎師をして、又最近までウォシントン大學の講師をしてゐた經驗のある人物が彼等の一味で

あつて、反ユダヤのナチ宣傳物配布のことでは、比較的安全に近づけることが判明した。そこで兩名は、三月二十八日に彼を訪問することになつた。この訪問は、今迄の調査中で最も特異の經驗であつた。

「銀シャツ黨」の仲間であると紹介されるや否や、この以前の敎師は、忽ち全ナチ宣傳家の會話の中味をなしてゐる反ユダヤ的な言論を開始した。又彼は事務所の棚込みの中に宣傳物を藏してをり、これを彼等に自由に示した。彼はまたハーグレーヴズ（Hargraves）と稱する英國人のファシストとも知り合つてゐると話した後で、彼等に新しい種類のものを紹介した。彼はこのハーグレーヴズから手紙や供給物を規則的に得てゐたのである。彼は又「經濟研究團體」の一員であると物語つた。

この以前の敎師は五十代の、身繕ひをした男で、その學者的の風貌から、北西部の人々に、反アメリカ主義の宣傳をするのには、最も有利な地位にゐるらしいと思はれた。フォーブス等は「稅關調査員」に、彼のことを報告し、四月六日には再度この調査員と協議を遂げてから、愈「團體（ブント）」の會員となる段取りとなつた。政府もこれに援助を與へ、金錢上の支出は償ふと云ふ約束が出來た。

尙ほこの協議の際に判つたのであるが、「稅關調査員」は、彼等の報告に基いて、カナダの國境を越える宣傳物の積荷にことさら注意を拂つたが、一月十二日以來あまり大きい荷物は通過しなか

つたと云はれてゐる。しかし、この時七百五十ポンドに達する荷物が三個、フイヒテ協會から、ロスアンゼルス宛に託送されたので、その宣傳物の見本は、直ちにウオシントンに送られたが、その荷物の配達は中止されなかつた。

兩名はナチ團體の會員になる

その後彼等はナチ團體の會員となることに成功した。その經過の大要は次のやうである。

即ち四月十二日に「團體」(the Bund) の西北組織者の許に電話を掛けて、會見の上この組織の規則や、入團の準備に就いて敎へを受ける筈であつた。けれども今度の會見は、以前の非公式の時とは違つて、古い歡待の態度はなく、ナチ訓練の儀式ばつた應待だつた。部長は、祕密軍隊 (secret army) の制服を着て、灰色のシヤツ、黒いネクタイ、サム・ブラウンの革帶、靑いズボンに身を固めてゐた。彼の挨拶は形式的で、「獨系アメリカ人團體」(Amerikadeutscher Volksbund) の公けの趣旨と目的とを彼等に讀み上げた。

この「趣旨と目的」は、しばらく前にその内容が、ダイイズ委員會に示されてから、かなり修正されたことに氣が附いた。即ち「ドイツ系の愛國的アメリカ人(Patriotic Americans of German stock)の組織」の代りに「愛國的アメリカ人の好戰的組織」(Militant organization of patriotic Americans)

といふ文字が用ひられてゐた。その決議の內容も同樣に修正されて、ナチ的色彩を除いて、アメリカの他の組織と同じに、權利條例（the Bill of rights）の權利と保護とを受けようとする努力が見られる。しかし反ユダヤ的、反民主主義的色彩は勿論否めない。

部長は、そのパンフレットを讀んで、彼等の質問に答へてから、會員には二種類ある旨の說明をした。⑴は行動的會員即ち「突擊隊員」（"Ordnung Dienst" 即ち storm-trooper）であつて、攻擊の先端に立ち、反ユダヤ的宣傳物の配布運動とか、その他「團體（ブント）」が偶々行ふどんな活動にも參加するもので、⑵の會員は單なるシンパサイザーとして、經濟的の援助をするだけである。此の兩會員の何れでもよろしいのであるが、ことさら突擊隊員にしたいと思つたらしく、非常にドイツ的のアクセントのある英語で、「これこそ、力もあり勇氣もある靑年のする役割です」と斷言した。

又彼は突擊隊員のみが制服着用が出來るので、制服は人にライオンのやうな勇氣を與へるものであつて「將來流血の出來事でもあつた場合制服を着けた人々はその身方を持つだらう」と附け加へた。

フォーブスは突擊隊員として名簿に乘せられることになつたが、ジャックは一身上の都合で、單にシンパサイザーとして參加することを承諾した。しかし、フォーブスが突擊隊員の組織に正式に入れられる時は、ジャックも同伴してもいゝとのことであつた。しかし、この時あだかもこの地方の

「團體」の「細胞」の總會が行はれることになつたので、か丶る會は滅多にないこととて、彼が會員になる事は非常に有利のわけである。以下彼はこの會の模樣と又フォーブスの正式な入會の儀式のことを述べてゐる。

シアトル近傍の「細胞」會議

フォーブスはジャックを連れて、彼を訪ねた名も知らない若い男の案內で、四月十四日の夕にエドモンズ（Edmonds）の近傍の廣間で行はれたこの總會に出席することになつた。

「われわれの到着は遲かつたと見え、もう部屋は一杯だつた。五十人はゐただらう。皆、團の制服の一部は身に着けてゐた。誰も指定の灰色のシャツと黑ネクタイを着けてゐたが、サムブラウンの革帶を着けてゐるもの、又更に青い船來の帽子を被つてゐるものも二、三ゐた。しかし、團の公けの下衣を着てゐるものは無かつた。管區部長は全身制服に身を固め、アメリカではなくてドイツ本國にでもゐるやうに堂々と步き廻つてゐた。

彼はこちらに來て、ジャックと私に握手をした。それからカイゼル髭の年老ひた男と一緒に演壇の方に進んだ。この相手は地方祕書兼收入役であることが後で分つた。

部長は元氣な態度で演壇に躍り上つて、ドイツ語で會衆に演說をした。彼の云ふことは分らなか

つたが、誰も演壇の方に前進したところを見ると、彼は規律を命じたらしい。

祕書兼收入役が腕を上げると彼等はドイツ語で唄ひ始めた。古いドイツの讃美歌らしいが、その節も文句も分らない。彼等は大變靜かに唄つた。しかし、これは何か傳統に從ふためか、それともあまり近所迷惑にならない用心のためか私には分らなかつた。

歌が終ると、部長（リーダー）が合圖をしたので、私は、二人の制服を着た突撃隊員に護られて演壇に近づいた。彼等は行進でもしてゐるやうに軍隊式に私の兩側を進んだ。

兩名はエスキモー人で、比較的若かつた。さうして、彼等をチラつと見た時、彼等が私を演壇に連れて行くのは、名簿に乘せるためか、それとも除名するためか、不安になつて來た。この組織に參加した眞の動機が發見されたのではあるまいかと思はないではゐられなかつた。

しかし、この杞憂は根のないものであることが分つた。名簿に名前を署名し、また宛名と電話番號とを書き込み、一弗七十五仙、即ち、入會金一弗と最初の一ヶ月分の會費七十五仙とを支拂つた。部長はカードも與へないし、受取りも出さなかつた。これだけと分るとジャックの許に歸つて行つた。

人群れの中を歸へる時に、團員の多數は私と握手をして、「ようこそ」と挨拶をした。

私が名簿に乘せられてからの出來事は殆んど理解出來なかつた。全部ドイツ語でされたからだ。ジャックを除けば私が唯一のアメリカ人である。「スキーニー」が通譯をしたが、あまり效果的でなかつた。

演壇の上には宣傳物の大きな包みがあつた。皆、ドイツ生れのものであつて、部長はこれを廻した。「團員」は自由にこれを手に入れることができた。

「團員」(the Bunder)は皆中年者で、大部分は、その外貌とアクセントから推してドイツ生れのものらしかつた。このことで、彼等が私を會員にしたがつてゐる理由が理解できた。ユダヤ人とか、勞働力とかカトリック教、民主的施設、其の他ヒットラーの禁止條項反對のやうな單に宣傳物を撒布する行動以上に活潑な活動を必要とする時期が到來した時に、この組織が有力であるためには、明かに青年を必要とするからである。さうして、ウォシントン大學内の數千の學生に最初の楔を打ち込んだのも理由のないことではない。」(抄譯)

會合は一時間以内で終了して、茶菓の饗應もなく散會した。この會の後に、もう一度重要な會議を一週間後の四月二十日に催した。その時はスキーニーと部長との三人がゐた。スキーニーは、ロスアンゼルスの地方部と通信をしてをり、その組織の先日の活動狀況に關する手紙を讀み上げた。

この手紙に據ると、ロスアンゼルスの「ドイツ人の家」（"the German House"）は三月中盛んに活動して、その期間中に二度の大會が催されたと云ふ。又この手紙はドイツへ四ケ月の旅行を了へた會員の一人の報告を引用してゐる。この旅行家は「私は内外の敵から合衆國を防禦するために歸國した。さうして、自國が危險であるのを見る限り、最後まで鬪ひたいと思ふ」と述べてゐるが、これは「ドイツ製」と云ふレッテルのある別製の「アメリカ主義」であるらしい。

この手紙を讀み了つてから、スォーニーは、「大學でユダヤ人と一緒にどうしてゐますか」と尋ねた。ジャックはドイツ・フイヒテ協會と「地方團體（ローカルブント）」の援助の御蔭で、眞にアメリカの理想とドイツの國家社會主義の擁護が出來たと返事をしたので、部長とスォーニーとは上機嫌であつた。

「細胞」會議

六月六日の記事で、フォーブスは、更に、四月二十八日の夜行はれた第一回の「細胞」會議の模樣を述べてゐる。この會は「部長（リーダー）」の家で催され、ジャックは同伴せず、フォーブスは單獨で出掛けた。

「私自身の外に、その會には九人の人がゐた。ジャックが數週間前に出席した「聯絡員」の會合の時と同數であつた。ジャックも私もまだ一箇の「細胞」に割當てられてゐないことを示唆するもので、

私は第十番目の人であつた。

ナチスが共産主義者を、その文獻で攻撃するにも拘らず、その組織の計畫と共産黨員の計畫との間には著しい類似があるのが解つた。

この「團體」の細胞は共産黨のそれと同様に、職業的基礎の上に組織されてゐた。この會の九人の團員中少なくとも三人は指物師であると見えて、宣傳活動を論議する傍ら、商賣上の談話が取り交はされた。

又その會では政治上の討論が行はれて、「團員」の多數は民主黨全般、殊更地方の役人に對して激しい反感を示してゐた。

しかし、部長の興味は近くオレゴンの團員と聯合會を開くためにポートランドへ遠足することに向けられてゐた。その會の目的は、オレゴン側にあるコロンビア川の溪谷の何處かで催される筈の「北西團員」の夏のキャンプ生活の準備をすることであつた。

團員は誰もこの遠足に期待してゐたが、ことに部長は、彼の奇想を凝らした制服を着て歩き廻れるのが得意らしく、ことさら感激し興奮してゐた。

又この「細胞」の會員の一人は、この夏ドイツへ派遣されて、合衆國のヒットラー地下運動に關

して直接の指導を受ける筈の團員であることが分つた。しかし彼は私の思つた程慧眼ではないらしかつた。旅行の出來るのが何よりも嬉しくて、ハンブルグやベルリンの上役の命令がなければ、二度と此の國に歸らぬのではないかといふ印象を與へた。」

風除けガラス用のビラ（Windshield stickers）

こゝで、この團員が獨特の宣傳ビラを用ひてゐることを物語つてみよう。最近シァトルの自動車の風除けガラスに度々使用されたビラの説明がこれで判明するわけだ。論議が終つてしまうと、自動車の風除けガラスに貼る諷示畫のビラを部長は配布し始めた。この様な特殊の宣傳ビラを知つたのは、この時が初めてであつた。この戯畫は「合衆國の歷史」と題して五つのスケーッチから成つてゐた。

第一の繪は、一人のアメリカ・インディアンが斷崖の縁に立つてをり、その後には岩越しに、米國人(アンクル・サム)が眺めてゐるものである。次の繪は、アンクル・サムが印度人の場所に代つて、印度人はコソコソと逃げて行く。第三の繪は惡意に滿ちたもので、ユダヤ人がその岩を越えて眺めてゐるのに、アンクル・サムは彼の方に背を向けて遙か國々を見渡してゐる。それから、第五の繪では、スワスティカを腕に附いた見間違のない「團體(ブント)」の突撃隊員の一人が、そのユダヤ人を斷崖から突き落さうと、

岩の後から身を起さうとしてゐるのだ。」

ユダヤ人が完全に合衆國を支配してゐると再三ナチ宣傳中で繰り返へしてゐるところを見ると、この戯畫は、その「團員」が暴力に愬へる時期が間近であると感じてゐるとの證據になるだらう。

「誰か一人が小雨が降つてゐるからこのビラを貼るのに何等の不便も感じない理想的な夜だと注意をした。その會で一萬枚のビラが配布され、私はジャックの分も入れて各五百枚づゝ持ち歸つた。私このビラを使用するのはどうかと思はれたが、若し一枚も大學の區域内で發見されないならば、私とジャックが咎められることゝ思つた。」

以上が「細胞」會議の大要であるが、こゝで少し遡つて、彼等が直接ハンブルグのフイヒテ協會と文通して、その結果得られた消息に就いて書いてみよう。

フイヒテ協會との文通

前に、ジャックが大學教授との口論で立腹して、これが動機となつて、シアトルのドイツ商會に赴き、そこで多數のドイツ製宣傳物を示されたといふ經緯は已に述べた通りであるが、その後數日經つと、直接ドイツのフイヒテ協會に手紙を出して、ユダヤ人教授との問題を報告するやうにとの匿名の手紙がジャックの許に着いた。この忠告通りにしたが、校庭における個人的の不平を訴へた

ジャックの手紙が、かくも迅速に注意されたといふのは何か意味がなければならない。

返事の郵便で、ジャックは、英語で印刷したあらゆる種類のナチ宣傳物をたつぷり受け取つたばかりでなく、オスカー・シー・プァウス (Oscar C. Pfaus)から、非常に温情のある私信を貰つた。プァウスは、組織の支配人 (director of organization)、ケッセマイエル (Kessemeier) と署名してゐた。その手紙の中には次のやうな言葉があつた。

「貴下の御親切な、又興味ある御手紙に心から感謝申上げます。又御協力の程も深く感謝してゐます。

フィヒテ協會のパンフレットを直ちに御送附出來ますことを大變の喜びと存じてゐます。又この書物は御希望に副ふことになりませう。

勿論教授の云ふところは貴下の御考へと一致しないことは疑ひない處です。しかし、その如何に拘らず、我々の論爭の誠實さが認められて、眞理がアメリカにおいても終局の勝利を得ることになりませう。

アメリカ行の船に乘つてゐるおびたゞしいユダヤ人の群を、私と同樣、御覧になるならば、この憎惡と奸策の權化の大群はアメリカ人にも危險を意識させることが御解りになるでせう。若し

アメリカ人が眞に國家の安泰と、より良き國際關係の建設に關心を持つならばさうです。

「眞理のための團結」

この手紙には、調査が進行するに連れて、ジャックに段々親しくなつて來た書翰紙が用ひられてゐた。「團體(ブント)」の名前の下に、「世界眞理のための團結」と云ふ素朴な題語があつて、その下には更に次のやうな説明が加へられてゐた。

「新しいドイツに就いて、本國から直接、報道を無料で配布して、平和と理解の主義のために貢獻する。又世界赤化、その發頭人及びその危險に關する事實を宣傳して、人類の文化と文明とを保護する。」

これに續いた船積で送られた一パンフレットは、專ら故大統領ウィルソンに對する辛辣な攻撃に終始してゐるところを見ると、ヒットラーはウィルソンを過激派の一人と考へてゐるのだらうか。

それから更に、兩名は宣傳の陰謀をもつと深く知りたいと思つた。そこで宣傳の正確さを決定的にしようとして、フィヒテ協會はどんな手段を講じてゐるかを知るために、ブァウスに對して陷穽を設けることにした。その次の手紙で、ジャックは贋物と分つてゐたが、ベンヂャミン・フランクリンが「大陸會議」(the Continental Congress)で行つたと云はれてゐる反ユダヤ的辯論の寫しをブァ

ウスの許に送つた。

さうすると、それから十五日經つて、次のやうな手紙を受け取つた。これは最初の歸りの郵便であつたらしい。

「偉大なアメリカのフランクリンの行つた、興味ある演説の寫しを御送附願つて厚く御禮申上げます。原文の寫眞を取つていたゞけたらと思ひます。この寫眞は、この先我々の活動にとつて大變役立つでせう。もし原文が手に入らぬならば、その寫眞で充分です。原文の寫しは何處で手に入るか御存知ですか。」

けれども、プァウスはジャックの返事を待つこともしないで、彼はその贋の文書を利用してしまつた。四月に受け取つた宣傳物の次の積荷で、小冊子が供給されたが、その裏の表紙には、次のやうな短い紹介文で、假想の演説が印刷されてゐた。

「ユダヤ人は、あの偉大なアメリカ人、ベンヂャミン・フランクリンの豫言を見事に適中させたのだ。彼は憲法制定當時、政黨委員會の席上でこの豫言をしたと信じられてゐる。」

このことが、文通によつて宣傳部に知られた一大學生の無根據な言葉に基いて行はれたといふことを記憶して置くべきだ。しかも、フランクリンの作とされてゐる演説が全然僞りであることを廣

範圍の讀者を持つ或る週刊誌の論文が發いてから僅か數ヶ月後の出來事である。

これは、フイヒテ協會の獨りぎめの「世界眞理のための團結」と云ふ題目に新しい意味を與へるものである。

ブァウスは、自分が入用の材料を提供してくれる人なら誰でも快よく迎へることは明瞭だつた。勿論その積りはなかつたが、二月十九日の手紙で、ジャックは四月にドイツに個人的な訪問が出來るであらうと書いた。すると、ブァウス氏は、フランクリンの演説の寫眞の寫しを求めた同じ手紙で、熱心に次のやうに述べてゐる。

「こゝのハンブルグで、貴下に御逢ひ出來る機會を期待致してゐます。何時こちらに御到着になるか、船名、日附け、上陸港を御報知願へれば好都合です。我々は貴下と御近附きになれるので大變喜んでゐます。我々のハンザ同盟の古い町であるハンブルグも御案内できるでせう。」

この手紙と一緒に、ブァウス氏は、チェザレ・サントローの「外國人の見たヒットラーのドイツ」(Cesare Santoro's "Hitler Germany as seen by a Foreigner") の署名入りの一部を送つてよこした。

この本は明かにナチ的色彩が濃厚で、その文學的價値は疑はしいが、五百頁以上の浩瀚なもので、精選した宣傳寫眞のロートグラフ版が附錄になつてゐる。

ナチ政府は、合衆國で反民主主義宣傳をするためには費用を惜まないといふ證據である。

これがファウスとの最後の文通であつたが、ジャックはハンブルグに手紙を出すだけに限らず、ヒットラーの反民主的、反ユダヤ的宣傳に從事してゐる合衆國内部の他の組織の指導者達とも通信をしてゐた。

前にも述べた銀シャツ黨の首領であるウィリアム・ダッドリー・ペレー（William Dudley Pelley）はジャックから來た手紙を怪しいと思つたらしいが、ニューヨークに事務所のある「獨系アメリカ人國體」の國際關係支配人（the National Public relations director of the German-American Bund）に近づくことは見事成功した。

この「國體（ブント）」は三千萬の非「アリアン」の同胞に對して一億の「アリアン」のアメリカ人を團結させる目的を持つ「アメリカの國民運動」の一部分に過ぎないと公言してはゐるもの丶、その實、他日「戰の日」（"Der Tag"）が廻り來る時は、その指導的立場に立たんものと、その同盟者を公然と蔑視してゐるのである。三月二日にジャックが、この國際關係支配人に宛て丶出した手紙の返事からこの事は明瞭になつた。

ジャックは支配人宛の手紙の中で、フイヒテ協會のために宣傳員として登錄された由來を物語つ

てから、三つの挑戰的な質問を提示した。卽ち、(一)「銀シャツ黨」(the Silver Legion)、「キリスト敎徒團體」(the Christian Party)、「獨系アメリカ人團體」、ドイツ・フイヒテ協會、其の他の類似の團體が、現在の仕事を完成するためには、一人の團長の下に糾合されるのが好都合ではないか。(二)今日アメリカに於けるユダヤ人の暴行を摘發しようと努力してゐる「獨系アメリカ人團體」及びその他の小團體の大體の實力を確めることが出來るか。(三)現在ダイイズ委員會の調査(the Dies Investigation)は一九三四年ウォシントンでサムュエル・ディクスタインが行つたあの有名無實の摘發程無力であると貴下は思はれるか。

これに對する返事は次のやうであつた。

(1)「團體(ブント)」、「銀シャツ黨」その他の組織の間に一層强固な連繫を作つて、一億のアリアン人の「アメリカ國家的運動」を實現する終局の目的のために努力してゐる。我々はこのやうな「黨」になることを夢想するわけではないが、特にドイツ的な要素を代表して、全體の有爲な一部となれば充分である。

進歩はしてゐるが、この進歩を促進するやうな忠告は熱心に求められてゐる。我々は銀シャツ黨と總ての點で一致してゐるものではない。例へば、その經濟的綱領も我々の評價する處では不可能

に近い。

けれども、我々は彼等と喜んで協力する。ボルシェヴィズムの背後にある力を認識して、總てのマルキストの現象に堂々と反對する勇氣がある總ての人々と協力する。

フイヒテ協會とか、その他、ユダヤ的國際的破壞に抗するアメリカ人以外の諸種の敵に關しては、我々は理論的に喜んで彼等と協力する。又他面、我々の政治上の絶對的獨立を維持して、アメリカ市民としての我々の忠順を決して和げることはしない。

(2) 上述の運動の數字的な强さに就いては一定の數字を擧げることは出來ない。この黨を構成してゐると考へられる會員の總員數は已に數十萬に達して、現在の徵候から判斷すると、かゝる黨の候補者に投票するシンパの數はもう數百萬は降るまいと思はれる。

(3) 我々は、ダイイズ委員會（Dies Committee）が國民に奉仕をしようとしてゐると信ずるが、我々もそれを出來るだけ、今迄と同樣に援助するだらう。

この手紙は"very truly yours"と云ふ定り文句で終らずに、「アメリカを自由にせよ」（"Free America"）と云ふスローガンが掲げられてゐる。あらゆる「國體（ブント）」の文獻や手紙に繰り返へして使用してゐる處を見ると、この言葉は「ハイル・ヒットラー」（"Heil Hitler!"）と同じやうな意味合で

アメリカで使用されるらしい。

以上がフイヒテ協會との文通から得られた大體の結果であるが、フォーブスは、七月十日の記事で、彼の暴露の報告を終つてゐる。それは彼がこの團體から身を引かなければならない立場になつたために外ならない。彼は多少嫌疑を受けるやうになつて、反ユダヤのビラを自動車の窓ガラスに貼る以外に重大な仕事を割り當てられなかつた。又ジャックもこの町から立去ることになつて、彼は西北部長の家で只三回の會合に出席したばかりであつた。

一つは五月六日、一つは五月十二日、もう一つは五月二十三日である。この期間中の唯一の正式な「細胞」會議は五月十二日で、この時にはハンブルグのフイヒテ協會からの反民主主義的宣傳物を町で配布するやうにと手渡された。

この最後の「細胞」會議で、特に彼の注意を惹いたのは偶然カトリック教徒であつた會員が虐待を受けたことである。その文獻の大部分の中で、「團體(ブント)」はキリスト教會の擁護者の立場にあるのであるが、このことで、この會員は反ユダヤ的であると同様に激しいカトリックの反對者であることが分つた。「地方司書係」であるスキーニーが若し留めなかつたなら——それはフォーブスの居たためらしいが——その虐待は何處まで行つたか分らない。

また月に七十五セントの會費がその席上で集められた。その後、フォーブスは部長を最後に訪ねたが、其の時彼は暑中休暇で不在にするから、「團體(ブント)」の西海岸組織者であるロスアンゼルスのヘルマン・シュヴィン（Hermann Schwinn）と打ち合せをしたらと告げた。しかし、もはやこれ以上の交渉を持つ積りはなく、萬事これが最後だつたのだ。

總括

さて、以上を要約してみれば次のやうになる。

(1) ドイツ政府の資金を受けてゐるハンブルグの「フイヒテ協會」と「獨系アメリカ人團體」、「銀シャツ黨」その他の所謂、ナチ宣傳物の配布をするアメリカの諸組織との間には密接な關係があることが文書で分つたこと。

(2) それぞれ半トンにも餘るドイツ製の宣傳物が少しの妨げもなく、ブレイン（Blaine）の稅關通過を許可されたこと。

(3) ウォシントン大學生團に少なくともナチの初期運動が存在してゐること。これは、ドイツ商會のシアトルの事務所の宣傳組織に、ジャックが「校庭接觸」（Campus contact）によつて初めて紹介された事實によつて證明される。

(4) 激しい反政府的態度にも拘らず、宣傳組織は、ウォシントン大學の前講師を仲介として、政府計畫中に足場を發見したことが發かれたこと。

(5) シァトルの好戰的銀シャツ黨員の一人の家の中は、さながら兵器庫を思はせるばかりに武器があつたこと。

(6) 憲法を完全に覆して、初めて實現出來るやうな綱領を實行したい意志を、銀シャツ黨員は公言したこと。

(7) アメリカの三千萬の非アリアン人が政治に參加するのを妨げる目的で、「獨系アメリカ人團體」は人種憎惡に基く黨を設立する計畫を發表したこと。

これで、ウォシントン大學生の記錄は終つてゐるのであるが、この種類の告白にあり勝な、何か背後に意圖を潛めた誇張を差引いて考へなければならないとしても、「ブント」、「銀シャツ」その他のナチス團體がそれぞれ强固な主義の下に團結して、ナチ・ドイツのためにアメリカで暗躍してゐるとは認めないわけには行かないであらう。

第五章　南米のナチズム

（一）チリー最近の動搖とナチズムの一般情勢

更に南米における活動に目を向けてみよう。チリーのサンチャゴにおいて昭和十三年九月五日に、ナチの暴動が起つたことは、未だ記憶に新しいところであるが、この事實は南米でナチズムが好機を得れば勢力を扶植しようとしてゐる事實を示すものに外ならない。この暴動といふのはナチ黨員の二十歳位の武裝せる會員によつて企てられたもので、約四時間にわたりサンチァゴ附近で交戰が行はれた。彼等は、大統領邸の近くにある主要な建築物を急襲し、短銃を以て內部に侵入したが、やがて鎭壓されるに至つた。その數は一萬乃至二萬と推定されてゐる。原因は、十月二十五日に行はれる筈の大統領選擧のため、カルロス・イバネス（Carlos Ibañez）の支持者であるナチ黨員が示威運動を起したことにあるので、多數の犧牲者を出して鎭定されたとは云へ、ナチスの潜勢力を見逃すわけには行かない。北部のナチスがアメリカニズムの支持者であつて、比較的穩健なのに反し、チリーにおいては兎角過激に走るらしい。

チリーのナチスは、大統領アレッサンドリ（Alessandri）の言葉によると已に七年以前から活動を開始してゐたとのことである。（New York Times, Oct. 2. 1938）表面上は建設された秩序を守るやうに見えたが、後には革命的な言説や約束をして全國を遊說して步いたイバネス將軍に全幅的な支持を與へて、憲法政治に反する行動をとるに至つた。イバネス及びナチス黨員の拘留で本事件は終了した。この叛亂は直接本國と關係はないと稱してゐるが、チリーのナチ黨は本國の綱領の多くを採用してゐるのは事實で、政府の對策宜しきを得て大事に至らなかつたとは云へ、今後もナチス彈壓の續く限り暴動の起る惧れがないわけではない。

本來チリーは戰略的な要衝として、第三帝國の垂涎の對象なりと云はれてゐるが、ここではその詳細を論ずる暇もないし、又それには異說があるかも知れない。しかし、ここではチリーのドイツ人がチリーでどんな活動をしてゐるか、又その宣傳方法は如何といふ點に就いて、ルードウィヒ・ローア（Ludwig Lore）の所說に基いて略述してみよう。（"Chile as a Nazi Outpost"—"the Nation" Sep. 24. 1938）最初のドイツ移民が南部チリーに來てから已に百年以上が經つてゐるとのことである。それ以來、三代のドイツ人がここに住んで、繁榮したのであるが、彼等は依然ドイツ語を用ひ、明かにドイツ的な文化を維持して、その祖先のゐた本國へ深い忠順を示してゐる。チリーのドイツ

人は常に多少とも土着の住民から疎遠してゐた。彼等は實業家であり、貿易商であり、其の國の豪商であつて、經濟的に豊で、明確な社會的地位を占めてゐた、自己の學校、教會、團體、新聞を所有し、また一週に三回、ドイツラヂオ放送局は、南米の住民に興味のある特殊な題目を、ドイツ語及びスペイン語で放送する。ドイツの映畫がドイツの映畫館で上映され、その多くは、本國の宣傳資金から補助を受けてゐる。辯舌家、交換教授、俳優、あらゆる種類の藝術家は本國から派遣されて、熱狂的な歡迎を受ける。

"Nacismo" チリーのナチス黨

南米のナチの諸黨の起源が全部一九三二年の初期にあるのは偶然ではない。この時はドイツのナチ黨が、本當の力を得て、國内の最富裕の實業家の背景を手中に收めた時期である。黨で入用の金は充分あるし、ナチ運動の味方を作るために、高い給料の宣傳員が、急激な勢力勃興に備へて、世界の各國に派遣された。かかる宣傳員の活動は、見事な成果を收めて、其の土地の住民にファシ・思想を傳達する強いナチ運動を建設したばかりでなく、彼等は南米とドイツとの通商を增加させ、今日では英國又は合衆國をも凌駕してゐる。ドイツ船は、南米の貿易と乘客運輸の大部分を占めて、ヨーロッパ、チリー間では、殆んど獨占の有樣で、ナチス宣傳材料を不斷に輸入した。

ナチス黨のチリーの支部は "the Movemente Nacional Socialista"、一般には "Nacismo" と呼び、その黨員を "Nacistas" と云ふ。運動の指導員はベルリンと密接な聯絡をとつて活動するドイツ系チリー人である。一九三七年四月二日の、フランクフルテル・ツァイトゥング（Frankfurter Zeitung）の報導によると、チリーのナチ黨は、四萬乃至五萬の「潔く身命を賭する會員」を持つと云はれる。ドイツ語の出版物は一ダース位發行されてゐるが、その內、黨の日刊機關紙は "Trabajo" と云ふ。黨の公認の首領は、Jorge Gonzales von Marées、その協力者は、黨の農業綱領の筆者であるカルロス・ケッレル博士（Dr. Carlos Keller）及び共和國の國民軍の指揮者たるシュバルツェンベルク博士（Dr. Schwarzenberg）である。

ナチス運動の綱領

チリーのナチス運動の綱領は、主要な點で、ドイツのナチ黨と一致してゐる。即ち反議會的、反自由主義的で、指導者原理（フューラープリンシイプ）に基いて、南米の權威ある統一國家を目指してゐる。農業の改革案として、一種の單税法（Single taxism）を提案する。これは、遊地の持主に、その土地の活用を強ひ、又大きい保有地の所有者に、分割と、賣却とを強制する方法である。

最初は、人種差別の問題で、重大な意見の對立が生じた。ドイツの移住民は、ドイツのナチズム

の反ユダヤ的綱領を極度にまで支持したが、土着のチリー人でナチ主義者の大多數はヒットラーの人種觀に反對して、ドイツ色彩のファシズムよりも寧ろイタリア的のものを支持しようとした。ローマ・ベルリン樞軸の强化と共に、これらの意見の相違は大體消滅した。ナチスモ（チリーのナチ黨）は反ユダヤの問題で、はつきりした立場を執らなかつたが、ユダヤ人を會員から除外して、フリー・メースン及びカトリック敎會に對して、無慈悲な爭鬪をこゝろみたのである。

兩國間の政治軍事上の親睦關係

チリーにおけるドイツの外交官及び派出員は軍事及び政治の高官の人々と親睦を續けてゐる。ナチの大統領候補者であり、最近の一揆の發頭人であるイバネス將軍（General Ibañez）は多年の間ヒットラーの信奉者として名高い。多數のチリーの士官は、ドイツで敎育を受けて、プロシヤの將校達は、ラテン・アメリカの軍隊の訓練員、指導者として、已に一時代の上活動してをり、このやうに次第に發達して來た親密さは第三帝國及び南米諸國との間にある親睦關係に大なる影響を與へた。チリーはこの點で、特別の恩惠に浴した。ハンブルグ出のナチ元老院議員アーレンス（the Nazi Senator Ahrens）は南米と深い關係のある人であるが、彼はかつてチリーを「南米のプロシヤ」と呼んだと云はれてゐる。一九三六年十月十一日の「ラ・プラタ」新聞（La Plata Zeitung）は、

「チリーの軍隊が、世界の各所で、頭角を顯してゐるのは、主として、ドイツの指導者のよき指導の結果である。チリー軍隊内のプロシヤ精神は、ドイツ人が格別の誇りを感ずる事實である」と述べてゐる。

ヒットラーが政權を握ると、忽ちドイツの派出員は、チリーの將校に働き掛けて、その結果、今日最高の軍部の將校達の多數はヒットラー政策の支持者となつてゐる。航空兵役の將校には特別の注意が拂はれて、ドイツとチリーとの間の航空關係はこの上がない密接さである。チリーの航空團の首領であるアラセナ將軍(General Aracena)は一九三七年、ドイツ政府の客となつて、著名なドイツの政治家達の歡待を受けた。彼の息は一九三七年に、航空上の訓練を受けるためにドイツに赴いた。このやうな友情はドイツに政治上の利益を齎したばかりでなく、チリーの航空團から飛行機の大量注文を受けるといふ利益があつた。

ドイツのファシズムを支持する有力なチリー人にはロス(Ross)、ミグエル・クルシャガ Miguel Cruschaga)、及びアルベルト・ハーフェルベック(Albert Haverbeck)とを擧げ得よう。ロスは前の外相で、ドイツ政府に招聘されて、一九三七年ドイツへ長期の訪問をした。クルシャガは前の經濟相で、現在上院議長であり、又ドイツ・チリー文化協會の會長である。チリーのナチ宣傳は、經濟的にも

政治的にも、極度に反英、反米の態度を執つてゐる。ウォール街及びロンドン商業區（the London City）への經濟的追從から小國を救濟しなければならぬと力說してゐる。

又この論說の筆者は最近のナチ暴動に關して、その目的は太平洋上のドイツの軍事計畫と堂々と協力するやうな政權を樹立するためであると許してゐる。又アレッサンドリ政府が勝を占めたと云へ、今後のナチ運動の進展如何は政府の態度如何に依存するものであつて、その政局の發展は明瞭ではないが、決してナチの運動が消滅したのではなく、近々數ケ月間にも、一萬二千人の人達が、黨に資金を提供してゐる事實が判明したと云はれてゐる。ナチ黨は至極頑强であつて、何時チリーその他のラテン・アメリカで再起を許らないとも限らない。

大體以上がローア氏の論文の大意であるが、彼はブラジルの暴動が失敗したので、チリーにその鉾先を向けたと述べてゐる。しからば、次項でブラジルの狀況に言及してみよう。

(二) ブラジルに於けるナチズム

ブラジルにおいてもナチズムが、當局の彈壓に抗しながら、依然地下運動を續けてゐることは事實で、例へば昨年五月首府リオ・デ・ジャネイロに勃發した叛亂事件の如きは、その現れと云へよう。この叛亂は、インテグラリスタ（チリー・ナチス黨）の敗北となつて落着を見た。

こゝで、今一應この事件の概略を當時の新聞によつて調査してみると、この叛亂は、五月十一日、「インテグラリスタ」が大統領グトリオ・ヴァルガス（Getulio Vargas）を殺害して、政府を乘取らうとする企に端を發したもので、グアナバラ宮殿は襲撃されて、數多の死傷者が生じた。この種の攻撃は已に二、三ヶ月以前にも企てられ、其の際、獨逸製の短刀、武器等が發見されて、この運動が、ナチスの支援を受けてゐることが判明したと云ふから、今度の事件も、やはりナチと聯絡があるものと考へられてゐる。大統領ヴァルガスは一九三七年政權を樹立して以來、「インテグラリスタ」の彈壓のために、時々手段方法を講じて、そのために、ナチ黨は解散されたと信じられてゐたにも拘らず、その黨員や指導者は依然活動を續けてゐたので、一九三八年三月十八日には、政府當局は、全國に行き渡れるインテグラリスタ運動を抑壓する旨の公布を出したのである。

此の叛亂事件は、その後取調べが進捗するにつれて、背後關係にドイツ大使館のあることが立證され、又ナチスの資金と指令とがこの叛亂を援助した確證が擧げられて、獨・伯兩國間の外交關係は、險惡となり、その結果兩國大使の引揚げとなつて、公式の外交關係は斷絕されるに至つた。しからば、ナチス宣傳のブラジルに對する策動如何。

兩國の軍事的諸關係と獨語新聞の刊行

有名なイタリア系の著述家、メノッティ・デル・ピッキャ（Menotti del Picchia）は「ア・オルデム」（A Ordem）と稱する新聞で、

「ブラジルのファシズムはドイツ人が指導してゐる。宣傳省はそのことを隱さうとはしない。ドイツは二萬五千挺のモーゼル銃及び多量の他の武器を送つたが、それらはリオ・ネグロ、ポルト・ウニアオに貯藏されてゐる。ドイツ陸軍出の軍事專門家が多數をり、ドイツ系住民に軍事敎育を施してゐる。ドイツの船舶はイタヤイ（Itajahy）、サンフランシスコ（São Francisco）の諸港に突然寄港して、武器を卸す」と書いてゐる。（"the Nation" Nov. 13. 1937）

これらの言葉によつても解るやうに、ブラジルのナチスは、ドイツ本國と聯絡を取り、且又多數の武器が、ドイツよりブラジルに輸入されてゐたものと思はれる。且又インテグラリスタ黨を盛大にする手段として、ドイツの諸會社は、その從業員に、ナチの運動に參加することを勸め、リオ・デ・ジャネイロのドイツ人所有の、ある屠殺場の如きは、その勞働者全部にファショ團體に加入することを勸めて、その工場の壁の上には大きな文字で、「我々の國はドイツの一部なり」とのスローガンが書かれてゐた。

ドイツ本國から對南米武器の賣込みは、主にクルップ（Krupp）、ボルズィヒ（Borsig）、ジーメンス

(Siemens)等の會社を通じて行はれて、ブラジルだけでなく、アルヂェンチン、チリー等に提供された量は莫大であると見られてゐる。先年ボリヴィア、パラグァイ兩國のチャコ戰に際し、ドイツのハンス・クント將軍がボリヴィア陸軍の最高指揮官として招聘されたのが機緣となつて、ボリヴィア、チリー等の軍事教官として、多數の陸軍、空軍のドイツ武官が派せられ、軍人を通じてドイツ文化、ナチス精神の宣傳が行はれてゐることは注目すべきで、其の他南部ブラジル一帶に幾多有力なドイツ語新聞が刊行され又學者、高級技術者、醫師等の文化使節も頻繁に交換され、何れもナチズム精神昂揚の役割を果してゐる。

學校の設立

其の他に學校を建設して、ナチズムの宣傳に努めてゐることも考慮する要がある。ドイツ人の學校は、ブラジルのサンパウロや南部三州を中心とせる各地を通じて凡そ一千二、三百、アルヂェンチンに約二百を算するから、已に一世紀以上强固に築かれたドイツ植民地は、アメリカやイギリスの裏面工作位で、さう容易にその地盤が微動だにしないと云はれてゐる。その人種的立場から見ても、最近ジョルナル・ド・ブラジル紙の報じた處に依ると、リオグランデドスール(Rio Grande do Sul)、サンタ・カタリナ(Santa Catharina)、パラナ(Parana)三州の總人口五百十七萬餘の中三〇%は

ドイツ人か或はその子孫であるといはれてゐる。全ブラジルには今日少くとも四、五十萬のドイツ移住民がをり、サンタ・カタリナ州を中心として、本國ナチス政府と緊密な繫りをもち、多數の在外ナチス黨支部の統制の下に、ブラジル官民の意嚮に拘らず、文化的、經濟的に、又政治的にも拔き難い勢力を扶植してゐるのは事實である。又ドイツ人植民地に於ける學校の敎育も、敎師及び青年の代表が每年獨本國に派せられ、ヒットラー・ユーゲントの訓練を受けて歸へり、植民地の青年男女に、ナチス精神の昂揚を鼓吹してゐる。

人種上の差別

又人種平等の傳統をもつブラジルにおいても、そのドイツ娘は純血のアリアン人青年と結婚することが推奬されて、商取引、人の雇傭の際にも、なるべくドイツ人を相手とし、他人種特にユダヤ人とは一切交渉しないやうに强いられ、この戒律に背くものは、所轄のナチス黨支部の指令で、ドイツ人社會よりボイコットを受けると云ふことが、タイムス紙に書かれてゐる。又ブラジルの法規を無視して、ポルトガル語よりもドイツ語が多く敎授され、兒童達は、常に「ハイル・ヒットラー」を叫ぶといふ程である。

以上がブラジルのナチズムの宣傳の大要であるが、獨伊のラテン・アメリカ進出を封ずるために、

アメリカは今後如何なる策謀をめぐらすか。又それによつてナチズムの侵入勢力が防ぎ得られるかどうか、今後アメリカ對獨伊の爭覇戰こそ誠に興味ある觀物であらう。

第六章　スキスに於けるナチズムの潜勢力及び其の動向

ナチズムの宣傳が極めて巧妙であることは周知のところであるが、ナチス宣傳の本質的な傾向を、例へば、そのバルカン政策に例を取つて考へて見れば——勿論今日のドイツの策動は、ナチズムの宣傳をバルカン諸國に芽生えさすばかりでなく、ゲルマン民族の血族的連繫によつて、密接なる精神的並に物質的關連を諸國に實質的に獲得しようとしてゐるのは事實であるが——バルカン政策の目的はナチス本來の主張であるユダヤ人の排撃のために金融界の鍵を握つてゐるユダヤ人の反獨的立場が、必然的にドイツの財政的方面の情勢を困難にして、ナチスはその救助方法をバルカン諸國への進出の中に發見しようと試みたところにあると觀察されてゐる。

しかも、バルカン半島に散在する獨系舊植民者達は、祖國ドイツの活潑なナチスの擡頭とその宣傳によつて、漸次自己の立場を保護する團體的な傾向を帶びて、新聞の發行、團體の組織等によつ

てその地下的運動は漸次巧妙に行はれるに至つた。要するに、ナチズムは、祖國の指導精神の實現をこれら諸國に發生させようとする。しかも、本國ドイツ民族の血と血によつて關聯を結んで、他國の內政に徐々に蠶食しようとする。宣傳の對象である國々の事情に應じて、例へば、英國においては、平和主義を巧みに利用して、宣傳の效果を高めてゐる。

スキスも、又ナチズムの宣傳から免れることの出來ない國の一つである。

ベルン發の電文によると、

「スキスに於ては一兩年前よりドイツ「ナチ」と聯絡ありと稱せらるゝ所謂「フォルクスブント」「フロンナショナル」又は「フロンティスト」等の運動が問題とせられて居たが、墺太利及び致國の獨逸合併以來、此等の運動は勢力を得たる爲、「ナチ」の宣傳乃至ドイツの「スパイ」問題等が盛んに報道せられ、他方最近聯邦政府に於ても、「バウマン」大統領兼司法大臣主宰の下に各「カントン」警察當局の會議を開催して、之が取締り方に付き協議したりしが、昭和十三年十月十日未明を期し、警察當局は各地に於て治安維持の目的を以て檢擧を開始し、「バーゼル」其の他に於て「フォルクスブント」の首領數名を逮捕し十一日の新聞には目立ちて報道せられ居れり。關係當局は館員に對して、新聞の報道は、主として社會黨の煽動に依り大袈裟に傳はり居れりと稱し、又要路に於ても、

ヒットラーの政策が直ちにスヰスに向ふべしとは信じ居らざるも、近來ナチの勢力浸潤に恐怖を懐き居るに加へ、獨逸は「ハプスブルグ」家の遺産を相續すべしとか、或は「フンク」の東南歐に對する經濟提携等にスヰスを加入せしむべしとか(十月二十一日の「ドイッチェ・フォルクス・ヴィルト」の主張は特に注意を惹けり)などの議論の刺戟もあり、ドイツに對する關係には微妙なる動きあるものの如し。」

一九三八年十一月十二日の「マンチェスター・ガーディアン」紙によると、獨墺合邦及びズデーテンの併合以來、ドイツの諜報及び宣傳は、スヰスに對して濃厚な活動を開始したと云はれてゐる。スヰス・ファシスト運動の主要メンバーの邸内を探索の結果、ドイツのナチスと關聯のある完全な組織がスヰスにも存在することが發見され、それは「民族同盟」("Volksbund")とか、「誠忠盟約者團體」("der Bund Treuer Eidgenossen")とか、「社會勞働黨盟約者團體」("die Eidgenossische Sozialistsche Arbeiterpartei")などで、ナチスの組織がスヰスへ平和的に潜入するための武器である。これらの組織によつて傳播される宣傳は主としてドイツで作成される。スヰスに住む多數のドイツ人がドイツのナチス黨によつて、東部スヰスの一定の場所、主として、トゥールガウ(Thurgau)、聖ガレン(St. Gallen)へ行くやうに命ぜられるが、その命令の目的は「惱めるドイツの少數民族」の團結をスヰ

ス内に作るためとのことだ。

このやうに、ナチズムのズヰス潜入は最近盛んになつて來たので、スヰスの一般社會では、ドイツの侵入に反抗する強い決意を示した。スヰスの民主主義の破壞を恐れて、ドイツに對し彈壓を加へるやう政府當局に懇請したのである。スヰス保守黨新聞は、この點に關して、左翼の新聞と同樣に膠が强いさうで、例へば、保守的な"Neue Zuercher Zeitung"も、外國精神、及び國外的の目的を持つ總ての組織の壓迫を要求し、迅速で、勇氣ある處置をするやうに强調してをり、スヰス聯合警察は各地の警察の援助を受けて、全スヰスのナチス活動の調査を繼續してゐる。

大統領の「バウマン」(Bauman)も、「これまでの警察による調査では、スヰスのナチス團體はドイツと關聯があり、ツューリッヒ警察により押收された文書は、これらの運動の一つは外國人と疑はしい關係を結んでゐたことを示してゐる」と國民會議の席上で答へてゐる。

スヰスとドイツの關係は、これらの事實を綜合して考へると、可なり微妙な動きをしてゐるらしく、オーストリアとチエッコの併合に成功したドイツは、次には、スヰスに對しても同樣な内部的工作を或は施してゐるのではないかと、スヰス一般では危惧の眼で見てをり、その實例として「ザ・ガゼット・ド・ローザンヌ」("La Gazette de Lausanne")の編輯者、ジョージ・リガスィ(George Rigassi)

は、「ドイツ侵入の努力」("L'Effort de Pénétration Allemande")といふ論文で、ドイツのスキスに對する工作を次のやうに述べてゐる。

(一) ジョージ・リガスイの報告

(1) スキスにおける十五萬人の實際のドイツの居住者は本國政府によつて、その宣傳組織の代理者として活動するやうに依頼を受けてゐるが、ドイツ政府が在外ドイツ人に對し壓迫を加へるために確實な手段を持つてゐることは我々の知るとほりである。スキスの家庭に雇れてゐる多數のドイツの召使達はスキスの特別ナチ組織に參加する樣に强制されてゐると云はれるが、勿論彼等をスパイに使用しようと云ふのらしい。

(2) 多分他のドイツの大學でもさうであらうが、ベルリン大學の告知板には、學生が、ローザンヌ(Lausanne)、ヂュネバ(Geneva)、フライブルグ(Fribourg)、ベルン(Berne)、チューリッヒ(Zurich)の諸大學で、課程を踏むことを奬勵し、そのために特別の便宜と補助金とを與へる旨が告知されたと云はれてゐる。これらの學生は皆、"Community for Work in Switzerland" と稱する新組織の會員となる筈で、その第一回の會合は、昨年十二月二十三日ベルリンで行はれた。(このことで、最近スキス政府は、ドイツ政府に陳情をして、圓滑な回答を得たと云はれてゐるが、學生をこのやうに

奬勵したり、補助金を與へたりしてゐるのは疑問視されてゐる。）

(3) ナチズムを代表するスヰスの三新聞（その二つは無料で配布される）は最近スヰス政府によつて公けに彈壓されなければならない羽目になつた。これらの諸新聞は明かに、かなり巨額の資金を擁して、その財源の全部の出所がスヰスであらうとは思はれない。一般に、スヰスの民衆は反共、反ナチ的であるが、彼等をナチ化するために不斷の努力が、特にドイツ語を語るカントンで拂はれてゐるのは明白な事實であつて、これらの新聞もその一例と云へよう。

スヰス人は、このやうな事情は、何か他の事件の初段的な課程を暗示するもので、ヒットラーは中々手早い男であるから、次の段階が何時やつて來るとも限らないと考へてゐる。スヰスは數世紀に亙る獨立を維持しようとしてをり、これは七〇％の絶對多數のドイツ語を用ひる方面ばかりでなく、二〇％の佛語を用ひる地方、六％の伊語方面、一％のローマン語の住民にも當てはまる。しかし、スヰスとドイツとの間の地理的國境は、處々守備するのに困難な處（アルプス山脈のイタリー側）があるし、イタリー・スヰス間の國境は一層さうである。

スヰスの中立と不可侵とは列强によつて保證されてゐるのである。若しその列强の一つとして英國を觀るならば、果して、この約束を守るかどうか。チェッコ問題に際して、「我々の關知せざる遠方

の國民間の爭ひ」として片附けてしまつたチェンバレンは、スヰスの悶着についても、あまり考慮に入れてゐないのではないか。

前掲の(2)のベルリン大學の問題は、スヰスの大學及び他の方面にかなり刺戟を與へたらしく、スヰス大學生聯盟は、大學諸團體のナチ宣傳に反對する旨の決議をした。それからしばらく前にも、ジェネバの大學で一事件が起つたが、それは、ドイツ法の授業に出席したドイツのナチ學生が、十一月十二日ドイツで採用された法律について敎授が述べた後で、敎場から退場したといふ事件で、この事は、地方新聞の論題となつて、スヰスの學生の一團のものは、スヰスにおける大學敎育の特質の一つは、敎授達の自由にあるとの決議書を取り交はしたと云はれてゐる。

スヰスのこのやうな態度に對して、ドイツはどうかと云へば、反ナチ的なスヰスの積極的態度に憤つてゐるらしく、例へば、ナチ黨新聞フェルキッシェル・ベオバッハテル(„Völkischer Beobachter")は論說を揭げて、ドイツはスヰスの如き小中立國から求めるものは、ドイツに對する中立的公平な態度だけで、スヰス國の內政がどうならうとドイツの關心事ではない。しかし、ドイツの內政に對して行はれた數年來の無恥なアヂ、しかもオーストリア、ズデーテンの合併以來耐へ難いまでに立ち至つたことに對しては、中止を要求する。國內のあらゆる親獨分子が迫害を受けて、最惡の煽動

家が、ドイツ國に向つて依然無恥な行動を續けるが如きは、決して中立の態度とは云へないことをスキスは念頭に置くべきだと反撃を加へたのである。

（二）　スキス大學に於ける宣傳

前項でスキス大學に對して、ナチスがある種の行動に出ようとしてゐる事實に觸れたが、もう少し詳細に、大學內部における組織等に筆を進めてみたいと思ふ。ナチスが清淨無垢な青年層を目指して、獲得戰を試みてゐるのは得意の戰術であるが、このスキスでも、青年、ことにスキス大學の學生に對して宣傳技術を驅使して、その效果を高めようとしてゐるのは注目に價するもので、一九三三年當時或は降つて最近のオーストリア、その他の場所で行はれたものと同一手段であるやうに思はれる。スキスに對するナチスの宣傳を回想すると、スキスは大學ばかりでなく、一般に已に一九三三年頃からナチスの激しい宣傳を受けてをり、一九三六年二月、聯邦會議はナチズムに對して非常手段を講じたが、其の後ベルンで醫學を研究してゐた若いユーゴースラヴ系のユダヤ人が、スキスにおけるドイツのナチス黨の指導者であるグストロフ（Gustloff）を暗殺した事件があり、更にそれから二週間後の二月十八日に、聯邦會議がスキスに居住するドイツ人の間に結ばれたナチ組織や活動を一切禁止する事件もあつた。ドイツはスキスの仕打ちに對して嚴重に抗議を申込んだが、

スキス當局は「公法に從ふとナチス黨は團體の性質と資格とを持つてゐた。在外の黨の領袖達は、居住する國では私人と見做されてゐるが、ドイツの眼には公的な屬性を持つてをり、公務を執行するものと見られてゐる。グストロフの暗殺事件がなくても、聯邦會議は早晩、スキスのナチス黨の中央及び地方の指導部の處置に就いて考慮する立場にあつた」と冷淡にこの申込みを拒絕した。就中その後大學で起つた事件としては、一九三六年八月に、再三の警告にも拘らずバーゼル大學のドイツ人の一教授が生徒にナチスの宣傳を行つたといふ廉でバーゼル政府はこのドイツ人を追放し、スキスはナチズムに對して斷乎たる態度を示した。著名な敎師を宣傳員に使ふやり方は、彼の聲價と信望とが數百の學生の聽講生を集めることさへあるから、若い學生をナチ化するためには、有效な方法で、ドイツやイタリーが屢々これを行ひ、後述するやうに、最近も類似な事件がジェネバ大學で起つてゐる。「マンチェスター・ガーディアン」の一九三九年二月六日の記事はその活動狀況を大體次のやうに報告してゐる。("Nazi penetration of Swiss Universities." Propaganda and Espionage. Feb. 6. 1939.)

現在スキスには七つの大學がある。ナチスの宣傳は、この中で最少で、現在唯一人しかドイツ學生のゐないヌーシャテル(Neuchâtel)大學では活動してゐないらしい。他の六大學では、その數に

差があつて、ベルン（Berne）、チューリッヒ（Zurich）、バーゼル（Basle）の三大學は、外國の學生が全學生數の一割乃至二割、フライブルグのローマ舊敎の大學は、もつと多いやうである。しかし、ジュネバ大學は全學生の半數だけが土着のスキス人といふ狀況で、今のところ八十人のドイツ學生が在籍してゐる。

最近、ナチスの組織が非常に微細を極めてゐることを示す事件が起つたのは、このジュネバ大學である。しかし、これと同時に、少なくとも長期に亘つて比較的自由であつたスキス人が、自由に對する侵略にさう容易に服從しさうにもないことが證明された。さうして、彼等は、自己の言論、思想、宗敎の自由を維持するためには、全世界幾百萬人の味方があることを心得てゐる。

バーゼル大學はスキスで最も反獨的大學と考へられてゐる。若し、少しでもある人に嫌疑の噂があるやうな場合、忽ち大學當局によつて取調べられ、その疑が本當ならば、その人は直ちに退學を命ぜられる。過去數年の間にかゝる退學が數件あつた。

スキス大學生の間に行はれてゐるナチの宣傳組織に關する詳細は、ジュネバで發行される週刊誌「ラ・スメーヌ」（La Semaine）に掲載されてゐるが、この記事は正しいものと信じていゝであらう。スキスで勉學しようとする學生に補助金を與へる旨の掲示が、ドイツの大學に出たことは、已に述

べた通りであるが、これに參加を申込んだ人々の中から、若干名を選んで、ナチ政府の派遣員として訓練を施すのである。

訓　練　所

彼等は「訓練所」で若干の時を過す。チェーピンゲン所在の「スヰス訓練所」("Schulungslager Schweiz")は、スヰスで仕事をする學生のために設けられたものである。その訓練振りは如何と云ふに、

先づ第一に、學生に民主主義思想の害毒を教へ込む。それから、ヒットラーやローゼンベルグの理念をスヰスの學生に吹き込む方法が教へられる。又學生は所謂「政治地理學」の原理を詳細且つ順序正しく教示される。「政治地理學」とは、科學の假面を被つた諜報の新しい別名で、スヰス學生だけでなく、ナチ學生が聽講してゐる教授達をもその對象にしてゐる。即ち彼等は各教授の人格を詳細に研究し、また科學的な名目の下に、學生を誘惑して、ナチズムを植ゑ付けるに適當な情報を蒐集する。

大學內の組織

各大學の團體(Group)は「部」("Kameradschaft")に分れて、各「部」の先頭には、「奉仕に用

意のある學生」(Einsatzbereiter Student)即ち、古い信念から世界を解放する使命を帶びた解放戰の前衛たる「ヒットラー戰士」(the Hitlerist militants)が立つてゐる。各「部」には又ある學生がゐて、その團體（グループ）の指導者にさへ誰だか分らないのであるが、ドイツのナチ學生の組織であるドイツの學生團(Die "Deutsche Studentenschaft")から命令を受けて直接の連絡を行つてゐる。彼等の仕事と云ふのは、そのグループの他の部員と同樣に、「科學の假面を被つて」間諜（スパイ）をすることであるが、それと同時に、無意識的に同胞學生に對してスパイの行動をする。ナチス學生の間に一般的に不信の氣が漲つてゐるのも不思議はない。學生の誰も、自分の最善の友の中にゲシュタポの廻者（エージェント）がゐやしないかとびくついてゐるからである。

「徽章」の着用とその心理的效果

ドイツの學生は、皆スヰス大學の校內で、ナチスの徽章（バッヂ）を着用するやうに命ぜられてゐる。さうする理由と云ふのは、「第一に、スヰス人の眼を、スワスティカに慣らす爲である。」「第二には、依然外國において我々が相手とする多數の敵を威嚇させるためである。」ナチの支配力の進展にとつて、このやうな「心理的準備」の重要性が指摘されて來たのは道理である。これこそナチス宣傳の主要な部分をなすもので、その眞價はオーストリア、スペイン、其の他の場所で證明されて來たと

ほりである。

「ドイツ法學研究團」

一、二年前から、ジェネバのドイツの法學生は、彼等だけで私の研究會をやつて來た。併し、今學期には、ナチの學生は大學の掲示場に、「研究團體」であるこの集會に出席したい興味を有する總ての學生を招待する旨の掲示を出した。これが現在の「ドイツ法學研究團」("Fachschaft des deutschen Rechts")になつたのである。これは以前のやうに、無害の「研究團體」ではなくなつた。ドイツで任命された若い法律家が指導してゐる。こゝで取扱ふ題目は彼が選擇する。當時の學期の研究題目の一つは「ナチス及びスキスの刑法の比較」と云ふことになつてをり、ナチスはスキス大學に、彼等自身の講師の一人を入れたのである。かくて彼は何等の干渉もなく、大學の敎場内で、ヒットラーの理解してゐる法律のあらゆる利益を述べる自由があるわけである。

大學構內事件

法學部の敎授の一人は、今學期の講義を次のやうな叙述で初めたと云はれてゐる。「十一月十二日のドイツの法令は今迄一般に認容されてゐた法律の原理と完全に相容れない法律の新概念を導入するものである。」彼は當然、「實際的なドイツ法」を敎授出來ないと云ふ結論に達した。何故なら、彼

は、「實際的な法律上のあらゆる秩序は正義及び道德の不變な法則に一致しなければならない」と云ふ持論を持つてゐたからである。彼の教授の原則は今迄通り、「一般に認容された法律原理に基かねばならない。」さうすると、ドイツ學生の一人は立上つて、更に說明を求めた。そして、教授が論爭を拒むと、學生の全部は退場すると云ふ事件が起つた。これはもう前にも觸れた出來事であるが、以上がスキス大學內の宣傳活動の一般であり、又それをめぐつて起つた紛爭である。

これら兩國間の爭ひは、ナチスの地下運動を廻つて相當深刻な問題を提示してゐるとも考へられ、或は又あまりにも過敏なスキス側の杞憂に過ぎないとも見られる。こゝでは、外交上のことには觸れないが、ナチスの意圖は果して何處にあるか、オーストリアとチェッコとを戰はずして得たナチスは、更にその手をスキスにまでも伸さうとしてゐるかどうか、さうして、若し然りとすれば、ナチズムの宣傳は如何なるからくりの下に行はれてゐるか、今後の興味ある題目であらうと思ふ。しかし又、觀點を換へれば、スキスは國際聯盟の保護の下に立つ中立國であり、ヒットラーは、世界の平和を動かすことは、世界を敵として戰ふ結果を招來するとも考へられ、スキスにまでナチスが食指を賭してまで、民族主義的な理想を追求するかどうか、それとも、スキスに於けるナチズムの宣傳も、ドイツ民族の膨脹の投げ出した小さい一波紋に過ぎず、結局それだけのものとして終るもので

あるかどうか。何れにしても、若しヒットラーの民族主義的團結の理念が、あくまでも遠き將來に於ても實現を期するものとすれば、その方法と形式とは如何なるものにせよ、三百萬近くのドイツ人を包含するスキスを全く無視することは許容されないであらう。こゝでは、このやうな外交上の問題は別として、實際スキスにまで、ナチズムの宣傳が行はれてゐるといふ一事實の例證を擧げるに止めて、その重大性の如何は、後の問題に任せたいと思ふ。

× × × ×

以上で、對外宣傳の大要を終るのであるが、要するに、ドイツの宣傳は或る意味において平和的な獲得戰であつて、ドイツの根本政策は、戰前、戰後も變化はないのであるが、その手段は變遷して來たと云へる。こゝに宣傳なる特別な技術が生れたわけである。例へば、ヒットラーの東方對策を見るに、彼は東南方諸國に向つて、專ら經濟的提携の手段に出てゐることは注目に値する。尠くとも經濟的關係の確立を主眼とする限り戰爭の危險は一應避けられるばかりでなく、その債權、債務の關係は、ドイツとの關聯を容易に斷ち難いものにする。さうして、こゝにドイツの有力な「宣傳」が活躍できる舞臺が生れて來るわけである。ゲルハルト・シャッヘル (Gerhard Schacher) は「その宣傳の廣大なる範圍は、更に問題の諸國内に在るドイツ少數民族の利用を含むもの である。

これは國内に國體を組織させ、最初は文化的及び經濟的性質の要求を提起して來るが、やがて是等の要求を常に增大し、擴張して來て、遂に内政の範圍に及び、自治權要求の鬪爭其他を展開して、東南ヨーロッパ諸國の政府を、その對外政策に於て、極度にまで、弱化させることに貢獻するのである」と述べてゐるが、ナチス宣傳の本質を衝いた言葉であつて、ナチスは、その「細胞」を通じて、新聞、文藝、演劇、映畫其の他のあらゆる影響によつて、國體的組織を發展させようとするのであつて、その效果は決して輕視出來ない。このやうに獨逸主義を侵入させ、ドイツの利益援助を保障させ、次第に隣接諸國にまで、ナチズムの勢力を扶植するところに、對外宣傳の偉力が存するわけである。

第七章　ナチス黨の國外組織

グルッェズィンスキーの發いたナチスの國外組織のことは前節でも一寸觸れてみたのであるが、こゝでもう少し詳細にナチスの對外的組織、及びその活動狀況に就いてナチス當局者の言葉を敷衍してみようと思ふ。現在ナチス黨の在外ドイツ人を總括的に統制する機關として、「ナチス黨國外組織」

(Die Auslandsorganisation der NSDAP) (A.O.) が存在する。この組織が、ヒットラーによつてこの名稱を指定され、本格的活動に入つたのは一九三三年二月十七日からのことである。現在、外務次官エルンスト・ヴィルヘルム・ボーレ (Ernst Wilhelm Bohle) が指導者であるが、以下彼の言葉に基いて、この組織の全般的な外貌を窺つてみよう。

沿革及び目的

ナチス國家出現以前のドイツの國情を考察してみるに、ワイマール共和國は、最初から國外ドイツ人に多大の不信を惹き起したと云へるので、世界大戰の終了後、むきだしの現實となつて、亂國の行つた事態がまざまざと眼前に展開された。一九一四年以前には、在外ドイツ人は、國外至る處で、ドイツ人としての尊敬と信用とを贏ち得てゐたのであるが、一九一八年以後は、內部的には崩壞した戰敗國の民と見做され、他の各國に對して、永遠の奴隷と納貢とを强いられた。偉大な故國の象徵として在外ドイツ人に印象された三色旗は敗北の象徵とも思はれる新しい色彩に代つた。このやうな事情のために、共和國は多數の國外組織を持ち作ら、この組織を通じて、在外ドイツ人を一層故國に接近させることができなかつた。已に存在した處々の組織は以前の活動狀態の枠內に止まり、政黨はしばしば國外の諸團體を糾合しようと試みたが、勿論これらの努力は何れも水泡に歸

した。

ナチ黨の成立以前は大體以上のやうな事情のために、國外諸團體の發達は遲々として進まなかつた。又ナチス政權の後でも種々のナチス黨のクラブや協會が組織されて、あるものはあまり環境等に惠まれないながらも、かなりの效果を擧げてゐたが、其の他にはあまり祖國にとつては好ましい存在と思はれないものがあつた。けれども、一九三〇年九月十四日ナチス黨の大勝後、以前外國に在留した數人の黨員がハンブルグに集まつて、「ナチス黨の國外部」（die Auslandsabteilung der NSDAP）を創設して、ナチス世界觀を在外ドイツ人に宣布しようとの決議をなし、この決議は、ナチス黨の一員となつてヒットラー運動との結合を證したいといふ在外同胞の希望を容れることになつた。一九三一年五月一日に「國外部」は「ナチス黨組織局」（die Reichsorganisationsleitung）の聽許するところとなり、その事務所をハンブルグに置いた。これが現在の「ナチス黨國外組織」の濫觴である。その任務は資金が缺乏したばかりでなく、黨が當時の政府に對立し、したがつてまた外國に於ける政府の代表者とも相容れない立場にあつたために、著しく困難であつた。けれども種々な困難を克服して一九三一年末に外國に最初の「支持團」（der Stützpunkt）を設立することに成功し、今迄の個々のナチスの協會等は「國外部」の創設によつて、明確な基礎を故國に持つことにな

つた。周圍の激しい壓迫にも拘らず、一九三二年には在外のナチ團體は著しく增加して、最初の「國集團」(die Landesgruppen) も置かれ、一九三三年政權獲得當時には、已に少數なりとは云へ、一群の激しいナチス黨員が外國の各所に居住して、總統の世界觀を總ての在外ドイツ人に植ゑ付けることをその任務としてゐた。

この「國外部」は一九三三年二月十七日の總統代理の命令によつて「ナチス黨國外組織」(die Auslandsorganisation der NSDAP) の名稱が與へられ、エルンスト・ヴィルヘルム・ボーレ (Ernst Wilhelm Bohle) に大管區指導者 (der Gauleiter) の稱號を與へて、彼を國外組織の指導者に任命した。又同時に總統代理本部付指導官ボルマン (M. Bormann) の名で、國外組織の權限が次のやうに規定された。

(1) 國外組織は國外に在住する全黨員の唯一の管轄官廳である。

(2) 總ての黨支部と國外にある黨の諸組織との事務的交涉は例外なくベルリンの國外組織を經て行はれる。

(3) 國外ドイツ人をその活動に參加させようとするナチス的諸團體は、國外組織の範圍內に於てのみこれを行ひ得る。

(4) 國外に定住するか、或は國外に旅行する總ての黨員は、國外組織並びにその居住地の地區集團(die Ortsgruppe)に屬し、ドイツ國內の何れの大管區(ガウ)にも屬し得ない。

又一九三四年三月十六日にはヒットラーは追加命令を發して、航海手帳を持つてをり、陸上勤務に携つてゐない者及びドイツ人水先案內人も亦この組織に編入されることになつた。

獨本國におけると同樣に外國におけるナチの運動は、政權獲得後著しく進展して、黨員も增加し、一九三三年及び三四年の間に、殆んど全世界至る處、ドイツ人の居住する地には黨の「地區集團(オルツグルッペ)」及び「支持團(シユトツプンクト)」が設けられた。この集團の數は一九三八年の初めには約六百を算した。黨員の增加に應じて、國外組織の指導部もそのハンブルグの事務所を一九三五年三月にはベルリンに移轉して、その事務範圍も著しく擴張された。現在では、約八百人に餘る男女の從業者(その大部分は外國で生れたか、或は長く外國にゐた者である)が活躍してゐる。

要するに、國外組織はヒットラーの民族協同體の觀念に基いて、總ての階級、職業を越へて、何れのドイツ人にも、他のドイツ人の中に同じ民族の「つながり」を發見することを敎へようとするものであつて、又其の反面には、ドイツ人及び外國人がナチス黨に對して抱ける虛僞の觀念を打破する宣傳的の任務をも有するものであることは決して無視出來ないであらう。

其の後總統は、國外組織の重要性を認めその活動を更に遺漏なからしめ、在外ドイツ人を統一的に保護するために、一九三七年一月三十日の總統命令によつて、外務省内に國外組織の司令を置いた。即ち、この命令によると、國外組織の指導者エルンスト・ヴィルヘルム・ボーレが外務省內國外組織司令（der Chef der Auslandsorganisation im Auswärtigen Amt）に任命され、外務省の取扱範圍にある國外ドイツ人の各種事項の指導及び管理を引受けた。また國外組織司令は外務大臣に直接的に下屬し、その取扱事項に關する限り、閣議に參與することになつた。

尙ほこの組織には次のやうな綱領が掲げられてゐる。

綱　領

この綱領は一九三一年に決定されたものであるが、永續的な效果を持ち、國外組織加入者に「黨員章」（die Mitgliedskarte）と共に交附される「國外證明書」（der Auslandsausweis）に命令として記載されてゐる。これは一九三七年一月三十日の指導者命令で、國外ドイツ人に課せられた基本的な義務を示すものである。即ち、

(1) 汝が賓客となれる國の法律に服從すべし。

(2) 汝が賓客となれる國の政策は、その國人に委せよ。外國の國內政策は汝に關係することとなし。

外國の內政に干涉する勿れ、たとへ談話中にても然り。

(3) 如何なる地にありても常に、ナチス黨員たることを公言せよ。

(4) 常にナチス運動、新興ドイツに榮譽あらしむる樣に語り、行動すべし。正義を行ひ、名譽を重んじ、勇敢にして忠誠を盡すべし。

(5) 國外に於てドイツ人を見たる時は、汝の同胞、血液を同じくせる者、習慣と性質を同じくせることを悟るべし。その階級を問はずしてこれを助けよ。われらは凡てドイツ國民の「創造者」なり。

(6) ドイツ同胞が罪なくして困窮せる時は、誠意を以て自發的にこれを救濟すべし。

(7) 黨員たるに止らず、第一線の戰士となるべし。我等が運動の本質、內容、目的を知悉すべし。

(8) 名譽あるドイツ人の凡てが我が運動に參加するやうに日每に努力し戰へ。わが運動の優越さと正しさとを信じ、勝利の必然を確信すべし。ドイツはわが運動によりてのみ榮ゆるなり。

(9) わが黨の機關紙、印刷物、書籍を讀むべし。

(10) 汝の滯在地の黨員に結び付け。支持圈 (der Stützpunkt)、地區集團 (die Ortsgruppe) あらば、その規律正しく勤勉なる共働者たれ。如何なる紛爭をも引き起さず、不和の起らんとする時は、

全力を擧げて解消に努むべし。

組織及び構造

ナチス黨國外組織は組織上では大管區(ガウ)として取扱はれてをり、それに則つて組織されてゐる。但し外國に於ける特殊事情或は航海上の都合で制限を受け、二、三の例外がある。大管區(ガウ)と同様に、その下部組織には支持團(der Stützpunkt)と地區集團(die Ortsgruppe)が外國船舶毎にある。

國外組織は次の様な諸局を持つてゐる。

(1) 國局(Die Länderämter)

外國に於ける國集團(die Landesgruppe)、地區集團(die Ortsgruppe)、支持團(der Stützpunkt)の編制指揮は夫々の地域別の八つの國局によつて行はれる。即ち、

第一國局　北部及び東部ヨーロッパ

第二國局　西部ヨーロッパ(大英帝國及びアイルランドを除く)

第三國局　東南ヨーロッパ及び近東地方

第四國局　イタリー、スヰス、ハンガリー

第五國局　アフリカ

第六國局　北アメリカ

第七國局　ラテン・アメリカ

第八國局　極東、オーストリア、大英帝國、アイルランド

國局指導者は、委託された集團の組織と全體的發展に對してAOの指導者に責任を取る。國局指導者は、この管內のドイツ國民の生活に關係ある總ての事件に絕えず氣を配つてゐなくてはならない。それ故に、國局は國外組織の政治的基礎を成し、區域的に制限を受けない機能を與へられた諸局の活動に對して實際上の前提條件を與へる。

(2) 航海局（Das Amt Seefahrt）

全ドイツの海員は國外組織の管轄下にある。海上業員同志全部は、海員免狀を所有する限り除外なく、國外組織指導の下に組織された航海局が總統代理の命令に基いて管轄する。且個々のドイツ商船は支持團と地區集團に總括される。また船員が國外組織に編入されることによつて、船員と在外ドイツ人との結合は自ら明確な形態を得て來る譯である。

（一）エルベ――ハンブルグ

この局は三班に分れてゐる。

(二) ヴェーゼル＝エムス――ブレーメン

(三) オストゼー――シュテッチン

(3) 貿易局 (Das Aussenhandelsamt)

この局は(イ)ドイツ貿易の促進を圖り、(ロ)海外ドイツ人の經濟的重要性に留意して、これをドイツ國の經濟的利益と一致させ、又(ハ)貿易上のナチス經濟原則に對して特に顧慮を拂ふ。

(4) 貿易局内技術局 (Das Amt für Technik im Aussenhandelsamt)

海外ドイツ人中の技師、技術家、化學者を保護したり、また國外への技術研究旅行及び海外に於ける技術的經濟的宣傳事項を取扱ふ。技術局は貿易局内の經濟顧問と協力して活動する。

(5) 法律局 (Das Rechtsamt)

法律局は外國に生活する無資産のドイツ國民同胞の法律上の保護を無償で扱ふ。領事及び黨の政治指導者による局部的保護が及ばざる範圍内で、法律局は總ての法律上や個人的の事件で、在外ドイツ人に忠告を與へる。又此の局はナチス黨の「國法律部」(das Reichsrechtsamt)即ち「ドイツ國民法律保護部」(das Amt für die Rechtsbetreuung des deutschen Volkes)の指導する國内の「ナチス法律保護所」(NS.-Rechtsbetreuungsstellen)と協力する。この法律保護所は、國外組織の法律

局を仲介として本國内に於ける法律的要求を追求する時、國外ドイツ人に助力する。又これと反對に、國外組織の法律局は本國内に住む國民同胞が外國人又は國外ドイツ人に對して法的要求を追求する時には、ナチス黨の國外の諸集團の助力を提供する。かくて、法的保護の點で、國内、國外のドイツ人は互に連絡を持つので、若し、官廳の援助が不充分な場合は、更に細部に分れた統一的な人的組織によつてこれを補ふ。尙、國外組織の法律局は、國外ドイツ人に關する立法上の諸問題に對する黨の標準事務所である。即ち、國外集團から絶えず提出される發議や經驗に基いて、ナチス世界觀の精神に於いて、在外ドイツ人の法的立場の進歩を促し、又殊更法律案の起草によつて之を行ふ。

(6)　國民福祉局（Das Amt für Volkswohlfahrt）

一九三四年以後在外ドイツ人の冬季救濟事業はナチスの國外組織に移管され、各集團が之を實行することになつたが、單に冬季救濟を目的とする以外に、この局は海外及びドイツ國の數千の同胞の苦難を輕減する恒久的の施設となり、又在外ドイツ人の犧牲的精神の覺醒の結果、在外ドイツ人の民族協同體への强力な手段となつて、内外ドイツ人の聯鎖を强固にする效果を持つ。

(7)　國民保健局（Das Amt für Volksgesundheit）

本局の任務は、ドイツ國民の健康維持のための總統令及び國醫師指導者（der Reichsärzteführer）の指令を國外ドイツ人に傳達し、且又ドイツ人の身心の健康維持のための國家及び黨の諸施設に與からせることである。即ち、病者たると健康者たるとを問はず、一般ドイツ人に、醫學的領域の諸問題に關し忠言を與へ、又人口政策上に、又遺傳生理學上に、價値ある健康なドイツ人に關して、黨及び國家の有する思想を普及することに努める。

(8) 歸國者局（Das Rückwandereramt）

ドイツの歸國者はドイツ領内に入ると同時に、この局の管轄下に置かれ、彼は直ちに文書或は口頭でこの事をこの局に通告する。假りの歸國者證（Das Rückwandererausweis）を先づ交付し、更に檢査の後には決定的歸國者證を與へ、勞働局に依る勞働紹介の前提とする。歸國者の社會的保護としては、必要の場合にあらゆる種類の衣服を給する外、住宅の設備の際家具を與へたり、又特別の施設としては、國内各處に「歸國者の家」（Das Rückwandererheim）を設けて、無資産の歸國者を收容して、夫々の專門的の知識と能力に應ずる適當な職業を得て、自活の道を講ずるまで、彼等を保護する。

(9) スペイン在留ドイツ人救濟委員會（Der Hilfsausschusz für Spaniendeutsche）

スペイン市民戰爭の勃發に際して、一九三六年六月二十七日に設置された。その任務は、ドイツ人をスペインから無事に送還したり、又黨及び國家の諸機關と協力して、革命のために無資産となつた逃亡者に適當な宿や、衣服や、needs料をも與へることであつた。又そのために數千の逃亡者は本國で職場を發見し、又無資産となつた多數のドイツ人同胞中には、政府から資金を得て、故國或はスペインに於て新生活に入つたものがある。

(10)　監督局（Das Inspektionsamt）

この局は主として國外のナチ黨の諸支部の組織のことを取扱ふ。更に、ドイツ船舶が寄港するすべての比較的大きな港に置かれた港灣勤務指導者の報告を充分利用する。この指導者の任務は船中の國外組織の政治的指導者又は信任者（Vertrauensmann）と提携して、各地の集團と連絡を取る外、ドイツ人水夫及び旅行中の黨員、ドイツ人を保護するにある。船が歸國した後、船中の責任者は國外組織と個人的の接觸を行ふから、この旅行の經驗はこれに關係する州別及び國別の報告者によつて充分利用される。

(11)　文化局（Das Kulturamt）

文化局は、在外ドイツ人との精神的、文化的交換を目的とするあらゆる官廳、諸施設に對する聯

絡、仲繼機關である。その活動は國外ドイツ人の文化生活の全領域を包含し、本國から外國へ向つて働きかける總ての文化諸力を統一的に綜合することに努める。即ち、國內の諸局と聯絡を取る傍ら在外ドイツ人の協會や國民精神の涵養を計る重要な諸事業の援助、ドイツ書普及のための施設、國外ドイツ人圖書館の創設、國外の諸集團や植民地に於ける催し事の援助、ドイツ人の藝術上、科學上の國外の催しに關する相談、國際文化交換の諸問題に對する協力等が文化局の仕事である。この際特に、ナチス精神を體して、在外の文化活動を行ふ如き人物を發見して、これを任用する。訓練及び組織は次の方法で行はれる。

(一) 適當な協力者を國外の諸集團に引き入れることにより。

(二) 國外部大管區教師聯盟指導者(Gaudozentenbundführer)の任命により。(其の職は文化局指導者の兼任であり、國外で活動する科學者を總括し、代表する。)

(三) 適當な文化政策的な內容と在外ドイツ人の醫師の利害關係の代表を確保する爲に、國醫師指導者と聯絡を取ることにより。

(四) 國外部大管區學生指導者を任命することにより。(國外で勉學するドイツ人の指導及び訓練、並びに學術交換の問題が彼の任務である。)

（五）「教育局」と仕事及び組織上密接な關係を結ぶことにより。

(14) 教育者局 (Das Amt für Erzieher)

この局は「ナチス教育者同盟」（NS.-Lehrerbund）の國外部と共に同一指導機關に屬し、その任務は、外國に於けるドイツの教員全部を組織的に統括し、又外國の學校に於けるドイツ人の教育活動を整備し、總括することである。

(13) 教化局 (Das Schulungsamt)

在外の個々の黨員にナチス世界觀を施すことは國外組織の重要な任務の一つであり又外國の諸集團の內面的な强固さのために缺くべからざる前提條件である。故に教化局は格別に重要な意義を持つものであつて、その任務は地域的に離れてゐたり、往々外國に存在する反對勢力のために國內よりも遙かに困難である。教化局には船員及び國外ドイツ人のための特別な指導者學校が附屬してをり、こゝで國外及び海上の政治的指導者達は、講習を受けて、外國に於ける彼等の困難な任務にとつて必要な知識を敎へ込まれる。これらの政治的指導者は又、歸つてから同樣に教化運動に從はなければならぬ。

又この局には「ドイツ國民教育事業部」（"Deutsches Volksbildungswerk"）が附屬して、教化局の

世界觀的政治的啓蒙活動を文化政策的觀點から補足支援する。この目的のために、映寫機(Epidiaskop)の設備があり、又映畫講演會が催され、又その選擇もこゝで行はれる。

(14) 新聞局(Das Presseamt)

この局は國外ドイツ人の間で行はれた凡ての出來事に關する報導を精査蒐集し、又國內の新聞に記事や寫眞を提供する。其の外、約四十の國外ドイツ人の黨機關紙や植民地新聞を保護し、これに定期的に必要な報道を與へる。新聞文庫には、國外組織の諸集團の歷史に關する記錄、國の內外のドイツ諸新聞の記事、寫眞等が蒐集してある。

(15) 映畫ラヂオ辯士配置局(Das Amt für Film, Funk, Rednereinsatz)

本局は映畫、ラヂオ、辯士の援助の下に、國外ドイツ人の啓蒙運動を行ふ。定期に公にされる映畫はナチス・ドイツの建設活動を告げ、又在外ドイツ人と故國との最も潑剌たる聯絡機關としてのラヂオのあらゆる努力は、共同受信の期を定めることにより、又外國の放送局に於て、ドイツの放送時間を實施することにより、一層促進される。ナチス運動及び國家の祭典日には、故國の著名な人士が國外に居住する同胞に放送する。

(16) 國外組織のドイツ勞働戰線(Die deutsche Arbeitsfront der AO.)

この組織の任務は國外にありて活動するドイツ人を、ナチス本國で行はれてゐる諸原則に從つて糾合し、指導することである。しかし、外國の法律の命ずる限界を顧慮することは言を俟たない。國外で職業に從事するドイツ人、及びドイツの船員を、社會的に保護するのが、勞働戰線の最大の任務である。自助の諸施設により、國外ドイツ人の最も活潑な生活保證を意圖する。海上に於ては、この組織は船上の社會的平和を保ち、又船員のために社會的の正義を保證する。勞働戰線は以下の各部に分れて、夫々の活動を分擔する。

「社會部」は「戰線」の會員が國外に旅行する場合相談に應じ、又職業の仲介をする。又更らに、在外のドイツ商會の協力者のために、長期の契約を調整する。「海上に於ける勞働犧牲者のための財團」(Stiftung für Opfer der Arbeit auf See)の治療及び物品の給付に對する申請はこの部が取扱ふ。

「法律相談部」は勞働法、社會法の問題を取扱ひ、勞働法の立場から、勞働戰線會員の代理人となる。

「新聞部」は月刊誌"Der Auslandsdeutsche", "Der Deutsche Seemann"を發行し、國外の諸新聞を勞働戰線の任務に關し啓蒙する。

「喜びによる力團部」は外國の諸集團及び船上の集團に餘暇善用の奬勵を行ひ、又國外ドイツ人及

び航海者がドイツ本國の「歡喜團」の賜暇に參加するのを仲介する。「勞働美化部」の原則を總てのドイツ船で實行する樣に配慮する。

「敎化部」は「戰線」の事務擔當者達を專門的に訓練するための課程及び週末敎化講習會を實施するばかりでなく、また國外及び船內の諸集團に必要な敎化材料を配送する。

「職業敎育部」は職業敎育事項及び勞働戰線の國外學校を監督する。國外の「戰線」の會員の普通敎育を終了した子弟に、年々多數のドイツ國內の學問の場所を紹介する。

「海上部」は海上の事項を取扱ふ。

「管理部」は「戰線」の會費を管理し、失職、突發事件、老朽、死亡の際の扶助料を支拂ふ。

(17) 官吏局（Die Amt für Beamte）

官吏局（その指導者は同時にドイツ官吏同盟の國外部の大管區管理者（Gauwalter）である）は、在外官吏、外務省官吏、官吏たる水先案內、渡船の官吏の事項を掌る。

(18) 國外ドイツ婦人勞働協同體（Die Arbeitsgemeinschaft der deutschen Frau im Auslande）

この局は在外ドイツ婦人の活動の全部を取扱ふ。その任務は、ドイツ婦人がナチスの世界觀に從つて、ドイツの生活の共力者たるべき總ての方面に存するので、就中社會的活動に從事する。國外

組織の大管區婦人部指導者（Gaufrauenschaftsleiterin）が指導する。

(19)　青年局（Das Jugendamt）

「國青年指導部」（Reichsjugendführung）の國境事務所（Grenzamt）及び外國事務所（Auslandsamt）と密接に提携して、活動する。國外組織の取扱ふ青年に關する全事項の統一的な中樞機關で、主權者から與へられた方針を青年活動の際にも維持するやう大管區指導者に對して責任を持つ。

その活動は次の三部に分かれる。

（一）國外ドイツ人の青年部。

（二）航海青年部。

（三）ドイツ勞働戰線の大管區青年管理部。

(20)　スポーツ問題委員（Der Beauftragte für Sportfragen）

これは「ドイツ體育同盟」（Deutscher Reichsbund für Leibesübungen）に對する連絡機關である。その任務の範圍は主として、國外にある總ての競技、體育協會を組織的に總括し、保護し、整頓することである。またドイツの競技の諸官廳に於て國外ドイツ人の利益を代表し、競技道具、競技映畫、競技文獻の供給をしたり、海外の協會のために、競技の教師を仲介したりする權限がある。

又その外に、ドイツ船上に於ける競技協同體（Sportgemeinschaft）の組織及び保護、外國及び船中の「喜びによる力」團の競技を取扱つてゐる。

以上が國外組織に所屬してゐる局の名稱の大要であるが、この外に大管區裁判所（Das Gaugericht）及び會計局（Das Schatzamt）が附屬してゐる。

(1) 大管區裁判所（Das Gaugericht）

國外組織の黨の裁判事項はこの裁判所が取扱ひ、國外ドイツ人の總ての除名事項には第一審として活動し、又仲裁官（Schlichter）及び航海分轄地裁判所（Seefahrtsabschnittsgericht）の判決に苦情のある場合は第二審として活動する。黨全體及び在外黨員の名譽を保護する。外國の國集團及び地區集團には黨の裁判所はなく、各の國集團及び獨立した地區集團には仲裁官が配置される。仲裁官はその任務の遂行に獨立であり、只國外組織の大管區裁判所に從ふばかりである。また黨の規律の維持及び黨員間の紛爭の調整の際には政治指導者を援助する。仲裁官は除名以外の黨の罰則をも亦提案することが出來る。

(2) 會計局（Das Schatzamt）

會計局は國外組織の總ての財產權事項に對して責任を持つ。一九三三年十二月一日の「規定」の

範圍内で、國外集團及び海上の黨勤務所の財政方針は皆この局が指導するばかりでなく、國外組織の黨員の會員事項（登錄とか、カード記入）は全部會計局で取扱ふ。

以上が國外組織にある局の大要であるが、只一言したいことは、この國外組織の活動は、國外にゐるドイツ國民に限られてゐることである。一般に在外ドイツ人と云ふ場合、國外にゐるドイツ人（Auslandsdeutsche）と民族的ドイツ人（Volksdeutsche）とを包含するのであるが、この兩者ははつきり區別しなければならない。即ち前者は外國に居住するドイツ國に國籍のあるドイツ人であるが、後者は言語及び文化はドイツ系であるが、ドイツ國に所屬する市民ではない。ナチスの國外組織はこの前者のための組織であるとボーレは述べてゐる。

この外に、在外のドイツ人諸團體を總括する同盟として、一九三三年からベルリンに、「國外ドイツ人協會同盟」(Der Verband Deutscher Vereine im Ausland e. V.) が置かれてゐる。

今日では、無數の、世界各國所在のドイツ人團體や同盟が、この「同盟」に合流して、外國にある有害な協會の農場を防止したり、またドイツ植民地内の分裂を避けて、協會の生活形態をナチスの世界觀に相應するやうなものにしようと盡力してゐる。またこの「同盟」を上部組織に置いて、多數の在外ドイツ人協會中にある有益な諸力を全體に奉仕させようと努めてゐる。又年鑑「世界に於

ける吾等ドイツ人」("Wir Deutsche in der Welt")を定期に發行して、これは全世界の諸協會の連絡機關になつてゐる。

其の他以前からある個々の公私の團體の著名なものには次のやうなものがある。ベルリンにて一八八一年に創設された「在外ドイツ人民族團體」(Volksbund für das Deutschtum im Ausland)(VDA)、「ドイツ外國協會」(Deutsches Auslandinstitut)(一九一七年、シュトットガルトに設立さる)、「在外ドイツ人團體」(Bund der Auslanddeutschen)(一九一八年ベルリンに設立)等である。

ナチス黨國外組織大會とナチス宣傳

尚ほナチス黨國外組織は年々大會を開催してゐるが、一九三七年の九月にはシュトットガルトで第六回の大會を開いた。この時はナチスの公式の庇護の下に行はれた最初であつたから、世界の各地から、幾千といふドイツ人が參加して、盛大を極め、この會の模樣はこの組織が國家の支持を受けてゐるといふことを外國人に强く印象づけるやうに思はれた。けれども、當時の外相ノイラートを初め各辯士は何れも、國外組織は外國の內政に何等干渉する意志がないことをことさら世界に向つて知らせようと骨折つてゐるやうだつた。ノイラートは、外國に居住するものは國から受ける恩義に感じて、その國の內政に干渉するやうなことはなく、甘んじて在住國の法律に服するものである

から、若し事實さうなら自國の組織と關係を結ぶことも許されて差支へないではないかと云ひ、又一九三七年の初めにボーレが外務省の次官に任ぜられたことは黨と國家との統一の證據であると述べてゐる。又この組織の地方部長に國家の代表者と同一の資格を與へるかどうかの問題で、しばらく會場が騷然としたが、ボーレの說明で鎭まつた。

更にその翌年の一九三八年の大會は國の內外であまり注意を惹かないで、ズデーテン・ドイツ人の代表者が初めて參加したにも拘らず、外國からのドイツ人の出席は少數であつた。チエコ問題も漸く絕頂に達しようとしてゐる時であつたが、前年のやうな政策の發表は行はれないで、ただタンガニイカから來たナチスの一指導者が、報告演說を行つて、困難と鬪ひながらも、こゝで黨の活動は着々と進捗してゐると述べた時に、これは英人にとつてショックであつた。

尙以上の黨大會とは別に、當時英獨間の問題となつたことに、「文化隨員」(“Cultural Attachés”)がドイツの大使館、公使館等に任命されることがドイツ新聞に報道され、英國は第一番に、ドイツ文化の普及をするこの種の使節を迎へる筈となつたが、英國はこれを希望しないといふ事件があり、更に又英國がドイツの三人の新聞記者をナチス國外組織の趣旨を宣傳した廉で追放し、ドイツもこれに報復するといふ如き紛紜もあり、又ナチスは國內の問題で、何等輸出する意志はないとボーレ

は述べてゐるにも拘らず、同じ彼が一九三四年五月二十四日の「スエルキシエル・ベオバハテル」紙で、「ナチスの外國に於ける影響は文字通り全世界に及んでゐる。ナチスはナチス國家の目的を諸外國に植ゑ附けるために一層努力するであらう」と書いてゐるところを見ると、その行動や言説の矛盾から、「ナチス黨國外組織」は色々の意味で英獨間ばかりでなく全世界にとつて疑惑の對象となつてゐることは言を俟たない。

要するに、ナチスの宣傳は對內、對外何れの場合も民族的團結の目的で縱横に驅使され、しかもその組織の中心に强烈な民族主義者ヒットラー總統の姿が立つてゐることが、何よりも宣傳の效果を高めてゐることは否定出來ない。ヒットラーはいはゞ新時代のドイツ、第三帝國の象徵ともなつてゐるのであつて、彼の言は眞實だけを物語る豫言者の言葉と思はれてゐる。現時のドイツの國家的の情熱は總てかれとハーケンクロイツを中心に動いてゐるとも云へる。また他の國民が想像もできないやうな多數のドイツ人がナチスの宣傳によつて全く別人のやうになつたと言はれてゐる。かれらの中心的な態度は總てナチズムに向けられ、しかもこの態度を喚起する刺戟の主こそ總統ヒットラーに外ならない。第二次大戰前のドイツ國內の情勢は、ドイツ人にも、又旅行者にも、秩序の整つた平和の國のやうに眼に映じた。人民は秩序を整へ、平和的であらざるを得なかつたのだ。その

理由は他の方向は許されなかつたからである。さうして、第一次大戰後のドイツ人が何よりも求めてゐたものは平和と秩序であつて、それは求められたのである。けれども觀點を換へれば、この平和と秩序とは來るべき國家的試練のための準備でもあつたのである。これまでのドイツの狀態に就いて、ナチス宣傳の效果は疑ふ餘地がなかつたやうであるが、國際情況が刻々と移り變つて行く現時において、ドイツ國内の、このやうな「平和」と「秩序」とは同じやうに舊態を守り得るであらうか。否、第二次大戰の勃發とともに、今こそナチズムは最も苛烈な試練に直面してゐると云はなくてはならない。さうして、この試練に耐へた曉に、更らに、ナチズム宣傳の眞の功罪を論ずるのが當を得てゐるかも知れない。

参考資料

一、室伏高信、ヒットラー「我が鬪爭」
一、大久保康雄、ヒットラー「わが鬪爭」
一、北上健、ナチス・獨逸
一、小松孝彰、近代戰とプロパガンダ
一、高瀨菊二郎、國家宣傳と文化統制
一、近藤春雄、ナチスの文化統制
一、獨逸大觀（一九三七—三八年）
一、赤松祐之、昭和十三年の國際情勢

一、世界知識、昭和十三年
一、昭和十五年ラヂオ年鑑、「放送」昭和十五年三月號
一、國際知識及評論、昭和十三年
一、各項目に附記せる新聞數種

1. Goebbels; Signale der neuen Zeit (München)
1. Gehl; Die Jahre I–IV des nationalsozialistischen Staates
1. "Goebbels spricht," Reden aus Kampf und Sieg (Oldenburg)
1. Handbuch füs das Deutsche Reich 1936
1. Kluge-Krüger; Verfassung und Verwaltung im Dritten Reich
1. Das Recht der N.S.D.A.P.
1. Knaurs Konversationslexikon
1. Handbuch der deutschen Tagespresse (5. Aufige)
1. Dr. Emil Ehrich; Die Auslandsorganisation der N.S.D.A.P. (Junker und Dünnhaupt verlag 1937)
1. Bohle; Das Auslandsdeutschtum (Grundlagen Aufbau und wirtschaftsordnung des Nationalsozialistirschen Staates 22)
1. Wiskemann; Czechs und Germans
1. John Mackintosh; The Paths that let to War
1. Mackenzie; Propaganda Boom
1. Heiden; a history of national socialism (Methuen)
1. Nordicus; Hitlerism, the Iron Fist in Germany (the Mohawk Press, New York)

1. Doob ; Propaganda
1. Brady ; The spirit and structure of German Fascism
1. "Waging War with Words" (Edwin Muller, Current History, Aug. 1939)
1. Hoche; Die Gesetzgebung des Kabinetts Hitler
1. "The Nation" その他の外國新聞雜誌論說等

あとがき

本來宣傳活動の實際は、その性質上各國にて極祕に附されてゐる場合が多い。したがつて、その資料蒐集の際に、ある特定の材料を採擇する時には、三つの場合が考へられるであらう。その一は、ドイツで發行され、ドイツ文字によつて印刷されたものであつて、これを取捨する時には、餘程愼重な手心を以てしないと、失敗に終るかも知れない。なぜなら、ドイツに於けるナチの言論統制は顯著なものがあつて、ことさら宣傳に關する機密は、書物のどのページからもわれわれに隱匿されてゐるからである。これに反して、第二の據るべき資料として、外國で發行され、反ナチス的な、或は尠くとも比較的冷靜な立場からナチス批判を企てた書物とか、新聞とか、雜誌等が擧げられるが、これらの或るものは、往々にして、讀物風に、讀者の興味中心に書かれたものであつて、學究的のものでなく、その眞實性において或は缺くる點もあらうが、その一部には――殊にナチス反對者の著書等において、――相手國の眞相の片鱗を窺はせるに足るものが散見される。すくなくとも、第一の場合に全くわれわれの目から遠ざけられてゐる祕密は、第二の書物に、辛うじて、その信憑

は絶對的のものではないにもせよ、その外貌が微かながら看取できるともいへる。若し讀者にして、紙背に徹する眼力のいくらかでも所有するならば、これらのものゝ中から、何か本當のものゝ影位は掴み出せる筈である。それから、第三の場合として、直接人との接觸から得られる資料を擧げ得るだらう。

これには二つの場合があつて、一は直接自分がドイツに滯在して、見聞した事實に基いて、ある歸納的な眞相を導き出す場合であつて、他はドイツ諸國に居て、かゝる題目に興味を持ち、研究を持續せる人達の口から聞き取り得る範圍の材料である。勿論ドイツに滯在して、直接自ら感得せられたものなら、一番確かかも知れないが、筆者はその機を得ず、且これとても、長い歳月の研究の結果でなければ、どの程度まで眞相を掴み得るかあやしいものである。しかも、直接他人の口から聞いたことゝいふものは、何となく信賴出來ない氣持になるものである。かう書いて來るならば、宣傳の資料は、一體何處から得られるものであるか、若し本當に調査者が良心的であるとしたならば、この題目から手を拱くより外に道はなかつたであらう。

しからば、このやうに乏しい中から、どの資料を一番適切と考へたか。先づ一般的な外面的な組織、例へば宣傳省のやうな組織にあつては、ドイツ人も決して僞りの發表をしないであらうから、

ナチの手によつて發行された書物を據りどころとした。それから第二の場合、即ちナチズムに共同の火蓋を切つてゐる民主諸國から、批判と毒舌の矢を浴びせてゐる時には、これは滅多にそのまゝ印刷になるものではない。幸ひにも、新聞等の新刊には時折このやうな性質のものが發見できないわけでもないが、若し單行本を考へてみるならば――そして、筆者の手許には現在、かう云ふ種類のものだけが多いのであるが――それらは主として、一旦行はれた宣傳への歷史的の回想に過ぎない場合が多い。即ち宣傳が歩んだ足跡を辿るものである。しかるに、宣傳の活動は、次第に新しい創造によつて新しい形式を考案して行くであらう。さうしてこのやうな宣傳的活動は知るによしもない。かう考へると、筆者は宣傳の資料に關し愈迷宮(ラビリンス)の中に足を踏み入れた。併し、以上の長たらしい陳腐な辯解の辭は、結局筆者の不明と怠慢との辯明のためになされたのかも知れない。宣傳は當然又、外交、經濟と關聯を持つて來るだらう。其の間に處して、對外國とのデリケートな諸關係を背景にして、宣傳は巧みに跳梁するであらう。けれども、過去の歷史的な一事實として取扱はれた宣傳の記錄は、又同時にこれより先のものへの類推をも呼び起すであらう。さう考へるならば、彼等の用ふる宣傳技術の過去における樣式の研究も、決してわれわれにとつて無意味であるとは云へない。それどころか、興味のある他山の石となることがあらう。

大體以上のやうな不利な條件の中から纏められたものが以上の調書である。筆者は調査中資料の不備のために、その任でないことを發見するに至つた。けれども手許にある乏しい資料に基いて、まがりなりにも一つの結果を作つてみるのも、あながち無意味な業であるとは思はれなかつた。したがつて、この調書は現在筆者の精一杯の仕事であつて、資料が生のまゝの箇所が多いのは遺憾に堪へない。要するに、ヒットラーも自傳の處々で述べてゐるやうに、宣傳は目的貫徹のための手段であつて、決して目的それ自身ではない。それだからと云つて、決して輕視出來る筋合のものでなく、ある一つのイズムに立つ團體を維持し、存續させるためには缺くことのできないものである。しかも、一般大衆の中から生れたヒットラーは、この宣傳といふ武器を、大衆を基準にして、立派な組織體に構成して、民族的世界觀を實現するための目的への手段とすることに見事成功したのである。

筆者の不敏疎漏のため一個の机上の調書となつた點は御詫びをして、今後とも御叱正を賜はり度いと思ふ。尚附記した參考書の原著者に對して、處々で引用さしていたゞいたことを感謝しなくてはならない。

昭和十五年一月十日初版發行
昭和十五年十二月二十六日改訂增補版印刷
昭和十五年十二月二十九日改訂增補版發行

定價　貳圓八拾錢

獨逸の宣傳組織と其の實際

日本國際協會叢書
第二百廿四輯

編纂兼發行者　土谷正千代
東京市中野區新井町五三八

印刷者　中川二郎
東京市芝區南佐久間町一ノ七

印刷所　研文社
東京市芝區南佐久間町一ノ七

發行所
東京市麹町區丸ノ内二ノ二十二
社團法人　日本國際協會
振替東京五五一八三番
電話丸ノ内四六六四番

日本國際協會發行圖書

著者	書名	判型・頁數	價・送
赤松祐之著	昭和十三年の國際情勢	四六判 六七二頁	價 三・〇〇 送 〇・一四
同	昭和十二年の國際情勢	四六判 七六六頁	三・〇〇 〇・一四
同	昭和十一年の國際情勢	四六判 七九四頁	二・八〇 〇・一四
同	昭和十年の國際情勢	四六判 五二八頁	二・二〇 〇、一四
佐々木勝三郎著	變轉のソ聯邦	四六判 七六頁	〇・二〇 〇・〇三
ラ・タウンセンド著 大江專一譯	米國極東政策の眞相	四六判 三一〇頁	一・五〇 〇・一五
法學博士 大山卯次郎著	米國の政治組織及其の活動	四六判 三一四頁	一・二〇 〇・一五
外務省通商局編纂	米國對支經濟勢力の全貌	菊判 二九〇頁	二・五〇 〇・一四
同	佛國對支經濟勢力の全貌	菊判 二二〇頁	二・二〇 〇・一五
同	獨逸對支經濟勢力の全貌	菊判 二〇〇頁	二・〇〇 〇・〇九
木村惇著	波蘭興亡史觀	菊判 二二〇頁	一・八〇 〇・〇九
外務省調査部編纂	獨逸の經濟體制及國防資源	菊判 四一四頁	三・五〇 〇・一四

日本國際協會發行圖書

著者	書名	判型・頁數	定價・送料
國際聯盟經濟委員會編纂	最近世界貿易概觀	菊判 一八八頁	價一・二〇 送〇・一二
外務省調査部編纂	英國最近の通商政策	菊判 二七四頁	一・二〇 〇・〇九
法學博士 信夫淳平著	大正外交十五年史	四六判 二三六頁	一・九〇 〇・一二
佐藤尚武述	日本の人口問題及工業化問題	菊判 七六頁	〇・三〇 〇・〇六
外務省通商局編	海南島農業調査報告	四六倍判 二〇〇頁	二・八〇 〇・一二
本協會譯	三巨頭の應酬 ル大統領の要請と ヒ總統ム首相の反撃	四六判 一〇六頁	〇・五〇 〇・〇六
慶大教授 英修道著	門戸開放機會均等主義	菊判 三九二頁	二・〇〇 〇・一四
ブロンソン・レー著 田村幸策譯	滿洲國出現の合理性	菊判 三九〇頁	二・〇〇 〇・一四
法學博士 立作太郎著	國際聯盟規約論 附 和英佛聯盟規約及委任統治條項	菊判 四八〇頁	四・〇〇 〇・二七
外務省調査部編纂	大日本外交文書 自第一卷 至第九卷	各卷菊判 約九百頁	定價 各卷不同
法典英譯委員會編纂	商法英譯（註釋付）第一卷 第二卷	四六倍判 約七百頁	定價 各卷不同
同	民法英譯稿本 自第一卷 至第五卷	四六判約 一五〇頁	定價 各卷不同